

全学共通科目シラバス・履修案内

平成 29 年度
(2017 年)



大阪市立大学学務企画課

目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目的と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康・スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	3
5. 全学共通科目の履修について	3
6. 履修登録等について	3
7. 障がいをもつる学生の受講等について	3
8. 試験及び成績について	4
(1) 定期試験等	4
(2) 成 績	4
9. 各種掲示について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	4
11. 単位互換について	5
12. 地域志向系科目について	5
13. 科目ナンバーについて	5
14. 全学共通科目 Q & A	6
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目の分類体系	10
2. 配当クラスの表記について	11
3. 平成29年度全学共通科目の授業科目一覧	12
参考 (1) 平成29年度新設廃止科目名変更一覧	43
参考 (2) 平成13年度から29年度までの総合教育科目の開講実績一覧	44
4. 地域志向系科目	50
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目 A	51
2. 総合教育科目 B	75
3. 基礎教育科目	173
4. 外国語科目	
英語	214
新修外国語	235
ドイツ語	240
フランス語	259
中国語	276
ロシア語	292
朝鮮語	302
日本語	311
5. 健康スポーツ科学科目	321
健康・スポーツ科学科目の履修について	322
実習授業時の集合場所	323
シラバス	324
IV. 教室等施設配置図	345
V. 学 則	353
VI. 各学部等の電話番号・所在地	367

平成29年度カレンダー

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	
4 月							1	3日(月) 新入生ガイダンス
	2	3	4	5	6	7	8	5日(水) 入学式
	9	10	11	12	13	14	15	7日(金) 新入生健康診断
	16	17	18	19	20	21	22	10日(月) 前期授業開始
	23	24	25	26	27	28	29	20日(木) 新歓祭5限休講
	30							21日(金) 新歓祭午後休講

	日	月	火	水	木	金	土	
5 月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				30日(火) 振替授業日 (金曜の授業を実施)

	日	月	火	水	木	金	土	
6 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土	
7 月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	24日(月)~8月4日(金) 授業・試験期間
	30	31						

	日	月	火	水	木	金	土	
8 月			1	2	3	4	5	5日(土)~9月15日(金) 夏季休業期間
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土	
9 月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	16日(土)~30日(土) 研修期間
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	
10 月	1	2	3	4	5	6	7	2日(水) 後期授業開始
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土	
11 月				1	2	3	4	1日(水) 大学祭5限休講
	5	6	7	8	9	10	11	2日(木) 大学祭休講
	12	13	14	15	16	17	18	21日(火) 振替授業日 (木曜の授業を実施)
	19	20	21	22	23	24	25	22日(水) 振替授業日 (金曜の授業を実施)
	26	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土	
12 月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	23日(土)~1月7日(日) 冬季休業期間
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

	日	月	火	水	木	金	土	
1 月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	12日(金)センター試験に 伴う休講措置
	14	15	16	17	18	19	20	30日(火)~2月13日(火) 授業・試験期間
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土	
2 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	13日(火)振替授業日 (月曜の授業・試験を実施)
	11	12	13	14	15	16	17	14日(水)~3月19日(月) 研修期間
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28				

	日	月	火	水	木	金	土	
3 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	20日(火)~春季休業期間
	25	26	27	28	29	30	31	

□振替授業日 □休業期間 □休講日 □授業・試験期間

平成29年度学年暦

学 年 開 始	4 月 1 日 (土)
新 入 生 ガ イ ダ ン ス	4 月 3 日 (月)
入 学 式	4 月 5 日 (水)
新 入 生 健 康 診 断	4 月 7 日 (金)
前 期 授 業 開 始 日	4 月 10 日 (月)
振 替 授 業 日	5 月 30 日 (火) 金曜日の授業を実施
創 立 記 念 日	6 月 1 日 (木) (通常通り授業実施)
授 業・試 験 期 間	7 月 24 日 (月) ～ 8 月 4 日 (金)
夏 季 休 業	8 月 5 日 (土) ～ 9 月15日 (金)
研 修 期 間	9 月 16 日 (土) ～ 9 月30日 (土)
後 期 授 業 開 始 日	10 月 2 日 (月)
振 替 授 業 日	11 月 21 日 (火) 木曜日の授業を実施
振 替 授 業 日	11 月 22 日 (水) 金曜日の授業を実施
冬 季 休 業	12 月 23 日 (土) ～ 1 月 7 日 (日)
授 業・試 験 期 間	1 月 30 日 (火) ～ 2 月13日 (火)
振 替 授 業 日	2 月 13 日 (火) 月曜日の授業・試験を実施
研 修 期 間	2 月 14 日 (水) ～ 3 月19日 (月)
春 季 休 業	3 月 20 日 (火) ～

- ※ 振 替 授 業 日 — 各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
- ※ 研 修 期 間 — 集中講義や補講などが行われることがある。
- ※ 授 業・試 験 期 間 — 定期試験や授業を行う。
- ※ 卒 業 式 — 日程確定後、ホームページ（ホーム>教育・学生生活>授業・履修関係>行事予定・授業時間）に掲載します。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

- ・ 新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講
4月20日（木）5時限、21日（金）3～5時限
[歓迎祭開催日程：4月20日（木）5限～、21日（金）午後～、22日（土）終日]
- ・ 大学祭（银杏祭）開催に伴う休講
11月1日（水）5時限、2日（木）全時限
[大学祭開催日程：11月2日（木）～ 5日（日）]
- ・ センター入試準備に伴う休講
平成30年1月12日（金）全時限
[センター試験：1月13日（土）・14日（日）]

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

ポイント

- ◆ 履修登録をしないと、単位は修得できません。所定の期間内に必ず履修登録を行って下さい。
- ◆ 平成27年度から授業時間が一部変更されています。
- ◆ 平成27年度以降の入学生は、「地域志向系科目」が必修となります。

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

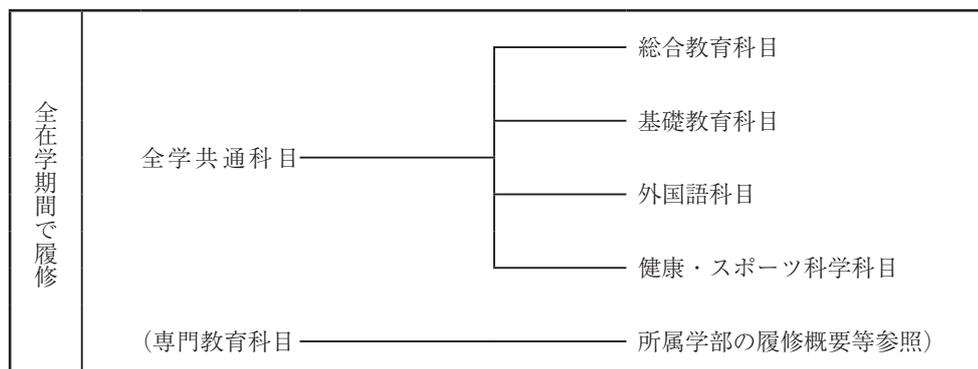
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、「初年次教育」のような1年生向けの科目もありますが、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意： 履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。

2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目Aと総合教育科目Bの二つに区分されます。

- ① 総合教育科目Aは、人類の生存や市民生活等に直接かかわり、すぐれて現代的・実際的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目Aは、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限に開講されています。
- ② 総合教育科目Bは、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」、大学で学問することの意味を体験する「初年次教育」という五つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに十の主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目A・Bの中から、各々の関心や興

味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。

- ③ 総合教育科目Aの特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目Bの初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新入生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。
- ④ 総合教育科目Bの演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ⑤ 総合教育科目Bの特別枠「単位互換科目」は、個別大学の枠を超えた大学相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを目的として大学コンソーシアム大阪並びに、大阪府立大学及び大阪商業大学との協定によって科目が提供されます。

(注) 履修登録をするだけで、受講しない者が多く見受けられます。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。履修する科目を慎重に選んで履修登録をするように注意してください。
履修希望者が定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

(2) 基礎教育科目

主として理系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

(注) 実験、実習科目では安全かつ効果的に実習を行うため、各科目に定員を設けています。

(3) 外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な理解を目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

(4) 健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位
 外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位
 新修外国語〔特修〕…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位
 実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、各科目の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間(回数)	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

4. 授業時間（杉本キャンパス）

教室移動や実験実習、体育実技等の受講準備の利便性を考慮し、平成27年度から杉本キャンパスの授業時間を変更しています。

第1時限	8：55～10：25
第2時限	10：40～12：10
第3時限	13：00～14：30
第4時限	14：45～16：15
第5時限	16：30～18：00

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、所属する学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なっていたり、科目数を指定していたりする場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

◎演習科目

平成10年度から開講された総合教育科目Bの演習科目は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。

演習科目は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

◎留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として日本語1A～5B、総合教育科目Bとして日本事情IA～IIB が開講されています。初回授業には必ず出席してください。

6. 履修登録等について

単位を修得しようとする科目は、履修登録期間中にWeb履修システムにて履修登録を行ってください。履修登録しなければ、単位は修得できません。

(1) 履修登録及び確認

① 履修登録期間に履修登録が必要な科目をWeb上で登録してください。

前期に登録する科目：前期科目および前期集中講義科目

後期に登録する科目：後期科目および後期集中講義科目

※平成29年度より、後期集中講義科目は後期に履修登録を行うことになりました。

② クラス指定がある科目は、該当クラスを登録してください。

③ 抽選結果の発表日に、抽選結果および登録内容を確認してください。追加可能な科目についてポータルサイトおよび掲示板に掲載します。追加登録を希望する学生は、登録方法を確認してください。

④ 確認・修正登録期間にWeb上で履修登録の修正・追加・削除が可能な科目を登録できます。

⑤ 最終確認日に履修登録内容を確認してください。

(2) 登録上の注意

① 具体的な登録方法は「Web履修システム操作マニュアル」を参照してください。

② その他、履修登録についての詳細は、ポータルサイトおよび掲示板に掲載されますので、必ず確認してください。

(3) 健康・スポーツ科学実習科目の表記の変更について

教務事務システムの新システムへの移行に伴い、平成29年度より下記のとおり表記を変更します。

1.対象科目

「健康スポーツ科学実習」

2.変更内容

【現行システム】 「健康・スポーツ科学実習」

【新システム】 「健康・スポーツ科学実習（種目名）」（例：「健康・スポーツ科学実習（アーチェリー1）」）

3.対象者

平成29年4月1日に在籍する学生

※平成29年3月31日までの除籍者や退学者は、申請時期により「健康・スポーツ科学実習（種目名）」と表記される場合があります。

7. 障がい有する学生の受講等について

障がい有する学生の受講等について要望があるときは、学生サポートセンター所属学部教務担当に申し出てください。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに各授業内で実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合もあります。さらに、その他随時実施される試験があります。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、所属学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後、所定の期日までに受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、**所属学部教務担当**に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は所属学部履修概要で確認してください。

「学校において予防すべき感染症」に罹患し、定期試験を受験出来なかった場合は、所属学部教務担当に申し出てください。

(注)試験に関する詳細は適宜、全学共通教育棟1階掲示板および、学生サポートセンター1F掲示板に掲示します。

また、追試験を許可された者の学籍番号及び実施日程等も、定期試験終了後定められた日に、上記掲示板に掲示します。

◎ 試験において不正行為を行った場合、そのセメスターの全科目の単位が無効となります。

(2) 成績

成績は下記の表記をもって通知します。

◎平成24年度以前の入学者

合格科目 → 「A」80点以上 「B」70点～79点 「C」60点～69点

不合格科目 → 「E」60点未満

◎平成25年度以降の入学者

合格科目 → 「AA」90点以上 「A」80点～89点 「B」70点～79点 「C」60点～69点

不合格科目 → 「F」60点未満

成績通知はWeb履修サイト上で確認することができます。成績通知日は所属学部からお知らせします。

9. 各種掲示について

全学共通科目に関する事項（授業、休講、履修等）やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。全学ポータルサイトに掲載する情報もあります。

全学共通科目に関する掲示板は、全学共通教育棟1階ピロティ東側および、学生サポートセンター1階にあります。なお、健康・スポーツ科学科目に関する掲示はすべて第1(旧)体育館前掲示板にて行います。

10. 交通スト、台風時等の授業について

(1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR阪和線
- ② 私鉄（近鉄、阪急、阪神、南海、京阪）の1社以上
- ③ 地下鉄及びJR環状線が同時

(2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

11. 単位互換について

- ・大学コンソーシアム大阪センター科目
- ・大阪府立大学・大阪商業大学で提供される単位互換科目
- ・紀の国大学に加盟する大学で提供される単位互換科目

上記の科目を履修して、単位を修得できる制度があります。

所属学部によって単位認定等の取扱が異なりますので、必ず所属学部の履修規程等を参照してください。

シラバス等詳細は、全学ポータルに掲載します。

出願時期が限られているので注意してください。

12. 地域志向系科目について（平成27年度以降入学生のみ）

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」として、本学と大阪府立大学との共同申請「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」が採択されました。本事業は、大学と自治体の連携を通して、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めていくものです。

以上の理念に基づき、平成27年度入学生より、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2単位以上を修得することが必要になります。平成27年度以降に入学された学生の皆さんは、在学中に「地域志向系科目」から必ず1科目は受講するようにして下さい。

「地域志向系科目」にあたる科目については、Ⅱ.4.「地域志向系科目」を参照してください。また所属する学部の履修案内も必ず参照するようにして下さい。

13. 科目ナンバーについて

本学では、平成28年度より、すべての科目に番号を付け、分類する「科目ナンバリング」を導入しています。科目ナンバーは、その科目の分野、水準、学年等を示すものです。学習の段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するための一つのツールとして、履修科目を選択する際などに利用してください。

※科目ナンバリング コード配分

例	<u>GE</u>	<u>FIR</u>	<u>01</u>	<u>01</u>
	①	②	③④	⑤

- ① 科目の提供組織（全学共通・学部・学科・副専攻など）（1・2桁目）
全学共通科目はすべて「GE」とする。
- ② 科目の分野（3～5桁目）
（別表1）を参照。
- ③ 各学部の学習マップでの学習段階（6桁目）
全学共通科目はすべて「0」。
- ④ 対象学年または難易度（7桁目）（別表2・3）
全学共通科目では対象学年または難易度を表している。
6桁目まで同一の科目内での学習順序を示す。
- ⑤ 科目別の識別番号（8・9桁目）
1～7桁目が同一で、異なった科目を識別するための番号。

なお、上記7桁の後ろに小数点以下の桁を設ける場合がある。（別表4）
全学共通科目では「地域志向系科目」を識別するために、「.CO」を付している。

【別表1】科目の分野（3～5桁目）

科目群	主 題	記 号
総合教育科目 A		GEN
総合教育科目 B	人間と社会	HUM
	歴史と文化	HIS
	自然と人間	NAT
	情報と人間	INF
	初年次	FIR
基礎教育科目	数学	MAT
	物理学	PHY
	化学	CHE
	生物学	BIO
	地球学	GEO
	図形科学	GRA
外国語科目	英語	ENG
	ドイツ語	GER
	フランス語	FRA
	中国語	CHN
	ロシア語	RUS
	朝鮮語	KOR
	日本語	JPN
健康・スポーツ科学 科目	講義	HEA
	実習	SPO

【別表2】対象学年（7桁目）

対象学年	記号
1回生以上	1
2回生以上	2
3回生以上	3
4回生	4

【別表3】難易度（7桁目）

難易度	記号
初級・入門	1
中級・応用	2
上級	3
発展	4

【別表4】小数点以下

科目名	記号
地域志向系科目	.CO

14. 全学共通科目Q&A

Q1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の特長を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこまることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持って考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修してください。

Q2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修をすることで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためですので、在学中の履修計画を立てるために必ず目を通してください。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」（全在学期間を通じての体系的教育という意味）という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3

回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです（なお、医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています）。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用してください。

Q5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取っ
てしまおうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実際的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の科目が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回（水・金）の5時限に開講しています。

Ⅱ 全学共通科目の授業科目

1. 全学共通科目の分類体系

日 本 語			英 語		
総合教育科目 A			Integrated General Courses A		
	主題	人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特別 枠		主題	Humanity and the Environment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目 B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権		主題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主題	歴 史 地域と文化 文学と芸術		主題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主題	現代の自然科学 自然科学と人間		主題	Modern Natural Science Natural Science and Humanity
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主題	情報と人間		主題	Information and Humanity
科目群	初年次教育		科目群	First Year Experience	
	主題	初年次教育		主題	First Year Experience
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主題	数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学		主 題	Mathematics Physics Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences; HESS		
	主題	健康スポーツ科学講義 講義 健康スポーツ科学実習 実習 実験実習 スポーツ実習		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences throughtout Life Practice Courses Experimental Education for HESS Practice-Field Work for HESS

2. 配当クラスの表記について

配当クラスとは、当該科目を履修できる、あるいは履修する必要のある学生の所属する学部やグループ等をさします。

例		
<u>J</u>	<u>L</u>	<u>b</u>
①	②	③
<u>S</u>	<u>II</u>	<u>物(数)</u>
①	②	④

① 学部等の略称

略 称	学部等	略称	学部等
全	全学部	全文	文科系の全学部
「再」	再履修者用クラス	全理	理科系の全学部
C	商学部	E	経済学部
J	法学部	L	文学部
S	理学部	T	工学部
M	医学部医学科	N	医学部看護学科
H	生活科学部		

② 履修年次

略称	履修年次	略称	履修年次
I	1 回生	II	2 回生
III	3 回生	IV	4 回生
低	1・2 回生		

③ クラス分け

アルファベット小文字によるクラス分けを示しています。外国語科目等に使用されます。詳細はシラバス（P.238・P.239）を参照してください。

④ 学科の略称によるクラス分けを示しています。外国語科目・基礎教育科目に使用されます。基礎教育科目については、（ ）のない学科は必修科目、（ ）のある学科は選択もしくは選択必修科目であることを示しています。

学 部	略 称	学 科
理	数	数学科
	物	物理学科
	化	化学科
	生	生物学科
	地	地球学科
工	機	機械工学科
	電	電子・理工工学科
	情	電気情報工学科（2013～）・情報工学科（～2012）
	化	化学バイオ工学科
	建	建築学科
	都	都市学科
生	食	食品栄養科学科
	環	居住環境学科
	人	人間福祉学科

3. 平成 29 年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目 A

総合教育科目 A では、すぐれた現代的・実証的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つひとつの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つひとつ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
人間と環境	技術と環境	2	2		水・5	全	山崎 友裕 他		1	52
	環境と健康	2	2	金・5		全	福島 若葉 他		2	52
	環境と法・行政	2	2		金・5	全	野田 昌吾 他		3	53
	環境と経済	2	2		木・4	全	除本 理史		4	54
都市・大阪	歴史のなかの大阪	2	2		水・5	全	塚田 孝		5	56
	都市生活と人間福祉	2	2	金・5		全	松木 洋人 他		6	56
	大阪の自然	2	2		金・5	全	三田村 宗樹 他		7	57
	大阪の地理	2	2	水・5		全	水内 俊雄		8	58
	現代都市論	2	2		木・5	全	小玉 徹 他		9	59
	都市の経済とビジネス	2	2	木・4		全	新藤 晴臣 他		10	59
	国際地域経済と都市	2	2		水・4	全	有賀 敏之 他		11	60
	大阪落語への招待	2	2	水・5		全	久堀 裕朗 他		12	61
	都市・地域政策	2	2		金・4	全	吉田 隆之 他		13	62
	市大都市研究の最前線	2	2		金・5	全	全 泓奎 他		14	63
	コミュニティ防災	2	2	水・5		全	生田 英輔 他		15	64
生命と人間	生と死の倫理	2	2		水・5	全	土屋 貴志		16	66
	戦争と人間	2	2	火・1		全	佐賀 朝		17	67
	生命と進化	2	2		水・5	全	若林 和幸 他		18	67
	現代の医療	2	2	水・5		全	藤原 靖弘 他		19	68
	健康へのアプローチ	2	2	金・5		全	古澤 直人 他		20	69
	技術と生命	2	2		水・5	全	田窪 朋仁 他		21	70
	光と生命	2	2		金・5	全	寺北 明久 他		22	71
特別枠	大阪市大でどう学ぶか	2	2	水・5		全	大久保 敦 他		23	72
	大阪の知(学長特命科目)	2	2		水・5	全	井上 徹・ 嘉名 光市 他		24	73

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当 クラス	担当教員	備考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
人間と知識・思想	哲学入門	2	2	火・4		全	佐金 武		25	76
	文化と社会の心理	2	2		金・3	全	田端 拓哉		26	76
	心理学への招待	2	2	月・3		全	佐伯 大輔		27	77
	心理学への招待	2	2	火・3		全	池上 知子		28	78
	心理学への招待	2	2	金・1		全	田端 拓哉		29	79
	心理学への招待	2	2	木・4		全	矢田 尚也		30	79
	認知のしくみ	2	2		火・3	全	山 祐嗣		31	80
	人間と宗教	2	2	木・4		全	仲原 孝		32	81
	ゲームで学ぶ社会行動	2	2		木・3	全	渡邊 席子		33	82
	教育と発達心理学	2	2	火・2		全	西垣 順子		34	83
	教育と発達心理学(演習)	2	2		木・3	全	西垣 順子		35	84
	リテラシー教育の思想と方法	2	2		火・4	全	西垣 順子		36	84
	心理学・認知科学と人間	2	2		火・4	全	平 知宏		37	85
現代社会と人間	現代文化の社会学	2	2		月・2	全	笹島 秀晃		38	87
	社会科学のフロンティア	2	2		水・2	全	松本 淳		39	87
	日本国憲法	2	2	火・1		全	阿部 和文		40	88
	日本国憲法	2	2	金・5		全	中谷 実		41	89
	都市的世界の社会学	2	2	水・4		全	伊地知 紀子		42	89
	現代社会学入門	2	2	月・2		全	進藤 雄三		43	90
	家族と社会	2	2		木・4	全	佐々木 洋子		44	91
	世界のなかの日本経済	2	2	火・4		全	小川 亮		45	91
	現代経済学入門	2	2	金・3		全	長沼 進一		46	92
	法と社会	2	2		木・4	全	高橋 眞他		47	93
	日本の企業	2	2	木・2		全	高橋 信弘		48	94
	現代社会と健康	2	2	火・2		全	吉川 貴仁		49	95
	現代社会と健康	2	2		火・2	全	吉川 貴仁		49	95
	現代社会と健康	2	2	木・2		全	鴨井 博		49	95
	現代社会と健康	2	2		木・2	全	鴨井 博		49	95
	メディアの社会学	2	2	水・3		全	石田 佐恵子		50	96
	現代社会におけるキャリアデザイン	2	2		火・3	全	飯吉 弘子		51	96
現代社会と大学	2	2	木・4		全	飯吉 弘子		52	98	
データから見る大阪市大(演習)	2	2		木・4	全	平 知宏		53	99	
現代社会と大学(演習)	2	2		木・3	全	飯吉 弘子		54	100	

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当 クラス	担当教員	備考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
現代社会と人間	地域実践演習	2	2	月・5		全I・II	生田 英輔		55	102
	地域実践演習	2	2		月・5	全I・II	水内 俊雄		56	103
	地域実践演習	2	2	集中		全I・II	嘉名 光市		57	104
	地域実践演習	2	2		月・5	全I・II	天野 景太		58	105
社会と人権	現代の部落問題	2	2	金・2		全	齋藤 直子		59	106
	メディアと人権	2	2	金・1		全	中村 一成		60	106
	部落解放のフロンティア	2	2		金・1	全	齋藤 直子 他		61	107
	部落差別の成立と展開	2	2	金・1		全	上杉 聡		62	108
	世界のマイノリティ	2	2		金・2	全	川越 道子		63	109
	障がい者と人権Ⅰ	2	2	金・2		全	松波 めぐみ		64	110
	障がい者と人権Ⅱ	2	2		金・2	全	松波 めぐみ		65	111
	平和と人権	2	2		金・2	全	高 誠晩		66	111
	平和学	2	2	金・2		全	役重 善洋		67	112
	ジェンダーと現代社会Ⅰ	2	2	金・2		全	古久保 さくら 他		68	113
	ジェンダーと現代社会Ⅱ	2	2		金・2	全	古久保 さくら 他		69	114
	エスニック・スタディ入門編	2	2	金・2		全	朴 一		70	115
	企業と人権	2	2	金・5		全	李 嘉永		71	115
	地球市民と人権	2	2		金・2	全	阿久澤 麻理子		72	116
	エスニック・スタディ(演習)	2	2		金・2	全	朴 一		73	117
人権と多様性の研究(演習)	2	2		金・4	全	齋藤 直子 他		74	118	

○総合教育科目B

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
歴史	日本史の見方	2	2	月・2		全	磐下 徹		75	119
	東洋史の見方	2	2	木・2		全	平田 茂樹		76	119
	西洋史の見方	2	2	火・4		全	北村 昌史		77	120
	日本社会の歴史	2	2		月・2	全	天野 忠幸		78	121
	東洋社会の歴史	2	2		木・2	全	上野 雅由樹		79	122
	西洋社会の歴史	2	2		火・3	全	大黒 俊二		80	123
	現代の歴史	2	2	木・4		全	野村 親義		81	124
	考古学入門	2	2		火・2	全	岸本 直文		82	124
	ことばの歴史	2	2		木・1	全	丹羽 哲也		83	125
歴史学の世界(演習)	2	2		木・1	全	草生 久嗣		84	125	
地域と文化	現代の地理学	2	2		木・2	全	山崎 孝史		85	127
	都市の地理学	2	2		月・3	全	大場 茂明		86	127
	文化人類学入門	2	2	火・3		全	多和田 裕司		87	128
	文化とコミュニケーション	2	2		月・3	全	林 嵐娟		88	129
	環境と文化	2	2	木・4		全	祖田 亮次		89	129
	西洋の文化	2	2		月・3	全	貝原 哲生		90	130
	民族と社会	2	2		金・1	全	王 静		91	131
	観光研究入門	2	2	水・3		全	天野 景太		92	131
	観光と文化	2	2		水・3	全	天野 景太		93	132
	アーツマネジメント	2	2	木・2		全	菅原 真弓		94	134
	日本事情 I A	2	2	水・4		全	堀 まどか		95	135
	日本事情 I B	2	2		水・4	全	堀 まどか		96	135
	日本事情 II A	2	2	水・2		全	増田 聡		97	136
日本事情 II B	2	2		木・4	全	網島 洋之		98	137	
文学と芸術	日本の古典文学 I	2	2	火・4		全	小林 直樹		99	138
	東洋の文学	2	2		木・2	全	田渕 欣也		100	139
	西洋の文学	2	2	火・3		全	筒井 香代子 他		101	139
	日本の近代文学	2	2	木・3		全	奥野 久美子		102	140
	芸術の世界	2	2	月・2		全	高梨 友宏		103	141
	西洋美術の流れ	2	2		火・4	全	石黒 義昭		104	142
	音楽の諸相	2	2	水・3		全	増田 聡		105	143
	文学と芸術へのいざない(演習)	2	2		水・2	全	山本 真由子		106	144

○総合教育科目B

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生、生活科学部人間福祉学科と医学部看護学科の学生を対象とする。

主題「自然科学と人間」は、文科系及び理科系の学生を対象とする。

主題	科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
現代の自然科学	数学の考え方2	2	2		月・2	全文・H(人)・N	河内 明夫		107	145
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	木・2		全文・H(人)・N	内藤 清一		108	145
	ミクロとマクロの世界	2	2		火・3	全文・H(人)・N	牲川 章		109	146
	化学の世界	2	2	月・3		全文・H(人)・N	小嵯 正敏 他		110	146
	現代の分子科学	2	2		火・3	全文・H(人)・N	中島 信昭		111	147
	生物学への招待	2	2	水・3		全文・H(人)・N	田中 俊雄		112	148
	地球の科学	2	2		火・1	全文・H(人)・N	益田 晴恵 他		113	149
	体験で知る科学と技術	4	4		水・3-4	全文・H(人)・N	井上 淳 他		114	149
自然科学と人間	科学と社会	2	2	金・4		全	木野 茂		115	151
	現代科学と人間	2	2	木・4		全	宮田 真人 他		116	152
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		金・4	全	木野 茂		117	152
	森林環境と人間社会	2	2		火・4	全	大久保 敦		118	153
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	2	2		火・3	全	飯野 盛利 他		119	154
	植物の機能と人間社会	2	2		月・2	全	曾我 康一		120	155
	植物と人間（演習）	2	2	集中		全	飯野 盛利 他		121	156

○総合教育科目B

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当 クラス	担当教員	備考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
情報と人間	情報基礎	4	2	月・3-4		全	村上 晴美		122	157
	情報基礎	4	2	月・3-4		全	西村 雄一郎		123	158
	情報基礎	4	2	水・1-2		全	安倍 広多		122	157
	情報基礎	4	2	木・3-4		全	豊田 博俊		122	157
	情報基礎	4	2	木・3-4		全	大西 克実		123	158
	情報基礎	4	2	金・1-2		全	ベンカテッシュ・ラガワン		123	158
	情報基礎	4	2	金・1-2		全	豊田 博俊		122	157
	情報基礎	4	2	金・3-4		全	永田 好克		122	157
	情報基礎	4	2	金・3-4		全	米澤 剛		123	158
	情報基礎	4	2		木・1-2	全	村上 晴美		122	157
	情報基礎	4	2		金・1-2	全	安倍 広多		122	157
	プログラミング入門	4	2	月・3-4		全	松浦 敏雄 他		124	159
	プログラミング入門	4	2	金・3-4		全	石橋 勇人 他		125	159
	プログラミング入門	4	2		月・3-4	全	石橋 勇人 他		125	159
	プログラミング入門	4	2		木・3-4	全	大西 克実		126	160
	プログラミング入門	4	2		金・3-4	全	永田 好克 他		127	160
	情報の探索と利用	2	2	月・2		全	吉田 大介		128	161
	情報の探索と利用	2	2		水・1	全	米谷 優子		128	161
	情報の探索と利用	2	2		水・2	全	米谷 優子		128	161
	情報化の光と影	2	2		木・2	全	和久井 理子 他		129	162
社会と統計	2	2		金・4	全	藤井 輝明		130	163	
ジオ・リテラシー入門	2	2	集中		全	木村 義成		131	164	

○総合教育科目B

科目群：初年次教育

初年次セミナーは、学生が自ら選んだ問いについて調査・検討して報告し、議論することを通じて、次の目標を実現するための科目です。

- ・異なる学部との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること。
- ・これからの人生において大学生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること。
- ・異なる考え方や知識を持つ人々と対話・コミュニケーションが出来ること。
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用増強させること。

主題	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
初年次教育	初年次セミナー	2	2	月・5		全I	高橋 太		132	165
	初年次セミナー	2	2	火・1		全I	今津 篤志		133	166
	初年次セミナー	2	2	火・4		全I	西垣 順子		134	167
	初年次セミナー	2	2	木・2		全I	大久保 敦		135	167
	初年次セミナー	2	2	水・4		全I	天野 景太		136	168
	初年次セミナー	2	2	木・3		全I	渡邊 席子		137	169
	初年次セミナー	2	2	木・2		全I	徳原 大介		138	170
	初年次セミナー	2	2	火・4		全I	飯吉 弘子		139	171

○基礎教育科目

授 業 科 目 名	週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担当教員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
数 講	線形代数 I	2	2	木・1		SI 数	尾角 正人		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		SI 物 TI 情1~32	金信 泰造		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		SI (化・生) HI (環)	河内 明夫		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		SI (地) TI (化)	安本 真士		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		TI 電(都1~28)	橋本 要		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		TI 建(都29~)	橋爪 恵		140	174
	線形代数 I	2	2	木・1		TI 機・情33~	伊達山 正人		140	174
	線形代数 II	2	2		木・1	SI 数	古澤 昌秋		141	174
	線形代数 II	2	2		木・1	SI 物 TI 情1~32	宮地 兵衛		141	174
	線形代数 II	2	2		木・1	SI (化・地) TI (化) HI (環)	橋本 要		141	174
	線形代数 II	2	2		木・1	TI 電(都1~28)	柘田 幹也		141	174
	線形代数 II	2	2		木・1	TI 建(都29~)	尾角 正人		141	174
	線形代数 II	2	2		木・1	TI 機・情33~	小松 孝		141	174
	解析 I	2	2	火・2		SI 数	鎌田 聖一		142	175
	解析 I	2	2	火・2		SI 物 TI 情1~32	河内 明夫		142	175
	解析 I	2	2	火・2		SI (化・生) HI (環)	佐野 昂迪		142	175
	解析 I	2	2	火・2		SI (地) TI (化)	阿部 健		142	175
	解析 I	2	2	火・2		TI 電(都1~28)	齋藤 洋介		142	175
	解析 I	2	2	火・2		TI (建・都29~)	伊達山 正人		142	175
	解析 I	2	2	火・2		TI 機・情33~	兼田 正治		142	175
	解析 II	2	2		火・2	SI 数	柘田 幹也		143	175
	解析 II	2	2		火・2	SI 物 TI 情1~32	伊藤 昇		143	175
	解析 II	2	2		火・2	SI (化・生) HI (環)	加藤 信		143	175
	解析 II	2	2		火・2	SI (地) TI (化)	齋藤 洋介		143	175
	解析 II	2	2		火・2	TI 電(都1~28)	兼田 正治		143	175
	解析 II	2	2		火・2	TI (建・都29~)	蓮井 翔		143	175
	解析 II	2	2		火・2	TI 機・情33~	阿部 健		143	175
	解析 III	2	2	火・1		SII 物(化・生・地) TII (都)	西尾 昌治		144	176
解析 III	2	2	火・1		TII (電・情・建) HII (環)	濱野 佐知子		144	176	
解析 III	2	2	火・1		TII 機(化)	佐官 謙一		144	176	
解析 IV	2	2		火・1	SII 物(化・地) TII (機)	大仁田 義裕		145	177	
解析 IV	2	2		火・1	TII (電・情・化・建・都) HII (環)	佐官 謙一		145	177	
応用数学 A	2	2	月・1		SII (物・化) TII 機	小松 孝		146	177	
応用数学 A	2	2	月・1		SII (生・地) TII (化・建・都)	伊達山 正人		146	177	
応用数学 A	2	2	月・1		TII (電・情) HII (環)	阿部 健		146	177	
応用数学 B	2	2		月・1	SII (物) TII (機・電)	釜江 哲朗		147	178	
応用数学 B	2	2		月・1	SII (化・生・地) TII (情・化・建・都) HII (環)	西尾 昌治		147	178	
応用数学 C	2	2		金・4	SII (物・化・生・地) TII (機・電・情・化・建) TIII (都) HII (環)	吉田 雅通		148	179	
基礎数学 A	2	2	月・4		CE I a	古澤 昌秋		149	179	

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
数 学	講 義	基礎数学 A	2	2	月・4		CE I b	伊藤 昇		149	179
		基礎数学 A	2	2	月・4		CE I c	佐野 昂迪		149	179
		基礎数学 A	2	2	月・4		CE I d	齋藤 洋介		149	179
		基礎数学 A	2	2	火・4		H I	佐官 謙一		149	179
		基礎数学 B	2	2		月・4	CE I a	金信 泰造		150	180
		基礎数学 B	2	2		月・4	CE I b	齋藤 洋介		150	180
		基礎数学 B	2	2		月・4	CE I c	釜江 哲朗		150	180
		基礎数学 B	2	2		月・4	CE I d	宮地 兵衛		150	180
		基礎数学 B	2	2		火・4	H I	河内 明夫		150	180
		統計学 A	2	2	木・3		M I	福井 充		151	181
		統計学 B	2	2		木・3	M I	福井 充		152	181
物 理 学	講 義	基礎物理学 I	4	4	月1・金4		SI物(数・地)	有馬 正樹		153	182
		基礎物理学 I	4	4	月1・金4		SI(化・生)TI電	中川 道夫		153	182
		基礎物理学 I	4	4	月1・金4		TI機	牲川 章		153	182
		基礎物理学 I	4	4	月1・金4		TI建(情)	河合 俊治		153	182
		基礎物理学 II	4	4		月1・金4	SI物(数・化・生・地)	浜端 広充		154	183
		基礎物理学 II	4	4		月1・金4	TI(機)	河合 俊治		154	183
		基礎物理学 II	4	4		月1・金4	TI電(情)	中川 道夫		154	183
		基礎物理学 I -A	2	2		水・1	SI物	糸山 浩		155	183
		基礎物理学 I -A	2	2		水・1	TI電	牲川 章		155	183
		基礎物理学 II -A	2	2	水・3		SII物 TII(電)	西川 裕規		156	184
		基礎物理学 I -E	2	2	月・1		SI(数・化・生)S低(地) H低(食・環)	菊池 右馬		157	185
		基礎物理学 I -E	2	2	月・1		TI(化)	浜端 広充		157	185
		基礎物理学 I -E	2	2	月・1		TI(都)	小栗 章		157	185
		基礎物理学 II -E	2	2		月・1	S低(地)SI(数・化・生・選) H低(食・環)	菊池 右馬		158	185
		基礎物理学 II -E	2	2		月・1	TI(化・建)	牲川 章		158	185
		基礎物理学 III	2	2	水・1		SII物(数・化・生・地)	矢野 英雄		159	186
		基礎物理学 III	2	2	水・1		TII電	中川 道夫		159	186
		基礎物理学 III	2	2	水・1		TII(機・情)	井上 慎		159	186
		基礎物理学 III	2	2	水・1		TII(化・建・都)	畑 徹		159	186
		基礎物理学 IV	2	2		水・1	SII物(数・化・生・地) TII(機)TIV(建)	中尾 憲一		160	186
		基礎物理学 IV -E	2	2		水・1	SII(数・化・生・地) TII(機・化・情)TIV(建)	畑 徹		161	187
		物理学 I	2	2	木・1		M I	牲川 章		162	188
		物理学 II	2	2		木・1	M I	村田 恵三		163	188
入門物理学 I	2	2	月・1		SI(数・化・生)S低(地)TI(化)	吉野 裕高		164	189		
入門物理学 I	2	2	月・1		H低(食・環)NI	佐藤 弘一		164	189		
入門物理学 II	2	2		月・1	SI(数・化・生)S低(地)TI(化)	吉野 裕高		165	190		
入門物理学 II	2	2		月・1	H低(食・環)	佐藤 弘一		165	190		
実 験	実 験	入門物理学実験	4	2		金3・4	S低(数・化・生・地)HI食(環)	常定 芳基 他		166	190
		基礎物理学実験 I	6	3	火3・4・5		SI物 TI(機①・都)	田越 秀行 他	①学番号奇数	167	191

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
物 理 学	実 験	基礎物理学実験Ⅰ	6	3	木3・4・5		TⅠ情(機②)	山本 和弘 他	②学籍番号偶数	167	191
		基礎物理学実験Ⅰ	6	3		火3・4・5	S低(数・化・生・地) TⅠ電(建・化) HⅠ(環)	竹内 宏光 他		167	191
		基礎物理学実験Ⅱ	6	3	月3・4・5		TⅡ電(情) SⅡ(化)	小原 顕 他		168	182
		基礎物理学実験Ⅱ	6	3		月3・4・5	SⅡ物(数・生・地) TⅡ(機)	岩崎 昌子 他		168	182
化 学	講 義	基礎物理化学A	2	2	水・1		SⅠ化	宮原 郁子 他		169	193
		基礎物理化学A	2	2	水・1		TⅠ(機・電)	杉崎 研司		169	193
		基礎物理化学A	2	2	水・1		HⅠ(食・環) TⅡ(都)	麻田 俊雄		169	193
		基礎物理化学A	2	2	水・1		MⅠ	神谷 信夫		169	193
		基礎物理化学A	2	2		木・3	SⅠ(数・物・生・地) TⅠ(情・建)	麻田 俊雄		169	193
		基礎物理化学B	2	2		水・2	SⅠ化(数・物・生・地)	豊田 和男		170	193
		基礎物理化学B	2	2		水・2	TⅠ(建・都・電) HⅠ(食・環)	宮崎 裕司		170	193
		基礎有機化学Ⅰ	2	2	月・2		SⅠ化(数・物・生・地)	坂口 和彦		171	194
		基礎有機化学Ⅱ	2	2		月・2	SⅠ化(数・物・生・地)	森本 善樹 他		172	194
		基礎有機化学	2	2	水・2		TⅠ(機・建・電・都)	岡田 恵次		173	195
		基礎有機化学M	2	2		火・3	MⅠ	宮田 興子		174	195
		基礎無機化学	2	2	水・2		SⅡ化	西岡 孝訓		175	196
		基礎無機化学	2	2	火・4		SⅡ(数・物・生・地) TⅡ(機・電・建・都・情)	小林 克彰		175	196
		基礎無機化学	2	2		水・1	MⅠ	中島 隆行		175	196
	基礎分析化学	2	2	金・3		SⅡ化	東海林 竜也		176	197	
	基礎分析化学	2	2	金・3		SⅡ(数・物・生・地) TⅡ(電・建・都) HⅡ(食・環)	細川 千絵		176	197	
	入門化学	2	2	月・2		NⅠ SⅠ(数・物・生・地)	中澤 重顕		177	197	
	実 験	基礎化学実験Ⅰ	6	3	火3・4・5		TⅠ化(建)	坂口 和彦 他		178	198
		基礎化学実験Ⅰ	6	3	木3・4・5		TⅡ(情) HⅠ食(環)	坂口 和彦 他		178	198
		基礎化学実験Ⅰ	6	3		火3・4・5	S低(数・物・生・地) TⅠ(都)	坂口 和彦 他		178	198
基礎化学実験Ⅰ		6	3		木3・4・5	SⅠ化 SⅠ(選) TⅠ(電) TⅡ(機)	坂口 和彦 他		178	198	
基礎化学実験Ⅱ		6	3	月3・4・5		TⅡ(化)	板崎 真澄 他		179	199	
基礎化学実験Ⅱ		6	3		月3・4・5	SⅡ化	板崎 真澄 他		179	199	
化学実験		4	2		木3・4	HⅡ食	古澤 直人 他		180	200	
生 物 学	講 義	生物学概論A	2	2	水・1		SⅠ TⅠ(建・電) TⅡ(機) TⅢ(都)	幸田 正典 他		181	200
		生物学概論A	2	2		火・1	TⅠ(化) H低(食・環)	伊東 明 他		181	200
		生物学概論B	2	2		水・2	SⅠ TⅠ(電・建) TⅢ(都) H低(食・環)	藤田 憲一 他		182	201
		生物学概論C	2	2		水・2	SⅡ TⅡ(建・電)	後藤 慎介 他		183	202
		生物学概論D	2	2	水・2		SⅡ TⅡ(機・電) TⅣ(建) TⅢ(都) HⅡ(食)	中村 太郎		184	202
	実 験	生物学概論Ⅰ	2	2	水・2		MⅠ	幸田 正典 他		185	203
		生物学概論Ⅱ	2	2		水・2	MⅠ	宮田 真人 他		186	203
		生物学概論Ⅲ	2	2	火・4		NⅠ	福永 昭廣		187	204
		生物学実験A	4	2	木3・4		TⅡ(機・化・都) S低(化)	水野 寿朗 他		188	205
		生物学実験A	4	2	金3・4		SⅠ生(地) S低(数・物) TⅡ(建)	水野 寿朗 他		188	205
実 験	生物学実験B	4	2		木3・4	TⅠ化<46人程度> HⅠ食	水野 寿朗 他		189	205	
	生物学実験B	4	2		金3・4	TⅠ化<10人程度> SⅠ生(地) S低(数・物・化)	水野 寿朗 他		189	205	

授 業 科 目 名		週 時 間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 ク ラ ス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁	
				前 期	後 期						
地 球 学	講 義	一般地球学 A-I	2	2	水・2		SI地S低(数・物・化・生)	舩 眞二・江崎 洋一		190	206
		一般地球学 A-II	2	2		水・2	SI地S低(数・物・化・生)	篠田 圭司 他		191	207
		一般地球学 B-I	2	2	水・2		TI(機・建・電)TII(都) H低(環)	井上 淳 他		192	207
	一般地球学 B-II	2	2		水・2	TI(機・建・電・都) H低(環)	柵山 徹也 他		193	208	
	建設地学	2	2		火・3	TI(建・都)HI(環)	奥平 敬元 他		194	209	
	建設地学実験	4	2		火4・5	TI(建・都)HI(環)	奥平 敬元 他		195	209	
	実 験	地球学実験 A	4	2	木3・4		SI地S低(数・物・化・生) TII(機)	山口 覚 他		196	210
地球学実験 B		4	2		木3・4	SI地S低(数・物・化・生)	益田 晴恵 他		197	211	
図形科学 I		2	2	月・2		TII(情)HI環	瀧澤 重志		198	211	
図 形 科 学	講 義	図形科学 I	2	2	金・3		TI建(電)	瀧澤 重志		198	211
		図形科学 I	2	2	金・4		TI(都)	瀧澤 重志		198	211
		図形科学 II	2	2		月・2	TII(情)HI環	瀧澤 重志		199	212
		図形科学 II	2	2		金・3	TI建(電)	瀧澤 重志		199	212
		図形科学 II	2	2		金・5	TI(都)	瀧澤 重志		199	212
		図形科学 II	2	2		金・5	TI(都)	瀧澤 重志		199	212

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
英	College English I	2	1	月・3		TNIj	Thorson		200	215
				月・3		TNIk	Quinn		200	215
				月・3		TNIl	McAvoy		200	215
				月・3		TNI m	Fenstermaker		200	215
				月・4		SMHIa	McAvoy		200	215
				月・4		SMHIb	Leigh		200	215
				月・4		SMHIc	Fenstermaker		200	215
				月・4		SMHI d	Chen		200	215
				月・4		SMHIe	Jacobs		200	215
				月・4		SMHI f	Jones		200	215
				月・4		SMHIg	Dalby		200	215
				月・4		SMHIh	Stepanczuk		200	215
				月・4		SMHIi	Mansfield		200	215
				月・4		SMHIj	Sievert		200	215
				月・4		SMHIk	Feldman		200	215
				月・4		SMHI l	Vaughan		200	215
				月・4		SMHI m	Quinn		200	215
				月・4		SMHI n	Thorson		200	215
					月・5	全「再」	野田	CE Iの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
					月・5	全「再」	豊田	CE Iの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
	水・5	全「再」	山崎	CE Iの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233				
語	College English II	2	1	水・1		EJIa	多賀		201	217
				水・1		EJIb	Selzer		201	217
				水・1		EJIc	Leigh		201	217
				水・1		EJI d	Richards		201	217
				水・1		EJIe	Sievert		201	217
				水・1		EJI f	Micklas		201	217
				水・1		EJIg	Fenstermaker		201	217
				水・1		EJIh	Feldman		201	217
				水・1		EJIi	Thorson		201	217
				水・1		EJIj	Lau		201	217
				水・1		EJIk	McAvoy		201	217
				水・1		EJI l	Silva		201	217
				水・1		EJI m	Vaughan		201	217
				水・1		EJI n	高島		201	217
				水・1		EJI o	Hudgens		201	217
				水・2		CLLa	Thorson		201	217
				水・2		CLLb	Lau		201	217
				水・2		CLLc	Silva		201	217

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
			前期	後期					
College English II	2	1		月・5	全「再」	野田	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				月・5	全「再」	豊田	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				水・5	全「再」	山崎	CE IIの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
College English III	2	1		月・1	CLLa	Sievert		202	218
				月・1	CLLb	Quinn		202	218
				月・1	CLLc	Thorson		202	218
				月・1	CLLd	Leigh		202	218
				月・1	CLLe	McAvoy		202	218
				月・1	CLLf	Fenstermaker		202	218
				月・1	CLLg	Chen		202	218
				月・1	CLLh	Dalby		202	218
				月・1	CLLi	Stepanczuk		202	218
				月・1	CLLj	Vaughan		202	218
				月・1	CLLk	山崎		202	218
				月・1	CLLl	山本		202	218
				月・1	CLLm	野田		202	218
				月・1	CLLn	Feldman		202	218
				月・1	CLLo	Richards		202	218
				月・2	EJLa	Feldman		202	218
				月・2	EJLb	野田		202	218
				月・2	EJLc	Sievert		202	218
				月・2	EJLd	Mansfield		202	218
				月・2	EJLe	Quinn		202	218
				月・2	EJLf	Thorson		202	218
				月・2	EJLg	Leigh		202	218
				月・2	EJLh	McAvoy		202	218
				月・2	EJLi	Chen		202	218
				月・2	EJLj	Fenstermaker		202	218
				月・2	EJLk	Jones		202	218
				月・2	EJLl	Jacobs		202	218
				月・2	EJLm	Dalby		202	218
				月・2	EJLn	Stepanczuk		202	218
				月・2	EJLo	Vaughan		202	218
	月・3	TNIa	Fenstermaker		202	218			
	月・3	TNIb	Dalby		202	218			
	月・3	TNIc	Chen		202	218			
	月・3	TNI d	Jacobs		202	218			
	月・3	TNIe	Mansfield		202	218			
	月・3	TNI f	Stepanczuk		202	218			
	月・3	TNIg	Vaughan		202	218			

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁		
			前期	後期							
英 語	College English III	2	1		月・3	TNIh	Sievert		202	218	
					月・3	TNIi	Feldman		202	218	
					月・3	TNIj	Quinn		202	218	
					月・3	TNIk	Jones		202	218	
					月・3	TNIl	Thorson		202	218	
					月・3	TNI m	McAvoy		202	218	
					月・4	SMHIa	Thorson		202	218	
					月・4	SMHIb	Leigh		202	218	
					月・4	SMHIc	McAvoy		202	218	
					月・4	SMHI d	Fenstermaker		202	218	
					月・4	SMHIe	Dalby		202	218	
					月・4	SMHI f	Chen		202	218	
					月・4	SMHI g	Jacobs		202	218	
					月・4	SMHI h	Jones		202	218	
					月・4	SMHI i	Mansfield		202	218	
					月・4	SMHI j	Stepanczuk		202	218	
					月・4	SMHI k	Feldman		202	218	
					月・4	SMHI l	山本		202	218	
					月・4	SMHI m	Vaughan		202	218	
					月・4	SMHI n	Sievert		202	218	
					月・4	SMHI o	Quinn		202	218	
					月・5		全「再」	山本	CE IIIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
					月・5		全「再」	高島	CE IIIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
					火・4		全「再」	野田	CE IIIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
					水・5		全「再」	野末	CE IIIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
					水・5		全「再」	関	CE IIIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
				College English IV	2	1		水・1	EJIa	Selzer	
	水・1	EJIb	Hudgens					203	220		
	水・1	EJIc	Vaughan					203	220		
	水・1	EJI d	多賀					203	220		
	水・1	EJIe	高森					203	220		
	水・1	EJI f	Leigh					203	220		
	水・1	EJI g	Sievert					203	220		
	水・1	EJI h	Micklas					203	220		
	水・1	EJI i	Fenstermaker					203	220		
	水・1	EJI j	Feldman					203	220		
	水・1	EJI k	Thorson					203	220		
	水・1	EJI l	McAvoy					203	220		
	水・1	EJI m	高島					203	220		
	水・1	EJI n	Lau					203	220		

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
			前期	後期					
英 College English IV 語	2	1		水・1	EJIo	Silva		203	220
				水・2	CLJa	Thorson		203	220
				水・2	CLJb	McAvoy		203	220
				水・2	CLJc	Selzer		203	220
				水・2	CLJd	Silva		203	220
				水・2	CLJe	多賀		203	220
				水・2	CLJf	Lau		203	220
				水・2	CLJg	高森		203	220
				水・2	CLJh	山本		203	220
				水・2	CLJi	Richards		203	220
				水・2	CLJj	Jones		203	220
				水・2	CLJk	Vaughan		203	220
				水・2	CLJl	Micklas		203	220
				水・2	CLJm	Fenstermaker		203	220
				水・2	CLJn	Hudgens		203	220
				水・2	CLJo	Feldman		203	220
				水・3	SMHIa	Hudgens		203	220
				水・3	SMHIb	Feldman		203	220
				水・3	SMHIc	McAvoy		203	220
				水・3	SMHId	Silva		203	220
				水・3	SMHJe	Thorson		203	220
				水・3	SMHJf	Richards		203	220
				水・3	SMHJg	Selzer		203	220
				水・3	SMHJh	Lau		203	220
				水・3	SMHJi	Jones		203	220
				水・3	SMHJj	高森		203	220
				水・3	SMHJk	Vaughan		203	220
				水・3	SMHJl	Sievert		203	220
				水・3	SMHJm	Micklas		203	220
				水・3	SMHJn	山本		203	220
				水・3	SMHJo	Fenstermaker		203	220
				水・4	TNIa	Lau		203	220
	水・4	TNIb	Fenstermaker		203	220			
	水・4	TNIc	Richards		203	220			
	水・4	TNI d	Feldman		203	220			
	水・4	TNIe	Vaughan		203	220			
	水・4	TNI f	Micklas		203	220			
	水・4	TNIg	Silva		203	220			
	水・4	TNIh	Thorson		203	220			
	水・4	TNIi	Sievert		203	220			

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
英 語	College English IV	2	1		水・4	TNIj	Hudgens		203	220
					水・4	TNIk	Selzer		203	220
					水・4	TNIi	Jones		203	220
					水・4	TNIIm	McAvoy		203	220
				月・5		全「再」	山本	CE IVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				月・5		全「再」	高島	CE IVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				火・4		全「再」	野田	CE IVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				水・5		全「再」	野末	CE IVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
				水・5		全「再」	関	CE IVの成績が「F(E)」 または「欠」であった者	217	233
	College English V	2	1	火・1		CIIa	筒井		204	221
				火・1		CIIb	熊懷		204	221
				火・1		CIIc	倉恒		204	221
				火・1		CII d	高		204	221
				火・1		CIIe	山澤		204	221
				火・1		CII f	清川		204	221
				火・1		CII g	片岡		204	221
火・1					CII h	井狩		204	221	
火・2					JIIa	笹倉		204	221	
火・2					JIIb	清川		204	221	
火・2					JIIc	山澤		204	221	
火・2					JII d	倉恒		204	221	
火・2					JII e	高		204	221	
火・2					JII f	熊懷		204	221	
火・2					JII g	筒井		204	221	
火・3					TIIa	田中一		204	221	
火・3					TIIb	野末		204	221	
火・3					TIIc	片岡		204	221	
火・3					TII d	名和		204	221	
火・3					TII e	山澤		204	221	
火・3					TII f	清川		204	221	
火・3					TII g	笹倉		204	221	
火・3					TII h	関		204	221	
火・3					TII i	田中孝		204	221	
火・3					TII j	山崎		204	221	
火・3					TII k	古賀		204	221	
木・1					HIIa	北岡		204	221	
木・1		HIIb	高橋		204	221				
木・1		HIIc	藤井		204	221				
木・1		HIId	山口		204	221				
木・1		HIIE	津田		204	221				

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁				
			前期	後期									
英 語	College English V	2	1	木・2		SIIa	津田		204	221			
				木・2		SIIb	山口		204	221			
				木・2		SIIc	藤井		204	221			
				木・2		SII d	古賀		204	221			
				木・2		SII e	高橋		204	221			
				木・2		SII f	北岡		204	221			
				木・2		SII g	フィゴーニ		204	221			
				木・3		EII a	田中孝		204	221			
				木・3		EII b	フィゴーニ		204	221			
				木・3		EII c	長嶺		204	221			
				木・3		EII d	荒木		204	221			
				木・3		EII e	辻		204	221			
				木・3		EII f	田中一		204	221			
				木・3		EII g	杉井		204	221			
				木・3		EII h	高橋		204	221			
				木・3		MII a	清川		204	221			
				木・3		MII b	中村		204	221			
				木・3		MII c	上里		204	221			
				木・4		LII a	杉井		204	221			
				木・4		LII b	井狩		204	221			
				木・4		LII c	フィゴーニ		204	221			
				木・4		LII d	荒木		204	221			
				木・4		LII e	長嶺		204	221			
				木・4		LII f	古賀		204	221			
				木・4		LII g	辻		204	221			
				木・5		全「再」	古賀		204	221			
					火・4	全「再」	名和	CE Vの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233			
					火・4	全「再」	熊懐	CE Vの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233			
					水・5	全「再」	田中一	CE Vの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233			
					木・5	全「再」	杉井	CE Vの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233			
				College English VI	2	1	木・4		MII a	上里		205	223
							木・4		MII b	清川		205	223
							木・4		MII c	中村		205	223
	火・1	CII a	倉恒					205	223				
	火・1	CII b	山澤					205	223				
	火・1	CII c	清川					205	223				
	火・1	CII d	熊懐					205	223				
	火・1	CII e	片岡					205	223				
	火・1	CII f	筒井					205	223				
	火・1	CII g	高		205	223							

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
			前期	後期					
英 College English VI	2	1		木・4	LIIb	中村		205	223
				木・4	LIIc	荒木		205	223
				木・4	LII d	長嶺		205	223
				木・4	LII e	辻		205	223
				木・4	LII f	上里		205	223
				木・4	LII g	フィゴーニ		205	223
			火・4		全「再」	名和	CE VIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
			火・4		全「再」	熊懐	CE VIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
			水・5		全「再」	高森	CE VIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
			木・5		全「再」	井狩	CE VIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
				火・4	全「再」	古賀	CE VIの成績が「F (E)」 または「欠」であった者	217	233
ACE : TOEFL80	2	1	木・2		全	川端		206	224
				木・2	全	川端		206	224
ACE : TOEFL80+	2	1		木・3	全	川端		207	225
ACE : TOEIC650	2	1	月・2		全	高森		208	226
				木・1	全	川端		208	226
				月・2	全	高森		208	226
				木・1	全	川端		208	226
ACE : Comparative Culture	2	1	火・1		全	Mansfield		209	227
ACE : Critical Writing	2	1	水・4		全	豊田		210	228
				火・1	全	Mansfield		210	228
				木・4	全	Chen		210	228
ACE : Media English	2	1	月・4		全	野田		211	228
				月・4	全	高森		211	228
ACE : Literature	2	1	火・2		全	杉井		212	229
ACE : Presentation	2	1		水・2	全	Leigh		213	230
ACE : Discussion	2	1	木・4		全	Chen		214	230
ACE : Intensive Reading	2	1	火・3		全	野田		215	231
				火・2	全	井狩		215	231
ACE : Films	2	1		水・3	全	多賀		216	232
ド イ ツ 語	2	1	月・1		E I a	林田 陽子	「基礎1」と 「基礎2」は 進度を合わせ て授業がた 行われるため、 両方を履修す ること。	218	240
			月・1		E I b	竹内 一高		218	240
			月・1		J I a	神竹 道士		218	240
			月・1		J I b	長谷川 健一		218	240
			月・2		C I a	藤原 美沙		218	240
			月・2		C I b	林田 陽子		218	240
			月・2		L I a	神竹 道士		218	240
			月・2		L I b	國光 圭子		218	240
			月・3		S I a	國光 圭子		218	240
			月・3		S I b	林田 陽子		218	240

科 目		週 時間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
ド イ ツ 語	ド イ ツ 語 基 礎 1	2	1	月・3		S I c	三上 雅子	「基礎1」と「基礎2」は進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	218	240
				月・3		M I a	海老根 剛		218	240
				月・3		M I b	藤原 美沙		218	240
				月・3		H I	竹内 一高		218	240
				月・4		T I a	國光 圭子		218	240
				月・4		T I b	長谷川 健一		218	240
				月・4		T I c	藤原 美沙		218	240
				月・4		T I d	竹内 一高		218	240
				月・4		T I eNI	三上 雅子		218	240
	ド イ ツ 語 基 礎 2	2	1	水・1		C I a	廣瀬 ゆう子		219	242
				水・1		C I b	神野 ゆみこ		219	242
				水・1		L I a	田島 昭洋		219	242
				水・1		L I b	長谷川 健一		219	242
				水・2		E I a	中村 恵		219	242
				水・2		E I b	神野 ゆみこ		219	242
				水・2		J I a	田島 昭洋		219	242
				水・2		J I b	田中 秀穂		219	242
				水・3		T I a	田中 秀穂		219	242
				水・3		T I b	中村 恵		219	242
				水・3		T I c	田島 昭洋		219	242
				水・3		T I d	廣瀬 ゆう子		219	242
				水・3		T I eNI	千田 まや		219	242
				水・4		S I a	廣瀬 ゆう子		219	242
				水・4		S I b	田中 秀穂		219	242
				水・4		S I c	神野 ゆみこ		219	242
				水・4		M I a	中村 恵		219	242
				水・4		M I b	田島 昭洋		219	242
				ド イ ツ 語 基 礎 3	2	1			月・1	E I a
	月・1	E I b	竹内 一高				220	243		
	月・1	J I a	神竹 道士				220	243		
	月・1	J I b	長谷川 健一				220	243		
	月・2	C I a	高井 絹子				220	243		
	月・2	C I b	林田 陽子				220	243		
	月・2	L I a	神竹 道士				220	243		
	月・2	L I b	國光 圭子				220	243		
	月・3	S I a	國光 圭子				220	243		
	月・3	S I b	林田 葉子				220	243		
	月・3	S I c	三上 雅子				220	243		
	月・3	M I a	海老根 剛				220	243		

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
ド イ ツ 語	ド イ ツ 語 基 礎 3	2	1		月・3	M I b	藤原 美沙		220	243
					月・3	H I	竹内 一高		220	243
					月・4	T I a	國光 圭子		220	243
					月・4	T I b	長谷川 健一		220	243
					月・4	T I c	藤原 美沙		220	243
					月・4	T I d	竹内 一高		220	243
					月・4	T I e N I	三上 雅子		220	243
	ド イ ツ 語 基 礎 4	2	1		水・1	C I a	廣瀬 ゆう子		221	244
					水・1	C I b	神野 ゆみこ		221	244
					水・1	L I a	田島 昭洋		221	244
					水・1	L I b	長谷川 健一		221	244
					水・2	E I a	中村 恵		221	244
					水・2	E I b	神野 ゆみこ		221	244
					水・2	J I a	田島 昭洋		221	244
					水・2	J I b	田中 秀穂		221	244
					水・3	T I a	田中 秀穂		221	244
					水・3	T I b	中村 恵		221	244
					水・3	T I c	田島 昭洋		221	244
					水・3	T I d	廣瀬 ゆう子		221	244
					水・3	T I e N I	千田 まや		221	244
					水・4	S I a	廣瀬 ゆう子		221	244
					水・4	S I b	田中 秀穂		221	244
					水・4	S I c	神野 ゆみこ		221	244
					水・4	M I a	中村 恵		221	244
		水・4	M I b	田島 昭洋		221	244			
		水・4	H I	千田 まや		221	244			
	ド イ ツ 語 応 用 1 A	2	1	金・3		J I a	中村 恵		222	246
金・3					J I b	江川 英明		222	246	
金・4					L I a	大森 智子		222	246	
金・4					L I b	中村 恵		222	246	
ド イ ツ 語 応 用 2 A	2	1		金・3	J I a	中村 恵		223	247	
				金・3	J I b	江川 英明		223	247	
				金・4	L I a	大森 智子		223	247	
				金・4	L I b	中村 恵		223	247	
ド イ ツ 語 応 用 1 B	2	1	火・2		C II a	神野 ゆみこ		224	248	
			火・2		C II b	石黒 義昭		224	248	
ド イ ツ 語 応 用 2 B	2	1		火・2	C II a	神野 ゆみこ		225	248	
				火・2	C II b	石黒 義昭		225	248	
ド イ ツ 語 特 修 1 a	2	2	火・2		全II～IV	ジモン・エルトレ		226	249	
ド イ ツ 語 特 修 1 b	2	2	水・4		全II～IV	ジモン・エルトレ		227	250	

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
ド イ ッ 語	ドイツ語特修 2	2	2		水・3	全Ⅱ～Ⅳ	ジモン・エルトレ		228	251
	ドイツ語特修 3 a	2	2	火・3		全Ⅱ～Ⅳ	海老根 剛		229	251
	ドイツ語特修 3 b	2	2	木・3		全Ⅱ～Ⅳ	田島 昭洋		230	252
	ドイツ語特修 4	2	2		木・3	全Ⅱ～Ⅳ	田島 昭洋		231	253
	ドイツ語特修 5	2	2	金・3		全Ⅱ～Ⅳ	大森 智子		232	254
	ドイツ語特修 6	2	2		火・3	全Ⅱ～Ⅳ	海老根 剛		233	255
	ドイツ語特修 7	2	2	火・4		全Ⅱ～Ⅳ	神野 ゆみこ		234	255
	ドイツ語特修 8	2	2		金・3	全Ⅱ～Ⅳ	大森 智子		235	256
	ドイツ語特修 9	2	2	金・4		全Ⅱ～Ⅳ	江川 英明		236	257
ドイツ語特修 10	2	2		金・4	全Ⅱ～Ⅳ	江川 英明		237	258	
フ ラ ン ス 語	フランス語基礎 1	2	1	月・1		E I	久後 貴行	「基礎 1」と「基礎 2」は進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	238	259
				月・1		J I	藤本 智成		238	259
				月・2		C I	辻 昌子		238	259
				月・2		L I a	白田 由樹		238	259
				月・2		L I b	久後 貴行		238	259
				月・3		S I	原野 葉子		238	259
				月・3		M I	福島 祥行		238	259
				月・3		H I a	辻 昌子		238	259
				月・3		H I b	酒井 美貴		238	259
	月・4		TNI	酒井 美貴	238	259				
	フランス語基礎 2	2	1	水・1		C I	鈴木田 研二		239	260
				水・1		L I a	福島 祥行		239	260
				水・1		L I b	白田 由樹		239	260
				水・2		E I	秋吉 孝浩		239	260
				水・2		J I	鈴木田 研二		239	260
				水・3		TNI	藤田 あゆみ		239	260
				水・4		S I	原野 葉子		239	260
				水・4		M I	小林 裕史		239	260
				水・4		H I a	藤田 あゆみ		239	260
水・4		H I b	大山 大樹	239	260					
フランス語基礎 3	2	1		月・1	E I	久後 貴行		240	261	
				月・1	J I	藤本 智成		240	261	
				月・2	C I	久後 貴行		240	261	
				月・2	L I a	辻 昌子		240	261	
				月・2	L I b	福島 祥行		240	261	
				月・3	S I	酒井 美貴		240	261	
				月・3	M I	原野 葉子		240	261	
				月・3	H I a	白田 由樹		240	261	
				月・3	H I b	辻 昌子		240	261	
	月・4	TNI	酒井 美貴		240	261				

科 目		週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁
				前期	後期					
フ ラ ン ス 語	フランス語基礎 4	2	1		水・1	C I	鈴木田 研二		241	263
					水・1	L I a	福島 祥行		241	263
					水・1	L I b	白田 由樹		241	263
					水・2	E I	秋吉 孝浩		241	263
					水・2	J I	小田中 章浩		241	263
					水・3	TNI	小林 裕史		241	263
					水・4	S I	原野 葉子		241	263
					水・4	M I	小林 裕史		241	263
					水・4	H I a	大山 大樹		241	263
		水・4	H I b	藤田 あゆみ		241	263			
	フランス語応用 1 A	2	1	金・3		J I	藤澤 秀平		242	264
				金・4		L I a	大山 大樹		242	264
				金・4		L I b	藤本 智成		242	264
	フランス語応用 2 A	2	1		金・3	J I	藤澤 秀平		243	265
					金・4	L I a	藤本 智成		243	265
					金・4	L I b	大山 大樹		243	265
	フランス語応用 1 B	2	1	火・2		C II	秋吉 孝浩		244	266
	フランス語応用 2 B	2	1		火・2	C II	岩本 篤子		245	266
	フランス語特修 1	2	2	火・3		全II～IV	岩本 篤子		246	267
	フランス語特修 2	2	2		火・3	全II～IV	岩本 篤子		247	268
フランス語特修 3	2	2	火・4		全II～IV	藤田 あゆみ		248	269	
フランス語特修 4	2	2		火・4	全II～IV	小田中 章浩		249	269	
フランス語特修 5	2	2	木・3		全II～IV	ロラン・バレイユ		250	270	
フランス語特修 6	2	2		木・3	全II～IV	ロラン・バレイユ		251	271	
フランス語特修 7	2	2	金・3		全II～IV	ロラン・バレイユ		252	272	
フランス語特修 8	2	2		金・3	全II～IV	藤本 智成		253	273	
フランス語特修 9	2	2	金・4		全II～IV	久後 貴行		254	273	
フランス語特修 10	2	2		金・4	全II～IV	藤澤 秀平		255	274	
中 国 語	中国語基礎 1	2	1	月・1		E I a	秋岡 英行	「基礎 1」とは「基礎 2」とは進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	256	276
				月・1		E I b	福田 知可志		256	276
				月・1		E I c	韓 艶玲		256	276
				月・1		E I d	田渕 欣也		256	276
				月・1		J I a	大岩本 幸次		256	276
				月・1		J I b	田 婧		256	276
				月・2		C I a	田 婧		256	276
				月・2		C I b	秋岡 英行		256	276
				月・2		C I c	福田 知可志		256	276
				月・2		L I a	岩本 真理		256	276
				月・2		L I b	韓 艶玲		256	276

科 目		週 時間 数	単 位 数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲 載 No.	頁
				前 期	後 期					
中 国 語	中 国 語 基 礎 1	2	1	月・3		MH I	長谷川 慎	「基礎1」と「基礎2」は進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	256	276
				月・4		T I a	王 標		256	276
				月・4		T I b	長谷川 慎		256	276
				月・4		T I cNI	田淵 欣也		256	276
	中 国 語 基 礎 2	2	1	水・1		C I a	趙 冬輝		257	277
				水・1		C I b	王 標		257	277
				水・1		C I c	大野 陽介		257	277
				水・1		L I a	史 彤春		257	277
				水・1		L I b	松浦 恆雄		257	277
				水・2		E I a	王 標		257	277
				水・2		E I b	史 彤春		257	277
				水・2		E I c	大野 陽介		257	277
				水・2		E I d	田 婧		257	277
				水・2		J I a	井出 克子		257	277
				水・2		J I b	趙 冬輝		257	277
				水・3		T I a	趙 冬輝		257	277
				水・3		T I b	井出 克子	257	277	
				水・3		T I cNI	田 婧	257	277	
	水・4		MH I	趙 冬輝	257	277				
	中 国 語 基 礎 3	2	1		月・1	E I a	秋岡 英行	258	278	
					月・1	E I b	福田 知可志	258	278	
					月・1	E I c	韓 艶玲	258	278	
					月・1	E I d	田淵 欣也	258	278	
					月・1	J I a	大岩本 幸次	258	278	
					月・1	J I b	田 婧	258	278	
					月・2	C I a	田 婧	258	278	
					月・2	C I b	秋岡 英行	258	278	
					月・2	C I c	福田 知可志	258	278	
					月・2	L I a	岩本 真理	258	278	
					月・2	L I b	韓 艶玲	258	278	
					月・3	MH I	長谷川 慎	258	278	
					月・4	T I a	王 標	258	278	
				月・4	T I b	長谷川 慎	258	278		
	月・4	T I cNI	田淵 欣也	258	278					
中 国 語 基 礎 4	2	1		水・1	C I a	趙 冬輝	259	279		
				水・1	C I b	王 標	259	279		
				水・1	C I c	大野 陽介	259	279		
				水・1	L I a	史 彤春	259	279		
				水・1	L I b	松浦 恆雄	259	279		

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
中 国 語 基 礎 4	2	1		水・2	E I a	王 標		259	279	
				水・2	E I b	史 彤春		259	279	
				水・2	E I c	大野 陽介		259	279	
				水・2	E I d	田 婧		259	279	
				水・2	J I a	井出 克子		259	279	
				水・2	J I b	松浦 恆雄		259	279	
				水・3	T I a	趙 冬輝		259	279	
				水・3	T I b	井出 克子		259	279	
				水・3	T I cNI	田 婧		259	279	
				水・4	MH I	趙 冬輝		259	279	
中 国 語 応 用 1 A	2	1	金・3		J I a	王 標		260	280	
			金・3		J I b	馮 艶		260	280	
			金・4		L I a	范 紫江		260	280	
			金・4		L I b	馮 艶		260	280	
中 国 語 応 用 2 A	2	1		金・3	J I a	王 標		261	281	
				金・3	J I b	馮 艶		261	281	
				金・4	L I a	范 紫江		261	281	
				金・4	L I b	馮 艶		261	281	
中 国 語 応 用 1 B	2	1	火・2		C II a	田淵 欣也		262	282	
			火・2		C II b	張 新民		262	282	
			火・2		C II c	大岩本 幸次		262	282	
中 国 語 応 用 2 B	2	1		火・2	C II a	田淵 欣也		263	283	
				火・2	C II b	張 新民		263	283	
				火・2	C II c	大岩本 幸次		263	283	
中 国 語 特 修 1	2	2	月・3		全II～IV	韓 艶玲		264	283	
中 国 語 特 修 2	2	2		月・3	全II～IV	韓 艶玲		265	284	
中 国 語 特 修 3	2	2	火・3		全II～IV	岩本 真理		266	285	
中 国 語 特 修 4	2	2		火・3	全II～IV	岩本 真理		267	286	
中 国 語 特 修 5	2	2	水・3		全II～IV	大野 陽介		268	287	
中 国 語 特 修 6	2	2		水・3	全II～IV	大野 陽介		269	287	
中 国 語 特 修 7	2	2	木・3		全II～IV	張 新民		270	288	
中 国 語 特 修 8	2	2		木・3	全II～IV	張 新民		271	289	
中 国 語 特 修 9	2	2	金・3		全II～IV	范 紫江		272	290	
中 国 語 特 修 10	2	2		金・3	全II～IV	范 紫江		273	290	
ロ シ ア 語	ロ シ ア 語 基 礎 1	2	1	月・2		TH I	江村 公	「基礎1」と「基礎2」は進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	274	292
				月・3		CEJLSMNI	バクン・エレーナ		274	292
	ロ シ ア 語 基 礎 2	2	1	水・1		TH I	ズマグロワ・アイヌーラ		275	293
				水・4		CEJLSMNI	江村 公		275	293
	ロ シ ア 語 基 礎 3	2	1		月・2	TH I	江村 公		276	294
				月・3	CEJLSMNI	バクン・エレーナ	276	294		

科 目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配 当 クラス	担 当 教 員	備 考	掲載 No.	頁	
			前期	後期						
ロシア語	ロシア語基礎4	2	1		水・1	THI	ズマグロワ・アイヌーラ	277	294	
					水・4	CEJLSMNI	江村 公	277	294	
	ロシア語応用1A	2	1	金・4		全I	ズマグロワ・アイヌーラ	278	295	
	ロシア語応用2A	2	1		金・4	全I	ズマグロワ・アイヌーラ	279	296	
	ロシア語応用1B	2	1	月・4		全II	バクン・エレーナ	280	297	
	ロシア語応用2B	2	1		月・4	全II	バクン・エレーナ	281	297	
	ロシア語特修1	2	2	水・3		全II～IV	江村 公	282	298	
	ロシア語特修2	2	2		水・3	全II～IV	江村 公	283	299	
	ロシア語特修3	2	2	金・3		全II～IV	ズマグロワ・アイヌーラ	284	299	
ロシア語特修4	2	2		金・3	全II～IV	ズマグロワ・アイヌーラ	285	300		
朝鮮語	朝鮮語基礎1	2	1	月・2		CTI	金 月徳	「基礎1」と「基礎2」は進度を合わせて授業が行われるため、両方を履修すること。	286	302
				月・3		EMHNI	金 月徳		286	302
				月・4		JLI	金 月徳		286	302
	朝鮮語基礎2	2	1	水・3		CTI	北島 由紀子		287	303
				水・4		EMHNI	北島 由紀子		287	303
				水・4		JLI	金 宝英		287	303
	朝鮮語基礎3	2	1		月・2	CTI	野崎 充彦	288	303	
					月・3	EMHNI	野崎 充彦	288	303	
					月・4	JLI	野崎 充彦	288	303	
	朝鮮語基礎4	2	1		水・3	CTI	北島 由紀子	289	304	
					水・4	EMHNI	北島 由紀子	289	304	
					水・4	JLI	金 宝英	289	304	
	朝鮮語応用1A	2	1	木・3		全I	金 静愛	290	305	
	朝鮮語応用2A	2	1		木・3	全I	金 静愛	291	306	
	朝鮮語応用1B	2	1	木・4		全II	金 静愛	292	306	
	朝鮮語応用2B	2	1		木・4	全II	金 静愛	293	307	
	朝鮮語特修1	2	2		集中	全II～IV	野崎 充彦	294	308	
	朝鮮語特修2	2	2	水・3		全II～IV	金 宝英	295	308	
朝鮮語特修3	2	2		火・3	全II～IV	野崎 充彦	296	309		
朝鮮語特修4	2	2		水・3	全II～IV	金 宝英	297	310		
日本語	日本語1A	2	1	月・3		全	堀 まどか	298	311	
	日本語1B	2	1		月・3	全	堀 まどか	299	312	
	日本語2A	2	1	火・3		全	坂本 美加	300	313	
	日本語2B	2	1		火・3	全	坂本 美加	301	313	
	日本語3A	2	1	月・2		全	堀 まどか	302	314	
	日本語3B	2	1		月・2	全	堀 まどか	303	315	
	日本語4A	2	1	火・4		全	坂本 美加	304	316	
	日本語4B	2	1		火・4	全	坂本 美加	305	317	
	日本語5A	2	1	金・2		全	高坂 史朗	306	317	
日本語5B	2	1		金・2	全	高坂 史朗	307	318		

授業形態	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
実習	ソフトボール 2	2	1	火・4		全	加藤 由香		322	333
	ラグビー 1	2	1	火・3		CLI(全文)	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1	火・4		全	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1	木・3		全	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1		火・3	CLI(全文)	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1		火・4	全	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1		木・3	全	鈴木 雄太		323	334
	ラグビー 1	2	1		木・4	全	鈴木 雄太		323	334
	ダンス 1	2	1		木・1	EJI(全文)	加藤 真由子		324	334
	ダンス 1	2	1		木・2	STI(全理)	加藤 真由子		324	334
	テニス 1	2	1	木・1		EJI(全文)	松原 慶子		325	335
	テニス 1	2	1	木・2		STI(全理)	松原 慶子		325	335
	テニス 1	2	1	木・3		全	松原 慶子		325	335
	テニス 1	2	1	木・4		全	松原 慶子		325	335
	テニス 2	2	1		木・1	EJI(全文)	松原 慶子		326	336
	テニス 2	2	1		木・2	STI(全理)	松原 慶子		326	336
	テニス 2	2	1		木・3	全	松原 慶子		326	336
	テニス 2	2	1		木・4	全	松原 慶子		326	336
	バスケットボール 1	2	1	火・3		CLI(全文)	荻田 亮		327	336
	バスケットボール 1	2	1	火・4		全	荻田 亮		327	336
	バスケットボール 1	2	1		火・3	CLI(全文)	荻田 亮		327	336
	バスケットボール 1	2	1		火・4	全	荻田 亮		327	336
	バスケットボール 2	2	1		木・2	STI(全理)	荻田 亮		328	337
	バレーボール 1	2	1	火・3		CLI(全文)	中嶋 紀子		329	337
	バレーボール 1	2	1	火・4		全	中嶋 紀子		329	337
	バレーボール 1	2	1		火・3	CLI(全文)	中嶋 紀子		329	337
	バレーボール 2	2	1		火・4	全	中嶋 紀子		330	338
	バドミントン 1	2	1	木・3		全	正岡 毅		331	339
	バドミントン 1	2	1	木・4		全	正岡 毅		331	339
	バドミントン 1	2	1		木・3	全	正岡 毅		331	339
	バドミントン 1	2	1		木・4	全	正岡 毅		331	339
	フットサル 1	2	1	木・1		EJI(全文)	今井 大喜		332	339
	フットサル 1	2	1	木・2		STI(全理)	今井 大喜		332	339
	武道 1	2	1	火・4		全	前田 隆司		333	340
	武道 1	2	1		火・4	全	前田 隆司		333	340
	体力トレーニング科学実験実習 1	2	1	木・1		EJI(全文)	岡崎 和伸		334	341
	健康運動科学実験実習 1	2	1	火・3		CLI(全文)	横山 久代		335	342
	健康運動科学実験実習 1	2	1	木・2		STI(全理)	横山 久代		335	342
	健康運動科学実験実習 1	2	1		火・3	CLI(全文)	横山 久代		335	342
	健康運動科学実験実習 1	2	1		木・2	STI(全理)	横山 久代		335	342

授業形態	科目	週時間数	単位数	開講期・曜日・時限		配当クラス	担当教員	備考	掲載No.	頁
				前期	後期					
実習	健康運動科学実験実習1	2	1		木・1	EJI(全文)	渡辺 一志		336	342
	健康管理1 ※	2	1	火・4		全	横山 久代		337	343
	健康管理1 ※	2	1		火・4	全	横山 久代		337	343

※健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者を対象とする。

参考(1)

平成 29 年度 新設科目等について

下記のとおり、平成 29 年度から科目を新設、廃止および科目名変更を行います。

新設・廃止・ 変更	教 科	科目群	主 題	科目名
変更	総合教育科目 A		特別枠	大阪学－グローバル視野から見る 大阪－(学長特命科目) (旧)
				大阪の知－グローバル視野と最先端か ら見る大阪－(学長特命科目) (新)
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	人間と知識・思想	論理学の展開
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	現代社会と人間	基礎会計学
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	現代社会と人間	現代の経営 (演習)
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	現代社会と人間	日本の企業 (演習)
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	社会と人権	障がい者と人権
廃止	総合教育科目 B	人間と社会	社会と人権	ジェンダーと現代社会
廃止	総合教育科目 B	歴史と文化	文学と芸術	美の本質
廃止	総合教育科目 B	自然と人間	自然科学と人間	日本の科学技術
廃止	基礎教育科目(実験)		地球学	建設地学実習※
廃止	外国語科目		新修外国語	ドイツ語基礎 1・2
廃止	外国語科目		新修外国語	フランス語基礎 1・2
廃止	外国語科目		新修外国語	中国語基礎 1・2
廃止	外国語科目		新修外国語	ロシア語基礎 1・2
廃止	外国語科目		新修外国語	朝鮮語基礎 1・2
新設	外国語科目		新修外国語	ドイツ語基礎 1
新設	外国語科目		新修外国語	ドイツ語基礎 2
新設	外国語科目		新修外国語	フランス語基礎 1
新設	外国語科目		新修外国語	フランス語基礎 2
新設	外国語科目		新修外国語	中国語基礎 1
新設	外国語科目		新修外国語	中国語基礎 2
新設	外国語科目		新修外国語	ロシア語基礎 1
新設	外国語科目		新修外国語	ロシア語基礎 2
新設	外国語科目		新修外国語	朝鮮語基礎 1
新設	外国語科目		新修外国語	朝鮮語基礎 2

※「建設地学実習」・・・平成 27 年 9 月 廃止承認 (平成 28 年度は開講し、平成 29 年度より廃止)

参考(2)

平成13年度から29年度までの総合教育科目の開講実績一覧

[科目名は、29年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む] (○：開講、 —：未開設を示す)

○総合教育科目 A

主 題	授 業 科 目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度			
		1部	2部																																		
人間と環境	環境と歴史		○	○			○	○					○			○																	○				
	日本の公害	○			○			○							○	○																	○				
	技術と環境	○		○					○	○					○	○																	○	○			
	環境と健康					○				○	○					○																			○		
	開発と環境				○				○	○						○																			○		
	環境と法・行政									○	○				○										○	○									○		
	環境と経済																																		○		
	人間と居住環境																																		○		
都市・大阪	歴史のなかの大阪	○	○			○			○	○					○	○																		○	○		
	大阪の自然	○	○	○		○	○		○	○					○	○																		○	○		
	都市生活と人間福祉																																		○	○	
	大阪の都市づくり			○		○			○						○	○																			○		
	都市の経済とビジネス			○		○			○						○	○																			○	○	
	大阪の地理			○		○			○						○	○																			○	○	
	現代都市論			○		○			○						○	○																			○	○	
	大阪の空間文化論			○		○			○						○	○																					
	国際地域経済と都市									○	○				○	○																				○	○
	大阪落語への招待														○	○																				○	○
	都市・地域政策																																			○	○
	市大都市研究の最前線																																			○	○
	コミュニティと防災																																			○	
	コミュニティ防災																																			○	○
生命と人間	生と死の倫理	○		○				○	○					○	○																				○	○	
	戦争と人間	○			○	○		○	○					○	○																				○	○	
	生命と進化	○		○		○		○	○					○	○																				○	○	
	現代の医療	○	○	○		○		○	○					○	○																					○	○
	人体を考える			○	○			○							○																					○	
	生体のしくみ	○					○	○								○																				○	
	生命と法	○		○				○							○	○																				○	
	健康へのアプローチ			○		○			○						○	○																				○	
	技術と生命	○		○		○			○						○	○																				○	
	光と生命																																			○	
特別枠	大阪市大でどう学ぶか					○		○		○				○	○																				○	○	
	大阪の知(学長特命科目)																																		○	○	

○総合教育科目 B

科目群：人間と社会

主題	授業科目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
		1部	2部																																
人間と知識・思想	哲学入門	○		○				○		○						○				○													○		
	論理学入門	○			○			○	○					○				○			○	○		○				○				○			
	心理学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	西洋の思想							○				○		○	○																				
	東洋の思想	○	○				○																												
	論理学の展開																																		
	認知のしくみ				○	○					○						○									○				○				○	
	文化と社会の心理	○				○						○						○				○				○								○	
	性格心理学入門			○				○						○													○					○			
	人間と宗教	○	○				○			○	○			○		○	○				○				○			○						○	
	倫理学入門	○	○				○			○	○			○		○					○				○			○							
	行動と学習の心理	○						○						○								○						○							
	感覚と知覚の心理	○						○																											
	対人行動の影響と意味								○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	ゲームで学ぶ社会行動								○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	日常の中の不思議を探す(演習)								○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	教育と発達心理学									○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	教育と発達の心理学(演習)									○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
リテラシー教育の思想と方法																						○		○		○		○		○		○			
心理学・認知科学と人間																																			
現代社会と人間	現代文化の社会学			○							○	○				○	○			○	○		○	○		○		○		○		○			
	社会科学のフロンティア	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			
	日本国憲法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	都市的世界の社会学	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			
	日本と世界の教育	○	○	○						○			○			○			○			○			○			○							
	宗教と社会	○			○			○						○			○				○			○			○								
	現代社会学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	現代の社会問題	○	○							○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			
	世界のなかの日本経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	現代経済学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	法と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	政治と人間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	現代の経営	○		○	○	○			○	○					○	○					○	○			○			○							
	日本の企業	○	○	○			○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○			
	ライフサイクルと教育	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			
現代社会と健康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
家族と社会	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○				
メディアの社会学				○		○			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○				

主 題	授 業 科 目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		1部	2部	1部	2部														
現 代 社 会 と 人 間	現代社会におけるキャリアデザイン					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代社会と大学					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	基礎会計学					○		○		○		○		○					
	現代文化の社会学 (演習)	○		○				○	○										
	現代の経営 (演習)	○	○	○					○		○								
	日本の企業 (演習)				○		○	○		○									
	国際理解と教育 (演習)	○			○				○					○					
	現代の社会問題 (演習)	○	○	○															
	現代社会と大学 (演習)					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データから見る大阪市大 (演習)																○	○	○
地域実践演習															○	○	○	○	
社 会 と 人 権	現代の部落問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	メディアと人権													○	○	○	○	○	
	部落解放のフロンティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部落差別の成立と展開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	世界のマイノリティ													○	○	○	○	○	
	障がい者と人権Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障がい者と人権Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障がい者と人権														○				
	ジェンダーと現代社会Ⅰ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ジェンダーと現代社会Ⅱ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ジェンダーと現代社会											○	○	○	○	○			
	エスニック・スタディ入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ応用		○	○		○	○		○	○		○		○		○		○	
	企業と人権													○	○	○	○	○	
地球市民と人権													○	○	○	○	○		
平和と人権															○	○	○		
平 和 学															○	○	○		
エスニック・スタディ (演習)	○		○		○		○		○		○		○		○		○		
人権と多様性の研究 (演習)					○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		

科目群：歴史と文化

主題	授 業 科 目	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		1部	2部	1部														
歴史	日本史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本社会の歴史	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○	
	東洋社会の歴史	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	西洋社会の歴史	○	○		○		○	○		○	○		○	○		○	○	
	現代の歴史			○		○		○		○	○		○	○		○	○	
	考古学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ことばの歴史	○	○		○	○		○		○			○	○		○	○	
	歴史学の世界(演習)	○	○		○	○		○		○			○	○		○		
地域と文化	現代の地理学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市の地理学	○	○		○		○		○		○		○		○		○	
	文化人類学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文化とコミュニケーション	○			○			○		○			○			○		
	言語学入門	○	○			○		○			○			○			○	
	ことばと文化	○	○		○		○		○		○			○				
	環境と文化	○	○		○		○		○		○		○		○		○	
	アジアの文化						○		○		○		○		○		○	
	西洋の文化	○		○			○		○				○			○		
	民族と社会				○		○		○				○			○		○
	観光研究入門															○		○
	観光と文化															○		○
	アーツマネジメント																○	
	アジアの地域と文化(演習)							○		○		○		○		○		○
日本事情ⅠA	○	○		○		○		○		○		○		○		○		
日本事情ⅠB	○	○		○		○		○		○		○		○		○		
日本事情ⅡA	○	○		○		○		○		○		○		○		○		
日本事情ⅡB	○	○		○		○		○		○		○		○		○		
文学	日本の古典文学Ⅰ						○		○		○		○		○		○	
	日本の古典文学Ⅱ																	○
	東洋の文学			○					○		○		○		○		○	
	西洋の文学	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本の詩歌	○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	日本の近代文学													○	○		○	○
	視覚文化の世界										○		○				○	○
	芸術の世界	○	○		○		○		○		○		○		○		○	
	美の本質	○	○		○													
	東洋美術の流れ	○	○	○		○		○		○			○		○		○	

主題	授業科目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
		1部	2部																																
	西洋美術の流れ	○				○	○			○				○				○				○				○				○				○	
	音楽の諸相					○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	文学と芸術へのいざない(演習)	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

科目群：自然と人間

主題	授業科目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
		1部	2部																																	
現代の自然科学	数学の考え方1												○	○			○				○	○			○	○			○				○			
	数学の考え方2									○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○				○		
	ニュートンからアインシュタインへ	○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○		○	○		○		○	○		
	ミクロとマクロの世界	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		○	○		
	化学の世界	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		○	○		
	現代の分子科学			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○		○		○	○		
	新しい動物行動学																								○			○			○		○			
	生物学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	地球の科学	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○		○	○		
	実験で知る自然の世界	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	体験で知る科学と技術																																		○	○
	地球学入門								○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	現代の理学A																																			
自然科学と人間	科学と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	現代科学と人間	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	近代科学の成立			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○							
	日本の科学技術	○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○			○	○					
	心と脳			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	ドキュメンタリー・環境と生命			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		
	実験で知る自然環境と人間																																			
	森林環境と人間社会																																			
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題																																			
植物の機能と人間社会																																				
植物と人間(演習)	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

4. 地域志向系科目

平成27年度以降の入学生のみ、「地域志向系科目」として指定されている科目から、2単位以上を修得することが必要になります。(詳しくは所属学部の履修案内を参照)

地域志向系科目：

医学部生（医学科および看護学科）：医学部の履修案内を参照。

医学部生以外：下記の科目の中から選択。

H29年度「地域志向系科目」

科目	科目群	主題	科目名	開講期
総合教育 A		①人間と環境	環境と経済	後・木 4
総合教育 A		②都市・大阪	歴史のなかの大阪	後・水 5
総合教育 A		②都市・大阪	都市生活と人間福祉	前・金 5
総合教育 A		②都市・大阪	大阪の自然	後・金 5
総合教育 A		②都市・大阪	大阪の地理	前・水 5
総合教育 A		②都市・大阪	現代都市論	後・木 5
総合教育 A		②都市・大阪	都市の経済とビジネス	前・木 4
総合教育 A		②都市・大阪	国際地域経済と都市	後・水 4
総合教育 A		②都市・大阪	大阪落語への招待	前・水 5
総合教育 A		②都市・大阪	都市・地域政策	後・金 5
総合教育 A		②都市・大阪	市大都市研究の最前線	後・金 5
総合教育 A		②都市・大阪	コミュニティ防災	前・水 5
総合教育 A		特別枠	大阪の知（学長特命科目）	後・水 5
総合教育 B		人間と社会	⑥現代社会と人間	都市的世界の社会学
総合教育 B	⑥現代社会と人間		データから見る大阪市大（演習）	後・木 4
総合教育 B	⑦社会と人権		現代の部落問題	前・金 2
総合教育 B	⑦社会と人権		部落解放のフロンティア	後・金 1
総合教育 B	⑦社会と人権		部落差別の成立と展開	前・金 1
総合教育 B	⑦社会と人権		エスニック・スタディ入門編	前・金 2
総合教育 B	歴史と文化	⑧歴史	日本社会の歴史	後・月 2
総合教育 B	地域と文化	⑨地域と文化	現代の地理学	後・木 2
総合教育 B		⑨地域と文化	都市の地理学	後・月 3
総合教育 B		⑨地域と文化	環境と文化（平成 29 年度以降履修用）	前・木 4
総合教育 B		⑨地域と文化	観光研究入門	前・水 3
総合教育 B		⑨地域と文化	観光と文化	後・水 3
総合教育 B		⑨地域と文化	アーツマネジメント	前・木 2
総合教育 B	自然と人間	⑫自然科学と人間	植物と人間（演習）	前・集中
総合教育 B	情報と人間	⑬情報と人間	ジオ・リテラシー入門	前・集中
総合教育 A	H29 年度開講せず	①人間と環境	人間と居住環境	休講
総合教育 A	H29 年度開講せず	②都市・大阪	大阪の空間文化論	休講
総合教育 A	H29 年度開講せず	②都市・大阪	大阪の都市づくり	休講
総合教育 B	H29 年度開講せず	⑥現代社会と人間	現代の社会問題	休講
総合教育 B	H29 年度開講せず	⑬情報と人間	地図と地理情報	休講

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

人間と環境

[科目ナンバー : GE GEN 01 03]

掲載番号	科目名	技術と環境	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	山崎 友裕 (工) 他
1	英語表記	Technology and Environment						

●科目の主題

技術の発展は、我々の生活を便利で快適で安全なものにしてきた。その反面、工場からの廃棄物による環境の悪化や化石燃料の使用による温暖化が問題とされている。環境への負荷を抑えつつ生活の快適さを維持するための様々な産業でのエネルギー・機械や機械材料、新エネルギーの開発、環境の浄化に関する技術について概説する。今日の機械工学が環境問題に果たす役割について理解を深める。

●授業の到達目標

技術の発展と環境の保全という一見相反する課題に対して、工学がどのように対処してきたのか、また今後どのように対処しようとしているのかについて理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 序論とガイダンス－機械工学について：山崎友裕
- 第2回 発電原理と充電－風力や水力で得られる回転運動を電気変換して充電電池にため込む方法：高田洋吾
- 第3回 燃料電池－固体高分子形燃料電池の基本構造とその発電システムの概要：高田洋吾
- 第4回 食品加工と環境1－熱エネルギーの利用と食品産業：伊與田浩志
- 第5回 食品加工と環境2－水蒸気の性質と利用技術：伊與田浩志
- 第6回 エネルギーと地球環境1－人間の活動とエネルギー消費の現状・地球環境問題：西村伸也
- 第7回 エネルギーと地球環境2－低炭素化社会に向けた先進エネルギーシステム：西村伸也

第8回 機械や構造物の効率や安全性維持のための考え方・手法－機械等の機能や効率、安全性の低下を適切なメンテナンスによって防ぐ手法：川合忠雄

第9回 波力発電の現状と未来－世界各国で研究・開発が進められている波力発電システム：脇本辰郎

第10回 金属材料と環境－金属の発展と文明：兼子佳久

第11回 バイオマス・マテリアルと生分解性材料－土に戻る材料：逢坂勝彦

第12回 微生物を用いた資源の回収と創成－低濃度分散金属資源の活用：川上洋司

第13回 水環境と材料1－自然の浄化作用と上水・排水処理の歴史、安全な水・水環境と材料：横川善之

第14回 水環境と材料2－高度上水処理・排水処理と材料、ウォータービジネス：横川善之

第15回 レポート・まとめ

●事前・事後学習の内容

各回の講義内容について配布資料や図書館を利用して復習を行う。

●評価方法

テーマごとのレポートまたは試験の総合点で評価する。

●受講生へのコメント

「環境」は人類にとって重要なキーワードであることは論を待たない。機械工学の技術がどのように環境問題に貢献しうるか、理解と考えを深めてほしい。

●教材

各テーマにおいて適宜配布する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 04]

掲載番号	科目名	環境と健康	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	福島 若葉 (医) 他
2	英語表記	Environmental Health						

●科目の主題

ヒトは物理的、化学的、生物的、社会的な常に変化する環境の中で生きている。ヒトと環境の相互作用を様々な角度から理解し、世界保健機関 (World Health Organization, WHO) 憲章に示された積極的な意味で

の健康の保持増進の立場から環境を考える。

●授業の到達目標

以下の項目について理解する。

- ・環境と健康にかかる歴史的な事例
- ・種々の環境で実施される健康保持増進の手法

- ・環境の変化に伴う疾病構造の変化、多様化する病原体や生体反応との関連

●授業内容・授業計画

- ・「環境と健康問題_日本の公害問題の歴史から」は、佐藤恭子が担当する。日本の公害問題の歴史を通して、環境と健康問題について概説する。
- ・「労働環境と健康問題」は、上原新一郎が担当する。労働環境における疾病、および、疾病予防対策に関して概説する。
- ・「生活環境の変化とNon Communicable Diseases」は、林朝茂が担当する。生活習慣の西洋化に伴うNon Communicable Diseasesの問題を米国在住の日系人の糖尿病の問題を例として概説する。
- ・「公衆衛生と疫学の歴史」は、伊藤一弥が担当する。J.スノウや高木兼寛など疫学史上の研究を例にとり、人々が日常生活において出会う健康事象に対して、疫学がどのような視点を提供し得るかを概説する。
- ・「インフルエンザ対策とワクチン接種」は大藤さとかが担当する。毎年繰り返すインフルエンザのインパクト、その予防としてのワクチン接種の位置づけについて概説する。
- ・「肝がんと肝炎ウイルス」は、福島若葉が担当する。肝がんの疫学、主要な肝炎ウイルスと感染後の自然経過、肝炎ウイルス検査の意義について概説する。
- ・「熱帯地域の環境とマラリア（１）（２）」は、金子明が担当する。マラリアは熱帯地域を中心に流行する原虫症であり、今なお地球上の人口の40%が流行地に住む。熱帯アフリカの5歳以下小児を中心に、毎年50万人前後が死亡している。国際社会のマラリア根絶へ向けた取り組みをGlobal Healthの観点から概説するとともに、当教室がオセアニア・ヴァヌアツおよびケニア・ビクトリア湖島嶼で実施している島嶼マラリア撲滅研究を紹介する。
- ・「環境とウイルス感染症（１）（２）」は、綾田稔

および金子幸弘が担当する。ウイルスとは何か、ウイルスによって引き起こされる代表的な感染症を紹介する。また、環境の変化に伴って変遷し多様化するウイルス感染症、今後新たに起こりうる脅威についても概説する。

- ・「細菌感染症の脅威（１）（２）」は、仁木満美子が担当する。真正細菌は、真核生物と比較するときわめて単純な構造しか持たない微小生命体にも関わらず、多様な代謝系と旺盛な増殖力を持ち、極限環境を含む地球上のあらゆる環境に生息している。そのなかでも生体に侵入し増殖する能力を獲得した細菌が感染症を引き起こし、ペニシリンをはじめとする抗菌薬の発見以降も人類の生命を脅かし続けている。また、人に限定せず感染性を有するものも多く存在し、新興感染症は人類の未到達であった環境の微生物を人間社会に持ち込んだケースが多い。このように環境と感染症は密接に関わっており、本講義では細菌感染症と環境のリンクを解説し考察する。
- ・「免疫と環境（１）、（２）、（３）」は、中嶋弘一が担当する。免疫の基本的なしくみの概略を話した後、病原微生物と免疫系との関わり、アレルギーの成り立ちについて概説する。

●事前・事後学習の内容

特に指定しないが、理解を深めるために、各自で自学自習することが望ましい。

なお、講義担当者より別途指示が出されることがある。

●評価方法

出席、講義内で実施する小テスト、講義後のレポート提出等により評価する。

講義担当者による個別の評価を総合して判定する。

●受講生へのコメント

ヒトと環境の相互作用を様々な角度から捉え、健康をより深く考える機会としてほしい。

●教材

特に指定なし

[科目ナンバー : GE GEN 01 07]

掲載番号	科目名	環境と法・行政	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	野田 昌吾（法）他
3	英語表記	Environment, Law, and Public Administration						

●科目の主題

日本では戦前の足尾銅山被害の告発などに始まり、1960年代の公害被害に対する告発、損害賠償訴訟の提起が「環境問題」の顕在化の一つの形であった。しかし今や「環境問題」とは、そうした既に生じてしまった環境破壊・人的被害への事後的な法的、行政的な対

応にとどまらず、地域や国をも超えた地球規模の長期的かつ予防的な環境保全対策を対象とせざるを得ない事態に進んできている。また、環境は人間にとっての問題にとどまらず、他の生物の生存への配慮も求められるようになってきていることも、今日的な特徴である。日本では2011年の福島原発事故という未曾有の環

人間と環境

境破壊も起こっている。この講義は、そうした多様性の度合いを増しつつある環境問題を、日本の環境政策・行政の現状と課題、環境問題の政治の特徴、さらには他国の取り組みを含めた国際的な動向にも焦点を当てて、多面的に検討することを目的とする。

●授業の到達目標

どのような現象が環境問題として認識されているのか、そして、そのような環境問題に対して、自治体レベル、国家レベル、国際レベルにおいて、どのような法的・行政的対応がなされているのかを理解するとともに、これからの時代において求められる環境保護の取り組みはどうあるべきか、またそうした取り組みを進めるうえでどのような政治的問題があるのかを考えるために必要な、基本的な知識を獲得することが、この授業の到達目標である。

●授業内容・授業計画

授業は、本学法学研究科の政治・行政学の教員と、国際環境法の専門家である非常勤講師とで、オムニバス形式で行われる。各回の授業のテーマは、以下の通りである。

- ・第1回「はじめに—講義の概要—」
- ・第2回「環境をめぐる行政組織の動態」
- ・第3回「環境政策の立案過程」
- ・第4回「NIMBY問題を考える（1）」
- ・第5回「NIMBY問題を考える（2）」
- ・第6回「東南アジアの環境問題（1） アブラヤシをめぐる政治経済」
- ・第7回「東南アジアの環境問題（2） 環境問題をめぐる国際協力」
- ・第8回「環境保護と国際法—歴史的発展経緯—」

- ・第9回「国際的な環境紛争とその解決」
- ・第10回「多数国間環境条約（1）—国際環境法の制定—」
- ・第11回「多数国間環境条約（2）—国際環境法の実施—」
- ・第12回「地球温暖化問題に対する法的対応—京都議定書からパリ協定へ—」
- ・第13回「生物多様性問題に対する法的対応—名古屋議定書を中心に—」
- ・第14回「脱原発の政治学」
- ・第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

授業後にノートの整理を行うこと、授業時に指示した文献を適宜読むなどし、授業内容の理解と発展的理解を得ること。

●評価方法

学期末試験による。

●受講生へのコメント

「環境」をめぐる問題は、一つの国の中で収まる問題ではなく、国際的な「南北格差」問題とも関係している。あるいは、日本では福島原発事故への対応と、電力の原発依存とCO₂排出規制との関係はどう考えるかという問題とも関連している等、「環境」をキーワードにきわめて多様な問題が相互に関連しあっている。この授業を履修することを通して、受講者の一人ひとりが、それぞれに、「環境の世紀」である21世紀をいかに生きていくかを考える手がかりをつかんで欲しい。

●教材

講義の際に、必要に応じて資料等を配付する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 08 .CO]

掲載番号	科目名	環境と経済	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	除本 理史（商）
4	英語表記	The Environment and Economy						

●科目の主題

本講義では、地域環境と地域経済の関係性について、1970年代以来のポスト工業化、そして近年の認知資本主義といわれる構造変化の動向を踏まえつつ論じる。内発的発展、文化的価値、固有価値、真正性（オーセンシティ）などに関する経済理論・地域論について概観するとともに、具体的な地域を対象として、「地域の価値」にねざした発展の可能性を探りたい。

●授業の到達目標

上記主題に即して、環境と経済の相互関係に関する知見を習得し、環境を保全しながら地域社会が発展していくために何が必要か、考え行動できるようになることをめざす。

●授業内容・授業計画

以下の要領で進める予定である。

1. 導入、基礎理論の概観（1～3回）
2. 原発事故が浮き彫りにした「地域の価値」：福島県飯館村（4～7回）
3. 公害からの地域再生：熊本県水俣市（8～11回）
4. 文化とまちづくり：石川県金沢市（12回～）
5. まとめ：

●事前・事後学習の内容

事前にテキストを熟読するとともに、講義後は、参考文献を参照し、講義ノートをよく整理すること。

●評価方法

平常点評価とし、小テスト（70%）とレポート（30

%)をそれぞれ1回ずつ実施し、その合計点により評価する。詳細は、第1回目の講義において説明する。

●受講生へのコメント

上記「主題」「到達目標」「事前・事後学習」をよく読み、本講義に意欲を持って取り組める学生の履修を望みます。

●教材

テキスト：除本理史・佐無田光『地域から未来をひらく（仮題）』岩波ジュニア新書（2017年刊行予定）

参考文献：授業中に指示する。

都市・大阪

[科目ナンバー : GE GEN 01 09 .CO]

掲載番号	科目名	歴史のなかの大阪	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	塚田 孝 (文)
5	英語表記	History of Osaka						

●科目の主題

「近世都市大阪の社会組織と民衆生活」

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世(江戸時代)の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の社会組織と民衆生活にしぼって紹介する。

●授業の到達目標

近世大坂の都市社会の基本的なことを理解する。それを通して、私たちが現在くらしている現代都市大阪について、過去との共通性・異質性の両面から相対化して考えられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この講義では、はじめに舞台となる大坂の都市空間の形成過程と構造について触れ、その後は、都市社会の主人公である都市民衆の生活に光を当てていく。その際、都市の住民生活の基礎単位である「町」に着目して、町の構造と機能をベースにしながら、そこで生きた家持や借屋などの生活をうかがっていく。

なお、各回の講義では、鍵となる近世の史料(活字)を入り口として話を進める。これにより大坂の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

- ①三郷絵図…大坂の広がりとは三郷
- ②安井家の由緒書…道頓堀の開発と惣年寄
- ③水帳(土地台帳)と宗旨人別帳…町の空間と住民構成
- ④町掟(町法)…自律的な共同組織としての町
- ⑤孝子褒賞と忠勤褒賞…都市民衆の生活世界を探る

⑥裏借屋の人びと…小営業と働き渡世、女性の活計

⑦大店の盛衰…職人と商人

⑧まとめ…近世から近代へ

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する(例年は、授業期間中の土曜日に実施)。

●事前・事後学習の内容

毎回、『史料から読む近世大坂《試行版》』に収録する史料1～2点を取り上げるので、事前に史料の釈文・現代語訳・語句説明を読んで、自分なりに史料の概要を把握しておく。授業後には、各史料の解説で書かれていることを参照して、講義内容の定着を図る。翌週の授業で前週の講義内容に関わることを質問し、コミュニケーションカードで回答を求める。

●評価方法

授業中に行なう中テスト、レポート、コミュニケーションカード(各回の理解度)などで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所(史跡など)に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

●教材

教科書:『史料から読む近世大坂《試行版》』2012年
参考書:塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、2002年(他に、現在執筆中の孝子・忠勤褒賞に関する著書〔2017年刊行予定〕)

[科目ナンバー : GE GEN 01 10 .CO]

掲載番号	科目名	都市生活と人間福祉	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	松木 洋人 (生) 他
6	英語表記	Urban Life and Well-being						

●科目の主題

現代社会では、多くの人々が都市において生活を営んでいるが、社会の変化の中で様々な生活問題が顕在化し、これらに対応するための取り組みが実施されている。本講義では、人間福祉学の立場から、都市にお

ける生活上のニーズの特性、ニーズ充足のための人的・物的資源の現状、福祉に関する諸制度・施策の課題について理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

本科目は、受講者が今日の都市生活で起こる様々な

生活問題を自分なりに発見し、解決することを目標としている。講義を通して学んだことを知識として習得するだけでなく、それを踏まえた上で、受講者が自分で様々な生活問題について考察することができることを到達目標と考えている。毎授業終了時に課すレポートは、受講者によってそうした授業目標が達成されているかを評定する目安と位置づけられる。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が授業を担当する（順不同）。初回は、オリエンテーションと講義。

- ・オリエンテーション：松木 洋人
- ・都市生活と家族問題（1回）：松木 洋人
- ・都市と学校生活（2回）：多田 美智子
- ・都市生活と子ども・家族①（2回）：大堀 彰子
- ・都市生活と子ども・家族②（2回）：小積 律子
- ・都市生活と権利擁護（1回）：鶴浦 直子
- ・都市生活と居住福祉（1回）：野村 恭代
- ・リスク社会と子どもの防犯（1回）：中井 孝章
- ・都市生活と青年期のこころ（1回）：後藤 佳代子

- ・都市生活の子育て・子育て（1回）：長濱 輝代
- ・都市生活と外国人（1回）：堀口 正
- ・都市生活と人間関係（1回）：大西 次郎

●事前・事後学習の内容

各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

●評価方法

毎回、講義の最後に課すレポートに対し、講義担当者がその都度評価を行い、その評価の総計によって成績を付ける（出席点も含む）。なお、1回のレポートは、10点満点とし、その合計得点を最終的に100点満点に調整し、評価とする。

●受講生へのコメント

レポート作成・提出のため、結果的に授業時間が延長されることになるので十分留意すること。第1回目の授業から出席すること。

●教材

各々の授業中に、担当者から指示する（※オムニバス方式の授業形態を採るため、授業全体の教材はない）。

[科目ナンバー : GE GEN 01 12 .CO]

掲載番号	科目名	大阪の自然	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	三田村 宗樹（理）他
7	英語表記	Natural History in and around Osaka Plain						

●科目の主題

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀(260万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況でもある。

この授業では、大阪平野とそれを取りまく地域の地形・地質の形成史や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業の到達目標

大阪の立地する大阪平野の形成史や自然環境の変遷の理解をつうじて、現在の都市大阪とその周辺の自然の位置づけや地盤災害との関係についての素養を深める。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷(三田村担当)
 - (1) 地形配置とそれを構成する地質の特徴(1回)
 - (2) 丘陵の地質 丘陵地を構成する地層とその成

- り立ちと第四紀の自然環境の変遷(3回)
- (3) 平野の地質 縄文海進と平野の形成史(2回)
- (4) 地盤災害に関係する平野の地層の特性(2回)
- (5) 山地と低地間に介在する活断層と地震(2回)
2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰実担当)
 - (1) 化石植物群:メタセコイア化石植物群,第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生(3回)。
 - (2) 現在の森林植生:植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響(2回)。

●事前・事後学習の内容

月に1～2回程度、大阪周辺の博物館・植物園を訪れ、授業に関する事前学習を行う。博物館や植物園での事前学習の内容については、事前に指示し、その理解については、4～5回行う小テストで確認する。

●評価方法

事前学習に関わる小テスト(50点)と期末試験(50点)で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

都市・大阪

●教材

主な参考書: 地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店)、

大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』、大阪市立自然史博物館特別展解説書『水河時代』。

[科目ナンバー : GE GEN 01 14 .CO]

掲載番号	科目名	大阪の地理	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	水内 俊雄 (都プラザ・文)
8	英語表記	Geography of Osaka						

●科目の主題

現代都市、特に大阪市を中心にして、京阪神大都市圏にも言及しながら、こうした地域で生起するさまざまな都市開発や都市経営、都市問題の起源、歴史、現状について学んで学ぶと同時に、実際に都市のフィールドワーク3回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。

●授業の到達目標

都市の歴史地理学として、都市形成の歴史や系譜をどのように発見し、地的教養を獲得してゆくことをめざしている。加えて特色として、フィールドワークを通じて、地域描写の文章化を課しているところにある。こうして京阪神とも比較しながら大阪の都市形成を学ぶこと、またそこでの系譜の遺産や課題を知ることは、大阪の将来を考えてゆく上での基礎的教養として役立つ。こうした教養が、大阪の将来を考えるにどのように貢献するのかも紹介してみたい。歴史地理的な見方の醍醐味を味わっていただきたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普段の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、現地でのまちを見る地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 地図からみた杉本町と大阪市立大学の歴史
- 2) 絵図からみた近世都市空間
- 3) 明治初期の都市空間の特徴
- 4) フィールドワーク1 (大坂城下町)
- 5) 明治末期の大阪の都市景観
- 6) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 7) 大正期の都市社会政策と居住状況

- 8) ベルエポック大阪 1930年代
- 9) フィールドワーク2 (郊外住宅地)
- 10) 戦争と都市
- 11) 空襲、そして戦後復興
- 12) バラック、闇市
- 13) 高度成長期の都市改造、都市再開発
- 14) フィールドワーク3 (大都市の光と影)

●事前・事後学習の内容について

3回のフィールドワークについては、事前に対象地の下調べをしておくことで、実際の現場での観察の質が大きく向上する。貪欲に地域の情報をいろいろな手段で摂取するように心がけてほしい。

●評価方法

コミュニケーションカードの毎回の提出を出席の平常点とし、これに加えて、3回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、これなしで授業を受けると、理解不能となり、フィールドワークにも差し支えることを予め注意しておいて欲しい。

●教材

水内俊雄 他共著 『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)、2008年を参考書としてお勧めする。授業のかなりの部分は、この書に掲載されているところと重なっているので、より深い丁寧な理解を求める読者にこの本を推奨する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 15 .CO]

掲載番号	科目名	現代都市論	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	小玉 徹 (創) 他
9	英語表記	Contemporary Urban Studies						

●科目の主題

現代都市における身近な課題について、多様な視点とアプローチ手法の下で、自ら考える姿勢と能力を習得する。

●授業の到達目標

現代都市を取り巻く経済、法、政策などについて、総合的に理解することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

扱うテーマは、住宅政策、都市計画法、都市財政、社会政策、統計分析、政策評価などである。

- 第1回 オリエンテーション—現代都市とわたしたち
- 第2回 現代都市と都市計画法
- 第3回 都市計画法の歴史
- 第4回 都市計画法の未来
- 第5回 都市と人口減少
- 第6回 都市の社会政策
- 第7回 行政管理／行政経営、ガバメント／ガバナンス
- 第8回 都市政府と財政
- 第9回 都市政府の公共サービス
- 第10回 都市政府の資金調達

- 第11回 住宅政策
- 第12回 住宅政策
- 第13回 住宅政策
- 第14回 住宅政策
- 第15回 期末試験
(担当)

- 第1～4回 久末弥生 (創造都市研究科)
- 第5～7回 五石敬路 (創造都市研究科)
- 第8～10回 水上啓吾 (創造都市研究科)
- 第11～14回 小玉徹 (創造都市研究科)

●事前・事後学習の内容

教材の指定箇所を読み、授業に出席するのが望ましい。指定箇所と事後学習の内容は、授業時に連絡する(第1回の事前学習は不要)。

●評価方法

期末試験80%、授業中の積極度20%。

●受講生へのコメント

社会科学を総合的に学んでみたいという、全学部の学生の受講を歓迎する。

●教材

教科書(第1～4回):久末弥生『都市計画法の探検』法律文化社、2016年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 17 .CO]

掲載番号	科目名	都市の経済とビジネス	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	新藤 晴臣 (創) 他
10	英語表記	Urban Economy and Business						

●科目の主題

都市の発展において、ビジネスは重要な役割を果たしている。それでは経営者は、会社をどのように経営しているのだろうか?例えばソフトバンクやアップルといった企業は、どのようにビジネスを行い、発展しているのだろうか?

本講義では「経営学」をベースに、都市のビジネスについて考えることを目的とする。

そのために本講義は、2つのパートより構成されている。第1部(第2回～第6回)では、経営者の資質や役割、社員の管理方法など、会社組織を動かす方法(経営組織論)について学習する。第2部(第7回～第14回)では、都市成長の原動力となる事業創造(アントレプレナーシップ)や、多様な創業のあり方につ

いて学習する。最後に第15回では「確認テスト」を行い、知識の定着をはかる。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、以下の4点となる。

1. 経営学の成り立ちと体系を理解する
2. 経営組織論の基礎を理解する
3. アントレプレナーシップ論の基礎を理解する

●授業内容・授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経営者の役割とアントレプレナー
- 第3回 ケース1:学生ベンチャーの創業
- 第4回 社員をどう動かすか(マイクロ組織論)
- 第5回 ケース2:チームワーク実験
- 第6回 組織のしくみ(マクロ組織論)

都市・大阪

- 第7回 アントレプレナーシップとは何か
- 第8回 ケース3：ソフトウェア企業の事業転換
- 第9回 多角化戦略とコーポレートベンチャーリング
- 第10回 ソフトバンクの多角化戦略
- 第11回 起業環境の国際比較
- 第12回 大学発ベンチャーと産学連携
- 第13回 中国科学院によるベンチャー創出
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 確認テスト

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、授業内で提示される宿題を行うほか、テキストの該当ページに、目を通した上、疑問点などを整理しておくことが望ましい。また事後学習としては、各種ビジネス誌（日経ビジネス、ダイヤモンド、東洋経済）に目を通す、経済番組を見ることを通じて、学習内容を実際の企業に適用することのシミュレーションを行うことが望ましい。

●評価方法

平常点（授業内での発言、課題・宿題）=70%

確認テスト=30%

●受講生へのコメント

文系・理系を問わず、経営学の知識は必須要件になりつつあるので、本講義を通じて、経営に興味を持つことができれば幸いです。また本講義では、宿題のほか授業内での発言が成績に加点されますので、失敗を恐れず、積極的に発言することを期待します。

授業に関する質問は、授業内または授業後に適宜、受けつけます。一定の時間を要する相談がある場合には、アポイントを事前に入れて下さい。なおこれらの質問・相談とは別に、成績に関する質問については、大学の規程に従い対応します。

●教材

以下のテキストを使用するので、各自で用意すること。

新藤晴臣(2015)『アントレプレナーの戦略論』中央経済社

[科目ナンバー : GE GEN 01 18 .CO]

掲載番号	科目名	国際地域経済と都市	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	有賀 敏之（創）他
11	英語表記	International Regional Economy and Cities						

●科目の主題

いまや世界を解くキーワードとなったグローバル化、その影響は世界のすみずみまで及ぶようになりました。われわれが身近に感じているように、21世紀は、隣の工場がアジアに移転したり、外国の商品や会社が入ってきたりする時代になってきているのです。

しかし、そのような中で各国の地域や地方には、独自の暮らしと経済活動があります。グローバル化の趨勢の中で地域が活性化していくためにも、地域独自の戦略や政策が必要となってきています。また経済がうまく機能するためには現地化・ローカル化といった働きも欠かすことができません。私たちの都市の暮らしが良くなるかどうか、こうした動きによって決まるといっても過言ではありません。

このように、グローバルのみならず、リージョナル、ローカルな視点から現代の経済の動向を捉える新しいコンセプトが「国際地域経済」という考え方です。この授業では、この国際地域経済という新しい視点から現在の世界とアジア各国経済の動きをわかりやすく説明し、各国の国民経済とそれを構成する主要都市との相互関係、またその振興策について考えてみたいと思います。

●授業の到達目標

経済のグローバルな動き、ローカルな動き、リージ

ョナルな動きが互いに連動していること、自分のまちな変化が世界とつながっていることを理解してもらうことを目標とします。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の講義とし、以下のように各教員が分担で講じる。

[1] グローバルな経済の動きと分析レベル

- 第1回 イントロダクション -担当部局の紹介と本講義の概要- (有賀) 10月4日
- 第2回 三層の分析レベルと企業 -グローバル・リージョナル・ローカル- (有賀) 10月11日

[2] リージョナルな経済の動き

- 第3回 中国華東地域の概要 (有賀) 10月18日
- 第4回 華東地域と現地進出日系企業(1) (有賀) 10月25日
- 第5回 華東地域と現地進出日系企業(2) (有賀) 11月1日
- 第6回 中国経済と上海の地域金融(1) (王) 11月8日
- 第7回 中国経済と上海の地域金融(2) (王) 11月15日
- 第8回 中国経済と上海の地域金融(3) (王) 11月22日

- [3] ローカルな経済の動き
 第9回 中国における日本企業の現地経営(1)
 (李) 11月29日
 第10回 中国における日本企業の現地経営(2)
 (李) 12月6日
 第11回 中国における日本企業の現地経営(3)
 (李) 12月13日
- [4] 地域経済の動きと都市
 第12回 グローバル化と国内のリージョン - 関西
 広域圏と東海広域圏の対比(1) -
 (有賀) 12月20日
 第13回 グローバル化と国内のリージョン - 関西
 広域圏と東海広域圏の対比(2) -
 (有賀) 1月10日
 第14回 国際地域経済と大阪 (有賀) 1月17日
- [5] まとめと試験
 第15回 まとめ - アジアの都市発展と経済成長 -
 (有賀) 1月24日
 第16回 定期試験(試験期間内) 1月31日

●事前・事後学習の内容について

事前学習としては、各回の授業前にシラバスに従い、参考書の該当箇所を読んで予習しておくことが望まれる。また事後学習としては、各回の講義から次の講義までの期間に、自分でとったノートを見返して復習し、既習内容の定着を図ることである。

●評価方法

期末の筆記試験(記述・論述式)を原則とするが、出席率や受講姿勢が悪い場合には、平常点をみるための措置を別途考慮する。

●受講生へのコメント

この科目に限らないが、定期試験における出題意図とはすなわち担当教員の問題意識である。これを理解するために、平素の出席が欠かせない。

●教材(参考書):

有賀著『中国日系企業の産業集積』(同文館出版, 2012)
 関下・有賀編著『東海地域と日本経済の再編成』(同文館出版, 2009)

[科目ナンバー : GE GEN 01 19 .CO]

掲載番号	科目名	大阪落語への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	久堀 裕朗(文) 桂 春之輔(文 客員) 桂 春雨(文 客員) 他
12	英語表記	Introduction to Osaka Rakugo						

●科目の主題

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸(東京)を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語(らくご)」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が育まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家を講師に迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情(優しさと思いやりと)」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。

●授業の到達目標

落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落語を分析する。(テーマ)落語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語

都市・大阪

に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。(テーマ) 長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。(テーマ) 落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

⑮ 授業全体のまとめ、レポート提出

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げるテーマは事前に予告されるので、あらかじめそれについて基本的なことを調べた上で授業に臨むこと。また授業後は、それぞれ授業の中で特に関心を持った事柄について、参考になる文献を探して読み、思索を深めること。

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見(コミュニケーションカードに記入・提出)と期末のレポートによる(評価の比重は、前者50%・後者50%)。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業

のうち5回以上欠席した者については、原則として単位を認めない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語家名鑑 第二版』(出版文化社)
豊田善敬編『桂春団治はなしの世界』(東方出版)
DVD「極付十番 三代目 桂春團治」(松竹芸能株式会社)
DVD繁昌亭らいぶシリーズ 1 桂春之輔「ぜんざい公社」「もう半分」「まめだ」(テイチクエンタテインメント)

[科目ナンバー : GE GEN 01 20 .CO]

掲載番号	科目名	都市・地域政策	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	吉田 隆之(創) 他
13	英語表記	Urban Regional Policy						

●科目の主題

都市や地域が抱える現代的課題について知識を深め、政策的思考を身につける。

●授業の到達目標

都市や地域の経済や法、政策に関する問題について分析的に思考・表現することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

「都市」や「地域」は、自然、歴史、文化、産業、暮らしなど市民の営みの舞台であり、時代を越えて継承されてきた。人口減少時代、成熟社会が到来した今、都市・地域ではどのような学術的思想が必要とされるのか。担当教員3人それぞれのテーマに沿って考えていきたい。

各回具体的な地域のトピックを扱う。①(久末)都市計画法の最先端を行くフランスの動向を紹介しながら、都市・地域成長を法的に考える。②(孫ミギョン)グローバル化がもたらした都市空間の変化や文化的変化について理解しながら、都市構図の変化を日本や韓国の具体的な事例を用いて検討し、理解力を

高める。

創造都市論をベースに、障害者に焦点をあてながら文化と福祉を架橋する必要性を論じる。③(吉田)芸術祭、アートプロジェクトを切り口に、都市・地域再生を論じ、大阪アーツカウンシルなど今日的課題も扱う。

- 第1回 オリエンテーションー都市・地域政策とわたしたち
第2回 現代の都市計画法
第3回 都市計画の歴史(ユートピア、バル・エポック)
第4回 20世紀からの都市計画(モダン、持続可能性)
第5回 都市計画とPFIとの連携
第6回 創造都市
第7回 グローバル化のなかの都市空間
第8回 都市と文化政策(日本・韓国)
第9回 グローバル化とエスニック・コミュニティ
①(日本:東京新大久保・大阪生野)

- 第10回 グローバル化とエスニック・コミュニティ
(韓国：ソウルガリボン洞・大林洞)
- 第11回 アートによる都市・地域再生
- 第12回 芸術祭とコミュニティの涵養
- 第13回 アートプロジェクトと文化資源活用
- 第14回 文化支援制度とアーツカウンシル
- 第15回 期末テスト
(担当)
- 第1～5回 久末弥生 (創造都市研究科)
- 第6～10回 孫ミギョン (非常勤)
- 第11～15回 吉田隆之 (創造都市研究科)

●事前・事後学習の内容

- 第1～15回 教科書指定箇所を読み、授業に臨むこと。授業時に指定箇所と事後学習の内容を指示する。

第1回、第6回、第11回の事前学習は不要とする。

●評価方法

期末テスト、授業の参加意欲、出席状況等から総合的に判断する。

●受講生へのコメント

都市や地域での活動に興味を持つ意欲ある学生の受講を歓迎する。携帯電話の電源を切ってから、教室に入ること。

●教材

教科書：久末弥生『都市計画法の探検』法律文化社、2016年。

端信行他『都市空間 I 創造する越境時代の文化都市論』、日本経済評論社、2006年。

吉田隆之『トリエンナーレはなにをめざすのか：都市型芸術祭の意義と展望』水曜社、2013年。

[科目ナンバー : GE GEN 01 21 .CO]

掲載番号	科目名	市大都市研究の最前線	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	全 弘奎 (都プラザ) 他
14	英語表記	The Forefront of Urban Studies in Osaka City University						

●科目の主題

都市研究プラザ(URP)は、本学の建学精神(「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」)を受け継ぎ、「都市を学問創造の場」としてとらえ、都市の諸問題に正面から取り組んできた。そして、グローバルCOE「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」を推進し、独自に築いた海外センター・オフィスを始めとする国際的なネットワーク、そして大阪や名古屋の都市で展開する現場プラザとの協力の下、先端的都市研究に向けた学際的かつ広範囲の分野に渡る研究実績を積んできた。また2014年度からは、これまでの研究活動の蓄積によって育まれた、国内外の包摂型現場ネットワークの活用による共同研究活動を最大限活かす形で、文部科学省により共同利用・共同研究拠点として選ばれている。本講義は、本拠点による共同研究の成果の報告から構成される。授業内容・計画に提示する分野ごとに、先端都市研究に向けた研究活動の最新の研究動向を知ることができる。コミュニケーションカードを用いて双方向の対話を試み、理解の深度を高めてゆく。

●科目の到達目標

複雑かつ多様化しつつある都市問題に対応し、大学の資源を利用しながらどのように都市の再生に取り組んでいくか、それが今後の都市研究の一つのカギとなる。この課題に対し、研究の第一線で活躍している都市研究プラザ関連教員の方々から最新の研究動向や実績をまず学び、理解することが求められる。また、コミュニケーションカードを通じ、学生側のコメントと

それに対する講師の回答という双方向の意見交流を組み込むことにより、学生同士の切磋琢磨や講師の気づきなどの仕掛けも組み込んでいる。これらを通じて、当代の都市問題に対応した先端的都市研究の含意を、理論的かつ実践的に理解してほしい。同時に都市問題の仕組みを理解し、課題の把握、分析、都市の再生に向けた対策立案能力の取得のためのヒントを得ることを通じ、今後の受講生のキャリア形成の第一歩としたい。

「市大都市研究の最前線2017：アジア型包摂都市とレジリエンスの試み」

●授業内容・授業計画・講師(敬称略)案：

オムニバス形式の授業で各教員が分担して講義するため、講義内容は毎年変わる。

【包摂型創造都市とレジリエント都市の創生】(第1回～第5回)

包摂型創造都市とレジリエント都市に関する都市研究の成果を紹介する。

第1回：(イントロダクション) 就労なき社会的包摂の可能性：阿部昌樹、法学研究科教員・URP所長

第2回：レジリエンスとしての都市反乱：箱田徹、天理大学教員・URP特別研究員

第3回：復元力・文化編集・世界遺産：創造的な言語(動詞)で編集・包摂する：岡野浩、URP教員

第4回：参加型仕事づくりの試みから明らかになる労働観と外部者の役割：綱島洋之、都市研

都市・大阪

究プラザ特任助教

第5回：近世大坂の非人集団の生存環境と家：塚田孝、文学研究科教員・URP特別研究員

【都市空間再生に向けた包摂型アートマネジメントと多文化都市】(第6回～第9回)

アートマネジメントと多文化都市が生み出す包摂型都市空間再生に向けた理論と実践を紹介する。

第6回：アジアを視野に入れた社会包摂型アートマネジメントの形成に向けて：中川真、URP特別研究員

第7回：都市の忘却空間となった水都再生 -水都大阪の挑戦-：嘉名光市、工学研究科教員・URP兼任研究員

第8回：民族関係論の成果と課題：谷富夫、甲南大学教員・URP特別研究員

第9回：大阪の長屋保全まちづくり～この10年の振り返り：藤田忍、生活科学研究科教員・URP兼任研究員

【包摂型アジア都市と居住福祉実践】(第10回～第14回)

包摂都市の構築に向けた課題と居住福祉の実践に関わる共同研究の成果を紹介する。

第10回：東アジアと欧州を架橋する包容力ある都市論の構築とレジリエントな安全網の生成：水内俊雄、URP教員

第11回：東アジアにおける貧困と社会政策：五石敬路、創造都市研究科教員・URP特別研究員

第12回：居住福祉を基調とした地域福祉施策における専門職の役割：野村恭代、生活科学研究科教員・URP特別研究員

第13回：包摂型アジア都市への「中間的社会空間」試論：穂坂光彦、日本福祉大学特任教員・URP特別研究員

第14回：東アジア都市における生産主義福祉モデルと居住福祉の実践：全泓奎、URP教員

●事前・事後学習の内容

シラバスで指定する【テキスト】の講義関連チャプターを、事前に予習のうえ講義に出席すること、講義後は、適宜【補助教材】もあわせて参照したり、講義中に教員から紹介のあった内容について調べ、理解を深めてもらいたい。

●評価方法

毎回の講義の終了時に提出するコミュニケーションカード及び平常点により評価を行う。

●受講生へのコメント

講義は、担当教員が招聘するゲスト講師を中心にオムニバス形式で行うが、理論と実践を網羅した多様な知識を提供するため毎回の講義出席が前提である。また、日頃から都市や地域の再生について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。なお、このコミュニケーションカードにかんしては、全般的、個別的回答を講師から受けることとなり、学生にもゲスト講師にもフィードバックできる方法を用いるので、短い時間ではあるが各講義後のコミュニケーションカードの記入には、真剣に取り組んでいただきたい。またゲスト講師の都合で順番が入れ替わることもあるため、授業期間中の掲示に注意すること。

●教材

講義では、プロジェクター等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントの配布を行うが、以下のテキストを入手することが望ましい。

・【テキスト】阿部昌樹・水内俊雄・岡野 浩・全泓奎編(2017)『包摂都市のレジリエンス：理念モデルと実践モデルの構築』(仮題)、水曜社

・【補助教材】全 泓奎編(2016)『包摂都市を構想する：東アジアにおける実践』、法律文化社

[科目ナンバー : GE GEN 01 22 .CO]

掲載番号	科目名	コミュニティ防災	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	生田 英輔(生)他
15	英語表記	Community Based Disaster Management						

●科目の主題

頻発する自然災害に対して、レジリエントな地域づくりがわが国の課題となっている。今後懸念される巨大複合災害には従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの力を生かしたコミュニティ防災が重視されており、本講座ではコミュニティ防災の基礎となる災害事象とコミュニティ防災を実践する上での基礎素養を学ぶ。

●科目の到達目標

コミュニティ防災においては、災害時における被災

者の視点および対応者の視点が必要である。本講座では災害事象のメカニズムと被害・対策、人間行動、防災計画、災害弱者、災害医療、災害ボランティア、地域福祉、レジリエンス等の理解を目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

第1回 防災士の役割 森 一彦(生)
 第2回 避難と避難行動 佐伯大輔(文)
 第3回 近年の自然災害に学ぶ 重松孝昌(工)

第4回	地震のしくみと被害	三田村宗樹(理)
第5回	耐震診断と補強	谷口与史也(工)
第6回	土砂災害と対策	大島昭彦(工)
第7回	災害情報の発信と入手	吉田大介(創)・ 米澤 剛(創)・ ラガワン(創)
第8回	身近でできる防災対策	渡辺一志(健)・ 生田英輔(生)
第9回	災害医療	山本啓雅(医)
第10回	災害とボランティア活動	岩間伸之(生)・ 野村恭代(生)
第11回	火災と防火対策	重松孝昌(工)
第12回	都市防災	重松孝昌(工)
第13回	被害想定とハザードマップ	生田英輔(生)
第14回	災害と流言・風評	佐伯大輔(文)
第15回	地域の自主防災活動	生田英輔(生)・ 佐伯大輔(文)

●事前・事後学習の内容

事前学習として教材の該当講を読了しておくこと。事前学習には90分程度の時間を要する。事後学習として教材及びレジュメ・資料等を整理、確認したうえで最新の災害事例の情報をまとめること。事後学習には90分程度の時間を要する。

●評価方法

小レポート3回およびレポート1回により評価する。最高点を100点として、60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

講義は非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後するこ

とがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃からコミュニティ防災について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

なお、本科目は、日本防災士機構の「防災士養成講座」として認証されており、受講者は、本科目を受講することで、防災士資格取得の要件の一部を満たすことができる。防災士資格取得については、初回の授業で説明する。

●教材

講義では、「防災士教本」を教材として用いる。毎回の講義はもちろんレポート課題も教本に応じた内容とするため、受講生は全員購入すること。防災士教本は生協・書店等では入手できないため、購入に関しては初回の講義で案内する。加えてスライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリント配布を行う。より講義内容の理解を深めるために参考文献を購入しても良い。

【教材】→ 購入は必須

・防災士教本 頒価3,000円

【参考文献】→ 購入は任意

・いのちを守る都市づくり【課題編】東日本大震災から見えてきたもの、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-89-6

・いのちを守る都市づくり【アクション編】みんなで備える広域複合災害、大阪市立大学都市防災研究グループ編、大阪公立大学共同出版会、ISBN978-4-901409-98-8

[科目ナンバー : GE GEN 01 23]

掲載番号	科目名	生と死の倫理	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	土屋 貴志 (文)
16	英語表記	Bioethics						

●科目の主題

生命倫理学 (bioethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げ、今日におけるその倫理的・法的・社会的問題について考える。

●授業の到達目標

人工妊娠中絶をめぐる今日の倫理的・法的・社会的問題を理解し、それに関して受講生諸君が自分の意見を持ち、意見の根拠を他者が納得できるように説明できるようにすることを旨とする。

●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況～法と統計～
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論1 (母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 減胎手術
12. 中絶胎児の利用
13. 討論2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断を抽出し、その根拠を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあたっては、グループディスカッションや討論なども取り入れる。

●事前・事後学習の内容

毎回、次回の講義で用いるプリント資料を事前配布

するので、次回の授業までに精読して出席すること。また、毎回の授業内容を復習し、プリント資料を何度も読み返し、参考文献を読み、ネットを検索するなど、討論およびレポートに向けて十分な準備を行うこと。

●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

●受講生へのコメント

1. 中間および期末の2回のレポート両方において合格点を取らなければ当科目の単位は取得できない。毎回出席し授業内容を正確に理解するだけでなく、自学自習してレポートを書くことが要求されるので、相当の覚悟をして履修すること。
2. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
3. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修登録者数が20人を越えた場合は、顔写真の受講カードへの貼付を受講者全員に義務づける。
4. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、8号館2階の全学共通教育担当まで各自受け取りに来ること。
5. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 25]

掲載番号	科目名	戦争と人間	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	佐賀 朝 (文)
17	英語表記	War and Human						

●科目の主題

本講義では、1931年の満洲事変に始まり、1945年の日本の敗戦によって終わった「日中十五年戦争」の歴史について、その推移を追うとともに、重要なトピックについては掘り下げる形で論じる。あわせて、「従軍慰安婦」問題や靖国神社をめぐる問題など、この戦争に関わる現代の諸問題についても考察したい。

●授業の到達目標

この講義では、現代の戦争と平和をめぐる問題ともかかわって様々な場で議論になっている日本の侵略と加害の問題について、史実にもとづいて基本的な知識を得ることを第一の目標とする。その上で、今後、日本やアジアがどのような道を歩むべきかについて、アジアの人びとと冷静で誠実な対話が可能となるための方向性を探っていきたい。

●授業内容・授業計画

- 第1回 はじめに－「十五年戦争」とは何か
- 第2回～第5回
 - ・大日本帝国／満洲事変と排外主義／「満洲国」と華北分離工作
- 第6回～第9回
 - ・日中全面戦争と総動員体制／南京大虐殺／戦時下の市民生活
- 第10回～第12回
 - ・アジア・太平洋戦争への道／「大東亜共栄圏」の実態／朝鮮人・中国人強制連行と「従軍慰安婦」／沖縄戦／本土空襲と原爆投下
- 第13回 戦争責任と戦後補償問題
- 第14回 靖国神社問題とは何か
- 第15回 おわりに－日本国憲法の現代的意義

●事前・事後学習の内容

講義で配布するレジュメ・資料プリントは、事前学習用の教材としても利用可能な形とするので、事前・事後学習には主にこれを用いること。また資料プリントは授業中にすべて読み上げることは不可能であるため、事後学習で読み、復習すること。

以上とは別に、下記の参考文献や授業で紹介する文献等についても事前・事後に用いること。

●評価方法

平常点・小レポート（約40～50%）、定期試験（約50～60%）により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本が中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国に多大な損害をあたえたこの戦争にかかわる史実を、史料にもとづいた歴史研究を基礎として認識・理解することは、今後、私たちがアジアの人びとと共に生きていこうとする上で不可欠である。現在、靖国神社や「従軍慰安婦」をめぐる問題では、史実を無視し、あるいは歪めた認識の上に立つ議論が横行しているが、過去の事実と誠実に向き合うことなくして人間の未来はない。

●教材

随時、プリント等を配付するが、参考文献は以下の通り。

- ・江口圭一『十五年戦争小史〔新版〕』（青木書店、1991年）
- ・吉見義明『従軍慰安婦』（岩波新書、1995年）
- ・笠原十九司『南京事件』（岩波新書、1997年）
- ・吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書、2007年）
- ・加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（朝日出版社、2009年）

以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 26]

掲載番号	科目名	生命と進化	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	若林 和幸 (理) 他
18	英語表記	Life and Evolution						

●科目の主題

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、私達を含めた現在の生命体に残されている。この科目では、分子、細胞、個体のレベルで、進化について紹介する。

●授業の到達目標

現代社会における医療や環境、食糧、農業などの様々な問題を正しく理解するためには、ある程度の生物学の知識が必要である。社会人として、現代社会を生きる際に求められる教養の1つとして、私達を含む「生

生命と人間

き物」の成り立ちや多様性を学習し理解する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化 (若林和幸担当)

地球の誕生から数億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞へと進化した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

2. 分子の進化 (小柳光正担当)

進化の研究は、分子生物学の技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について具体的に解説する。

3. 個体の進化 (厚井聡担当)

生物は、多細胞体制を獲得して陸上へ進出したことにより、飛躍的に多様化した。多細胞体制の進化と陸上での多様化について、植物を中心に紹介する。

- (1) 序論 生命 (生物) とは
- (2) 生命の基本単位である細胞の種類と機能。
- (3) 化学進化から生命 (細胞) の誕生。
- (4)・(5) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞小器官の形成について説明する。
- (6) 細胞のエネルギー生産系の進化。
- (7) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (8) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎とな

る概念を説明する。

- (9)・(10) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムについて、方法論を交えて紹介する。
- (11) 多細胞体制の進化。
- (12) 生物の陸上進出。
- (13)・(14) 陸上生物 (特に植物) の多様化について説明する。
- (15) まとめと試験

●事前・事後学習の内容

事前学習については、参考図書等で各項目について一通り予習することが望ましい。また、授業で説明した内容や用語について、理解が不十分であると感じた事柄について、事後学習によって正しく理解し、知識を定着させることが重要である。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

高校で「生物」を履修していない人にも理解しやすいように、生物学の基礎的事項・内容についての説明や解説を含めながら授業を進める。

●教材

参考書：宮田隆「分子からみた生物進化」(講談社ブルーバックス)、ニコラスH.バートンほか著、宮田隆監訳「進化」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、中村運「細胞の起源と進化」(培風館)

[科目ナンバー : GE GEN 01 27]

掲載番号	科目名	現代の医療	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	藤原 靖弘 (医)
19	英語表記	Recent Advances in Medical Treatment						

●科目の主題

現代の医療というと重々しい講義名であるが、医療の現場というところのようなイメージであろうか。テレビやネットでは、様々な医療についての情報が流れているが、誤解を与えるような情報も多いのが現状である。高額な医療費、繰り返される医療ミス、崩壊する保険制度など医療を取り巻く環境は厳しい。本講義は、医療現場の第一線で働く医師達の生の声を聴ける15回からなるシリーズである。

実際の現場ではドクター Xで描かれている医局や病院は存在しない。しかし、大門未知子のように絶対失敗してはいけないのが医療である。そのために、医師を含め、医療従事者は日々努力し、研鑽を積んでいる、それと共に薬剤や医療機器の開発のスピードもめざましいものがある。その全ては、苦悩する患者を救うためである。「現代の医療」は、ただ単に病気につ

いての知識を教える講座ではない。その最先端の医療が、いかに人の人生を変え、喜びをもたらしたかが伝えられるであろう。そこでは患者を救うために病院の中を駆け巡る医師の姿が映し出されるであろう。さらにはそうした最先端の医療をもってしても克服できない患者の絶望が描かれるであろう。

●授業の到達目標

- (1) 医療の進歩について学び、それによる恩恵および負の側面について自ら考えるきっかけを得る。
- (2) 現代人に多い疾患、現代でもまだ治療法のない疾患、最近問題となっている疾患について学び、最先端の知識を得る。
- (3) 時代の変化とともに現代人、現代社会で起きている医療問題について知る。
- (4) 一線の医療現場でおきていることを直接に医師から学ぶことで、人生、社会について考える契

機とする。

●授業内容・授業計画

1. 循環器内科 辰巳裕亮〔最近の循環器治療〕
2. 救急 西村哲郎〔現代の救急〕
3. 神経内科 安部貴人〔高齢化社会における脳卒中診療〕
4. 形成外科 羽多野隆治〔現代の医療における形成外科〕
5. 整形外科 岡野匡志〔超音波を用いた運動器診療〕
6. 代謝内分泌病態内科学 山田真介〔慢性疾患と睡眠の関係〕
7. 皮膚科 小澤俊章〔皮膚のレーザー治療〕
8. 神経精神科 片上素久〔私たちに身近なネット依存〕
9. 産婦人科 三枚卓也〔現代の生殖医療〕
10. 消化器内科 平良高一〔現代の消化器内科学〕
11. 第1外科 木村健二郎〔腫瘍外科学について〕
12. 第2外科 竹村茂一〔肝炎肝細胞癌の変遷－発生・治療・予防－〕
13. 放射線科 小山孝一〔現代の医療における放射線科の役割〕
14. 小児科 濱崎考史〔子供たちの健やかな成長のために〕
15. 血液内科 中尾吉孝〔がんと緩和ケア〕

●事前・事後学習の内容

授業までに、次の講義に関する一般的な知識を習得しておくこと。授業後には、講義を聴講して、最先端の医療と自分が目指している人間像や職業とどのよ

うに関わりを持っていきたいか等を事後学習し、発展的な考察を行うことが望ましい。

●評価方法

15回の講義のうち、何れか一つの講義についてのレポート（A4指定 1000字～2000字）をその講義終了後下記の期限以内に提出すること。レポートの表紙に、「講義日・講義担当者・講義の題名・学籍番号・名前」を記載すること。記載漏れがあった場合は採点しない。レポートの内容は講義のサマリーではなく、講義に対する感想、考えさせられたこと、講義でとりあげた内容に対する意見、講義の内容に対して疑問に感じその後に自分で調べたこと、などが望ましい。

提出期限：各講義から2週間後の水曜日17時

提出先：全学共通教育棟2階 学務企画課共通教育担当事務室内レポートボックス

※WEB等からの盗作や、他人のものを写した場合は、不正行為とみなし単位を与えない

●受講生へのコメント

大阪市立大学附属病院の第一線で働く15人の医師が、週替わりで15週間にわたって医療の現状を伝える貴重な講座である。医学生はもとより、一般の学生にとっても病気、健康、生死、医療問題などについて、これだけ多くの医師の生の声が聴ける機会はずまいと思われる。例年人気のある講座ではあるが、折角のチャンスを見逃さないように、なるべく多くの学生に聴講してほしい。

●教材

特定のものを使用しない。

[科目ナンバー : GE GEN 01 30]

掲載番号	科目名	健康へのアプローチ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	古澤 直人 (生) 他
20	英語表記	Approach to Health						

●科目の主題

生活様式の多様化・高齢化などにより社会状況が急速に変化し、食生活を取り巻く環境も大きく様変わりしてきた。これに伴い人の健康に関しても複雑、かつ多岐にわたる問題が生じている。近年、「食」の持つ新しい機能も次々と明らかにされ、医食同源と言われるように食と健康の関わりは極めて密接なものである。

本講義では、食品・衛生学、栄養学および医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師から健康な生活へ近づくための様々なアプローチ法を学びます。

●授業の到達目標

本講義では、食品・衛生学、栄養学および医学的分野における多彩な専門領域のエキスパートである講師

から健康な生活へ近づくための様々なアプローチ法を学びます。

●授業内容・授業計画

以下のサブテーマ（もしくはキーワード）について、当研究科の教員6名ならびに非常勤講師8名によるオムニバス形式で講義します（1名1回）。

- 1) イントロダクション 他
- 2) 幼児期から育む食を営む力
- 3) 世界の健康・栄養問題－栄養の二重苦、発展途上国も先進国も－
- 4) ウイルス感染症、麻しん
- 5) 代謝、生と死
- 6) 食水系感染症、細菌性食中毒および結核
- 7) 日本人の食生活と疾病の発症

生命と人間

- 8) 遺伝子レベルで人の健康を見る
- 9) 古くて新しい生活習慣病
- 10) 現代の食料供給事情
- 11) 一人暮らしを始めた人のための健康へのアプローチ
- 12) 食事と季節
- 13) 食中毒予防概論
- 14) 人体でのエネルギーの産生と利用
- 15) 試験

注：2) - 14)の順が入れ替わる場合あり

●事前・事後学習の内容

興味を抱いたテーマについて、授業内容を改めてノ

ートにまとめるとともに、私見も加える。

さらに、そのテーマに関する他の報告書（研究論文を含む）を精読する。

●評価方法

最終回に実施する記述式試験による。ただし、出席率が低い受講生は本試験を受けることはできない。

●受講生へのコメント

健康に生きて行くためのヒントが多く含まれていまずので、是非ご自身の生活にも役立てて下さい。

●教材

適宜、プリント等を配布。

[科目ナンバー : GE GEN 01 31]

掲載番号	科目名	技術と生命	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	田窪 朋仁 (工) 他
21	英語表記	Technology and Life						

●科目の主題

電話、テレビ、コンパクトディスクやコンピュータ等を使って、ほしい情報を持ってきたり加工したりする技術は「情報通信技術」と呼ばれ、我々の現代生活にはなくてはならない技術の一つになってきた。この情報通信技術を支えているのはエレクトロニクスであり、我国のこれまでの発展にエレクトロニクスは大きく貢献してきたし、今後貢献し続けることには疑う余地はない。本科目は、エレクトロニクスの誕生とその情報通信技術への応用により、私の生活がどのように変わってき、また、今後どのように変わっていくかについて概説する。

●授業の到達目標

- ・エレクトロニクスおよび電子回路の基本的な知識が理解できる
- ・コンピュータハードウェア、ソフトウェアの基礎が理解できる
- ・情報理論、符号理論の基礎を理解できる
- ・通信アーキテクチャおよびネットワークの基礎を理解できる
- ・学習および人工知能の原理を理解できる
- ・情報通信技術がどのように社会に貢献するかを理解できる

●授業内容・授業計画

- 第1回 エレクトロニクスの誕生 三極管からトランジスタへ : 辻本
- 第2回 電子回路と集積化技術 素子をまとめて基板に装着する技術 : 宮崎
- 第3回 身近な自動制御技術 : 蔡
- 第4回 磁石って、もう古い? 磁石からスピンまで : 仕幸

- 第5回 コンピュータのしくみ ハードウェアとソフトウェア : 岡
- 第6回 生体計測機器のしくみ 人間をはかる装置の原理と構造 : 吉本
- 第7回 符号化、暗号化、セキュリティ 情報を正確に伝送し、保護する : 辻岡
- 第8回 インターネットの考え方 コンピュータを上手につなぐ : 阿多
- 第9回 「いつでも、どこでも、誰とでも」の実現 携帯電話はなぜつながる? : 原
- 第10回 人工知能、学習、推論 コンピュータにももの考えさせる : 上野
- 第11回 ロボットの挑む未来 ロボットの動きはどのように実現されるか : 田窪
- 第12回 ヒューマンインタフェース コンピュータと人間をうまくつなげる : 高橋
- 第13回 医療応用 安全・安心のために情報通信技術を活かす : 中島
- 第14回 ユビキタスって何だ? いたるところにコンピュータがある社会へ : 杉山
- 第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

授業計画に記載した各回の授業内容について、身近にある具体的な事例や情報を収集すること。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価し、60点以上合格。

●受講生へのコメント

「エレクトロニクス」、「情報」や「通信」に関心のある学生を歓迎する。

●教材

各講義で適宜プリント等を配布する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 32]

掲載番号	科目名	光と生命	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	寺北 明久 (理) 他
22	英語表記	Light and Life						

●科目の主題

太陽光は植物によって化学エネルギーに変換され、そのエネルギーは、地球上のほぼ全ての生物の生命活動を支える。さらに、生物は、光環境と様々にかかわりながら生命活動を営んでいる。この科目では、生物と光のさまざまなかかわりを題材として、生命現象やそのしくみを個体・細胞・分子のレベルでわかりやすく紹介する。

●授業の到達目標

生物と光のかかわりから、生命現象を科学的に理解する能力を修得するとともに、生命現象のしくみを考えるための基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

- 1：動物と光のかかわり (寺北明久担当)
 - (1) ガイダンス、序論、光の性質
 - (2)・(3) 光を感じる・見る：さまざまな環境で生活する動物が持つ多様な眼とそれを用いた視覚の特徴について解説する。
 - (4)・(5) 光と体内時計：光と体内時計を手掛かりに生物は活動時間帯を決めている。その意味とメカニズムについて概説する。
 - (6) 光を放つ生物：動物はなぜ発光するのか。その生物学的意味、発光するメカニズムや生物発光物質の応用について紹介する。
 - (7) 光と動物のさまざまなかかわり：光は遺伝子に損傷を与えるなどさまざまな影響もたらす。光が生物にもたらすさまざまな影響・効果やそれらに対する生体の応答について紹介する。
- 2：植物と光のかかわり (飯野盛利担当)
 - (8) 光と生物の進化：生命が誕生し、進化・多様化していく課程において、光は環境要因としてどのように係わってきたかを概説する。
 - (9) 光合成：植物は、光合成という機能により、光からその成長と生活に必要なエネルギーを得ている。このエネルギーは動物の成長と生活も支えている。講義では、光合成をする生物はどのように誕生し進化してきたか、光合成はどのような仕組みで行われているかを解説する。
 - (10) 植物は光を成長や生活環を調節するための

シグナルとしても利用している。シグナルとしての役割を環境適応戦略および植物多様性の視点から考える。

(11~14) 多様な光環境応答反応：光をシグナルとする植物の光応答反応（光形態形成および光屈性などの光運動）について、その生態学的役割（環境適応上の役割）、反応に関与する光受容体（フィトクロム、クリプトクロム、フォトトロピン、紫外線受容体）、および光シグナルの受容から反応の発現までの仕組みについて解説する。

- 3：生命と光のかかわり (寺北明久・飯野盛利担当)
- (15) まとめと今後の課題

●事前・事後学習の内容

講義修了時に次回講義のポイントが示された場合には、そのポイントについて図書、文献、インターネット等により学習し理解しておくこと。事後学習としては、講義で配布された資料をより理解するように、図書や文献等も利用して復習する。

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

ヒトにとって身近な存在である「光」とさまざまな生命との関係を題材に、生命現象やそのしくみの理解につながる話題を提供します。

●教材

講義の際、配布、紹介する。

[科目ナンバー : GE GEN 01 33]

掲載番号	科目名	大阪市大でどう学ぶか	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	大久保 敦（大教）他
23	英語表記	What and How to Learn in OCU						

●科目の主題

新入生の皆さん大阪市立大学へ入学おめでとうございます。ところで、皆さんは授業選択をどのようにしていますか？ 友達と相談？ 先輩からのアドバイス？ いろいろあると思いますが、シラバスを参考に授業の選択をした人はどのくらいいるのでしょうか？ 大学生活を開始するに当たり、授業選択は大学での学びをどのようにデザインするかに直接的に結びつきます。また、それは今後の人生のデザインにもつながっていきます。このような重要な授業選択をサポートするためのツールとしてシラバスは作られています。

「大阪市大でどう学ぶか」の授業ではそのように重要なシラバスの読み方、使い方から始まります。そして、これからの社会において、大学とは何か、そこで学ぶ意義は何か、また自分がこれから学ぶ市大がどんな大学なのかを知り、そこで何をどう学び、どう人生をデザインし、どういう人間になり、そしてどのように社会に貢献していきたいかを入学直後のこの期間に考えます。

今年みなさんは本学の大学生となりました。これからの社会に何を求め、どのように築いていくかは皆さんにかかっています。さらに、市民としてどのように関わり、どのように自己実現をはかっていくかも、これからの大学生活にかかっていると言っても良いでしょう。その第一歩がこの授業です。

なお、科目の趣旨から、授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います。2回生以上で受講を希望する人は最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を受けてください（履修登録だけでは受講できません）。

●授業の到達目標

- ①大学とは何か、高校と大学の学びの違いを理解し、大阪市立大学で学ぶことの意味や意義を考えるきっかけとすること。
- ②大学4年間（医学科は6年間）を通した学びの基本的デザインを行うこと。
- ③各学問分野等への興味・関心・意欲を涵養すること。
- ④大学で学んだことを卒業後どのように生かすのかを考えること。

●授業内容・授業計画

学長はじめ学内外よりその道の専門家が授業をオムニバ形式で担当し、大学とは何か、大学で学ぶ意義、そして大阪市大や各学部・研究科の生い立ちから現在

そして未来への展望、また各学問分野の魅力やその誘い、あるいは自らの学生時代などの体験談を基にしたアドバイス等々、各講師陣の個性を發揮した1回完結型の授業構成となっています。

- ①オリエンテーション シラバスの読み方と授業選択
- ②市大を知る 1 大阪市立大学の教育と研究
- ③市大を知る 2 大阪市立大学の歴史
- ④大学での学びを知る 1 大学の学び
- ⑤大学での学びを知る 2 心の健康管理
- ⑥大学での学びを知る 3 身体健康管理
- ⑦大学での学びを知る 4 なぜレポートを書くか①
- ⑧大学での学びを知る 5 なぜレポートを書くか②
- ⑨大学での学びを知る 6 国際化と語学
- ⑩大学での学びと人生の設計 1
- ⑪大学での学びと人生の設計 2
- ⑫大学での学びと人生の設計 3
- ⑬大学での学びと人生の設計 4
- ⑭大学での学びと人生の設計 5
- ⑮まとめ 人生設計と大学での学びの設計

※上記は授業内容の項目を示したものです。実際の授業スケジュールは初回授業で知らせます。

●事前・事後学習の内容

第1回目の授業において、この授業全体で参考となる文献やWEBサイトを紹介するので、各回の授業のテーマに関する事項について、授業開始前までに必ず内容を確認し授業に臨むこと。また、第15回目授業では最終まとめの課題に取り組むための事前の準備が必要です。

●評価方法

- ①最初の授業で、シラバスを使って1回生での授業選択を点検します。それを基にこれからの学びの計画や人生計画などをレポートにまとめます。
- ②2回目以降の各授業で、その日の授業内容の要点をまとめ、それをもとに考えたことを授業の最後に小レポートにまとめます。
- ③最後の授業で、「この授業で学んだことは何か、それを今後の学びや人生にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートをまとめます。

成績評価は上記①から③のレポートで行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は例えるならば、大学での学びや、その先

の人生を歩むためのルートマップ作りと捉えることができます。ここで作ったルートマップを用いて勉強を進めたり、その先の人生を歩むためには、それなりの心構えと基本的能力が必要です。つまり、心構えとは、大学での学びは高校までと大きく異なり、自ら学ぶ態度が求められます。一方、基本的能力とは、例えば最近では、インターネットによる情報の検索やコンピューターを活用した学習や研究など、ICT技術を効果的に活用する能力が求められています。このような学びを効率的・効果的にするための基本的な能力をスタディ・スキルといいます。一回生の間にぜひスタディ・

スキルの基礎を身につけてください。そのために全学共通教育の1回生だけを対象に少人数演習形式で行う「初年次セミナー」や各学部で開講される1回生対象の演習科目を合わせて受講することを推奨します。

●教材

教科書：教科書は使用しませんが、第1回目の授業では「シラバス」を必ず持参してください（2回目以降は使用しません）。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

[科目ナンバー : GE GEN 01 35 .CO]

掲載番号	科目名	大阪の知—グローバル視野と最先端から見る大阪—(学長特命科目)	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	井上 徹 (副学長) ・嘉名 光市 (工) 他
24	英語表記	Special Lectures on Osaka : Global & Frontier Perspectives						

●科目の主題

国際的な競争の激化、企業のグローバル化など、日本を取り巻く社会情勢は国際化に向けて大きく変貌を遂げており、グローバルに活躍する人間へのニーズが一層高まっています。また、ハード・ソフト等諸分野のイノベーションはそのスピードが増し、常に最先端の取り組みが求められており、時代を先取りし柔軟に適応できる能力も求められています。

公立大学である本学にはこうした潮流のなかで、大阪という地域の地域社会にアイデンティティーを抱きながら、世界を舞台に最先端で活躍できる人材の育成が求められています。そこで、グローバル視野と最先端から大阪という地域を捉えられるような授業を開講し、それを機として、学ぶ意欲を高め、国際化に対応し、最先端を自ら拓く学生を育成したいと考えます。

授業の提供に際しては、世界で活躍する社会人、国内外に誇る教育研究成果を上げている市大の教員を講師として、グローバルと最先端をキーワードに、大阪との繋がりを念頭に置いて、授業を開いていただきます。受講生の皆さんには、授業を通じて、最先端の国際情勢、経済社会状況、テクノロジー、文化などを学んで、知的刺激を得るなかで、大阪という地域をより深く理解し、現代社会における生き方の指針を見つけていただきたいと思います。

●授業の到達目標

- ・全世界に急速に広がりつつあるグローバル化と諸分野の最先端の動向を知ること。
- ・グローバル化とイノベーションのなかでの大阪の現状と未来を考えるきっかけとすること。
- ・専門を越えた幅広い知識を身につけること。
- ・在学中だけでなく、卒業後も見据えて、どのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかり

とすること。

●授業内容・授業計画

グローバルな活動を展開している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員がオムニバス形式で授業を担当します。大阪を中心として、国際的な企業活動、健康・医療、都市づくり、スポーツ、文化などの多方面の現場からの報告・分析、国際水準の教育研究の成果を聞き、意見を交換するなかで、大学で学ぶ意味、実社会に接続するそれぞれの進路、大阪の未来を考えてもらいます。

- ①ガイダンス：嘉名光市(工学研究科)
- ②熱き挑戦者であれ：相良暁 (小野薬品工業株式会社 代表取締役社長)
- ③アジアのハブ—大阪：植田健三 (関西経済連合会 理事 国際部長)
- ④日本の医療が世界に発展するために必要なこと：大畑健治 (医学研究科)
- ⑤どうすれば夢が描け、どうすれば叶えることができるのか：荒川哲男 (学長)
- ⑥新事業の構築 エアバッグインフレーター用ガス発生剤と私：高部昭久 (株式会社ダイセル 研究開発本部 執行役員 本部長)
- ⑦少子高齢化に対応した住まいと環境：加茂みどり (大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 研究員)
- ⑧アシックスのグローバル戦略：尾山基 (株式会社 アシックス CEO)
- ⑨人との出会が人路を変える：青木豊彦 (学長特別顧問 株式会社アオキ 会長)
- ⑩テーマ未定：柳本晶一 (学長特別顧問 一般社団法人アスリートネットワーク 理事長)
- ⑪オーロラ研究・その幅広い魅力：南繁行

特別枠

(複合先端研究機構)

- ⑫これからの自治体と公務員 ～プロモーションの視点から：浦部喜行（堺市市長公室広報部 シティプロモーション担当課長）
- ⑬大阪のまちづくり・都市づくり：田中清剛（大阪市 副市長）
- ⑭女性の視点のベンチャービジネス～働くお母さんにやさしい社会をめざして：上田理恵子（株式会社マザーネット 代表取締役社長）
- ⑮まとめ+期末レポート：嘉名光市（工学研究科）

●事前・事後学習の内容

各回の授業内容をうけたあと、関連資料等を読み、配布資料やノートを用い復習する。また、毎回の予習として、自身の将来像やキャリアプランを見据え自身が取り組むテーマを設定すること。

●評価方法

- ①最初の授業のガイダンスで本授業の主旨を説明します。それを聞いたうえで、それぞれの進路、グローバル化、大阪の特色をミニ・レポートにまとめてもらいます。
- ②2回目以降の授業で、その日の授業の要点をまとめ、それをもとに考えたことをコミュニケーションカードに記載し、提出します。
- ③第1回ガイダンスの時点での自分自身の考えを念頭に置きながら、それぞれの進路、グローバル化、大阪の未来像などをキーワードとして、それまでの授業で学んだことを踏まえて期末レポートにま

とめ、最後の授業で提出してもらいます。

成績評価は①から③によって行います。期末レポートの提出は必須です。評価の配点比率は①と③で40%、②で60%とします。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は、グローバル化と最先端のイノベーションといった潮流のなか、大阪がどのような状況にあり、いかなる問題を抱えているのか、今後どのようにすれば新たな未来を切り拓くことができるのかを、受講生それぞれが自分自身のこととして考える場として提供します。単に授業を聞くのみならず、新聞、本、テレビ、その他各種メディアをフルに活用して、こうした大きな変化に柔軟に対応できるような知力、実践力を培えるようにしてください。

また、学外講師による評価方法の工夫、双方向授業などの条件を考慮しなければならないので、受講者数は100名程度に制限します。

●教材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

*氏名に下線が付けられている講師は学外社会人。

*各授業を担当するファシリテーター：飯吉弘子、井上徹、今井大喜、嘉名光市、小伊藤亜希子、鈴木洋太郎、林朝茂、福島祥行、八ッ橋知幸、横山久代

2. 総合教育科目 B

[科目ナンバー : GE HUM 01 01]

掲載番号	科目名	哲学入門	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	佐金 武 (文)
25	英語表記	Introduction to Philosophy						

●科目の主題

認識論および言語哲学、形而上学、心の哲学、科学哲学を中心として、現代の西洋哲学における基本的な諸問題について議論する。標準的な哲学の入門コースでありながら、受講生が自ら考え理解を深められる授業を目指す。

●授業の到達目標

単なる知識の伝達は本講義の目的ではない。そうではなく、主体的に哲学することを通じて、(i) 独自の探求課題を見出す洞察力を養い、(ii) それについて粘り強く考える自立心を育み、そして (iii) あらゆる可能性に対して開かれた知性を磨くことを目標とする。すべての研究活動とクリエイティブな社会生活につながるこれらの基礎的能力の涵養こそ、真の教養としての哲学に課された使命である。

●授業内容・授業計画

本講義は基本的に、個別トピックごとの講師による導入と、それを受けての学生自身のアクティビティの2層式で構成される。各回の授業は次のような内容で進める予定である。

導入：哲学とはいかなる営みか	[講義]
認識論：懐疑論	[講義]
グループ発表とディスカッション (1)	[実践]
言語哲学：固有な名と記述	[講義]
グループ発表とディスカッション (2)	[実践]
形而上学I：持続と内生的変化	[講義]
グループ発表とディスカッション (3)	[実践]
形而上学II：決定論と自由	[講義]

グループ発表とディスカッション (4)	[実践]
心の哲学I：哲学的ゾンビとクオリア	[講義]
グループ発表とディスカッション (5)	[実践]
心の哲学II：自己	[講義]
グループ発表とディスカッション (6)	[実践]
科学哲学：実在論と反実在論	[講義]
グループ発表とディスカッション (7)	[実践]

●事前・事後学習の内容

講義パートで得た着想をもとに、発表やディスカッションなどのグループワークに向けた復習と準備をしっかり行うこと。配布資料は事前に<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/sakon/pg2.html>からダウンロードし、予習にも活用すること。

●評価方法

グループワーク後にコンセプトマップを作成し、その提出回数と完成度を基礎点 (60%) とする。さらに、発表もしくはレポートの提出 (40%) を加味し最終成績とする。授業に対する何らかの積極的な貢献があった場合、それについては加点も考慮する。

●受講生へのコメント

哲学の専門知識は要求されない。興味をもったトピックについて、自ら積極的に取り組む姿勢を評価する。

●教材

授業ごとに資料を作成する。受講生は必ず、<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/sakon/pg2.html>から関連資料をダウンロードし、プリントアウトした紙媒体もしくはタブレット端末などで閲覧できるように事前に準備すること。(授業内では配布しない。)

[科目ナンバー : GE HUM 01 06]

掲載番号	科目名	文化と社会の心理	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	田端 拓哉 (非常勤)
26	英語表記	Cultural and Social Psychology						

●科目の主題

人間は社会的動物といわれるように、他者との交わりの中で生き、生かされている。それ故に人は様々な人間関係や自分と社会の関わり、そして刻々と変化する文化的現象に常に関心を寄せている。そこで、本講では社会心理学の知見を基に、人が人や社会といかに結びつき、その相互作用の中で起こる文化の再生産と変容にどのように関わっているのか? を考察する。

●授業の到達目標

受講生が、社会心理学の知識や理論を学習し、多様な価値観の中で自己を吟味し、客観的視点から他者との関係性を構築する力、特に自分と異なる集団や文化に属する人と適応的にかかわる力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

社会心理学の各領域から主要なトピックを精選して

講義する。なお、体験的理解を図るため、適宜、種々の質問紙等も活用する。内容は、およそ以下の通りである。初回を除き各テーマにつき、概ね2回の講義を充てる予定である。

1. 社会心理学とは何か
2. 社会で生きる私：自己と社会の影響過程
3. 人と人をつなぐもの：対人認知の心理
4. 恋心の科学：恋愛の心理
5. 人のやさしさ・こわさ：援助と攻撃の心理
6. 個人と集団：個人と集団の相互作用
7. 情報化社会の暮らし：メディア文化の影響
8. 異文化との出会い：文化と適応の心理

●事前・事後学習の内容

事前学習：前回の授業時までに次回授業内容にかかわるプリントを配布し、事前に目を通しておくよう指示する。

事後学習：当該授業のテーマにかかわる参考図書を紹介し、各自が学期末までに読んでおくよう指示する。

●評価方法

学期末に行う試験の成績を主とし、これに授業期間中に提出を求める課題を加算して評価する。

●受講生へのコメント

本講義では、心理学全般の基礎的知識が必要となるため、受講生は「心理学への招待」（いずれの先生でもよい）を受講していることが望ましい。また、心理学の研究方法への理解を深めるため、授業時間に関連するテーマの質問紙調査への協力を求めたり、授業時間外に行われる心理学実験への参加を要請する場合がある。受講生は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：池上知子・遠藤由美著『グラフィック社会心理学 第2版』（サイエンス社）

基本的にスライド（PowerPoint）によって資料提示を行う予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	佐伯 大輔（文）
27	英語表記	Introduction to Psychology						

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業では、教科書に示した以下の章立てに従って、心理学分野の全般にわたり、講義形式で授業を進

める。

- (1) 心理学の歴史
- (2) 心理学の方法
- (3) 感覚
- (4) 知覚
- (5) 学習
- (6) 複雑な学習
- (7) 動機づけと情動
- (8) 記憶
- (9) 意思決定
- (10) 思考と言語
- (11) 発達
- (12) パーソナリティ
- (13) 社会的行動
- (14) 心理臨床
- (15) まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：教科書の該当箇所を授業までに読んでおき、不明な点や自分の意見を明らかにする。

事後学習：事前学習と授業を通して明らかになったことを確認し、まとめておく。

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

- ・同じ心理学であっても、研究分野によって、研究者の視点、研究対象、研究方法は異なる。受講生には、心理学における様々な考え方を習得し、幅広く知識を身につけることを期待する。
- ・心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、

授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：伊藤正人（編）「現代心理学：行動から見る心の探求」（昭和堂 2016）

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	池上 知子（文）
28	英語表記	Introduction to Psychology						

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。各テーマに2

回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 精神疾患の脳生理
4. 心と身体疾患
5. 行動異常と心の力学
6. 心を動かす源泉：欲求と感情
7. 心の個人差と形成因

●事前・事後学習の内容

事前学習：前回の授業時までに次回授業内容にかかわるプリントを配布し、事前に目を通しておくよう指示する。

事後学習：当該授業のテーマにかかわる参考図書を紹介し、各自が学期末までに読んでおくよう指示する。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究手法への理解を深めてもらうため、授業終了時に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

丹野義彦著 『性格の心理』（サイエンス社）
OHP、ビデオ、DVDを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	田端 拓哉 (非常勤)
29	英語表記	Introduction to Psychology						

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域からトピックを精選して講義する。内容は、およそ以下のとおりである。前半の7週に、有名な研究事例について解説しつつ、後半の各トピックにかかわる心理学の歴史について概説する。後半を1、2週ずつ残りの2～7のトピックに充てる予定である。

1. 心の捉え方の変遷：心理学の歴史と方法の多様

性

2. 記憶の構造と過程：記憶には種類がある
3. 脳と心理学：記憶の観点から
4. 学習による行動の変化：記憶が行動に影響する
5. 動機づけにかかわる自己：自己についての記憶が影響する
6. 性格のとらえ方：性格を正確に知るには
7. 心の発達：加齢に伴う心の変化
8. 心の健康と精神疾患

●事前・事後学習の内容

事前学習：前回の授業時までに次回授業内容にかかわるプリントを配布し、事前に目を通しておくよう指示する。

事後学習：当該授業のテーマにかかわる参考図書を紹介し、各自が学期末までに読んでおくよう指示する。

●評価方法

学期末に行う試験の成績を主とし、これに授業期間中に提出を求める課題を加算して評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

基本的にスライド（PowerPoint）によって資料提示を行う予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 09]

掲載番号	科目名	心理学への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	矢田 尚也 (非常勤)
30	英語表記	Introduction to Psychology						

●科目の主題

多くの人たちは、心理学を人の心を見抜く学問といった理解をしているかもしれない。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかになるだろう。もちろん、心理学は人の性格を判定したり、人の行動を予測したりもするが、

それらのことができるのは、心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのよ

うに生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどう影響を受けるかを問題にしている。

この講義は、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことを主題としている。

●授業の到達目標

日常生活の場面で人がなぜそのような行動をするのかということに対する答えを、受講生自身が見出すことができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

心理学における基本的で身近なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査を実施したり、ビデオ教材等を活用する。

内容は、およそ以下のとおりである。

1. 1心理学とは
2. 心理学の研究方法
3. 感覚と知覚
4. 記憶と学習
5. 言語と思考
6. 社会的認知
7. 対人関係
8. 集団と個人
9. 社会と人間
10. 発達

11. 感情
12. 動機づけ
13. 性格
14. 臨床心理学：理論とアセスメントの実際
15. 臨床心理学

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業後に、講義で提示した資料を、次回の授業内容も含めて本授業のWebサイトに掲載する。各自が次回の授業内容を確認した上で、次回の授業に臨むこと。

事後学習：本授業のWebサイトに掲載される講義で提示した資料に目を通し、復習する。

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績に基づき評価する。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に行われる実験への参加を要請する場合もある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●教材

教科書：特に使用しない。

参考書：無藤隆他編 『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房） 無藤隆他著 『心理学』（有斐閣）

プロジェクトを使用する予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 10]

掲載番号	科目名	認知のしくみ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	山 祐嗣 (文)
31	英語表記	Mechanism of Cognition						

●科目の主題

人間あるいは動物が、どのようにして環境を認知するかという問題は、主として認知心理学の領域で研究されている。認知は、感覚や知覚、記憶、思考などの機能を含む概念であり、直接観察が不可能だけに、どのように行われるのかについての理論が数多く提唱されている。さらには、認知に影響を与える、文化・環境からの数多くの要因が考えられる。

本講義では、これらの知識を獲得すると同時に、なぜこのような理論が説得力があるのかなど、科学的な考え方を習得することを目的とする。また、理論は、主として心理学実験的データをもとに構築されるが、そのような心理学実験はどのように行われるのか、実際の実験に参加するという経験も重視する。

●授業の到達目標

認知に関する基本的な知識の獲得と、それについての科学的な考え方を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

主として、認知心理学についての初歩的な理解から始め、認知と呼ばれる機能、すなわち、感覚・知覚、記憶、思考などについて概観する。

1. 認知心理学とは
2. 視覚
3. 聴覚
4. 記憶のメカニズム
5. 記憶の内容
6. コミュニケーション
7. 文章理解・文章産出
8. 思考と問題解決
9. 思考と推論
10. 文化と道具
11. メタ認知
12. 感情と認知
13. 認知心理学の問題

14. 統括

●事前・事後学習の内容

授業は、基本的に教科書を中心に行うので、事前学習として、教科書の相当箇所を読んで理解しておく必要がある。また、事後学習では、単に授業内容を理解するだけではなく、授業で紹介された文献等にも触れておいて欲しい。

●評価方法

学期末に行う最終試験によって評価する。

●受講生へのコメント

認知心理学の研究法についての理解を深めるために、授業に関連する領域の心理学実験・調査を行うことがある。実際に体験してみしてほしい。

●教材

仲 真紀子(編著) 『いちばんはじめに読む心理学の本4 認知心理学』 ミネルヴァ書房 2010

[科目ナンバー : GE HUM 01 11]

掲載番号	科目名	人間と宗教	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	仲原 孝(文)
32	英語表記	He Science of Religion						

●科目の主題

人間が「生きる」ということにとって宗教はいかなる意味をもつか、ということ講義形式で考えていく。宗教について考えるのに、具体的な個々の宗教思想や宗教者の生き方を離れて抽象的な一般論を行なっても意味がない。そこで、この講義では毎年特定のテーマを定めて、それについて深く掘り下げて考えるという形で講義を行なう。

●授業の到達目標

人間と宗教との関係をめぐる問題に関して、各自が自分独自の見解を形成することができるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年はウィリアム・ジェイムズ、ルドルフ・オットー、アンリ・ベルクソンといった宗教哲学者たちの宗教理論を対比させ、それぞれの長所・短所を明確化してゆくことを通じて、人間にとって宗教とは何かという問題について多面的に考えてゆく。

授業計画は以下のとおり。

第1回 序論。宗教問題の提示

第2～4回 ウィリアム・ジェイムズの宗教心理学概説

第5～6回 宗教心理学と宗教哲学との関係

第7～9回 ルドルフ・オットーの宗教哲学概説

第10～11回 創唱宗教と自然宗教との関係

第12～14回 アンリ・ベルクソンの宗教哲学概観

第15回 総括。レポートのための指示

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の授業の資料やノートを読み直して内容を確認し、わかったことや疑問点をノートにまとめておくこと。随時、そのノートを小レポートとして提出することを求める。

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答えは最低の評価となるので注意すること

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 15]

掲載番号	科目名	ゲームで学ぶ社会行動	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	渡邊 席子 (大教)
33	英語表記	Learning about Social Behavior with Experimental Games						

●科目の主題

この授業は、自分のキャリア(=労働を含む「生き方」全般)について「他者とともに、自分で考え、あらかず」授業である。授業中に行われる多様なワークを通じて、受講生それぞれが自分を取り巻く環境(世界/社会)との折り合いをつけ、いかにして自分のキャリアを発達させるために行動するか/しないかについて改めて考え、かつ、考えたことを頭の中だけにとどめず、自分の言葉で説明し、あらかずして確認する機会を提供する。

●授業の到達目標

この授業の到達目標は、①キャリアカウンセリング理論の基礎を理解できること、②各種課題を通じて自分のキャリアについて分析・考察し、自身を取り巻く環境と折り合いをつけながら社会とともに生きる自立した人となるために必要なことを自分なりの視点から見出せること、の2点である。

●授業内容・授業計画

「授業形態」のところでは「講義」に区分されているが、本授業は、講義部分とあわせて個人ワーク・グループワークを多様に用いる形式をとっている。座学ではないことを十分理解したうえで他受講生とともに協働し、積極的に受講いただきたい。

全15回の授業を介して、受講生には、キャリアカウンセリング理論についての講義を受け、他受講生とともに各種課題(教材作成、グループワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画など)に取り組みながら、いかに自身のキャリアを発達させるために行動するか/しないかを問い、語り、気づき、考えていただく機会を提供する。

第1回：ガイダンス+導入課題

第2～8回：ユニット1＝大学生向けキャリアデザイン・ゲーミング・シミュレーション教材をつくる(キャリアカウンセリング理論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価)

第9～15回：ユニット2＝意思決定ゲーミング・シミュレーションを通じて「自分」と「社会」を知る(ナラティブ・キャリアカウンセリングワーク、ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価)、まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に最低2度、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

●事前・事後学習の内容

全15回の授業期間中、日常的に各自に実践を求めるのは、以下の2点である。

【1】日常生活の中で、自分の行動、態度、意志決

定プロセス、結果を客観視する機会をもつ。

【2】日常生活の中で、自分にとって価値があると思えるものをできるだけたくさん見つける。

これらについて日常的に考えているかどうか、気づいているかどうか、即座に言語化して表出できるかどうか、授業における各種ワークの質、および、ワークを介して他受講生と学び合える内容に直接影響する。

あわせて、授業の進捗状況に応じて、事前に考えておいてほしいことに関する宿題、および、事後に振り返りを促す宿題を出す。

●評価方法

- (1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、時間・期限を順守できていたか、授業期間中に行う小テスト、自己評価等)：80点満点
- (2) 各種課題に対する学生同士の相互評価：20点満点
→合計100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。
- ・授業は2つのユニットから成っている。全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていることが単位認定の最低ラインである。すなわち、授業に参画し、一定の学修成果をおさめた人のみ、先に進める構造である。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・他受講生との協働を通じて「積極的に自己と向き合い、表出し、確認し、いかに生きるかを考えること」が求められる授業である。自立的に生きるひとりの大学生として、他受講生とともに、自分の優れた側面を発見するのはもちろんのこと、不十分な点や曖昧な点、迷いや恐れ等々も含めて過去と現在の姿を受け止めつつ、自分の足で将来へと歩み進んでいく準備(キャリア・デベロップメント・レディネス)ができているかどうか、よく見極めたうえで受講するかどうかを決めていただきたい。つまり、「(今はまだ)自分のキャリアについて考えたくない、考える必要がない」、あるいは「もう十分考えているので自分には必要ない」と思っている人には向かない。

●教材

教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。なお、教材となりうる素材を受講者自身が集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE HUM 01 17]

掲載番号	科目名	教育と発達心理学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	西垣 順子 (大教)
34	英語表記	Psychology on Education and Development						

●科目の主題

人間の発達に関する3人の研究者の発達理論とその理論の成立背景を学びながら、「人間の発達とは何か」「すべての人の発達する権利を保障するために教育はどのような役割を果たすのか」という問題について考えます。

●授業の到達目標

- ①ピアジェ、ヴィゴツキー、田中昌人の3名の人間発達理論のエッセンスとその成立背景を理解すること
- ②自分自身の発達過程を多面的に分析することを通じて、現代社会における教育と発達に関わる諸問題について、より広い視野から検討できるようになること
- ③「発達する権利」について理解し、その権利が保障される社会の創出に参画する市民として、自らの生き方を考察できるようになること

●授業内容・授業計画

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2週 | 発達と発達する権利 |
| 第3週 | 科学としての心理学の誕生から発達心理学の誕生まで |
| 第4-5週 | ピアジェとヴィゴツキーの発達理論 |
| 第6-7週 | 田中昌人の発達論：3つの法則と生後第4の新しい発達の力の誕生 |
| 第8週 | 発達保障論の形成 |
| 第9週 | 田中昌人の発達論：20歳前後の質的変化 |
| 第10週 | レポート課題の出題と説明 |
| 第11-12週 | 映画「夜明け前の子どもたち」視聴 |
| 第13週 | 発達の主人公としての青年の発達と教育 |
| 第14-15週 | 発達保障の現在と未来 |

●事前・事後学習の内容

- ・読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7-8回出す予定
- ・教科書を熟読しておくこと
- ・レポートの作成に際して、教科書とその他関連する書籍を読むこと

●評価方法

期末レポートが22点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは43点、宿題が35点の計100点満点で評価します。期末レポートが13点以上かつ合計点60点以上が合格。なお、これらは若干変更になることがあります。第1週の授業で確定値をお知らせします。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。本授業では受講生の皆さんに読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7-8回出す予定をしています(評価方法の欄参照)。

受講生の数にもよりますが、授業中に4人一組でグループトークをします。そこで出た意見を発表してもらう可能性もあります。

なお、授業には遅刻せずに毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

次の本を教科書として指定します。必ず購入しておくこと。手元にないとレポートを書くことができません。

中村隆一 「発達の旅-人生最初の10年 旅支度編」
クリエイツかもがわ (1,700円)

[科目ナンバー : GE HUM 01 18]

掲載番号	科目名	教育と発達心理学 (演習)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	西垣 順子 (大教)
35	英語表記							

●科目の主題

すべての人が「健康に発達する権利」が保障されなければならないという発達保障の思想を基盤に、「発達心理学：心の謎を探る旅（北樹出版）」を読み解きながら生涯発達について検討します。

●授業の到達目標

- ①教科書に示されている内容をもとに、自らの心・認識をフィールドとして探究しながら、考えを深めていくことができること
- ②①の内容を報告しながら議論に参加できること
- ③①や②の内容をレポートにまとめることができること

●授業内容・授業計画

第3週め以降は、受講生による発表と議論ですすすめていきます。

第1週 ガイダンス

第2週 序章：発達心理学とは？

第3－4週 第1章：最初期の発達－冒険者たちの旅立ち

第5－6週 第2章：幼児期の発達－魔法の森の仲間たち

第7－8週 第3章：児童期の発達－冒険家たちの宝箱

第9－11週 第4章：青年期の発達－さまよえる旅人たちの休息

第12－14週 第5章：生涯発達－そして旅は続く

第15週：「未来を生きるすべての人へのメッセージ」

●事前・事後学習の内容

授業中には受講生による発表とそれに基づく討論を行います。発表者は発表の準備としてレジメ作成等を行います。発表者以外の方は教科書の該当部分を読み込み、どのような質疑を行うかを考えてから授業に参加してください。

●評価方法

発表と議論への貢献50点、レポート30点、平常点20点の割合で評価します（満点は100点）

●受講生へのコメント

演習形式の授業のため、受講生数を16名程度以下に制限します。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

●教材

次の本を教科書として指定します。手元にないと受講することができませんので、必ず購入しておいてください。

長谷川真理 「発達心理学－心の謎を探る旅」 北樹出版 (2,100円)

[科目ナンバー : GE HUM 01 19]

掲載番号	科目名	リテラシー教育の 思想と方法	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	西垣 順子 (大教)
36	英語表記							

●科目の主題

リテラシーは読み書き能力という意味が基本ではあるが、実際には一般的に考えられているようには単純な概念ではない。本授業では、リテラシーという概念の多面的な意味を踏まえながら、リテラシーとその教育が人間個人と社会の発達において果たす役割について考え、これからのリテラシー教育のあり方について考察する。

●授業の到達目標

機能的リテラシー、批判的リテラシー等のリテラシー概念を理解し、多様に展開されているリテラシー教

育について、その目的や意義を理解するとともに、批判的に検討できるようになること

自らが巻き込まれているリテラシー学習について、その目的と意義を理解しながら、批判的に検討できること

●授業内容・授業計画

第1週 ガイダンス

第2週 言葉を自覚する

第3週 機能的リテラシー

第4－6週 フレイレの教育思想

第7－8週 映画「こんばんは」の視聴と検討

第9週 大学生のライティング

第10-11週 「生きなおすことば」を読んで議論する

第12週 レポートの相互検討

第13-14週 批判的思考と市民リテラシー

第15週 レポート返却と講評

●事前・事後学習の内容

- ・読み物を読んで考えたことを執筆してもらう宿題を7-8回出す予定
- ・教科書を熟読しておくこと、グループディスカッションに利用します
- ・レポートの作成に際して、教科書とその他関連する書籍を読むこと

●評価方法

期末レポートが27点、毎回の授業で執筆するミニペーパーは41点、宿題が32点の計100点満点で評価します(配点は5点程度は変動する可能性があります、初回の授業の際に確定した数値を出します)。合計点60点以上かつ期末レポート15点以上が合格。

●受講生へのコメント

受講生の多くの方は受けたことがないと思われるリ

テラシー教育について知るために、参考資料を宿題として読み、それについて、授業中にディスカッション(グループトーク)をします。授業を聞くだけでなく、参加するという姿勢で取り組んでください。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないので単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

●教材

大沢敏郎(著)「生きなおす、ことば一書くことの中から一横浜寿町から」太郎次郎エディタス(1,800円)を教科書とします。授業で使うので、必ず購入しておくこと。

小柳正司(著)「リテラシーの地平：読み書き能力の教育哲学」(大学教育出版)(1,600円)を参考書とします。授業を聞くだけでは理解できない部分はこの本を読んで復習してください。

[科目ナンバー : GE HUM 01 20]

掲載番号	科目名	心理学・認知科学と人間	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	平 知宏(大教 特任)
37	英語表記	Psychology, Cognitive Science, and Human Beings						

●科目の主題

本科目では、心理学および認知科学と呼ばれる分野の発展とその成果を概観し、「人間とは何か」という問いかけに対しての「暫定的で」「多角的で」「多領域にわたる」考え方を見ていく。

●授業の到達目標

「人間とは何か」という問題点から、人間のものの考え方やものの認識の仕方に対する理解を深めることを目的としている。いくつかのテーマ・観点から基礎知識を身につけた上で、自分なりに「人間とは何か」という問いに対する答えを、自発的に出せるようになること、またそうした自分なりの答えに応じて、大学の学びの中で、他者と積極的に関わること、協働することの意義について理解できるようになることも目標としている。

●授業内容・授業計画

- 01回：初回ガイダンス
- 02回：歴史的背景
- 03回：方法論とその意味
- 04回：生物としての人間(1) 神経科学
- 05回：生物としての人間(2) 発達
- 06回：人間の在り方(1) 感覚と知覚

07回：人間の在り方(2) 注意・意識

08回：人間の在り方(3) 学習

09回：情報と人間(1) 記憶

10回：情報と人間(2) 思考・知能

11回：情報と人間(3) 言語

12回：文化・社会と人間(1) 感情

13回：文化・社会と人間(2) パーソナリティ

14回：文化・社会と人間(3) 文化・社会

15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回の講義テーマに先立ち、関連する参考文献や資料をまとめて、事前学習として利用可能な形でWeb上に掲載予定である。

また、毎回講義後に、授業時に出す小テストについての解説や、補足説明、受講生からの質問等に対する回答、追加資料および文献等をまとめて、事後学習として利用可能な形でWeb上に掲載する予定である。

これら事前および事後の学習については、本授業での単位認定に直接関わるような必須の活動ではないが、期末試験で単位認定基準を満たす得点と取るために必要となる学習活動としてだけでなく、科目の主題についての深い理解を得るための学習活動として位置づけ

られていることを理解されたい。

●評価方法

[授業内課題の提出 (25%)]

毎回の授業時に出す小テストへの回答について提出を求める。小テストの点数そのものは成績評価の対象外だが、提出および回答のあるなしをもとに評価を行う。

[期末試験 (75%)]

講義内容に基づく期末試験を実施する。試験問題は、毎回授業時に出す小テストから一部と、講義内容に基づく応用問題より構成されている。

[その他]

別途心理学・認知科学に関連する実験・調査への参加を依頼することがある。実験・調査への参加は成績評価の必須要件ではないが、実験・調査への参加頻度に応じて、成績評価にボーナスをつける。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにする

こと。講義の進め方や本授業専用Webページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。特に本授業で使用する必要な資料等は、全て授業用Webページにて掲載する予定であるため、やむを得ず初回授業に参加できなかった場合でも、適宜教員に連絡を取り、授業用Webページへのアクセス方法を確認しておくこと。

また本授業は講義形式であるが、積極的な参加を求める。取り扱うテーマについてのコメントの記入だけでなく、話題提供や講義進行中に行う質問への回答などを求めることがある。

●教材

教材については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用Webページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 21]

掲載番号	科目名	現代文化の社会学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	笹島 秀晃 (文)
38	英語表記	Cultural Sociology and Sociology of Arts						

●科目の主題

文化の社会学は、宗教・科学技術・メディア・ジェンダーなど幅広い現象を対象とするが、本講義では芸術に関わる論点を取り上げる。

●授業の到達目標

文化・芸術に対する社会的思考の基礎を理解することを目指す。すなわち、個別の作品の表象分析ではなく、芸術作品・芸術家をめぐる政治経済的・組織的・制度的背景の分析である。

●授業内容・授業計画

授業では、下記のように芸術に関する社会的研究の諸論点を紹介する。

- 第1回 文化の社会学、芸術の社会学
- 第2回 西洋と東洋：M・ウェーバーの比較社会学
- 第3回 集合的行動としての芸術：H・ベッカーの「アート・ワールド論」
- 第4回 嗜好と地位：P・ブルデューの『ディスタクシオン』
- 第5回 文化産業批判：フランクフルト学派
- 第6回 限界芸術論
- 第7回 職業としての芸術家
- 第8回 中間テスト
- 第9回 国家と芸術：文化政策
- 第10回 検閲と表現：放送禁止歌
- 第11回 政治の美学：全体主義と芸術

第12回 ミュージアム

第13回 フィランソロピー

第14回 都市と芸術：下位文化としての芸術・都市政治のなかの芸術

第15回 期末テスト

●事前・事後学習の内容について

事前学習：本講義は、ハワード・ベッカー『アート・ワールド』（2016年、慶應義塾大学出版会）の論点を敷衍しながら行う。したがって、講義と並行して同書を読み進めておくこと授業理解の助けになる。

事後学習：各講義で使用したスライドを講義終了後webサイトに掲示する。スライドを復習し講義の内容を確認しつつ、特に講義中言及した理論や概念については、社会学辞典や総論的な社会学の教科書、くわえて文献辞典やレビュー文献（『社会学ベーシックス1～10+別冊』世界思想社）をよみ理解を深めるとよい。

●評価方法

平常点：30%（出席（15%）+コメントペーパー（15%））+中間テスト：30%+期末テスト：40%

●受講生へのコメント

1. 出席は、毎回、コメントペーパーの提出で確認。
2. 中間・期末テストでは、用語説明と論述を予定。

●教材

教科書：なし（講義では、適宜プリントを配布する）
参考書：なし

[科目ナンバー : GE HUM 01 25]

掲載番号	科目名	社会科学のフロンティア	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	松本 淳 (経)
39	英語表記	Frontier of Social Science						

●科目の主題

いま私たちが生きている日本社会・経済について考えたことはあるだろうか。あなたは今の日本は豊かで希望がもてる社会だと思っているだろうか。この講義では現在の日本社会の課題について考えていくことを主題とする。取り上げる問題はいずれも私たちの身近で起こっていることである。しかし、その課題に対する考え方や対応については様々な議論の余地がある。このような議論の余地のある課題に対する担当者の考え方を提示する一方で、それに対してどのような感想を持ったのか、また違和感を覚えたところはないか、

について受講者と一緒に考えていきたいと思う。

●授業の到達目標

第1回目の講義の時よりも、第2回目の講義のほうが面白かった。そして第15回目の講義が一番面白かった、と思ってもらうことが担当者の目標である。そして、受講者がそれをきっかけに専門は異なっても、これからの学習の糧になってもらうことが目標でもある。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンスと今後の方針についての確認
- 第2回 財政赤字の何が悪いのだろうか？
- 第3回 あなたは消費税の増税に賛成ですか？

- 第4回 家族・地域・カイシャの変容
- 第5回 政府はなぜ必要か？本当に必要か？
- 第6回 格差があることは本当に悪いこと？
- 第7回 公共事業は本当に不必要？
- 第8回 財政政策はなぜ効かない？
- 第9回 土建国家という日本の守備
- 第10回 バブルはなぜ起こる？
- 第11回 地方財政の危機はなぜ起こったのか？
- 第12回 地方分権はなぜ必要か？
- 第13回 これからどう守る？その1
- 第14回 これからどう守る？その2
- 第15回 まとめ（これまでの講義を振り返って）

●事前・事後学習の内容

事前学習については、毎回の講義の最後に次回の講義についての簡単な紹介をするので、受講者はその問題について各自で調べてきてもらいたい。そして、毎回の授業の最初にコミュニケーションカードを配布し、

講義で疑問に思ったことや質問したいことを書き、授業中に提出してもらい、担当者はその質問に答えたいと考えている。また、事後学習については講義内容・質問についての応答をふまえて復習をしてもらいたい。

●評価方法

基本的には期末の試験により評価する。ただし、毎回のコミュニケーションカードで質問が採用された者については加点を考えている。コミュニケーションカードは出席確認ではないので、出席しなければ単位をとれないという解釈はしないでもらいたい。あくまでもコミュニケーションカードは授業の内容理解のためである。

●受講生へのコメント

日本の社会・経済問題に少しでも関心を持ってくれることを期待する。

●教材

毎回の授業時に参考文献等は提示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

掲載番号	科目名	日本国憲法	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	阿部 和文 (法)
40	英語表記	The Constitution of Japan						

●科目の主題

日本国憲法の基礎知識

●授業の到達目標

本講義の基本的な目標は、日本国憲法とその解釈問題に関する基本的な知識を得ることにある。但し、割り当てられた時間内で全ての問題を扱うことは難しいため、今学期はいわゆる統治機構論に重点を置いて講義を進める。詳細は「授業内容・授業計画」の通りである。

●授業内容・授業計画

以下では各回で扱うテーマの概略を示す。内容や順序に変更が生じた場合には、第一回で改めて告知する。

- 1 イントロダクション（憲法の意味、日本国憲法の政治制度）
- 2 国民主権と立憲主義
- 3 立法権
- 4 行政権
- 5 司法権
- 6 戦争放棄
- 7 基本的人権・総説
- 8 法の下での平等
- 9 思想良心の自由
- 10 信教の自由・政教分離
- 11 表現の自由
- 12 経済活動の自由・財産権
- 13 生存権

- 14 地方自治
- 15 憲法改正

●事前・事後学習の内容

日本国憲法の条文を通読して、その内容を確認しておくこと。

それ以外の毎回の予習箇所については、授業の中で指示する。

●評価方法

学期末に行う定期試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

予備知識は特に要求しない。但し、高校で政治経済や現代社会を履修している場合には、教科書等を読み返して知識を確認しておくことが有益である。

なお、法学部生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される。（全学共通教育の単位としては認定されない）

教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ・Ⅱのみを受講されたい。

●教材

初宿正典ほか編『目で見える憲法 第4版』（有斐閣、2011年）

野中俊彦ほか編『憲法判例集 第11版』（有斐閣、2016年）

*なお、授業開始前に改訂が行われることが判明した場合には、教材購入に間に合う限りで改めて告知する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 27]

掲載番号	科目名	日本国憲法	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	中谷 実 (非常勤)
41	英語表記	The Constitution of Japan						

●科目の主題

憲法とは、政治的共同体の設計図である。今から、70年以上前に書かれた日本国憲法という設計図は、完成品としてではなく、来るべき社会の基本的仕組みとして設計された。その基本的枠組みのなかで、未完成の憲法を育んでいくのは、後の世代の国民である。未完の憲法の基本枠組みと、その後の展開を考える。

●授業の到達目標

日本国憲法についての基本的な仕組、具体的には、近代憲法の意義、統治のしくみ、人権保障のあり方等について、具体的な事件や判決、新聞報道などを題材にしながら理解する。

●授業内容・授業計画

授業内容と関連するビデオを使用することがある。

- 【1回目】最近の憲法問題－憲法って何ですか？
- 【2回目】立憲主義の展開－マグナカルタから現代まで
- 【3回目】国民主権・国会・内閣－議会制民主主義の回路
- 【4回目】司法権と違憲審査制の回路
- 【5回目】人権総論1－人権と公共の福祉
- 【6回目】人権総論2－続き
- 【7回目】幸福追求権－すべての人権の根源にあるもの
- 【8回目】法の下での平等－人の根源的な感情
- 【9回目】思想良心の自由・信教の自由・学問の自由
- 【10回目】表現の自由1－自己実現と民主主義
- 【11回目】表現の自由2－続き

【12回目】経済的自由・人身の自由

【13回目】社会権1－生存権

【14回目】社会権2－教育を受ける権利

【15回目】平和主義・まとめ

●事前・事後学習の内容

- ①5分でもテキストの次回の範囲をみておくことが望ましい。
- ②配布資料、とくに、判例は難しいので、授業のあと、復習してください。
- ③日々の習慣として新聞に目を通すこと。

●評価方法

学期末に行う定期試験のみによって評価する。

●受講生へのコメント

- ①下記教材のところに掲げるテキストは、とっつきやすいものを選んだ。著者、中谷彰吾氏と私の苗字は同じであるが、偶然の一致である。
- ②授業当日、A3 1枚の資料を配布する（この資料は、次回に限り再配布し、それ以降は、配布しない）。テキストは簡明な記述をしているため、配布資料によって補いながら、授業を進行する。
- ③法学部の学生に対しては、本講義は教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。教職の単位を必要としない法学部生は専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

中谷彰吾『よくわかる憲法 第5版』（自由国民社）2000円

[科目ナンバー : GE HUM 01 28 .CO]

掲載番号	科目名	都市的世界の社会学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	伊地知 紀子 (文)
42	英語表記	Sociology of Urbanization						

●科目の主題

都市的世界を社会学の視点から考察する。モノ・ヒト・情報がさまざまなボーダーを越えて移動する現代世界では、グローバル化が一つのキーワードとなり、日本もまたその流れのなかにある。この講義では、グローバル化のなかで生じる日本の都市的世界を朝鮮半島との関わりのなかから考える。具体的には、明治

期から現代までを射程に入れ、大阪が多民族・多文化社会となっていく様子を韓国・済州島との関わりを考察対象とする。

●授業の到達目標

都市を重層的に捉える視点を身につけ、自分に身近な歴史や生活を見直すなかで、視野を広げ汎用性の高い世界観を養う。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本社会とエスニシティ (1)
3. 日本社会とエスニシティ (2)
4. 韓国・済州島／日本・大阪 (1)
5. 韓国・済州島／日本・大阪 (2)
6. 越境する生活圏－解放前 (1)
7. 越境する生活圏－解放前 (2)
8. 越境する生活圏－解放後 (1)
9. 越境する生活圏－解放後 (2)
10. オールド・カマーとニュー・カマー (1)
11. オールド・カマーとニュー・カマー (2)
12. 都市化と移動
13. 多文化と共生 (1)
14. 多文化と共生 (2)
15. 試験

●事前・事後学習の内容

事後に配布資料を熟読し、関連書籍を読むようにすること。

●評価方法

授業中のミニレポートを含む平常点40%、期末試験60%。

●受講生へのコメント

授業中に講義内容に関する意見を聞くことがある。

●教材

井上俊・伊藤公雄編『都市的世界』(社会学ベシックス4)世界思想社。

伊地知紀子『生活世界の創造と実践－韓国・済州島の生活誌から』御茶の水書房。

その他、授業中に適宜指示する。資料配布、ビデオやスライドも使用予定。

[科目ナンバー : GE HUM 01 30]

掲載番号	科目名	現代社会学入門	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	進藤 雄三(文)
43	英語表記	Invitation to Contemporary Sociology						

●科目の主題

現代社会で起きている多様な社会現象を素材に、社会学的分析を提示する。

授業の到達目標

1. 社会学という学問領域についての概括的知識を習得する。基礎概念、基礎理論を説明できる。
2. 現代社会の多様な現象に関する知識を習得するとともに、社会学的思考法についての理解を深める。

●事前・事後学習の内容

次回講義の際に使用されるキーワードを指示するので、該当箇所を調べておく。

前回講義の復習の時間を設定するので、事後学習として活用する。

●授業内容・授業計画

以下のスケジュールに従い、講義形式で行う。

1. 社会学：オリエンテーション
2. 自己論：「私」という存在/社会学的自己論/「個人化」
3. 逸脱：逸脱とは何か/犯罪への2視点/ラベリング理論
4. 医療：医療とは何か/ 医療の歴史/ 医療化
5. 政治：政治とは何か/権力と支配/ 国民国家
6. 情報・メディア：メディアとは何か/ メディア論
7. 教育：教育とは何か/近代社会と教育/日本型学歴社会

8. 宗教：宗教とは何か/世界の宗教/ 宗教社会学的分析
9. 家族：家族とは何か/ 近代家族/ 現代家族の位相
10. ジェンダー：ジェンダー概念/ 家父長制と資本制？
11. エスニシティ：エスニシティ概念/ オリエンタリズム
12. エイジング論：エイジングとは何か/ 「エイジズム」
13. グローバリゼーション論：それは何を意味するのか
14. 現代社会の歴史的位相：日本、世界の共時変容
15. 結語：社会学的想像力

●評価方法

出席2・コメント3・試験5の割合で、三者の総合評価(100点満点)によって判定する。

受講生へのコメント

多様な時事的な問題に関する関心、知識を広めておいてください。

●教材

参考書：『新しい世紀の社会学中辞典』(ミネルヴァ書房、2005) 『社会学』(医学書院、2012)

毎回プリントアウトの資料を配布します。

[科目ナンバー : GE HUM 01 32]

掲載番号	科目名	家族と社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	佐々木 洋子 (非常勤)
44	英語表記	Family and Modern Society						

●科目の主題

家族は、多くの人にとって非常に身近なものである。それゆえ私たちは、家族について、自身の経験から考察しがちである。しかし、家族（および家族生活）は、個人的な事柄であるだけでなく、文化的、社会的、歴史的なものでもある。本科目では、家族社会学の立場から家族にアプローチし、家族をめぐる様々な現象について考察する。

●授業の到達目標

家族に関する基礎的なデータや理論枠組みの理解を通じて自身の家族経験を相対化し、家族をめぐる諸現象について考察できるようになる。

●授業内容・授業計画

授業は、講義形式で進める。受講生には、毎回、講義内容についてのコメントを提出してもらい、次回以降でフィードバックすることをつうじて双方向的に授業を進める。また、映像資料なども用いる予定である。

1. 家族のイメージ
2. 統計で見る家族の姿
3. 家族の定義とは
4. 近代家族の誕生
5. 家族の形成と解消（1）
6. 家族の形成と解消（2）
7. 夫婦関係
8. 子どもをもつということ
9. 子育てと親子関係
10. 高齢期と家族

11. 家族をめぐる問題（1）
12. 家族をめぐる問題（2）
13. 脱家族？
14. 家族と社会（まとめ）
15. 試験

●事前・事後学習の内容

授業で扱った内容について、授業内で紹介した文献等を用いながら事後の学習・考察を行うことが望ましい。また、家族に関連する事柄は、メディア等で頻繁に報道されるので、日々の情報収集と、それらを題材として、家族について考察することを半期のあいだ継続してもらいたい。

●評価方法

毎回提出してもらうコミュニケーションカードに基づく平常点（30%）と期末試験（70%、論述形式・持ち込み不可）で評価を行う。

●受講生へのコメント

受講生には、第1回目の授業時に、質問等のための連絡先を伝える。また、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為（私語など）を行う者には、退出を求めることがあるので、留意すること。

●教材

教科書：特に指定しない。資料を配付する。
参考書：神原・杉井・竹田編、2009『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房。ほか、授業中に適宜紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 33]

掲載番号	科目名	世界のなかの日本経済	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	小川 亮 (経)
45	英語表記	Japanese Economy from the World Viewpoint						

●科目の主題

本講義では、世界的な視野からみた日本経済の特徴について考える。様々なテーマがあるなか、本年の講義では、以下の2つの問題を取りあげる。一つ目は、「グローバル化および少子高齢化が進むなか、日本財政は今後、維持可能であるのか？」である。二つ目は、「世界の都市間で競争が繰り広げられるなか、大阪の産業はどのような状況にあるのか？また、産業振興策（特に、企業誘致政策）はどうあるべきなのか？」である。

講義の特徴として、経済学の基礎理論（ミクロ経済学やマクロ経済学）および統計データを用いた解説が中心になる。世の中にあふれている経済に関する通説や主張は、あいまいな考えに基づいたり、未だ証明（実証）されていない仮説段階のものだったり、なんとも頼りないものが多い。それに振り回されないためには、経済学の理論や統計分析に立脚した物の見方が必要になる。

●授業の到達目標

講義を通じて、グローバル化や少子高齢化が進むなかでの日本経済の実態や課題について見識を深め、テレビや新聞などで取り上げられる関連ニュースに対しては深い考察や議論ができるような力をつけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

次のような諸点を中心に講義することを予定している。

1. イントロダクション
2. グローバル化と日本経済①
3. グローバル化と日本経済②
4. 少子高齢化と日本経済①
5. 少子高齢化と日本経済②
6. 日本財政の維持可能性①
7. 日本財政の維持可能性②
8. 日本財政の維持可能性③
9. 大都市・大阪の産業と経済①
10. 大都市・大阪の産業と経済②
11. 大都市・大阪の産業と経済③

12. 地方自治体の企業誘致政策～大阪府を例に～①
13. 地方自治体の企業誘致政策～大阪府を例に～②
14. 地方自治体の企業誘致政策～大阪府を例に～③
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

全学科目なので、経済学に関する予備知識は求めないが、世界経済と日本経済、都市・地域経済に関する新聞記事やニュース、書籍について読み、考える程度の問題や関心は必要である。また、講義に関する質問は遠慮なくするように。

●評価方法

学期末の試験による。

●受講生へのコメント

私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退出といった受講上のマナー違反を慎むこと。場合によっては、退出を求める。

●教材

教科書は用いない。参考文献については、講義中に指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 34]

掲載番号	科目名	現代経済学入門	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	長沼 進一（非常勤）
46	英語表記	Introduction to Modern Economics						

●科目の主題

経済学の目的は「さまざまな制約条件のもとにおいて人間の存在価値を最大にするための合理的かつ効率的な方法を見いだすこと」にあります。人間の生存に必要な資源はかぎられているため、それをどのように調達し、どのような用途にもちいるかは制約があります。世界の国々でそれらをどのように分け合うのか、一国においてもそれをどのような階層の人々で分け合うかは誰も大きな関心をもっているでしょう。希少資源を無駄なく用いるための心構えはすべての人が心がけねばならない重要課題です。

経済ということばは経世済民を意味し、世の中の秩序をただし民衆の生活を援けるという儒教的精神が込められています。他方、ギリシャ語のエコノミー (economy) の語源には家産の管理法則という意味があり、そこから節約や儉約という意味が派生してきました。それらのことを考えると、私たちがエコノミー・マインドを身につけるということは私たちの生き方に非常に役に立つということです。経済学を学び、エコノミー・マインドを身につけることが本講義の課題です。

●授業の到達目標

第1に人間の生存と経済とのかかわりを理解し、そ

の基本的仕組みがわかること。第2に経済ニュースの核心が何かを把握できること。第3に経済的選択が実際にできるようになること。以上の三つが本講義の目標です。

●授業内容・授業計画

授業では語学であれば文法に相当する経済学の原理について解説します。経済学の原理は経済モデルをもちいてかなり抽象的な命題を解くかたちになるので、それを具体的に把握する最新のトピックスを取り上げ、現在起こっている経済現象の分析へとつなげていきます。授業は以下の計画にしたがってすすめることにしましょう。

- 第1回 経済学は何のために学ぶのか
- 第2回 人間の生存がモノの消費であること
- 第3回 満足度と効用関数
- 第4回 需要曲線の導き方
- 第5回 あれかこれかの選択と効用極大
- 第6回 供給曲線の導き方
- 第7回 生産と利潤極大
- 第8回 経済的豊かさの指標GDP
- 第9回 消費関数の型
- 第10回 投資関数の型
- 第11回 国民所得の決定と失業

- 第12回 経済成長と経済循環
- 第13回 貨幣需要と貨幣供給
- 第14回 財市場と貨幣市場の同時均衡
- 第15回 自由貿易と経済厚生

●事前・事後学習の内容

事前の学習として、講義計画にしたがい参考書や配布資料を用いて予習をすること。あらかじめ質問項目をコミュニケーションカードに書いて事前に提出すること。毎日、新聞に掲載される経済記事をチェックすると、講義で解説する時事問題がより理解しやすくなるでしょう。

事後の学習としては、黒板に板書した内容を整理し、参考文献をもとにサブノートを作成するとよい。専門用語や重要箇所のチェックを忘れずに行うことが大切です。

●評価方法

中間小テストと期末テストの成績を総合して評価します。

●受講生へのコメント

授業を面白く聴くには日ごろから経済ニュースに関

心をもつこと。新聞の見出しだけでも目を通しておくと授業の話題についていけます。質問や意見は授業終了後お願いします。またはコミュニケーションカードを提出してください。黒板に板書した内容を整理し、サブノートを作ることをお奨めします。

●教材

どのようなものであれ、学術情報センターにある経済学の入門書を手に置いて勉強すると便利です。参考書については授業中にその都度指摘します。

テキストの1例：井堀利宏『入門 ミクロ経済学』新世社、2005年。

井堀利宏『入門 マクロ経済学』新世社、2005年。

梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学』日本評論社、2000年。

脇田 成『マクロ経済学のナビゲーター』日本評論社、2000年。

自学自習用として：J.E.スティグリッツ『マクロ経済学(第3版)』東洋経済新報社、2012年。

J.E.スティグリッツ『ミクロ経済学(第4版)』東洋経済新報社、2013年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 35]

掲載番号	科目名	法と社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	高橋 眞(法)他
47	英語表記	Law and Society						

●科目の主題

法は、国家の立法機関（国会）によって定められ、具体的な事件については、法に基づいて司法機関（裁判所）が判断を行う。したがって、法をめぐる現象は、一方では国家権力の作用という意味をもつことが重要であるが、他方で、立法や裁判が社会の実情からかけ離れるならば真に有効なものとはならず、また市民の側でも、法を介して自らの権利を実現し、さらには自らの権利を実現するために法を変えてゆくことができないなければならない。

この科目では、社会の問題が、立法および裁判によってどのように法の問題として捉え直されるか、市民の側から、問題を解決するためにどのようにして法を活用するか、そしてそのことがどのようにして法そのものの発展をもたらすかという点について、民法という法の領域において考えることとする。

前半(①～④)は、高橋が総論的な議論として、社会問題への取り組みがどのようにして法を形成するか、その際、市民が法の主体として力をつけるための条件は何かという問題について講義をする。

後半(⑤～⑦)は森山が担当し、民法のなかでも主として家族に関する領域における法と社会の関係に光を当て、そこで見えてくる問題の諸相、さらに、これ

らの問題を見る基点となる国家と個人の関係について考察する。

●授業の到達目標

社会の問題を解決するための法の役割と限界を理解し、その上で、自らの権利を実現するために法を活用する力を身につけ、また、法を動かしていく主体として持つべき視点を身につけるために、法学および社会科学その他の領域で、今後どのような学習をしてゆくか、自らの方向を考えるための出発点を獲得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回～第7回（高橋担当）において、以下の内容①～④を扱う。

- ①立法と法解釈－社会的現実をどのように反映し、またどのように働きかけてゆくか
- ②「日本的法意識」と国家・社会－川島武宜博士の仕事の意義
- ③安全配慮義務の形成－社会からの要求と判例・立法の対応
- ④住宅問題と法－市場の役割・公共の役割

第8回～第14回（森山担当）において、以下の内容⑤～⑦を扱う。第15回は試験を行う。

- ⑤法と社会の動態－嫡出でない子の相続分に関する

判例をめぐって

- ⑥婚姻・離婚の法からみる日本の法と社会
- ⑦国家と個人—家族法における法と社会の関係

●事前・事後学習の内容

授業で聞いた問題のうち、関心を持った事柄についてさらに自ら調べてみるような学習姿勢を期待する。特に、授業で参考文献等を示した場合は、それを活用されたい。

●評価方法

期末試験による。

●受講生へのコメント

授業の中で関心を持った点、気になった点についての積極的な質問を歓迎する。

●教材

参考書：高橋眞著「日本の法意識論再考」（ミネルヴァ書房・2002年）

講義では、必要に応じてレジュメ等の資料を配布し、その他の自主的学習のための参考文献については随時指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 36]

掲載番号	科目名	日本の企業	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	高橋 信弘 (商)
48	英語表記	Japanese Company						

●科目の主題

経済のグローバル化は、皆さんの生活とどう関係するのだろうか。また、円高や円安によって、どのような企業が恩恵を受け、どのような企業が不利益を被ったのか。こういった日本経済や世界経済の様々な現象を一つひとつ取り上げ、経済学の視点から理解する。

●授業の到達目標

グローバル化の進展のなかで日本経済が進む方向と日本企業の展開のあり方を理解するための、最低限の知識を得られる。これにより、様々な問題をについて自分で考えられる。また、世界の動きをより具体的に認識できるので、世界に対する視野が広がる。

●授業内容・授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 貿易の基礎
- 3 短期的な為替レートの決定
- 4 一国の国際収支
- 5 長期的な為替レートの決定
- 6 少子高齢化社会
- 7 アジア通貨危機
- 8 サブプライムローン問題と世界金融危機
- 9 世界貿易機関 (WTO) と経済連携協定 (EPA)
- 10 中国経済
- 11 欧州債務危機
- 12 日本の貿易と直接投資の拡大
- 13 海外へのアウトソーシング
- 14 TPP
- 15 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として教科書を読み、授業の概要を把握しておくことが望ましい。また、事後学習として、授業の内容を振り返り、各経済現象がどのような理由で起こるのか、自分が理解できているか確認することが求められる。本授業の目的は、経済用語を学ぶことではなく、因果関係の把握にある。つまり、経済の変化のメカニズムを理解し、それをもとに今後の日本と世界の経済の動きを考察することである。そうした理解と考察が出来ているのかどうか、授業の後に考えて欲しい。

●評価方法

期末試験のみ。出席はとらない。試験時の資料持ち込みについては、後日指示する。

●受講生へのコメント

受講生が経済学に対する基礎知識ゼロであることを前提に、教科書の内容を丁寧に説明していく。そのため受講の際には教科書を必携のこと。

誰もが、その生活において、経済の影響を強く受ける。就職活動時、そして卒業後、多くの人がこのことを強く実感する。また、理系の学生でも、課長になれば企業の経営の視点を持つことが求められるため、経済の知識は必須である。しかし、そのときには、経済についてじっくり学ぶ時間をとれない。だからこそ、自由にものを考える時間がある学生時代に、経済について学んでほしい。

●教材

高橋信弘著『国際経済学入門 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2015年

[科目ナンバー : GE HUM 01 38]

掲載番号	科目名	現代社会と健康	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	吉川 貴仁 (医) 鴨井 博 (医)
49	英語表記	Modern Health Science						

●科目の主題

文明の急速な進歩に伴い、我々の暮らす現代社会は便利でかつ快適になった。その反面、社会機構や人間関係は複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。産業廃棄物や原発事故などによる環境汚染、歪んだ食欲とアンバランスな食生活、運動不足、複雑な人間関係によるストレスなどの健康を阻害する要因で現代社会は満ち溢れている。一方で、社会の高齢化が進み、健康寿命は延長しているが、生活習慣病や癌は増加の傾向を示し、メタボリック症候群や種々のアレルギー疾患の増加、HIVやエボラ出血熱のような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになってきている。

“現代社会と健康”の授業では、自分自身や身の周りの人々の健康をキーワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりを支援する科目である。健康は自分自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識や科学的根拠に基づいて実践する必要がある。

本授業では、健康を守るためには「何が、なぜ必要なのか」に関して、医師としての経験も交えて、パワーポイントスライドやDVDの映写及びレジュメを用い、イラストを多用しながら、誰もが理解できるような形で解説する。

●授業の到達目標

- ・健康を阻害する要因を、内的要因（体質）と外的要因（環境）に分けて理解する。
- ・健康維持のための生活習慣（栄養や運動）の重要性、過食・拒食の問題を理解する。特に、これらは中高齢者だけでなく、人の一生を通じた問題であることを理解する。
- ・現代人を取り巻くアルコールやタバコの問題を理解する。
- ・癌、感染症、アレルギー疾患の成り立ちを知った上で、その予防法を理解する。
- ・心の健康について関心を持ち、自分自身のケアや悩んでいる周囲の人たちの支援ができる存在になる。

●授業内容・授業計画

1. 総論（健康・病気とは、現代人の寿命や病気の傾向、人生設計とリスク管理、公的・私的保障制度）
2. 各病気の成り立ちと予防
 - ①癌（肺癌、胃癌、大腸癌、子宮頸癌、乳癌など）
 - ②生活習慣病（肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症など）
 - ③血管障害（心筋梗塞、狭心症、脳卒中など）
 - ④アレルギー疾患（気管支喘息、鼻炎、湿疹など）
 - ⑤感染症（結核、インフルエンザなど）
3. 健康と欲求（食欲・食行動）－ 現代病との関係
4. 健康と嗜好品（タバコ、アルコールなど）
 - －受講生のアルコール分解酵素の測定実習を行う－
5. 心の健康の問題
 - －悩んでいる人に気づき声掛け話を聞いて支援し見守る人、自殺予防、ゲートキーパー研修－
6. 救命講習（AEDの使い方を含む心肺蘇生法）

●事前・事後学習の内容

事前には、本科目の全学習内容を初回のイントロダクションの授業時に提示するので、予習をすること。

事後には、関連図書を紹介するので、学習内容を深めるための復習として利用すること。

●評価方法

期末試験を中心に、平常の出席状況も加味して評価する。

●受講生へのコメント

自分自身や身の周りの人々の健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を歓迎します。特に、心身の成長が一段落したこの時期に、一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。

また、医師と学生の交流の場と考えて、授業時間を問わず、授業内容に限らず、気軽に質問してください。

●教材

1. スライドとプリントで提供する。
2. 参考図書があれば、授業の中で紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 39]

掲載番号	科目名	メディアの社会学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	石田 佐恵子 (文)
50	英語表記	Media Studies, Sociology of Media						

●科目の主題

現代社会を対象とする社会学研究において、「メディア」というキーワードがより重要なものとして浮上したのは、20世紀後半のことである。当時は、テレビや電話、ファックスなどが「新しい」メディアとして社会に登場し、人々の関心を惹きつけてきた。メディア研究に関する理論や方法論、社会学的研究の枠組みを紹介し、メディアをめぐるさまざまな現象、メディア文化を多角的な視点から議論する。

●授業の到達目標

メディアは、私たちの日常生活にとって馴染みの深いものであり、もはやそれなしでは生きることができないほど深く浸透している。また、日本国内のみならず、グローバルな共通性を持って展開している文化である。

したがって、文系・理系の学生を問わず、私たち誰もにとって、このような文化のありようを理解することは、きわめて重要な意味を持つ。この講義を通して、「メディアの文化」のさまざまな現象についての理解を深め、それらを実践的に読み解く能力（メディア・リテラシー）を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 「メディアの社会学」の射程
2. メディア・リテラシーとは何か
3. メディア研究の方法①：系譜学
4. 写真というメディア
5. ラジオというメディア
6. 映画というメディア
7. テレビというメディア
8. インターネット
9. メディア研究の方法②：政治経済学

10. メディアの現在：グローバル化
11. メディアの現在：有名性とアイデンティティ
12. メディアの現在：メディアと権力
13. メディア研究の理論①
14. メディア研究の理論②
15. 成績に関する内容

●事前・事後学習の内容

事前学習として、教科書の予習、課題映像の視聴が必須である。事前学習の内容に基づいて、授業時にミニ・レポートを課すことがある。事後学習としては、講義時に紹介した文献を読み込むこと、さまざまなメディアの現象から、具体的な事例について考え、知識を定着させることを求める。

●評価方法

授業時に随時行うミニ・レポートを出席点としてカウントする。学期末には、論述形式の試験を実施。試験による評価は、成績全体の70%程度。

●受講生へのコメント

現代のメディア文化のさまざまな現象について、積極的関心を持っている受講生を望みます。授業時には、随時、ワークシートで展開学習を行うことや、グループに分かれて短いディスカッションを行うことがあります。

●教材

教科書：伊藤守（編）『よくわかるメディア・スタディーズ [第2版]』ミネルヴァ書房、2015年。

参考書：石田佐恵子・小川博司（編）『クイズ文化の社会学』世界思想社、2003年。石田佐恵子ほか（編）『ポスト韓流のメディア社会学』ミネルヴァ書房、2007年。

[科目ナンバー : GE HUM 01 40]

掲載番号	科目名	現代社会における キャリアデザイン	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
51	英語表記	Career Design in Modern Society						

●科目の主題

本科目は、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリア(社会人としての人生)のあり方や可能性および社会における役割について、受講生

が自らの問題として考える科目である。就職支援・対策を目的とするのではなく、教養教育の一環としてキャリアデザイン、社会人としての人生を考える。

知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む中で、社会・世界のあり方も変化し、多様で複雑な課題が生

じている。「就職」で人生の大半が決まるという従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルも変化・多様化している。そのような状況の中で、我々1人1人が、多様な価値観の中で、自らの「質の高い人生」をそれぞれに構築していくことや、「より上手に機能する社会」の実現に向けて多様な人々と協働しながら取り組んでいくことが必要となってきた。本科目では、こうした社会変化の中における、自らの役割や求められる力・姿勢等についても考え、その基本を学んでいく。

●科目の到達目標

急速な変化のなかにある社会において、個人の「質の高い人生」と「より上手に機能する社会」の両方を実現していくためには、「自ら取り組むべき課題に気づき、自ら考えつつ、多様な人々と協力しつつ解決に向けて行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが重要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考えたり、自分の意見をまとめ・他者に伝え、相互に理解し合おうとしたりする力・姿勢の基礎の修得を目指す。

また、キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の中における、個人の生涯を通じての幅広いキャリアのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考える中で、最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

1回目：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？

なぜ今キャリアデザイン？－大学へ行く意味の変化

2回目～15回目の授業の中では、以下の1.～4.の側面についてそれぞれ3～4回分の授業を使って考えていく予定である。

1. 現代社会における職場・仕事をめぐる動向
2. キャリア選択の多様性と若年労働者を中心とする状況
3. 21世紀に必要とされる能力・スキル等とは？
4. 自らのキャリアデザインについて考える（自己イメージと他者から見た自分像・仕事のイメージと現実・自らの今後の人生・役割と現在の自分、現代社会におけるキャリアデザイン等）

ジと現実・自らの今後の人生・役割と現在の自分、現代社会におけるキャリアデザイン等）

前半は講義を中心に、小グループワークや毎回の小レポート課題の意見のフィードバックを行い、中盤～後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッション等の学生参加をより重視した授業を行う予定。

●事前・事後学習の内容

まず、毎回の授業は、前回の授業内容と関連付きながら展開するため、前回の授業内容の復習や、前回授業で提示された参考文献の参照、前回の授業内小レポート課題（授業の中心となる問題点について考える課題）についての考えをさらに深めておくこと。

また、自ら調べたり考えたりする必要のある複数の課外課題や他者へのインタビュー作業等を含む最終レポート課題を授業時に配布・提示するので、提出期限までに十分作業をして提出すること。

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと発表など授業参加度55点、および2) 期末レポート等課外課題(複数の課外課題を予定)45点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の3分の2以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、知識伝達のみではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内小レポートや課外課題等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参加してほしい。

最終的には、社会における自らの今後の人生・キャリア・働くということについて考えることを通して、現在の自己や社会を相対化し把握する契機としてほしい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 41]

掲載番号	科目名	現代社会と大学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
52	英語表記	University and Modern Society						

●科目の主題

同世代の2人に1人以上が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義やあり方を社会から問われている。

「大学」とはそもそもどのような場か？自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか？当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。大学および学生に対する社会からの現在の評価や社会との関係はいつ頃生まれたのか。本科目では、これらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

●科目の到達目標

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、今後の大学のあり方、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、大学とは何かを自分なりに考え、自分の大学の色(特色)を実感して、そこから広がる現代社会を考えつつ、これからの大学のあり方や学生としての自分を相対化して捉え直すことを目指す。

●授業内容・授業計画

以下の5つの側面について考えていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか?~大学「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生~大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか?~「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということとは?~教育機能と21世紀の教養教育
5. これからの大学はどうなっていくのか?

~グローバル化・大学の質保証・オープン化等
授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2~6回目授業で1.の側面について扱い、その後、

7~10回目で2と3について、11~15回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその歴史的背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●事前・事後学習の内容

まず、毎回の授業は、前回の授業内容と関連付きながら展開するため、前回の授業内容の復習や、前回授業で提示された参考文献の参照、前回の授業内小レポート課題(授業の中心となる問題点について考える課題)についての考えをさらに深めておくこと。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●評価方法

評価割合は1)毎時間提出のレポート課題と授業内活動参加度合いが60%、2)期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは本授業が知識伝達のみでなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講者へのコメント

この授業は、講義を聴き知識をただ吸収するだけではなく、大学に関するテーマについて、自らの問題として考えること等を通して、「学生」としての自らの立場や「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表や、グループディスカッション等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の歴史』を使用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 42 .CO]

掲載番号	科目名	データから見る 大阪市大 (演習)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	平 知宏 (大教 特任)
53	英語表記	Seminar: Data Analysis of Osaka City University						

●科目の主題

大阪市立大学では、教員のみならず学生もまた大学での教育改善の担い手として、位置づけられている。本授業では、大阪市立大学での教育の在り方について、具体的なデータに基づいて、学生の立場から見えてくるものについて議論・考察していくことを目的としている。また本演習では、受講生が主体となって、簡易な調査立案のもと、大阪市大に関するデータ収集を行うことを予定している。

●授業の到達目標

受講生が自分なりに「大阪市立大学で学ぶとはどういうことか」「大阪市立大学では何を学んでいるのか」という問いに対し答えを出し、更には大阪市立大学での教育について、学生の立場から意見を提案できるようになることを目標としている。また、基本的なアンケート調査実施を通して、調査計画の立案と実施までの基本的な流れを理解することも目標としている。

●授業内容・授業計画

授業の進行の目安は以下のとおりであるが、受講人数、調査の進行状況等に応じて、適宜スケジュール調整を行うことがある。

- 01回：初回ガイダンス
- 02回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（1）
- 03回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（2）
- 04回：学生から見た「大阪市大」像についての議論（3）
- 05回：中間発表、中間レポート提出
- 06回：「大阪市大」像把握のための準備作業 予備調査立案（1）
- 07回：「大阪市大」像把握のための準備作業 予備調査立案（2）
- 08回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（1）
- 09回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（2）
- 10回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（3）
- 11回：予備調査の実施と結果解釈、および本調査計画と実施（4）

- 12回：本調査の実施と解釈、議論（1）
- 13回：本調査の実施と解釈、議論（2）
- 14回：本調査の実施と解釈、議論（3）
- 15回：成果発表、議論、最終レポート提出

●事前・事後学習の内容

本授業では、学生から見た「大阪市立大学」像を議論するために必要となる資料や文献を、あらかじめ読み解いた上で、授業に参加することが求められることがある。各学生の資料・文献に関する理解については、適宜資料としてまとめた上で、授業内時間内で発表の上、自分以外の学生にも理解できる形でアウトプットする必要があるため、各回前に担当教員から伝えられる事前学習の内容についてしっかり把握しておくこと。

また事後学習として、授業で学習した内容に基づいた新たな情報収集や調査計画等を立てる等、学生自らが動く必要があるため、各回後に担当教員から伝えられる事前学習の内容についてしっかり把握しておくこと。

●評価方法

平常点（30%）

毎回の授業への積極的な参加（態度・行動）、および授業内での課題・提出物等の作成と提出をもとに評価を行う。

中間発表・レポート（30%）

最終成果発表・レポート（40%）

中間発表時、および最終成果発表への参加、およびレポートの提出とその内容をもとに評価を行う。

●受講生へのコメント

受講希望者は、初回授業に必ず参加するようにすること。講義の進め方や本授業専用Webページへのアクセス方法、成績評価などについての簡易な説明を行う。

また本演習では、基本的なオフィスソフトウェア（Word, Excel, PowerPoint等）の使用が前提となる。PCに関する基本的な作業・操作法については適宜サポートする予定であるが、自ら積極的に作業する姿勢が必要となることに留意されたい。

●教材

教材や文献、資料については、全て授業内で配布するため、特に事前に準備するもの等はない。また本授業専用Webページを通じて、授業内外で活用できる参考文献や資料等は、すべて配信・伝達する予定である。

[科目ナンバー : GE HUM 01 43]

掲載番号	科目名	現代社会と大学(演習)	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
54	英語表記	Seminar:University and Modern Society						

●科目の主題

本授業では、現代の大学が抱える多様な問題を通題材として調べ考え発表・ディスカッションすることによって、「大学」のあり方や「自分自身が大学で学ぶ意味」をより客観的に捉えなおしたり、考察したりすることを目指す。現代社会において大学が抱える諸問題や大学と学生の位置づけのあり方等さまざまなテーマについて、自分で調べ、考え、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う中で、自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験をする受講生参加型の演習授業である。

●科目の到達目標

その経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・相互の考えを深めるコミュニケーションを行う力の基礎の修得を目指す、

このように大学という存在のあり方について考え、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の7つのテーマ（他に興味のあるテーマがあれば応相談）の中から、各自ないしはグループの調査希望に沿って選んだ4～5つのテーマに関して進める。

【テーマ】

1. 大学の学生と学力の問題
2. 大学の入り口と初年次教育
3. 21世紀に求められる教育内容
4. 社会への出口としての大学・大学院
5. 社会から求められる能力・スキル
6. グローバル化と大学
7. 大学の目的・意義とあり方・大学像

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・

収集と調査のまとめ方指導

4～15回目：上記4～5テーマについて、テーマ毎に授業2～3回分を1サイクル（発表と補足講義・補足資料の配付→論点決定→次週までに論点に関する配付資料を読んだり自分の意見を考えたりしておく→次週にディスカッション）として授業を進める。

●事前・事後学習の内容

本授業では、受講生がそれぞれ大学に関するテーマを選定し、授業時間外を使って調べ、発表準備を行い、ディスカッションの論点を考えることを求める。また、発表終了後は、発表やディスカッションの結果を踏まえたレポートにまとめる作業も引き続き課外で行ってもらう。

ディスカッションの前の週は、授業で決めた次回ディスカッションの論点3点について、授業内で配布された資料を読んだり、追加で調べたりしながら、自らの考えをまとめて論点シートに記入してもらうことを求める。

●評価方法

1)授業内提出課題、2)テーマについての調査報告発表の相互評価、3)それをもとにまとめた最終レポート、4)ディスカッションへの参加度合い、5)授業活動全体への参加度合いをそれぞれ20%ずつ総合評価する。(20点×5項目=100点)

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の3分の2以上の出席回数が最低限求められる。

●受講生へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を18名程度に制限する。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

地域実践演習 (GATSUN)

文科省が進めている「地（知）の拠点整備事業（COC）」、後継の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に結びついて、この演習は実施されている。この事業にもとづき、地域が抱える課題を発見し、解決できる人材育成を目標とし開講されているのが、「地域実践演習(GATSUN)」である。大阪はさまざまな地域課題を抱えており、それらは相互に関連し複合化しているため、ひとつの学問分野だけで対応できるものではない。そこでは学問分野を超えて、総合的にアプローチすることが求められている。

皆さんは学部または専攻まで決めて入学してきたが、総合的にアプローチする重要性を認識、経験したうえで、上回生で専門分野に進むという途もある。この演習は、「鉄は熱いうちに打て」という諺が示唆するように、入学後できるだけ早い段階において地域で起きているさまざまな課題を自分の問題として認識し、大学生として学ぶ意義を社会と向き合うことによって確認していくまたとない機会を、皆さんに提供するように設計している。そうした企図を込めて、全学生を対象とする多くの地域志向系科目とともに、1-2回生を対象とした少人数の演習科目である「地域実践演習(GATSUN)」を開講している。

実際には、「地域実践演習(GATSUN)」は、学習形式として学生が主体的に課題に取り組むアクティブ・ラーニングという考え方を導入し、論理を実践につなげるスキル、自分の考えを他者に伝えるスキル、他者と協力しながら目的を実現するスキルなどの修得をめざしている。平成29年度は五つの演習が開講される。

本科目は、集中講義形式、土日祝祭日に現地での実習など、通常授業科目とは少々異なるスケジュールとなるうえ、演習内容によって交通費等の実費負担が生ずる。各演習のシラバスをよく確認した上、真剣に取り組む気構えが求められる。

●受講上の注意

①本科目は、科目の趣旨から、本科目は1回生ならびに2回生を対象に行う。3回生以上で受講を希望する場合は、最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず相談すること。

その上で、受講を希望する学生は、以下の手続きを確実にすること。

■合同ガイダンスに出席する（推奨）

開催時期：4月上旬（全クラス）、7月以降（後期開講クラスのみ）。

授業の進め方や下記レポート・アンケートの提出方法、履修手続き等についての詳細な説明が行われるため、出席することを強く推奨する。

■事前レポート・アンケートを提出する（必須）

提出時期：前期開講クラス…4月上旬～中旬
後期開講クラス…9月中旬～下旬

■Web履修登録をする（必須）

これら受講に際する情報については、4月上旬以降、全学ポータルサイト上に告知されるので、随時確認すること。(https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/gakumu-gakusei/gakumukikaku/f2kxue/i2vt36/xp5bu)

なお、地域実践演習はI～Vおよび大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」があるが、そのうち1科目（2単位）のみ履修・単位修得することができる。なお、大阪府立大学提供の単位互換科目「地域実践演習」については、受講要件が異なるため、受講を希望する場合は全学ポータルサイトや掲示の「単位互換科目」情報をチェックすること。

②本科目は、全学共通科目であると同時に、CR副専攻（詳細は平成29年度副専攻ガイド冊子参照）の導入となる科目である。CR副専攻の履修を希望する学生は、必ず1-2回生のうちに本科目を受講するよう注意されたい。

③本科目は、フィールドワークなど学外での活動を伴うため、受講を希望する学生は、「学生教育研究災害傷害保険」（略称「学研災」）及び「学研災付帯賠償責任保険」（※）などの傷害保険・賠償責任保険に事前に必ず加入しておくこと。

（※保護者の方が教育後援会の保護者会員とならている場合は、別途加入手続きは不要。詳細はhttps://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/life_support/insurance）

履修が確定した学生について、「学研災」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入しているかどうか、学生支援課へ照会を行う。加入していなかった場合は、大学生協の「学生総合共済」及び「学生賠償責任保険」に加入しているかどうか、大学生協へ照会を行う。どちらにも加入していなかった場合は、授業内でフィールドワークへ参加する前に、保険加入をすることを求めるので、速やかに手続きを行い、加入証明書（領収書の写しなど）を提出すること。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	生田 英輔 (生) 他
55	英語表記							

●科目の主題

近年、わが国では自然災害が頻発し、人々のいのちをどのようにして守るかが都市に課せられた課題となっている。大阪も例外ではなく、多様な災害リスクと災害脆弱性を持ち、南海トラフ巨大地震などで大きな被害が懸念されている。このような災害に対して、従来の公的機関による防災対応に加え、地域コミュニティの共助を生かしたコミュニティ防災が重視されている。本演習では、大学周辺の地域をフィールドに災害脆弱性および防災上の課題を把握し、コミュニティ防災の基礎を実践を通じて学ぶ。

●授業の到達目標

本演習においては、災害事象のメカニズム、地域コミュニティ、公助・共助・自助の仕組みを理解し、課題把握、分析、対策立案能力および平常時・災害時に地域の防災リーダーとして活躍できる能力の取得を目指す。コミュニティ防災には、知識偏重の人材ではなく、コミュニケーション能力に長けた人材が必要であり、学生同士、地域住民、専門職と積極的にコミュニケーションを図ってほしい。加えて、演習の一環として地域の子どもや住民に対して受講生自身が防災に関する講義を行う。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義する。

- 第1回 ガイダンス コミュニティ防災とは 生田英輔 (生)
- 第2～4回 防災教育拠点「いのちラボ」の制作 森一彦 (生)
- 第5～7回 地域リスクを分析する 三田村宗樹 (理) 重松孝昌 (工)
- 第8～10回 災害対応力を養う 渡辺一志 (健ス)
- 第11～13回 コミュニティの防災計画を考える 生田英輔 (生)

第14～15回 成果発表 (全教員)

●事前・事後学習の内容

第1回の授業で、第2回以降の授業内容と関連する資料を説明する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、成果発表では授業内容を踏まえた上で、受講生自らコミュニティ防災に関して実践的な取り組みを行った内容を発表する。各回の授業の事後の復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

成果発表を原則とするが、講義内容によってレポートを課す場合がある。最高点を100点として、60点以上を合格とする。追試等は原則として行わない。

●受講生へのコメント

応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。応募人数が多い時は、レポートにより選抜し、受講生は最大20名とする。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習●受講上の注意」をよく確認すること。

講義は担当教員によるオムニバス形式で行うが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の演習出席が前提であり、出された課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、防災を学ぶ上で自分の災害対応力を知ることが前提であり、災害に関する知識だけでなく、身体能力も含めて現状を把握し、災害時にはリーダーとなれる人材を目指して欲しい。

●教材

演習では、レジュメ・資料の配布およびプロジェクター、スライド、ビデオ等を用いる。必要に応じて参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	授業 形態	演習 実習	担当教員	水内 俊雄 (都プラザ) 他
56	英語表記							

●科目の主題

紀伊半島における地域再生の現場に触れる－都市・農山漁村の課題と将来－

紀伊半島は大阪の南に大きく広がる世界遺産の宝庫である。隣県の和歌山にありながら、最も遠隔に位置する東牟婁郡は、東京より、鹿児島より遠い時間距離に位置している。陸路では遠くて不便な遠隔地であるが、太平洋を介して、全国、海外に羽ばたく進取の地でもあった。「都市＝地域を背景とした学問創造」をスローガンに掲げてきた本学に入学した学生諸君には、都市を考えることは同時に地方のことも考えていかねばならない。そのためには自分の足で、自分の眼で、山積する課題や新鮮な発見を共有しようではないか。合宿型の演習を導入し、紀伊半島、特に和歌山県のさまざまな地域課題に接し、日本の地方が抱える問題のエッセンスをつかみ取ってもらいたい。

●授業の到達目標

本演習は、地域にはいって体験することから始まる。県庁所在都市、河川流域都市、中山間地域にそれぞれ3度の合宿とそのレポート作成をゴールとして、その合宿に向けたチーム学習と、合宿での集中的な地域との交流が、地域にどこかで刺激を与え、持続可能なビジネスを生み出し、セーフティネットを再編するような仕掛けを継続的に埋め込む実践的な演習であることも目標としている。

●授業内容・授業計画

担当教員 水内 俊雄（都市研究プラザ）
西川 禎一（生活科学研究科）
祖田 亮二（文学研究科）
久間康富（工学研究科）

学習テーマは、県庁所在都市和歌山市、県内のいくつかの河川の河口都市、そして河川流域の中山間地域を対象にして、①地方中心でありながら活力の失われている中心市街地の再興をどうはかるか、②かつては河口都市として地域の中心であったが、人口減少の中で都市農村関係が不安定になっている地方都市の現状を知る、③高齢化が著しい中山間地域における農耕による地域再興の学修、という大きく三つから構成される。和歌山市以外は、演習でのディスカッションで訪問地を決定する。

1 回目	演習の概要についての説明
2 回目～3 回目	県庁所在地が抱える問題についての情報収集、テーマと関心を絞る
4～5 回目（11月）	1泊2日の第1回合宿 和歌山市において合宿
6～7 回	地方都市とその周辺の都市・農村関係についての情報収集、テーマと関心を絞る
8～9 回目	1泊2日の第2回合宿（12月） 河口都市にて合宿
10～11 回目	中山間地域に関する情報収集と、テーマと関心を絞る
12～14 回目	2泊3日の第3回合宿（春休み実施） 中山間地域にて合宿
15 回目	各々の体験、実践のまとめ、プレゼンを通じての設定課題に対する回答を発表（春休みに実施）

●事前・事後学習の内容について

演習と現地実習から構成されているので、事前と事後学習は肝要となる。内容については授業時間中に指示する。

●評価方法

授業での貢献度（出席、議論、プレゼン）で評価する。

●受講生へのコメント

- ・応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。最大受講可能数を15名までとする。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習●受講上の注意」をよく確認すること。
- ・またチームプレイを原則にした、遠隔地での調査合宿を含む授業なので、よほどの事情がない限り、毎回出席が求められ、合宿への参加は必須である。
- ・学生の都合を調整しながら、臨機応変な授業実施体制を取るのので、緊密な連絡体制のもとに授業に参加していただくことになる。

●教材

特になし、必要に応じて資料を配布。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	嘉名 光市 (工) 他
57	英語表記	Active Learning on Local Community						

●科目の主題

本演習は地域のまちづくりを実践的に進めて行くため、現場に密着し、現状や課題に触れるとともに、具体的な課題を理解し、主体的に考える力を養う。また、地域の実情や資源、問題点や課題と直面する機会を得ることで、今後大学生として専門的な分野を学ぶ意義や、将来社会人としてあるべき自身の役割を再認識することを目指す。

本演習は特に地理・空間分野に焦点をあてている。大阪の都市を対象としたフィールドワークを積み重ね、多面的な都市の見方や捉え方を理解したうえで、収集した情報を整理し、まとめ、コミュニケーションできる一連のプロセスを体験する。

●授業の到達目標

本実践演習は、地理・空間分野に焦点をあて、大阪の都市や建築を対象とした様々な視点でのフィールドワークを展開し、大阪という都市の地域特性を体感した上で、それらを通じて得た情報を整理する手法を学び、実践する。そして、それら一連のプロセスを通じて、ワークショップやプレゼンテーションなどの基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

●授業内容・授業計画

- ① ガイダンス 嘉名光市 (工)
- ② フィールドワーク入門 <都市計画>
嘉名光市 (工)
- ③ まち歩き (1) <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ④ まち歩き (2) <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ⑤ 収集した情報の整理 <都市計画>
佐久間康富 (工)
- ⑥ プレゼンテーション <都市計画>
嘉名光市・佐久間康富 (工)
- ⑦ エクスカーション入門 <地理>
大場茂明 (文)
- ⑧ エクスカーション (1) <地理>
大場茂明 (文)
- ⑨ エクスカーション (2) <地理>
大場茂明 (文)
- ⑩ レポートの作成 <地理> 大場茂明 (文)
- ⑪ レポート講評 <地理> 大場茂明 (文)
- ⑫ 建築スタディツアー (1) <建築>
倉方俊輔 (工)

⑬ 建築スタディツアー (2) <建築>

倉方俊輔 (工)

⑭ 収集した情報の整理 <建築> 倉方俊輔 (工)

⑮ プレゼンテーション <建築> 倉方俊輔 (工)

●事前・事後学習の内容

授業で紹介した文献の通読や、大阪の都市・建築の成り立ちに関わる文献・資料等に目を通して理解を深め関心を高めること。また、授業でのフィールドワーク以外にも興味をもった大阪のまちや建築に実際に足を運び体感すること。

●評価方法

毎回の活動成果記録とプレゼンテーション、レポートの総合点により評価する。

60点以上を合格とする。

●受講生へのコメント

応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。受講生は最大20名とする。応募人数が多い時には、レポートにより選抜する。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習●受講上の注意」をよく確認すること。

授業参加に伴い生じた経費は、学生自身が実費負担すること。フィールドワークなど学外での活動を伴うため、受講を希望する学生は、傷害保険等に事前に参加しておくこと。

都市の地理・空間的な資源は、都市のあり方を考えるうえでの骨格をなしている。都市空間の基本的な見方、読み取り方やこうした情報の整理の方法を理解しておくことは、文系・理系を問わず今後の専門性に生きてくるはずである。大阪の歴史文化をより体感的に理解したいと考える学生諸君にも本演習は良い経験となる。本演習での経験を生かした自主的取組みを期待する。

なお、本演習は現場に出かける機会や作業時間を確保する関係上、2コマ連続での実施等を不定期に実施するなど、集中講義形式で実施する。日程についてはガイダンス時に公表する。

●教材

それぞれの回に、レジュメ・資料のプリントを配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 44]

掲載番号	科目名	地域実践演習 (GATSUN)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	天野 景太 (文)
58	英語表記	Active Learning on Local Community						

まちを面白がる！

～学生視点による観光ガイドブックづくりを通じた地域の文化資源の魅力を発掘と発信～

●科目の主題

都市大阪の文化資源の取材を通じて地域にねむる観光資源の発掘を行い、地域の魅力を紹介する観光ガイドブックづくりを行う。本年度は、大阪3大商店街と謳われ、多くの文化イベントを開催しながらにぎわいを持続している高麗川商店街を中心とした、東住吉区の地域文化と文化的魅力の発掘・発信（特に外国人観光者など異文化からのビジターの視点を意識する）をテーマとする。

実際の現地取材のみならず、出版企画、事前調査、取材協力交渉、DTPソフトを用いた誌面デザイン、完成後の配布に至る全課程を参加者のイニシアティブに基づくプロジェクトとして実施する。できあがったガイドブックは、区役所、商店街関係者等の協力を得て、公共施設や店舗等で実際に地域への来訪者に配布する予定である。この意味で、参加者は地域に対して一定の責任を負うことになる。

●授業の到達目標

メディアの企画・編集、現地取材、観光モデルコースのデザインなどの総合的な実践を通じて、地域における観光資源の発掘、魅力の洗い出し、他者への呈示の工夫など、自身が情報発信の担い手として活躍するための基礎的な素養を体得していただくことを目指す。そのため、観光や都市文化、地域再生に興味をもつ学生のみならず、カメラ、フィールドワーク、イベントの企画や運営、メディア制作（出版・放送・広告）、異文化交流などに興味を持つ幅広い学生の履修を歓迎したい。

●授業内容・授業計画

カメラを携え、地域を歩き、見て、聞くという数回にわたる取材活動を基本とし、授業時間（特に後半）は、編集会議の時間となる。

第1回 ガイダンス

第2～3回 観光ガイドブックのデザインやフィールドワークに関する講義、グループ分け

第4～6回 パイロットサーベイの成果発表、企画会議

第7～10回 取材成果の中間報告と誌面の吟味

第11～14回 DTPソフトを用いたガイドブックの編集

第15回 まとめ、今後の配布計画の立案

●事前・事後学習の内容

文化資源の視察、取材など、何度も地域に出向いて、地域を歩き、観察し、聞き取りをし、商店街振興組合や区役所の関係者らとのコミュニケーションをとることなどが「地域実践」の主な内容となる。また、そこから得られた成果を逐一演習の場にフィードバックするための資料等の作成や、ガイドブックの誌面のデザインなどのデスクワークも求められる。これらに費やす時間とエネルギーをいとわず、情熱をもって取り組むことが、実りある成果を生み出すことになるであろう。

●評価方法

平常点（ガイドブックづくりへの貢献度、プロジェクトへの意欲）により評価する。

●受講生へのコメント

応募時に、学生の「講義に参加することへの期待」というテーマで、レポートを提出してもらう。レポート提出など、その他情報については、「地域実践演習 ●受講上の注意」をよく確認すること。

本科目を通じたスキルの獲得、自己成長に強い意欲をもった学生の参加を期待したい。また、上述のように大学の近隣とはいえ現地フィールドワークが多くのウエイトを占めるため、通常授業時間外における現地取材、PCにおける作業など、一定の時間的、金銭的投資が発生することを了解の上、履修されたい。

●教材

担当教員や他のCR副専攻担当教員が過去に実施した同種のプロジェクトの成果（観光ガイドブック形式のものとしては、『TJ Style』『小江戸物語』『Re:すみよし』など）や、『るるぶ』をはじめとした旅行ガイドブックや各種の雑誌、観光パンフレットなどが参考資料となる。

[科目ナンバー : GE HUM 01 48 .CO]

掲載番号	科目名	現代の部落問題	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
59	英語表記	Buraku Issues in Modern Japanese Society						

●科目の主題

部落問題とは、どのような問題なのだろうか。部落差別は増えているのだろうか、減っているのだろうか。差別はなくなるのだろうか。日本社会の変化とともに、部落問題のあり方にも変化があるのだろうか。

また、部落問題は「もうない」「昔のことだ」、部落差別を「若い人はしない」という意見をいう人もあるが、一方で「厳しい現実はある」、「知らないだけだ」という意見もある。なぜ、これほどまで大きく認識が異なるのだろうか。

部落問題は、日本社会の構造と密接に関係した問題である。これらの問いについて考えることは、日本社会のある面について深く考えることでもある。

講義では、データや資料を用いながら、現代の部落問題がどのように生起しているのかを概観し、上記の問いについて考えていく。

さらに、2016年「部落差別の解消の推進に関する法律」が国会で成立し、施行された。この法が必要とされる背景には、どのような社会の状況があるのだろうか。部落問題に関する最新の議論についても考えていきたい。

●授業の到達目標

どうすれば部落差別をなくすことができるのか、部落差別が生じた場面でどのように対処すべきか、部落問題に関する言説をどのように解釈するのか、人に対してどのように部落問題を教えるのかといった点について、学生ひとりひとりが自分自身で考えて意見を述べられるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は、以下のような内容を中心におこなう。

- 1) 「部落問題とは何か」…ひとまずの定義

2) 近年の差別事象から、現在の差別のあり方を考える

3) 身元を調べるとのこと

4) 結婚差別を考える

5) もう一度「部落問題とは何か」を考える

また、2回程度、講師をお招きしての講義をおこなう。

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、前の回の講義レジュメに次回テーマを明記するので、そのテーマについて、各自で調べること。

事後学習としては、講義のレジュメおよび資料を読み直すこと。とりわけ、資料については、授業では主要な箇所の説明にとどまることがあるので、全体を通読すること。また、講義で配布されたコミュニケーションカードのまとめを読み直し、他の受講生の意見を把握すること。

●評価方法

出席、コミュニケーションカードの内容、期末の試験により判断する。

●受講生へのコメント

授業では、毎回、コミュニケーションカードを配布する。講義への意見や質問を求めるともあれば、設定された質問への回答を求めるともある。コミュニケーションカードを通じて、双方向的に授業をすすめるので、ただ講義を聞くだけではなく授業を構成する一員として参加してほしい。

また、授業に関連した書籍を少なくとも3冊読むことを希望する。

●教材

授業中に適宜、指示する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 49]

掲載番号	科目名	メディアと人権	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	中村 一成 (非常勤)
60	英語表記	Media and Human Rights						

●科目の主題

《人権》を軸に、メディア総体を巡る問題について考えるのが授業のテーマである。

マス・メディアの大きな存在意義とは、人々の「知る権利」に応え、民主主義の基盤「情報の平等」を実

現することにある。しかし新聞やテレビなどの既存メディアは、その役割を果たしているだろうか？ それを補う形で登場したインターネットの普及は、従来、国家や大企業の独占物だった情報発信を個人レベルで可能にし、それまで存在したさまざまな障壁を超えた

コミュニケーションの革命をもたらした一方で、以前は想像もつかなかった人権侵害を生み出している。

メディアと私、私たちの意識の関係を手初めに、ネットが差別意識を助長する問題や誰もが被害者、加害者双方になり得るネット社会の危険性について。また、マイノリティ報道に現れるマス・メディア（≒多数派の常識）の「意識」や、既存メディアによる人権侵害の構造などについて考えたい。

●授業の到達目標

メディアを鵜呑みにせず多角的に検証し、「人権」の観点から読み解く姿勢を身に付けること。「<知る権利><言論の自由>と人権」について自らの考えを展開できること。メディアを取り巻く問題から、日本社会それ自体の問題について抽出し、思考すること

●授業内容・授業計画

①総論◆②～④『『イスラム報道』から考える私、私たちの世界とは』。イスラム報道の問題点とは？「テロ報道」は何を明らかにし、何を覆い隠しているのか？◆⑤～⑦「総メディア時代とレイシズム」2013年以降、マス・メディアが報じ始めた排外主義団体の差別デモは、ネット普及を背景に拡大してきた。ハード面の発展による差別の流布、扇動は国際的な課題にもなっている。新たな「人権侵害」に私、私たちはどう対処すればいいのか？◆⑧～⑫「メディアはマイノリティとどう向き合ってきたか」しばしば表面化する

マス・メディアの「差別報道」。お詫びや検証などがなされつつも問題が繰り返される構造は？◆⑬～⑭『『犯罪報道』からメディアを読む』人権侵害と表裏の「犯罪報道」。その「有害性」は？なぜマス・メディアは事件報道を止められないのか？◆⑮試験

●事前・事後学習の内容

その週で一番興味深かったニュースや、授業で扱ったテーマについての見解を求める（コミュニケーションカードに記入してもらう）ことがあるので、マス・メディアに目を通す習慣を付け、講義と関連したり、自らの問題意識に合致するニュースについては常に新聞各紙やネットメディアを読み比べて欲しい。授業で紹介した本や映像作品については、出来るだけ目を通してほしい

●評価方法

テストとコミュニケーションカードの内容（出席でなく中身）で総合的に判断する。

●受講生へのコメント

講師は現役のフリージャーナリスト。経験を盛り込み、なるべく多くの「問い」を皆さんに提供し、共に思考を深めて行きたいと考えている。授業では映像資料などを頻繁に活用する。

●教材

授業ごとにレジュメや記事資料などをその都度、配布する。参考書籍は逐次、紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 50 .CO]

掲載番号	科目名	部落解放の フロンティア	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
61	英語表記	Frontiers of Buraku Liberation						谷元 昭信 (非常勤) 大北 規句雄 (非常勤)

●科目の主題

本講義は、部落解放のフロンティア（最先端）で活躍する2名の講師を招き、いま部落問題において、何が問題であり、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。

部落解放運動の歴史は、日本の社会運動においても主要な位置を占めており、その動向を知ること、この社会が人権を守る社会になるためのビジョンを、われわれに教えてくれるだろう。

部落問題は、「古い」問題ではない。日本社会の変容とともに、あるいは部落そのものの変容とともに、新しい視角や新しい課題がみえてくる。実践の最先端にいる講師に、最新の状況について講義してもらう。

●授業の到達目標

部落解放の最先端で活躍する2名の講師の講義を通じて、人権が守られる社会とはどのようなものか、そのような社会が構築されるために担えることは何かといった点について、受講者自身がビジョンを持てるよ

うになることが本講義の到達目標である。

●授業内容・授業計画

本講義は、オムニバス形式でおこなう。齋藤直子(本学、人権問題研究センター)が全体をコーディネートする。

本講義は、受講生がすでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育・部落問題学習を受けていない人は、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

授業計画は次の通りである。

- 第1回目：[齋藤担当] 部落解放運動の歩みを振り返る
- 第2回目：[谷元担当] 谷元先生講義のイントロダクション
- 第3回目：[谷元担当] 部落差別の実相と現状に関する認識論

- 第4回目：[谷元担当] 明治維新以降の部落差別の実態変遷
- 第5回目：[谷元担当] 部落差別を生みだす社会的背景への考察
- 第6回目：[谷元担当] 部落解放運動の歴史と日本の社会運動
- 第7回目：[谷元担当] 部落差別克服への基本方向と課題
- 第8回目：[谷元担当] 谷元先生講義のまとめ
- 第9回目：[大北担当] 排除と隔離の100年を問う
- 第10回目：[大北担当] 2000年大阪府部落実態調査が示したもの
- 第11回目：[大北担当] セツルメントから隣保館へ
- 第12回目：[大北担当] 福祉と人権のまちづくりへの挑戦
- 第13回目：[大北担当] 部落の経験を社会発展の糧に
- 第14回目：[齋藤担当] 識字や聞き書きの実践と「社会運動」
- 第15回目：[齋藤担当] まとめと補足的な講義

●事前・事後学習の内容

受講生にはレジュメ集を配布するので、各講義分の

レジュメと資料を通読すること。事後学習としては、レジュメおよび資料を再読し、講義の内容を確認しなおすこと。それを踏まえて、コミュニケーションカードに書いた内容について、考えを深めること。

●評価方法

出席、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、2名の講師それぞれが課す課題から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実際に、部落解放運動の現場で活躍されている方々に講師になっていただき、実践的な立場からの議論を展開する講義である。その議論を十分に理解するためには、受講生は基礎的な部落問題の知識が必要である。したがって、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講したり、部落問題関連の書籍をあらかじめ読んでおくことを強く希望する。

●教材

それぞれの講師が、講義レジュメを配布する。なお、2名の講師それぞれの初回にあたる第2回と第9回には、レポートの課題についての説明があるので、必ず出席してもらいたい。

参考文献は、講義レジュメを参照されたい。

[科目ナンバー : GE HUM 01 51 .CO]

掲載番号	科目名	部落差別の成立と展開	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	上杉 聡 (非常勤)
62	英語表記	History of Discrimination against Buraku						

●科目の主題

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、学生諸君は小、中、高の段階である程度学んできたと思う。「士農工商えた非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初めにあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究は、とくにこの30年間めまぐるしく進展し、そうした固定観念は大きく変えられている。本講義では、最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史（中世から現在まで）について、平易に、しかし本格的に、学問として検討したい。

●授業の到達目標

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることが、現状を知り、将来の展望を導き出すために不可欠だ。大学に学んでいるこの機会に、部落問題をいちど根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、ぜひとも歴史学（実証と全体性）を通して深く考える方法を知ってもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

第1回 なぜ部落の歴史を勉強するのか

- 第2回 「士農工商穢多・非人」のまちがい
- 第3回 「社会外」という部落のあり方
- 第4回 「部落は江戸時代に作られた」のまちがい
- 第5回 中世の部落の姿
- 第6回 戦国時代に部落に生じた変化
- 第7回 差別制度が江戸時代に本格化
- 第8回 討論
- 第9回 差別のゆるみと強制
- 第10回 賤民制度の廃止と限界
- 第11回 近代の差別と水平社の挑戦
- 第12回 日本国憲法と戦後の部落
- 第13回 大阪市立大学と部落差別
- 第14回 被差別部落からのお話（外部講師）
- 第15回 予備

●事前・事後学習の内容について

おおむね1回の講義で教科書の1章を取り扱う。各章は講義内容と史料に分かれているので、少なくとも講義内容を読んで予習しておくこと。史料も、むづかしい単語には注を付けているので、だいたい理解をしておけば、確実に講義に付いていくことが出来る。事後は、史料の分からなかった箇所をもう一度読み返し、

講義内容と史料とを結びつけることが出来れば学習は完了する。

●評価方法

期末試験（50点満点）と出席（50点満点）で評価する。

●受講生へのコメント

真実は人を自由にする。厳しく不条理な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私たちの精神は自由となり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しい。もし、お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がいれば、その人をガッカリさせてあげたいし、

大学らしい知性溢れる授業にしたい。ただし、採点は厳密に行い、不勉強かつ欠席が多い場合は容赦なく欠点にします。

●教材

教科書（毎回授業で使用し、試験にも使用するので、必ず入手ないし購入すること）

上杉 聡『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社）

参考書

上杉 聡『これでなっとく！部落の歴史』（解放出版社）

[科目ナンバー : GE HUM 01 52]

掲載番号	科目名	世界のマイノリティ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	川越 道子（非常勤）
63	英語表記	Minorities of The World						

●科目の主題

国境を越える人の移動が加速している現代世界において、私たちは日常生活の中でマイノリティとされる社会的弱者と出会ったり、生活をともにしたり、あるいは自分自身がマイノリティとなる状況下に置かれている。日本社会においても、社会の構成員が一層多様化しつつあり、多文化共生社会の実現が唱えられる一方で、少数者を排斥する発言や活動が社会問題となっている。こうした背景を踏まえて本授業では、マイノリティをめぐる社会の課題を検討し、改めてマイノリティの人権について考えたい。

「世界のマイノリティ」という科目名ではあるが、私たちが暮らしている社会を見つめ直すところからはじめたいため、授業では、主に日本のエスニック・マイノリティを取り上げていく。具体的には、「多文化共生」という概念が広まる契機となった震災後の神戸やその地に生きる在日ベトナム人をはじめ、主に1980年代以降来日した日系人、外国人研修生・技能実習生の現状を取り上げて、他国の状況と比較しながら、マイノリティの直面する諸課題について考察する。

●授業の到達目標

日本のマイノリティの現状について理解を深める。日常生活の中に潜む課題を見出し、明らかにする視点、そしてその課題に対して自らどのように向かい合うかを考え続ける思考力を身につける。自己／他者理解を深めつつ、人権感覚を養うとともに、異文化コミュニケーション能力の向上を目指す。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション

- 第2～3回 グローバルな人の移動とマイノリティ
- 第4～5回 マイノリティと人権①：労働を考える
- 第6回 ゲスト講演
- 第7～8回 マイノリティと人権②：震災と多文化共生
- 第9～10回 マイノリティと人権③：教育と若者を考える
- 第11回 ゲスト講義
- 第12～14回 マイノリティと人権④：市民活動の現状と展開
- 第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業の前後に授業内容に関する課題が記載された課題シートを配布する。各自、授業の予習、復習として課題シートを完成させて、授業中に提出すること。

●評価方法

出席、ミニレポートの提出を含む平常点（60%）、および期末レポート（40%）を総合して評価する。

●受講生へのコメント

受講生参加型の授業を行う。講義にもとづいた課題を提起し、教員・受講生同士、対話を重ねる時間を重視する。性急にひとつの答えを求めるのではなく、異なる意見を聞き、忍耐強く対話を重ねる姿勢を期待する。積極的に授業に参加する人、繊細な感覚をもって他者の発言を聴く意欲のある人とともに対話の空間を創ることを目指したい。

●教材

教科書は特に指定しない。適宜、参考文献を紹介し、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 53]

掲載番号	科目名	障がい者と人権 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	松波 めぐみ (非常勤)
64	英語表記	Human Rights of Peoples with Disabilities I						

●科目の主題

2016年7月、神奈川県相模原市にある障害者施設で大量殺傷事件が起こった。元施設職員である容疑者はなぜ「障害者なんていなくなればいい」と考えるに至ったのか、こうした考え（優生思想）が容疑者だけのものではないとしたら、どのような背景があるのか。そして事件の被害者の顔や名前が公表されていないのはなぜなのか。――このような疑問は尽きることがない。事件は、現代の日本社会における障害のある人を取りまく状況と決して無縁ではなく、大きな課題を突き付けているといえる。

そもそも「障害者」と呼ばれる人たちは、なぜ生まれた場所から遠く離れた施設に入所させられたり、近所の子どもと別の学校に行くことを強要されたりしたのだろうか？ そもそも、「障害」って何なんだろう？

――それを何より問うてきたのは、障害をもつ人たちである。かれらは1970年頃から、健常者中心の社会のあり方（社会構造や価値観）を告発し、地域社会のなかで「共に生きる」ことを模索してきた。その結果、まちは少しずつ変わってきた。さらに障害者運動の主張を理論化する努力が実を結び、2006年に国連で障害者権利条約が採択された。日本もついに2014年1月に条約を批准し、「障害者差別解消法」も2016年4月から施行された。

それでも相模原事件は起き、「時計の針が四十年逆戻りした」ように感じている人もいる。改めてこの社会の何が変わり、何が変わらぬ課題としてあるのかを確認していく必要がある。

この授業では 「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害（者）と社会について学んでいく。障害をもつゲストの方を数回、教室にお呼びし、直接お話をうかがう予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」「インクルーシブ教育」など、障害者権利条約の基本概念を理解するとともに、現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分なりの問題意識をもてるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション

- 第2回 自立生活について、ゲスト講義（予定）
- 第3回 障害者はどう社会を変えてきたのか？ ～自立生活運動から～
- 第4回 優生思想を考える ～「相模原事件」を通して
- 第5回 障害の「社会モデル」と「障害者権利条約」
- 第6回 交通アクセスを考える ～誰もが乗れるバス、電車をめざして～
- 第7回 災害のとき、障害者は？
- 第8回 ゲスト講義（予定）
- 第9回 情報・コミュニケーションの権利を考える
- 第10回 「盲ろう者」とコミュニケーション
- 第11回 インクルーシブ教育の意義と「合理的配慮」
- 第12回 ゲスト講義（予定）
- 第13回 差別のない街を目指して～障害者差別解消法と地方条例～
- 第14回 障害者差別解消法を生かすために
- 第15回 試験（課題レポート作成）

●事前・事後学習の内容

（事前学習）

講義ごとに次回のテーマを伝え、事前に読んでおく必要がある資料があれば指示する。

また講義内容に関連した本やテレビ番組についても、適宜案内し、学習をうながす。

（事後学習）

講義中に随時、関連する参考図書や雑誌記事、参考になるブログ記事等を紹介し、学習内容を深めるよう求める。

●評価方法

平常点、および最終回の試験により評価を行う。

●受講生へのコメント

「なんとなく」ではなく、積極的な受講を期待する。ふだんから障害のある人に関わる報道に注意する、学内の「障がい学生支援」に参加する等するなどして、講義で得る学びを最大限にしてほしい。

●教材

教科書は特にない。適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 54]

掲載番号	科目名	障がい者と人権Ⅱ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	松波 めぐみ (非常勤)
65	英語表記	Human Rights of Peoples with Disabilities II						

●科目の主題

「障害」の世界にパラダイム・シフトが起こっている。かつて「障害」とは医学的・個人的問題であり、治療やリハビリテーションによって克服すべきものとされてきた。障害をもってうまれてきた子ども（障害を負った人）は、「障害の軽減、克服」のためには地域で暮らすことや、共に学ぶことや遊ぶことをあきらめることを余議なくされ、他の人と同じ「権利」が無くてもしかたがないとされてきた。

そんな社会に対して、障害者は異議をとくえ、「障害の社会モデル」（個人の身体的欠陥ではなく、バリアや偏見などの「社会的障壁」こそが、障害者と括られた人を生きづらくさせている。変わるべきは社会である）という考え方をうみだし、それをテコに社会を変えてきた。この「障害の社会モデル」を理論化したのが、1980年代から発展してきた「障害学」（ディスアビリティ・スタディーズ）である。

この授業では、「福祉」ではなく「人権」の課題として、障害（者）のことを学んでいく。「障害者と人権Ⅰ」が、障害者運動や障害者権利条約に力点があったのに対して、Ⅱでは「障害学」にふれ、「文化」やメディアのあり方等を含め、より多角的に社会のあり方を見ていきたい。Ⅰと同様、ゲストの方を数回お呼びする予定である。

●授業の到達目標

「障害の社会モデル」「優生思想」「インクルーシブ教育」など、障害者と人権の基本概念について理解を深める。現在の日本社会で切実な課題となっている事柄について、自分なりの問題意識をもてるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 「障害」ということばと「障害学」

第3回 「障害の社会モデル」とその意義

第4回 インクルーシブ教育とその課題

第5回 ゲスト講義（予定）

第6回 「ろう文化」の世界

第7回 発達障害と「文化」

第8回 精神障害をもつ人のコミュニティ

第9回 知的障害のある人と地域生活

第10回 ゲスト講義（予定）

第11回 複合差別を考える（女性障害者）

第12回 「障害」とメディア

第13回 「働くこと」を考える

第14回 改めて考える「障害者の権利」

第15回 試験（課題レポート作成）

●事前・事後学習の内容

（事前学習）

講義ごとに次回のテーマを伝え、事前に読んでおく必要がある資料があれば指示する。

また講義内容に関連した本やテレビ番組についても、適宜案内し、学習をうながす。

（事後学習）

講義中に随時、関連する参考図書や雑誌記事、参考になるブログ記事等を紹介し、学習内容を深めるよう求める。

●評価方法

平常点、および最終回の試験により評価を行う。

●受講生へのコメント

「なんとなく」ではなく、積極的な受講を期待する。ふだんから障害のある人に関わる報道に注意する、学内の「障がい学生支援」に参加する等するなどして、講義で得る学びを最大限にしてほしい。

●教材

教科書は特になし。適宜、資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 55]

掲載番号	科目名	平和と人権	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	高 誠晩 (非常勤)
66	英語表記	Peace and Human Rights						

●科目の主題

本講義では、「平和」と「人権」を、1945年を前後とするアジア太平洋、その中でもとくに島嶼地域における紛争経験を中心に、戦争遺跡と基地、メモリアル

（モニュメントや記念館）、弔い（慰霊と追悼）、歴史認識をめぐる諸問題などを主なキーワードにして考察する。

●授業の到達目標

植民地支配、「太平洋戦争」、東西冷戦構造の出現というアジア太平洋地域に激動をもたらした20世紀中葉における暴力現象とその「後」について着目して、なにゆえこうした紛争が引き起こされたのか、そしてその経験はどのように記憶され言説化されてきたのか、さらにその「負の歴史」はいかに乗り越えられ、正義と和解、共生が達成されようとしているのかという、今日のアジア太平洋地域の根幹を規定する問題を解明する可能性を模索することに本講義のねらいがある。具体的には、20世紀前半のアジア太平洋地域において植民地体制の中心部であった日本と、そこからマージナルな島嶼地域といわれる南洋群島（とくに、現在の北マリアナ諸島）、南西諸島、濟州島、台湾などを射程におさめつつ、また各々の地域からマクロなアジア太平洋地域の体制移行を検証する国際比較の試みを通して、今後アジア太平洋地域の平和定着と人権伸長、相互理解の方途を模索するにあたってよりダイナミックな見方で考察できるようにすることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回～3回 20世紀アジア太平洋の島嶼地域における紛争経験といかに向き合うか
- 第4回～5回 遺跡と基地が語る紛争の記憶
- 第6回～7回 記念館における再現と表象

- 第8回～9回 モニュメントに刻まれた紛争の記憶
- 第10回～11回 大量死の意味づけと吊いのポリテクス
- 第12回～13回 「過去の克服」をめぐる歴史認識の諸問題
- 第14回 アジア太平洋地域における「平和」と「人権」
- 第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回の講義前後、参考文献および配布資料をもとにした講義内容の予習・復習を行ってください。

●評価方法

平常点（出席点30%、小テスト20%×2回）及びレポート試験（30%）などの成績を合わせて評価する。レポート未提出者の成績評価は「F」とする。

●受講生へのコメント

授業に積極的に参加することを通して、「平和」と「人権」についての自分なりの問題意識と考え方を整理することを期待する。受講希望者は、第1回のイントロダクションに必ず出席すること。受講定員は150名を上限とする。

●教材

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。講義は配布資料およびビデオやスライドの画像資料を中心に行う。

[科目ナンバー : GE HUM 01 56]

掲載番号	科目名	平和学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	役重 善洋（非常勤）
67	英語表記	Peace Studies						

●科目の主題

授業では、パレスチナ問題の学際的な学習を通じて、平和学の基本テーマである、構造的暴力論、植民地主義論、国際人権・人道法、戦争責任論、NGO論等を概観する。日本の学校教育・メディアを通じて、パレスチナ問題を正確に理解する機会は極めて限られている。そのこと自体、私達が国際関係の網の目のなかでどのような位置にあるのかの一端を示している。実際には、この問題は様々なかたちで東アジアに暮らす私達の社会・経済・政治に大きな影響を及ぼしている。15回の授業を通じ、パレスチナ問題の歴史と現在についての基本的な知識を伝えると同時に、そのことが私達の生活とどのように関わっているのかについて様々な視角から考察する。そのことによって、平和問題における自らの当事者性を認識し、個人と集団（民族・国家・市民社会etc.）と国際平和とがどのように相互連関しているのかについて具体的なイメージが掴めるようにする。

●授業の到達目標

占領・離散・民族浄化の中を生き続けるパレスチナ人の歴史と現在を知り、また、パレスチナ問題に取り組む様々な市民社会・NGO等の取り組みを学ぶことを通じて、グローバルな平和問題を自分自身の課題として捉えるための基礎的な知識と視点を獲得する。とりわけ、日本を取りまく種々の平和問題とパレスチナ問題とがどのように関係しているのかについて考察することを通じて、主体的に国際平和を展望するための複眼的思考力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1回 導入：平和学とパレスチナ問題
- 第2回 歴史：列強の中東進出と第一次大戦
- 第3回 歴史：第二次大戦とパレスチナ問題の発生
- 第4回 歴史：占領の恒常化とパレスチナ解放運動
- 第5回 歴史：オスロ合意とその挫折
- 第6回 各論：反ユダヤ主義・シオニズム・イスラモフォビア

- 第7回 各論：アメリカの中東関与／メディアリテラシー
- 第8回 各論：イスラエルの核問題／中東における安全保障
- 第9回 各論：パレスチナ問題と国際法・国際機構
- 第10回 各論：非暴力抵抗運動の展開と様々な和平案
- 第11回 日本とパレスチナ：植民地支配責任と修復的正義
- 第12回 日本とパレスチナ：対テロ戦争・ODA・平和構築
- 第13回 日本とパレスチナ：パレスチナ連帯運動とフェアトレード
- 第14回 ユダヤ人問題とパレスチナ問題(外部講師・予定)

第15回 ガザから見るパレスチナ問題 (外部講師・予定)

●事前・事後学習の内容

事前学習については、必要に応じて次回授業までに読むべきプリントを配布する。事後学習については、授業毎に推薦文献をレジメに記載する。

●評価方法

コミュニケーションカード(50点)・期末レポート(50点)によって評価を行う。

●受講生へのコメント

分からないことは、授業中、あるいは、コミュニケーションカードで、積極的に質問してください。

●教材

各回毎にレジメを配布する。他、適宜映像資料を用いる。

[科目ナンバー : GE HUM 01 57]

掲載番号	科目名	ジェンダーと現代社会 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	古久保 さくら (人権C) 他
68	英語表記	Gender in the Modern Society I						

●科目の主題

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とメディアという領域と、大学を卒業して出て行く労働社会の領域を中心に、ジェンダー化された現代社会の現状について、考察したい。

●授業の到達目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるもののできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

そのうえで、大学卒業後の生活においてジェンダー化されている社会の中で、主体的に生きる力を身につけることを期待する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～ 5回 メディアにおけるジェンダー：CM、アニメ、ニュースに関連して
- 第6回 グループディスカッション
- 第7回～10回 教育におけるジェンダー平等をめざして
- 第11回～ 14回 労働社会におけるジェンダー
- 第15回 まとめ 質疑応答

●事前・事後学習の内容

毎回の授業に関連するジェンダーに関する社会問題

について新聞・雑誌・WEBなどで情報を得る努力をして授業を受けてほしい。特に、グループディスカッションの前には、何を語るかを事前にまとめておくこと。授業後は、授業時に紹介したデータの情報源を確認すること、紹介した新聞・雑誌・WEB情報などを読んでおくことを推奨したい。また、分からないテクニカル・タームなどは必ず自分で調べておくこと。

●評価方法

毎回提出するコミュニケーションカードに基づく出席点(40点満点)・中間レポート(10点満点)・最終レポート(50点満点)により評価する。

中間レポートの提出とコミュニケーションカードの提出(13回分)のうち8回以上ない者の最終レポートの提出を認めない。

レポートの課題などについては、初回授業時に説明する。

●受講生へのコメント

本科目では、ジェンダー平等教育のための市民活動の実践経験のある非常勤講師を複数お迎えする。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード(感想文)の提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「Gender Paper」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。ボランティアとして関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、30分以上の遅刻者は出席とはみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。

それ以外にも随時指示する予定である。

何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 58]

掲載番号	科目名	ジェンダーと現代社会Ⅱ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	古久保 さくら (人権C) 他
69	英語表記	Gender in the Modern Society II						

●科目の主題

本科目では、ジェンダースタディーズという学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に取り上げる。メンズ・リブ運動の市民活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定であり、セクシュアリティとジェンダーをめぐる課題を人権という視点から考察する。

第15回 質疑応答とレポート提出

●授業の到達目標

各テーマに関連して様々な観点からの問題提起型の授業をおこなう。講義を通じて、それぞれのテーマのもつ複雑さを理解し、物事を複眼的に考察するという能力を養うこと、関連問題の解決のための方策をとともに考えるという姿勢を習得することが、本科目の到達目標である。

●事前・事後学習の内容

毎回の授業に関連するジェンダー問題について、新聞・雑誌・WEBなどで情報を得る努力をして授業を受けてほしい。特に、グループディスカッションの前には、何を語るかを事前にまとめておくこと。授業後は、授業時に紹介したデータの情報源を確認すること、紹介した新聞・雑誌・WEB情報などを読んでおくことを推奨したい。また、分からないテクニカル・タームなどは必ず自分で調べておくこと。

●授業内容・授業計画

- 第1回 インTRODククション(古久保)
- 第2回 若者の性行動とジェンダー(古久保)
- 第3回 身近にある性暴力(古久保)
- 第4回 性暴力被害者の心理と援助者の役割(周藤由美子)
- 第5回 グループディスカッション：(古久保)
- 第6回 性暴力禁止法をつくるとりくみ(周藤由美子)
- 第7回 貧困・性サービス産業への水路づけ(古久保)
- 第8回 人身売買と性の商品化(古久保)
- 第9回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ(乗井弥生)
- 第10回 男性性とセクシュアリティ：デートDVを中心に(中村彰)
- 第11回 グループディスカッション：(中村彰)
- 第12回 性の商品化：売り手の主体化(古久保)
- 第13回 セクシュアリティ・生殖の自由・権利(古久保)
- 第14回 「自己責任」を考える：まとめにかえて(古久保)

●評価方法

毎週提出するコミュニケーションカードに基づいた出席点(40点満点)ならびに15回時に提出するレポート(60点)による。

コミュニケーションカード提出(13回分)が8回以下の者はレポート提出を認めない。

レポートの課題などについては、授業初回に指示する。

●受講生へのコメント

ある程度ジェンダーに敏感な視点をもった学生を対象としており、「ジェンダーと現代社会Ⅰ」を既習していることを前提に授業を進める。なお、本科目はヘテロセクシュアル間の問題を中心に進める。

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめてつくられる「Gender Paper」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

なお、グループワークなどがあるため、15分以上の遅刻はみとめない。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 59 .CO]

掲載番号	科目名	エスニック・スタディ 入門編	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	朴 一 (経)
70	英語表記	Ethnic Study I						

●講義の主題

この講義では、在日外国人の人権をめぐる諸問題について学ぶ。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても大きく減少せず、在日外国人の実数は200万人を超えている。このうちの日本に最も長い居住歴を持っているのは在日コリアンで、彼らの多くは、戦前・戦中期にさまざまな事情で日本に渡ってきた人達とその子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本で育ち、日本社会のさまざまなフィールドで活躍している。

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、労働条件、結婚、新居探しなど人生のさまざまな場面で、日本社会から人種的な迫害や差別を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が起こるのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業の到達目標

在日外国人問題についての基本的知識を身につけ、多文化共生社会に対応する多様性と人権感覚を養う。

●講義内容・授業計画

講義では、以下の在日外国人に関するトピックスについて、講師による事例解説、視覚教材の提供、問題の出題と各自からの回答、ディスカッションという順で授業を進める。

1. イントロダクション：外国人労働者受け入れの功罪について議論する。
2. ダーリンは外国人：外国人と恋愛と結婚について考える
3. ジャパニーズ・オンリー？：外国人への入居拒否問題、その背景と対応について考える。
4. 日本の中の外国人学校：民族教育権について考える
5. あなたは在日の歴史を知っていますか：在日コ

リアンの来歴について学ぶ

6. 二つの大震災と在日外国人：震災時の在日外国人への対応について考える
7. 神風特攻隊として散った在日コリアン：在日外国人への戦後補償について考える①
8. 忘れられた皇軍兵士たち：在日外国人の戦後補償について考える②
9. 外国人への指紋押捺をめぐる論争：在日外国人の法的地位について学ぶ
10. 無年金外国人は訴える；在日外国人の社会保障のあり方について考える
11. 同情するなら職をくれ：在日外国人の就業問題について考える
12. 永住外国人への参政権に付与問題：永住外国人の政治参加の問題の是非を議論する
13. ある帰化代議士の神話：在日外国人の日本籍取得問題について考える
14. 孫正義の挑戦：日本経済における移民企業家の役割について学ぶ
15. 在日コリアン新世代の生き方：在日コリアンのアイデンティティの変化について学ぶ

●事前・事後の学習の内容

講義でとりあげる各トピックスについて、テキストの該当箇所を事前に読み、基本的知識を身につけて講義に臨むこと。また講義では次回までの課題を出すので、かならず予習しておくこと。

●評価方法

コミュニケーションカード、レポート、テストを総合して採点。

●テキスト

- ・朴一『僕たちのヒーローはみんな在日だった』講談社文庫、2016年
- ・朴一『越境する在日コリアン』明石書店、2015年

[科目ナンバー : GE HUM 01 60]

掲載番号	科目名	企業と人権	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	李 嘉永 (非常勤)
71	英語表記	Business and Human Rights						

●科目の主題

今日、企業の社会的責任（CSR）を求める動きが、

各方面で高まっています。CSRとは、事業活動に社会的公正さや環境への配慮を組み込み、多様なステーク

クホルダーに対して説明責任を果たしていくことを指しますが、その重要な問題領域の一つとして、人権問題が挙げられます。その背景には、経済不況のもとで、職場が余裕をなくし、しばしば人権侵害が発生していることが指摘されています。

そこで、この講義では、企業経営のさまざまな側面で発生している人権問題について概観し、その改善のために実施されているCSRの取り組みを紹介したいと考えています。

●授業の到達目標

企業を評価する際に、経済的指標に留まらず、社会的指標・環境的指標を含めた「トリプル・ボトムライン」を用いて判断できる思考を習得してほしいと考えています。また、企業が事業展開するにあたって、社会問題、とりわけ人権に関わる問題に対し、肯定的な影響を及ぼしうる配慮を組み込む工夫を理解していただければと思います。

●授業内容・授業計画

概ね、次のような構成で講義を進めたいと考えています。

1. イントロダクション：企業の社会的責任の概念
2. CSR促進の多様なツール
3. 労働問題(1)
4. 労働問題(2)
5. セクシュアル・ハラスメント
6. パワー・ハラスメント
7. 女性と労働
8. 障がい者の雇用促進
9. 非正規労働をどう考えるか

10. 児童労働・強制労働
11. 少子化対策
12. 消費者保護
13. サプライチェーンと人権
14. 人権問題解決に向けた社会貢献活動・NGOとの協働

●事前・事後学習の内容

講義レジュメに、参考文献や関連資料を紹介しておりますので、適宜参照してください。

また、講義の際に、振り返りや次回の講義に関連する簡単な課題を出すことがあります。その際には、A4のレポート用紙1枚程度に、その成果をまとめて講義の際に提出してください。

●評価方法

期末に試験を実施しますが、授業中にも、数回小テストを実施できればと考えています。小テストは、数回の講義を簡単に振り返るものですから、復習を欠かさないようにしてください。

配点は次の通りです。

期末試験：80点

小テスト：20点

●受講生へのコメント

毎回コミュニケーション・カードをお配りしますので、ご意見・ご感想を自由に書いてください。

また、ご質問等については、レジュメにメールアドレスを記載しますので、メールでも受け付けています。

●教材

教科書は特には指定しません。毎回レジュメを配布します。

[科目ナンバー : GE HUM 01 61]

掲載番号	科目名	地球市民と人権	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	阿久澤 麻理子 (創)
72	英語表記	Global Citizenship and Human Rights						

●科目の主題

人権の基礎的な概念とそれを実現するメカニズムを学んだのち、複数の国内外における「議論のある課題」(controversial issues)を取り上げ、現代社会における人権問題をグローバルな視点から理解する。

●授業の到達目標

憲法・国際人権のメカニズムについて知り、現代社会に生起する諸問題を「権利を基盤に据えた」視点からとらえることができるようになること。批判的思考を通して、自分自身の意見を持てるようになること(将来的には、その考えをグローバルに発信できるようになる主体となってほしい。授業はその基礎となるような内容とする)。

●授業内容・授業(順番は変更することがある)

1. 人権と人権を実現するメカニズムについて (human rights concepts and mechanisms) 2回
2. 生命への権利(right to life) 医療による自死援助の例から
3. ジェンダーとダイバーシティ (gender mainstreaming and diversity) 2回
4. 複合差別 (multiplying and intersecting discrimination)
5. 表現の自由とヘイトスピーチ (freedom of expression and hate speech)
6. インターネット上の排外主義 (online exclusivism)
7. 現代的レイシズムとアファーマティブアクション

ン
(modern racism and affirmative action)

8. 部落差別の現代的諸相
(contemporary issues related to Buraku discrimination) 2回
9. 見えないマイノリティ
(invisible minorities)
10. 歴史修正主義ってなに?
(What is historical revisionism?)
11. 選挙より消費主義?
(consumerism over election?)
12. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に翌週取り上げる課題について資料を配布する

こともあるし、インターネットでの調べ学習を求めることもある(日本語・英語)。資料を読み、事前に調べ学習をしたうえで、参加すること。

●評価方法

出席(授業への参加)・テストによる

●受講生へのコメント

連絡先: akuzawa@gsc.osaka-cu.ac.jp (杉本・サテライトキャンパスの両方にいるため、何かあればメール連絡が確実)

●教材

プリントを配布する。そのほか必要に応じて紹介する。

[科目ナンバー : GE HUM 01 62]

掲載番号	科目名	エスニック・スタディ (演習)	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	朴 一(経)
73	英語表記	Seminar : Ethnic Study						

●科目の主題

その昔、在日コリアンは海峡を越えて日本に渡ってきた。それから100年、在日コリアンは、この日本で生活基盤を築き、営々と生きてきた。彼らにとって、この日本が生活の場であり、闘いの場であり、活躍の場でもあった。彼らにとって日本とは何だったのか。また在日コリアンは日本人の眼にどう映ってきたのか。

この講義では、日本で公開されてきた映画・ドラマ・ドキュメンタリーに描かれてきたさまざまな在日コリアンの姿を通じて、在日コリアンと日本(日本人)との関係を歴史的に検証してみたい。また、さまざまな映像に登場する在日コリアンという視点から、日韓・日朝関係の断面に迫ることができればと考えている。映画・ドキュメンタリーや映画評論に興味がある学生の受講を期待している。

●授業の到達目標

在日外国人問題に対する理解を深め、多文化共生社会に対応できる多様性を身につける。

●講義内容・授業計画

1. 記録映画「在日」の観賞と解説:在日コリアンの歴史を理解する
2. 映画「キューポラのある街」の観賞と解説:1960年代の映画に描かれた在日のイメージについて考える
3. ドキュメンタリー「帰国船」の鑑賞と解説:帰国運動の歴史的背景について考える
4. ドラマ「金(キム)の戦争」の観賞と解説:キム・ヒロ事件について考える
5. 映画「K T」の鑑賞と解説:金大中拉致事件の

政治背景を考える

6. ドキュメンタリー映画「指紋押捺拒否」の鑑賞と解説:在日外国人の諮問押捺拒否運動について考える
7. TVドキュメンタリー「在韓被爆者」の鑑賞と解説:在韓被爆者問題について考える
8. TVドキュメンタリー「東九条40番地は今」の鑑賞と解説:京都の朝鮮人密集地域の形成過程について学ぶ
9. TVドキュメンタリー「韓国人戦犯の悲劇」の鑑賞と解説:在日外国人への戦後補償について考える
10. TVドキュメンタリー「ウトロ:置き去りにされた街」の鑑賞と解説:京都のウトロ問題について考える
11. TVドキュメンタリー「イムジン河」の鑑賞と解説:名曲「イムジン川」の謎に迫る
12. 映画「パッチギ!」の観賞と解説:日本の中の朝鮮学校について考える
13. ドキュメンタリー映画「ディア・ピョンヤン」の鑑賞と解説:日朝関係について考える
14. ドラマ「李くんの明日」の観賞と解説:在日コリアンの生き方について考える
15. フィールドワーク:「猪飼野を歩く」

●事前・事後の学習内容

講義でとりあげる映像教材を事前に鑑賞し、講義で出された問題について次回の講義までに考察しておくことが望ましい。

●評価方法

コミュニケーションカード、レポート、期末テストを総合して採点

●教材

そのつどプリントを配付

[科目ナンバー : GE HUM 01 63]

掲載番号	科目名	人権の多様性の研究 (演習)	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
74	英語表記	Seminar: Research of Human Rights and Diversity						

●科目の主題

日常生活やメディアの中で、普段から気になっているが深く考えたことのなかった人権問題・差別問題はないだろうか。あるいは、日常において「これは人権問題なのではないか」といった疑問を抱いたことはないだろうか。それらについて、実際に自分で調べ、グループで議論して、認識を深めていくのが本演習の主題である。

●授業の到達目標

受講生ひとりひとりの持っている問題関心について、関連する資料を収集し、考察し、議論をすることを通じて、その問題について一定の知識を備え、論理的な主張ができるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

演習では、1) まず最初に、関心をもっている差別問題・人権問題について報告をおこなう。2) その報告について、受講生全体で議論をおこなう。議論を通じて、新しい視点を獲得したり、さらなる課題を発見する。3) 議論で得た視点や課題をふまえてテーマを設定する。4) 関連する書籍や調査研究報告、雑誌論文、新聞資料、実践記録、報告書などを収集する。5) それらの文献を、通読、分析し、報告する。6) 一定数の文献を読んだ上で、中間報告をおこなう。7) 中間報告をふまえ、さらに文献を収集する。8) 他の受講生の意見も求めながら、最終レポートにまとめる。

受講生が多数の場合、グループに分けて、グループごとに上記1)～3)を行い、グループとしての共通の研究テーマを設定してもらおう。その共通テーマに沿って、受講生ひとりひとりのサブテーマや役割分担を決める。

●事前・事後学習の内容

事前学習として、各自の研究テーマに沿った文献や

資料を収集し、リストを作成し、通読してくることを求める。また、報告者に当たったものは、レジュメを作成する。事後学習として、他の報告者が配布した文献や資料を通読することを求める。

●評価方法

報告や議論での積極性などの平常点と、最後に提出するレポートによって評価する。当初持っていた問題関心について、演習内での報告や議論を通じて認識を深め最終レポートを仕上げているプロセスを重視する。したがって、出席回数と最終レポートだけで、単位を確実に取得できるというわけではない。

●受講生へのコメント

本演習の受講の前提として、すでに主題「社会と人権」に属する科目をいくつか受講しているか、現在受講していることを希望する。

また、受講生には自分の問題関心によってテーマを決め、課題を発見して、レポートを作成してもらうため、差別問題や人権問題への関心や問題意識を強く抱いている学生の受講を望む。

演習では、それぞれのテーマに沿ってレジュメを作成して報告してもらおう。また、他の受講生の報告に対しても、積極的に議論に参加してもらいたい。また、討論は単発ではなく本演習を通じて持続的に展開していくので、継続的な出席が必要である。

演習科目のため、受講者数は20名以内がのぞましいため、受講制限をする場合もありうる。

●教材

教材はとくに定めない。発表者は、レジュメおよび資料を全員に配布するように準備しておくこと。レジュメおよび資料は、人権問題研究センターのコピー機で印刷することができる。

[科目ナンバー : GE HIS 01 01]

掲載番号	科目名	日本史の見方	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	磐下 徹 (文)
75	英語表記	An Introduction to the Japanese History						

●科目の主題

「歴史資料からみた日本史」

本講義は、日本古代史を中心とした多様な資料（史書、古記録、法制史料、金石文、出土文字資料など）をとりあげ、その読解を通じて日本史の世界を多面的に描き出すことを目的としている。

●授業の到達目標

歴史学研究の基本は資料の読解にある。資料（データ）に即した事実の抽出と考察は、歴史学に限らず広く大学での学びに必要なスキルであり、また社会に出ても役立つ力である。

本講義を通して「客観的な事実にもとづき、物事を注意深く考える」姿勢を身につけてもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2～4回 史書（正史）から見た日本史

第5～6回 古記録（日記）から見た日本史

第7～9回 法制史料から見た日本史

第10～12回 金石文から見た日本史

第13～14回 出土文字資料から見た日本史

第15回 総括

* 講義内容は受講者の理解度等に応じて変更するこ

ともあります

●事前・事後学習の内容

講義に際してはプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと（もしよくわからない語句などがあれば、辞典類を使って調べておくことが望ましい）。また講義後は、プリントやノートを読み返して講義内容を整理しておくとともに、それに対する自分の意見・考えをまとめておくこと。

●評価方法

期末の筆記試験を基礎とし（70%）、授業参加態度（感想・質問用紙への記入など、30%）も加味して総合的に評価する。

●受講生へのコメント

高校までの日本史は「暗記科目」としてのイメージが強いかもしれない。だがこの講義では、暗記は全く必要ない。

そうではなく、自ら考える姿勢を重視する。講義を聴いて自分なりの考えを持つことができるよう、積極的な意識・態度で授業に臨んでもらいたい。

●教材

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進めていく。参考文献・論文等に関しては必要に応じてその都度指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 02]

掲載番号	科目名	東洋史の見方	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	平田 茂樹 (文)
76	英語表記	Asian History and Culture						

●科目の主題

「絵画資料より前近代中国社会の諸相を読む」

近年、歴史学においては、社会の全貌を明らかにするために、文献資料に加えて様々な資料を駆使するようになってきています。その一つが絵画資料であり、絵画は視覚的に当時の生活の実態を浮き上がらせることが可能な資料です。本講義では、「清明上河図」、「姑蘇繁華図」などの絵画資料を用いながら、前近代中国社会の諸相を紹介し、中国社会の変化について出席者に学んでもらう予定です。

●授業の到達目標

歴史を学ぶと言うことは、過去の世界の人びとの「衣食住行」の実態を理解すること、すなわち彼らが何を

身につけ、何を食べ、どこに居住し、どのように移動したのか、といった生活全般を把握することにつきますと考えられます。この考え方にに基づき、本講義では、張昉「清明上河図」（12世紀初め頃の絵画）、徐揚「姑蘇繁華図」（18世紀半ばの絵画）などの絵画資料を題材に取りながら、前近代中国社会の生活の諸相を紹介していきます。出席者は、前近代中国社会の生活の実像ならびに時代の進展と共に社会がどのように変化していったかを理解することを目指してもらいたいと思います。

●授業内容・授業計画

授業はパワーポイントを用い、実際に絵画資料を見ながら、講義を進めていきます。

授業内容は以下の通りです。

1. 中国とはどのような社会か？
- 2～6. 張挾端「清明上河図」を読む。「清明上河図」を手がかりとして、宋代（960～1279）の飲食、服飾、居住、商業、交易、交通、芸能、旅行などの様子を読み取る。
7. 中間総括試験
- 8～9. 仇英「清明上河図」を読む。仇英版「清明上河図」を手がかりとし、さらに「平江図」などの蘇州の地図を用いながら、明代（1368-1644）の蘇州の都市空間を読み取る。
- 10～12. 徐揚「姑蘇繁華図」を読む。「姑蘇繁華図」を手がかりとして、清代（1636～1912）の飲食、服飾、居住、商業、交易、交通、芸能、旅行などの様子を読み取る。
- 13～14. 徐揚「京師生春詩意図」、「唐土名勝図会」を手がかりとして、清代の北京の空間を読み取る。
15. 総括試験

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関する予習課題を提示します。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むようにしてください。また、授業の最後に、予習を踏まえ

る形で、毎回の講義内容について小テストを実施します。小テストに対応できない場合は、事後レポートの提出によって代えることもできます。

●評価方法

毎回の小テスト（30%）、二回の試験（70%）

●受講生へのコメント

毎回、小テストを実施します。この小テストの積み重ねが、二回の試験に直結します。授業に毎回出席し、きちんと講義内容を理解するように努めてください。

●教材

<参考書>

- 伊原弘『清明上河図を読む』（勉誠出版、2004）
- 野嶋剛『謎の名画・清明上河図 北京故宮の至宝、その真実』（勉誠出版、2011）
- 杭侃著、劉焯編、大森信徳訳『図説中国文明史 7 宋：成熟する文明』（創元社 2006）
- 岸本美緒、宮嶋博史『世界の歴史（12）明清と李朝の時代』（中公文庫、2008）
- 陣内秀信、木津雅代、高村雅彦、阮儀三『中国の水郷都市－蘇州と周辺の水の文化』（鹿島出版会、1994）
- 陣内秀信、朱自煊、高村雅彦『北京－都市空間を読む』（鹿島出版会、1998）

[科目ナンバー : GE HIS 01 03]

掲載番号	科目名	西洋史の見方	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	北村 昌史（文）
77	英語表記	An Introduction to the Western History						

●科目の主題

1980年代以降研究手法として定着した観のある社会史研究の成果からみた、西洋史の見方を提示する。具体的には、16世紀から19世紀にいたるヨーロッパ史の動向を、高校の世界史のような政治史や経済史からではなく、人々の日常生活のレベルからヨーロッパ史を描きたい。

●授業の到達目標

高校までの「歴史」は、教科書の記憶が中心といえる。それに対して、大学における「歴史学」は、歴史的事実の意味を把握し、説明することを目的とする。できるだけ具体的な史料・素材から話を展開することによって、大学の「歴史学」の理解を深めることが目標である。知識量ではなく、歴史的事実の意味を考えるための見方、すなわち着想力や思考力を身に付けていただく。

●授業内容・授業計画

18世紀後半か19世紀前半にかけての時期が、社会史の観点から見たヨーロッパ史の転換点であるという観点から授業を行う。3から6時間目で長期的な視野に

立つ社会史研究の成果に基づき、この転換の流れを確認した後、7時間目以降では転換点前後の時期のヨーロッパ社会の諸相を描く。

- 1 導入・ガイダンス
- 2 社会史研究の背景
- 3 『子供』の誕生
- 4 近代家族
- 5 エリート文化と民衆文化
- 6 食事・都市化
- 7 転換点以前の社会（1）
- 8 転換点以前の社会（2）
- 9 転換点以前の社会（3）
- 10 転換点以前の社会（4）
- 11 転換点以前の社会（5）
- 12 転換点以後の社会（1）
- 13 転換点以後の社会（2）
- 14 転換点以後の社会（3）
- 15 転換点以後の社会（4）

●事前・事後学習の内容

受講するにあたっては予習や復習などは必要ないが、

授業で紹介する文献に図書館などで折を見て触れたり、授業でえた知識をふまえて自分の生活を日常的に見直したりすることが望ましい。

●評価方法

最終成績評価100点満点すべてが定期試験の成績による。

●受講生へのコメント

高校の世界史の知識は特に必要としない。世界史で出てくる人物や事件はあまり授業では出てこない。

どちらかといえば、高校までの歴史に抵抗感を感じた人に受講していただきたい。毎回、授業の内容をふまえて短い文章を書いていただく。これは成績評価に反映しないが、次の授業の冒頭で簡単なコメントを加えることで、授業で身に付けていただきたい着想力や思考力について明確にする。

●教材

参考文献などは授業中適宜指示する。教科書はとくに用いない。教材は、プリントを授業で配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 04 .CO]

掲載番号	科目名	日本社会の歴史	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	天野 忠幸 (非常勤)
78	英語表記	Japanese History and Culture						

●科目の主題

日本の戦国時代は、100年以上続く内乱の時代であった。戦国武将が目立つことが多いが、社会を構成する、それ以外の階層も活力に満ちた時代であり、興味深い。

なぜ合戦が続いているのか。どのような惨禍が待っているのか。百姓はどうやって生き延びるのか。寺社はどんな役割を果たしたのか。どうやって地域社会を守るのか。地域社会や国境を越えてどのように活動していくのか。

現代とは比べものにならないくらい過酷な戦国時代を、一般的に被害者や弱者とされる階層の視点から捉え直し、生き残っていくシステムを紹介しながら見ていく。

●授業の到達目標

戦国武将以外の百姓・都市民・寺社・女性などに着目することで、戦国社会の特色を垣間見、日本社会の歴史の多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が、歴史を作りあげてゆくことを理解する。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1：戦国時代の概要
- 2：合戦の実像
- 3：村と民衆1
- 4：村と民衆2
- 5：都市に住む1
- 6：都市に住む2

6：戦国仏教1

7：戦国仏教2

8：旅する人々

9：商人の世界

10：水軍の世界

11：海外へ向かう人々

12：海外からやってくる人々

13：女性の城主

14：天下一統の時代

15：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業内において、予習・復習すべき図書を随時指示する。また、各自が博物館等施設を見学することで、講義の時代背景に関する知識を持ってもらう。これらについて、小レポートの提出を求める。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート (30/100) と定期試験 (70/100) で評価する。

●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無や、暗記的知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

●教材

テキスト：特になし。

参考文献：適宜しめす。

プリント：毎回配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 05]

掲載番号	科目名	東洋社会の歴史	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	上野 雅由樹 (文)
79	英語表記	Asian History and Culture						

●科目の主題

本講義では、バルカン半島および西アジア地域の近世・近代史に相当するオスマン帝国の歴史を題材として、宗教や言語、民族、文化、身分、地域区分、そして帰属意識といった事柄について考え、それらを捉える視点を養う。

●授業の到達目標

世界の歴史、そして現代世界のあり方を理解するためには、宗教や言語、民族、文化、地域などの概念を用いること、そしてそれぞれの基準で区別・分類することがどうしても必要になってくる。ただし、そうした諸概念／区別が価値中立的であるわけではない。本講義では、それらが伴う「偏り」をいかに認識するかを、オスマン帝国の歴史という実例と、それが伴う様々な区分、すなわちイスラームやキリスト教、トルコ人やギリシア人、さらにはアジアとヨーロッパといった例を通して考える。それにより、世界の歴史、そして現代世界のあり方を見るための視点を学ぶこと、そして大学で歴史を学ぶというのがどのような営みなのかについて基本的な理解を身につけることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は、スライドと配布するプリントに沿って講義形式で行う。最初の二回は、オスマン帝国の歴史を学ぶ前提として、地域区分の問題を扱い、それ以降は1300年頃から20世紀にいたるオスマン帝国の歴史を、以下のテーマを軸に見ていく予定である。

1. 東洋と西洋、「西アジア」の位置づけ
2. 学問的伝統における西アジア史
3. オスマン集団の登場と帝国への成長
4. 奴隷身分と奴隷出身の支配エリート
5. スンナ派、シーア派、宗派化
6. オスマン社会のなかの女性
7. オスマン人キリスト教徒の世界
8. ヨーロッパにとっての近世オスマン帝国、東洋

趣味とオリエンタリズム

9. 西欧の覇権とオスマンの近代
10. 多言語社会における新式教育と新聞の普及
11. ムスリムと非ムスリムの平等をめぐって
12. 多宗教・多宗派都市イスタンブルにおける都市改革と「宗教」概念
13. 専制政治とイスラーム主義
14. 多民族国家としてのトルコ
15. 総括

●事前・事後学習の内容

参考図書の見直しや授業時に紹介するWebサイトを通じて事前に背景を学んでおくことが望ましい。また、講義で扱われる諸テーマは、オスマン帝国史に限らず世界の歴史や現代社会に関係するものであるため、受講者それぞれの考えのもとに復習すること。

●評価方法

授業中に適宜課される小レポート・質問用紙の記入(50パーセント)および期末の筆記試験(50パーセント)によって評価する。

●受講生へのコメント

知識は考えるための材料であり、授業は考えるきっかけです。安易な理解を得ることよりも、考えるプロセスを楽しむくらいの気持ちでいて下さい。また、授業内で適宜、関連文献を提示するので、受講をきっかけに、それぞれの関心を育てていって欲しいところです。

●教材

ほぼ毎回プリントを配布する。事前・事後学習用の参考図書として以下の二点をあげる。

小田中直樹・帆刈浩之編『世界史：今、ここから考える』山川出版社、2017年。

林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2016年。

[科目ナンバー : GE HIS 01 06]

掲載番号	科目名	西洋社会の歴史	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	大黒 俊二 (文)
80	英語表記	History of Western Society						

●科目の主題

読み書きと書物のあり方という視点から西洋の文化史をたどる。古代から現代まで、人はいかにして文字と付き合ってきたか、本を読んできたか。「読む」とはどのような行為なのか。読むことがあまりに自然となった現代、人はあらためてこうした問いを發することはない。

しかし、紙上の黒いしみを追って意味を解し、伝えることは、自然な行為ではなく、歴史と文化に深く規定された営みである。たとえば古代ギリシアには「読む」行為はあってもそれを表す単語がなく、古代ローマ人にとって書物とは巻物であった。中世の人間は黙読ができず、単語を分かち書きすることもなかった。近代初期、文字を知らぬ民衆は他人の朗読によって「読書」した。読み書きと書物の歴史は、西洋文化の思いがけない一面を浮かび上がらせ、旧知の事実に意外な光を当ててくれることになろう。それはまた、書物がネット上でヴァーチャル化しつつある現代、紙とインクからなるモノとしての書物の将来を占う営みともなるだろう。書物と読書の歴史に照らしてみれば、現代は「ミネルヴァの梟」が飛び立つ時代なのである。

●授業の到達目標

読み書きと書物の歴史を振り返ることで、これらが過去のものとなりつつある現代という時代を、よりよく理解できるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

- ①「書くこと」と「読むこと」の歴史性
- ②声の文化と文字の文化
- ③声から文字へ（古代ギリシア）
- ④読みから書きへ（古代ローマ）
- ⑤卷子本から冊子本へ（古代末期－中世初期）
- ⑥ラテン語から俗語へ（中世初期）

- ⑦続け書きから分かち書きへ（中世初期）
- ⑧音読から黙読へ（中世中期）
- ⑨遍歴商人からもの書き商人へ（中世中期）
- ⑩俗語のリテラシーから女性のリテラシーへ（中世中・後期）
- ⑪手書本から印刷本へ（中世後期）
- ⑫エリートから民衆へ（近代初期）
- ⑬批判から革命へ（近代）
- ⑭民衆から大衆へ（近代）
- ⑮「ミネルヴァの梟は黄昏に飛び立つ」（現代）

●評価方法

授業アンケート20%、レポート40%、試験40%。

●受講生へのコメント

読み書きの実践という点から見た西洋文化史の概説であるから、通常の西洋史とは趣の違った内容になる。単なる西洋史概説ではない。講義の前提として高校世界史B程度の知識が望ましいが、なくても理解できるよう努力する。

●教材

教科書は用いない。以下の書物を参考書としてあげておく。講義と深い関係があるのは3と5である。

1. W. J. オング（桜井直文他訳）『声の文化と文字の文化』藤原書店、1991年。
2. E. L. アイゼンステイン（別宮貞徳監訳）『印刷革命』みすず書房、2007年。
3. R. シャルティエ／G. カヴァッロ編著（田村毅他訳）『読むことの歴史—ヨーロッパ読書史—』大修館書店、2000年。
4. N. ボルトツ（敷名・足立訳）『ゲーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションの姿—』法政大学出版局、1999年。
5. 大黒俊二『声と文字』岩波書店、2010年。

[科目ナンバー : GE HIS 01 07]

掲載番号	科目名	現代の歴史	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	野村 親義 (文)
81	英語表記	The Modern History						

●科目の主題

1990年代前半以降の本格的な経済自由化とその後のおおそ順調といえる経済の発展により、10億を超える人口を抱える巨大なインド経済は、ここ10数年世界の注目を浴びてきた。2000年代半ば以降チャイナ・リスクを本格的に意識するようになった日本も、近年、遅ればせながら、世界中が熱い視線を向けるインド経済の動向に関心を向けるようになってきている。本科目の主題は、近年とみに注目を集める独立(1947年)後インド経済の概要を、近現代の政治・経済の歴史に十分配慮しながら、概観することである。

●授業の到達目標

本講義の到達目標は、独立後インド経済における基本的な論点を習得することである。

●授業内容・授業計画

1. 導入
2. 植民地支配からの独立：政治
3. 植民地支配からの独立：経済
4. インド経済概観：供給サイドを軸に(1)
5. インド経済概観：供給サイドを軸に(2)
6. インド経済概観：需要サイドを軸に(1)
7. インド経済概観：需要サイドを軸に(2)
8. 経済政策：輸入代替工業化(1950年代から1970

年代)

9. 経済政策：輸入代替工業化と農業
10. 経済政策：輸出加工型工業化(1980年代以降)
11. 輸出加工型工業化と企業
12. 輸出加工型工業化とその課題
13. 独立後インド政治：概要と制度
14. 独立後インド政治：制度とその運用
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

初回に紹介する参考文献を熟読しつつ、授業の復習をしっかりとすることを期待する。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

近年急速に注目を集めているインド経済の動向を正確に理解するには、インドが1947年に独立して以降たどってきた歴史に対する深い理解が不可欠である。現代と過去のインド経済に対する深い関心を持ちつつ授業に参加することを期待する。

●教材

教科書ないが、参考文献を授業初日に紹介する。そのほか、プリントを授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 08]

掲載番号	科目名	考古学入門	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	岸本 直文 (文)
82	英語表記	Introduction to Archaeology						

●科目の主題

ひとびとが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている、これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された遺構や遺物から、そこで生活したひとびとの営みを復元する。

●授業の到達目標

考古学により明らかになった日本の歴史の基本を修得する。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどん

な時代であったのか、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代 (1) 定住のはじまり
- 6 縄文時代 (2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代 (1) 米作りの開始
- 8 弥生時代 (2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代 (3) 墓にみる権力の形成
- 10 古墳時代 (1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代 (2) 巨大な前方後円墳の誕生

- 12古墳時代（3）古墳時代から飛鳥時代へ
13古代 都城と官衙
14北海道と南西諸島の考古学

●事前・事後学習の内容

前回の資料やノートを振り返っておくこと。また、講義を聞き、ノートを見直して、自分の言葉で理解をまとめておくこと。

●評価方法

小レポート提出2回（各15点）。期末試験（70点）。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 09]

掲載番号	科目名	ことばの歴史	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	丹羽 哲也（文）
83	英語表記	Japanese and Its History						

●科目の主題

日本語の歴史研究には様々な分野があるが、この授業では、音韻・表記の分野を取り上げ、古代から現代にかけて音韻がどのように変遷してきたか、文字表記がどのように移り変わってきているかという問題について講ずる。

●授業の到達目標

例えば、古文で「あふぎ（扇）」と書いて何故「オーギ」と読むのか。これを解くためには、日本語の音韻と表記の知識が必要である。ハ行音、ア行・ヤ行・ワ行音など日本語の音韻がどのように変化し、それがどのような形で表記に反映しているか、あるいは、漢字や仮名の表記法がどのように移り変わり、人為的制限が加えられているかという問題について理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1～3 現代日本語の音声と音韻
4～6 ハ行音など子音の変化
7・8 「い・る」「え・ゑ」「お・を」の区別と合流

- 9・10 音節構造、語形態の変化
11・12 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い
13～ 漢字制限と漢字の字体

●事前・事後学習の内容

理解が追いついてない点について、授業プリントや課題解説プリントを読み直す。数回前に遡る必要があることもある。また、必要に応じて、授業中に紹介する参考文献を読む。

●評価方法

毎回課される課題の提出(1.5割)と学期末の試験(8.5割)による。

●受講生へのコメント

日本語を扱うとはいえ、なじみのない抽象的な概念が多く、難易度が低いというわけではない。また、古文の知識も前提とする。体系的な理解をするために、知識を積み上げていくという面が強いので、復習が必須である。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 10]

掲載番号	科目名	歴史学の世界（演習）	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	草生 久嗣（文）
84	英語表記	Seminar: World of History						

●科目の主題

「過去から物語、物語から歴史へ」

過去の出来事や状況やその影響というのは、そのまま私たちに伝えられているわけではありません。必ず、「出来事」を「物語」に、「物語」を「歴史」に組みなおしていく「知」の営みが介在します。歴史学は、その組みなおしの理論や方法論を身に付けて、今に語り

継がれている物語や、事実とみなされている歴史物語や、あるいは荒唐無稽なおとぎ話まで含む、様々な「言い伝え」に広く親しみ、分析して、人のもつ過去に対する想像力・創造力の豊かさ（あるいは乏しさや危険）について理解を深めることを手助けします。

●授業の到達目標

ある歴史（を題材にした）文学を取り上げ、その演

出手法やドラマ、評判を把握したうえで、歴史学の材料として分析し、もともとの歴史事実への接近が、いかに複雑で困難でかつ魅力的であるかということを理解する。「歴史小説」と「歴史書」の違いについて、歴史学の知見に基づいて認識できるようになる。

●授業内容・授業計画

劇作家ウィリアム・シェイクスピアの名作の一つ『リチャード3世』を題材に、その作品をとりまく歴史的・歴史学的諸状況について学習を進めていく。

- 第1回 : ガイダンス(この回だけの参加者も『リチャード3世』という作品を一読しておくこと)
- 第2～5回 : グロスター公リチャード (L.オリビエからB.カンバーバッチ、坪内訳から松岡訳)
- 第6～8回 : シェイクスピアとその時代(百年戦争・ばら戦争・ジャンヌダルク・『ヘンリー6世』・地球座)
- 第9～12回 : 悪王論 (『時の娘』、遺骨発見)、演出論 (Al Pacino, 蜷川ほか)
- 第13～15回 : 物語/歴史を読むこと、史料論(マロウ、モア)

●事前・事後学習の内容

各回、事前にチェックしておくべき作品(書物に限らず、映画・漫画ほか各種メディアにまたがる)が指定されており、それを前提とした授業となるため、各自の主体的な準備が重要になる。

授業を経て、初読あるいはそれまで持っていたイメ

ージが、どれくらい変わったのか、あるいは変わらなかったのかを振り返る作業を各回行う。

●評価方法

授業への積極的な参加と、提出課題に対する評価によって決定する。

●受講生へのコメント

本演習は、英文学や英文学史の授業ではなく、歴史学入門であるので、高度な英語力はもとめない。ただし、あらゆる形での「物語」に興味があり、その書き手や伝え手たちにも興味を持ち、さらに読み手である自分自身についても考察してみたいという意欲のあることを求める。参加者の構成によって、グループワークや特別課外活動も予定される。歴史は投げ出された過去の事実ではなく、かならずそこに演出家や再現する役者や舞台装置を伴って「歴史」となったもの。「歴史」に触れる、語る、演出するということについて幅広く関心を持つ人の参加を期待する。

- ・メール連絡先(授業前相談ほか)は、kusabu@lit.osaka-cu.ac.jp (件名に“歴史学の世界演習2017_氏名”を入れること)
- ・授業提出物専用のメールアドレスは授業中に指示する。

●教材

- ・松岡和子訳シェイクスピア全集〔7〕『リチャード三世』ちくま文庫…参加者必携
- ・英語原文ほか参考書については、授業初回で指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 21 .CO]

掲載番号	科目名	現代の地理学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	山崎 孝史 (文)
85	英語表記	Current Geography						

●科目の主題

現代世界の諸問題に取り組む地理学を理解するために、大きく「地域への地理学のみならず」、「経済活動を空間的に読み解く」、「地理学が映し出す想像力の世界」、「過去と現在を繋ぐ地図」、「地理学と現実世界の接点」の5つの主題に分け、それぞれの主題における地理学の先進的なアプローチについて具体的事例を通して紹介します。

●授業の到達目標

現代の地理学は、都市と農村、景観、食糧供給、工業立地、流通システム、政治、観光、文化、地図、地理情報、公共政策・環境問題といった多面的な問題を学ぶことのできる分野です。地理学を通して、過去から現在（そして未来）の問題へと、そして人間相互の関係から人間と空間・環境の関係へと、私たちの思考をどのように拡充できるのか、受講生とともに考えていきます。

●授業内容・授業計画

- 1 はじめにー地理学を学ぶために
- 2 都市のなりたち
- 3 変動する農村の社会
- 4 農業と食のネットワーク
- 5 工業立地変動のダイナミズム
- 6 流通システムと消費生活の基盤

- 7 地政言説から政治を読む
- 8 観光空間を文化論的に理解する
- 9 地域文化について考える
- 10 現実世界の歴史地理
- 11 想像世界の歴史地理
- 12 地理情報システムを使いこなす
- 13 地理学の公共政策への応用
- 14 環境問題への地理学のかかわり
- 15 まとめー地理学で世界をみる

●事前・事後学習の内容

下記教科書や教員ホームページからダウンロードできる講義スライドを印刷したものを持参して授業に臨んで下さい。またこれらの文献・資料をもとにテストを出題しますので、事後学習に活用して下さい。

●評価方法

5つの主題ごとに行なう小テスト (100点)

●受講生へのコメント

下記教科書を必ず購入して、復習とテストに備えて下さい。講義に関する情報や資料は、教員・科目ホームページ (HYPERLINK "http://polgeog.jp/" http://polgeog.jp/) で入手・確認してください。

●教材

竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房 (2014年) を使用します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 22 .CO]

掲載番号	科目名	都市の地理学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	大場 茂明 (文)
86	英語表記	Geography of Urban Area						

●科目の主題

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長い。現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について国内外の具体的事例を提示しつつ概説する。

●授業の到達目標

この講義では、地理学のアプローチを通じて、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考え、激動する現代社会の諸問題を理解するための術(すべ)を身につけてもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目にしたがって、写真や映像資料などを用いて国内外の具体的な素材を提示しつつ講述する(数字は授業回数)。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②～④ 都市の形成過程
- ⑤・⑥ 都市機能分化と空間構造の変容

- ⑦・⑧ 日本の都市
- ⑨・⑩ 現代社会と都市問題
- ⑪・⑫ 都市更新事業とまちづくり
- ⑬・⑭ 人口減少と都市の縮退
- ⑮ まとめと今後の展望：都市の未来像

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、次回の講義内容を予告するとともに、主要項目を3～4個のキーワードで示す。必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに、前回提出されたコミュニケーション・カードに基づき質疑応答を行い、前回講義内容についての理解を深める（15～20分間程度）。したがって、授業終了後には、各自講義の要点を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に当日の講義内容に対す

る疑問点などを自由に記入してもらいコミュニケーション・カードによる平常点(20%)と、定期試験の点数(80%)によって行う。

●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。専門用語については、その都度解説や補足説明を加えていくので、授業に集中して臨んでほしい。

●教材

教科書：使用しない(各回授業時に、レジュメと資料を配布する)。

参考書：必要に応じて、授業時に紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 23]

掲載番号	科目名	文化人類学入門	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	多和田 裕司 (文)
87	英語表記	Introduction to Cultural Anthropology						

●科目の主題

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて理解する。それとともに、受講者それぞれが「他者／異文化」と実際にかかわることで「他者／異文化理解」を自覚的に経験する。

●授業の到達目標

本講義は文化人類学を初めて学ぶ者にたいする入門的講義であり、文化人類学の基礎的知識や考えたかを身につけることを目標とする。あわせて人類学的フィールドワークの一端を自ら経験することで、「他者／異文化理解」という営為そのものについての理解の深化をはかる。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ フィールドワークおよびレポート作成についての説明と助言
- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解
- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学
- ⑪⑫ 文化を解釈する

⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて

⑮ 講義の総括

●事前・事後学習の内容

はじめて習う概念や考え方がほとんどであると思われるので、事前学習よりも事後学習に力を入れてほしい。インターネットや文化人類学の各種入門書などで概念や事項の確認をおこなった上で、授業中に示されたポイントや考えどころを中心に、それについての自らの考えをノートにまとめるなどして整理しておくこと。

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。

（レポート課題）

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1)その人が「日本にたいして感じたこと」、(2)自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員をインタビューの相手とする事は認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

本講義では、レポート作成のためのインタビューはもちろんのこと、通常の講義においても能動的な姿勢で学ぶことが求められる。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 24]

掲載番号	科目名	文化とコミュニケーション	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	林 嵐娟 (非常勤)
88	英語表記	Culture and Communication						

●科目の主題

日本語と中国語を中心に、英語とも比較しながら、色と色名、〈ウナギ文〉、および句読点などの現象を取り上げて、言語文化の表象という観点と、コミュニケーションのツールという観点から分析する。

●授業の到達目標

上述の諸現象を3言語で比較考察することによって、文化とコミュニケーションの関係についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 色と色名について (1)
- 第3回 色と色名について (2)
- 第4回 色と色名について (3)
- 第5回 色と色名について (4)
- 第6回 〈ウナギ文〉について (1)
- 第7回 〈ウナギ文〉について (2)
- 第8回 〈ウナギ文〉について (3)
- 第9回 〈ウナギ文〉について (4)
- 第10回 句読点について (1)

- 第11回 句読点について (2)
- 第12回 句読点について (3)
- 第13回 句読点について (4)
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関する資料を配布する。必ず事前に内容を予習し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

出席および小テスト等の平常点 (30%) と、期末試験 (70%) によって評価する。

●受講生へのコメント

日英中3言語の用例を扱うが、中国語の知識を前提とはしない。出席については、文学部の規定に従う。

●教材

資料を配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 26 .CO]

掲載番号	科目名	環境と文化 (平成29年度以降履修用)	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	祖田 亮次 (文)
89	英語表記	Environment and Culture						

平成28年度以前にこの科目を単位修得した学生は履修できない。

●科目の主題

本講義では、人間-環境関係について、様々な視点から考える。その際、自然科学的な作業から自然現象を明らかにするのではなく、人文科学的な視点から、何を問題と捉え、どのように考えればよいのかということを中心に講義を進める。

●授業の到達目標

「自然」や「環境」の意味は、社会状況や時代によって大きく異なるものであることを理解し、我々が「認識」している自然環境と、どのような関係を切り結んでいけばよいのか、多角的・多面的にとらえるための知識と考察方法を身につける。

●授業内容・授業計画

水田や里山は自然なのか？ 近所を流れる河川はな

ぜこのような形になっているのか？ 国立公園や世界自然遺産はどのような意味を持つのか？ 熱帯雨林の消滅に日本はどう関わっているのか？ エコツーリズムの背景にはどのような政治的意図があるのか？ 自然災害をどう認識し、克服すべきなのか？

現代は、様々な環境問題が国際政治の場において語られる一方で、人々は「身近な自然」に対しても意識的になりつつある。この講義では、これらの自然や環境に関わる具体的な現象や問題を取り上げながら、私たちがどのように自然や環境と関わっていくべきかを考察する。

考察対象とする具体的事例としては、近畿圏の身近なものから、アジア・ヨーロッパなど世界各地のものを取り上げる。

- ① イントロダクション
- ②～③ 環境決定論・環境可能論、風土論、政治生

態学

- ④～⑦ 河川改修、自然再生、災害文化、流域社会論
- ⑧～⑩ 熱帯雨林、プランテーション、バイオマス社会論
- ⑪～⑫ 焼畑・狩猟採集・水田・里山、半自然・半栽培
- ⑬～⑮ 国立公園・世界遺産、エコツーリズム

●事前・事後学習の内容

2回に1回の割合で宿題を出しますので、それなりの負担になります。授業で学んだ内容をもとに自分で調べものをして理解を深めるためのもの（復習的なもの）や、翌週授業の予習と位置付けられるものなどが、課題として出されます。また、実際に現地を訪ねて情報を収集するフィールドワーク的な宿題が出る場合もあります。いずれも、A4で1枚程度（600～1,000字程度）の分量です。授業時間中に宿題の内容を発表しますので、欠席すると宿題を提出することが難しくなります。宿題は翌週の授業時間中の提出が必須です。欠席や宿題忘れなどの場合でも、遅れての事後提出は認めません。

●評価方法

評価のおよその内訳は以下のとおりです。出席：5%、授業時のコメント・ペーパー：20%、宿題・小レポート：40%、最終レポート35%

評価は「秀(AA) (2013年以降入学者のみ)」「優(A)」・「良(B)」・「可(C)」・「不可(F)」の4～5段階で、「欠」はありません。過去のおよその成績比率は以下の通り。

AA：5%、A：20%、B：35%、C：20%、F：20%

●受講生へのコメント

本講義は地理学の議論をベースにしますが、高校時代に「地理」を履修していたかどうかは一切問いません。高校までに「地理」を履修した人は、地理＝地名や特産品の暗記というイメージを持っているかもしれませんが、本来の地理学は、人間－環境関係を考察することを主眼としています。したがって、少しでも環境認識や環境問題、災害文化等に関心があれば、誰でも受講可能です。

●教材

特定のテキストは使用しません。参考図書などがある場合は、講義の際に提示します。

[科目ナンバー : GE HIS 01 28]

掲載番号	科目名	西洋の文化	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	貝原 哲生（非常勤）
90	英語表記	European Culture						

●科目の主題

古代ローマの歴史と文化について学習する。地中海世界を統べたローマ帝国の伝統は今もなお西洋諸国に内在し、人々はこれと意識的あるいは無意識的に関係している。そして、ローマ帝国において生まれ、ついには帝国の国教となったキリスト教は、西洋の文化が形成される上で多大な影響を及ぼした。本講義では、まずローマの建国から帝国が分裂するまでの歴史を概観する。次いで、ローマ人の日常生活、文芸、宗教について説明し、最後にキリスト教の発展過程について論じる。

●授業の到達目標

古代ローマの文化の諸相を学び、キリスト教の浸透によるそれらの変容を当時の社会的背景に即して理解することを目標とする。また、授業を通じて西洋文化の基礎をなすローマの伝統やキリスト教にかんする認識を深めることで、現代の西洋社会に対する幅広い視野を獲得してほしい。

●授業内容・授業計画

1. 授業の進め方について
2. 共和政期のローマ（1）
3. 共和政期のローマ（2）

4. 共和政期のローマ（3）
5. 帝政期のローマ（1）
6. 帝政期のローマ（2）
7. 帝政期のローマ（3）
8. ローマ帝国の分裂
9. ローマ人の暮らし（1）
10. ローマ人の暮らし（2）
11. ローマ人の暮らし（3）
12. キリスト教とその発展（1）
13. キリスト教とその発展（2）
14. キリスト教とその発展（3）
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回授業で配布するレジュメをもとに復習すること。また、授業中に紹介した参考文献を読み、知見を広めることが望ましい。

●評価方法

期末試験（70%）と出席（30%）で評価する。

●受講生へのコメント

世界史の基本的な知識（高校世界史B程度）を前提とするが、それがなくても理解できるように努力する。

●教材

テキストは用いず、授業内容を簡潔にまとめたレジ

ュメを配布する。視聴覚資料も用いる予定。個別の参考文献は適宜紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 29]

掲載番号	科目名	民族と社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	王 静 (非常勤)
91	英語表記	Ethnicity and Society						

●科目の主題

民族は現代社会を理解する上での重要な概念である。それは、論理的に突き詰めれば内実のない存在であるが、しかし人々に強く働きかける力を持っている。民族意識がしばしば紛争や対立の原因となる一方で、民族意識をよりどころとせざるを得ない人々がいることも事実である。近年では民族文化や民族芸能が商品化され、消費の対象となることも日常的になった。本講義は、民族概念、民族と国民国家について検討するとともに、現代消費社会における民族の実際などをサブ・テーマとしながら、現代社会における民族について広範に考えていく。

●授業の到達目標

本講義では、受講者が民族概念についての理解を深め、かつ民族が前景化する事象に触れることで、現代社会における様々な民族問題について、より柔軟な視点でとらえる能力を養うことを目的とする。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① オリエンテーション、民族とはなにか
- ② 民族概念の変遷
- ③ 民族意識とナショナリズム
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤ 現代社会における民族と国家
- ⑥ 「単一国家」日本における多民族性の実際
- ⑦ 多民族国家中国における民族性の実際
- ⑧ 構築、消費、実体化される民族
- ⑨ 民族の構築過程：中華民族の事例から
- ⑩ 民族文化の構築：台湾における中華茶文化の事例

から

- ⑪ 国民文化の再構築：中国茶芸の事例から
- ⑫ 民族文化の消費(1)：中国における少数民族観光の事例から
- ⑬ 民族文化の消費(2)：民族衣装の事例から
- ⑭ グローバル化と「脱民族化」、「脱ナショナル化」
- ⑮ 講義の総括

●事前・事後学習の内容

はじめて習う概念や考え方がほとんどであると思われるので、事前学習よりも事後学習に力を入れてほしい。インターネットや各種事典などで概念や事項の確認をおこなった上で、授業中に示されたポイントや考えどころを中心に、それについての自らの考えをノートにまとめるなどして整理しておくこと。

●評価方法

定期試験（60点満点）およびレポート（40点満点）によって評価する。
（レポートについて）

本講義では「日本社会における民族の諸相」をテーマに、インタビューや参与観察等、いわゆるフィールドワークをもとにレポートを作成する。課題やレポート作成の詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

講義、レポート作成ともに能動的に取り組むことを求める。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 30 .CO]

掲載番号	科目名	観光研究入門	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	天野 景太 (文)
92	英語表記	Introduction of Tourism Study						

●科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、

それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半（第2～7回）は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察する。後半（第8～10回）は、現代日本の国内・

国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観する。後半（第10～15回）は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明する。

●授業の到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されている。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離をおいて）に、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する
- 第3回 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの“旅人”の相克
- 第4回 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生
- 第5回 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム
- 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市…
- 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型
- 第8回 現代日本人の観光スタイルを探る～国際観光アウトバウンド編
- 第9回 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編
- 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論
- 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理と行動をつかむ（観光心理学）
- 第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって（観光人類学・文化経済学）
- 第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 理論編）
- 第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 実践編）
- 第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ(愉しみ)方をデザインする（観光メディア論）

第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ(愉しみ)方をデザインする（観光メディア論）

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定である。板書は基本的に行わないので、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていく姿勢が求められる。

●事前・事後学習の内容

授業の最後に毎回クイズを出題します。次回授業時までに調査し、回答を考えておくこと。

授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくこと良い。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけること。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。コミュニケーションペーパーへの回答による平常点（30%）、と期末試験（70%）で評価する。ただし、コメントペーパーへの回答数（≒出席数）が通算で11回未満（出席率70%未満）の場合、原則として評点にかかわらずF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等でやむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが（コミュニケーションペーパーへの回答無き場合）平常点の加点は行わない。

●受講生へのコメント

観光研究は、その制度的側面（法学）、経済・経営的側面（商学・経済学）、社会・文化的側面（社会学・文化論）、工学的側面（地域・景観計画）、福祉・医療的側面（ソーシャル・ツーリズム）など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きな人、将来観光に関連する進路を目指す人、演習等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎したい。

●教材

安福惠美子編(2016)『「観光まちづくり」再考』古今書院

毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で使用したプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 31 .CO]

掲載番号	科目名	観光と文化	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	天野 景太 (文)
93	英語表記	Lecture in Tourism and Culture						

●科目の主題

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会った

り、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光（文化観光）は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのそ

の地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。

本科目では、こうした“文化”が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討する。

●授業の到達目標

自らの観光体験や異文化体験を本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来るようになる。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する（例：外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など）ためのスキルの基礎が身につく。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光と文化とのかかわり～“世界遺産観光”の展開を例に
- 第3回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス
- 第4回 観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化
- 第5回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ
- 第6回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ
- 第7回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相
- 第8回 観光における都市文化の呈示と消費の諸相
- 第9回 観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」
- 第10回 観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地とテーマパーク」
- 第11回 観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道とクルーズ船」
- 第12回 観光アトラクションの文化史Ⅳ「温泉旅館とホテル」
- 第13回 観光アトラクションの文化史Ⅴ「リゾート」

- 第14回 観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」
- 第15回 観光とメディア文化～デジタルメディアによる現実拡張経験

授業は講義形式で行う。加えて写真や旅番組やCM等の映像、観光ガイドブックやWEBサイトなど、ビジュアルな資料を豊富に提示する。板書は基本的に行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていくことが求められる。

●事前・事後学習の内容

日頃から主体的に新聞やテレビに接し、観光、国際情勢等に関するニュースに親しんでおくこと。また授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくこと良い。

●評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらおう。コミュニケーションペーパーへの回答（30%）、とレポート（35%）、期末試験（35%）で評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数（≒出席数）が通算で11回未満（出席率70%未満）の場合、評点にかかわらず原則としてF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが（コミュニケーションペーパーへの回答無き場合）平常点の加点はしない。

●受講生へのコメント

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産検定」を本学で実施予定であるが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で行う。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨する。また、観光に関してより理解を深めたい者は、「観光研究入門」や、文学部の「観光文化論」等を併せて履修するとよい。

●教材

安福恵美子編(2016)『「観光まちづくり」再考』古今書院。

毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で用いたプリントの再配布はしない。

[科目ナンバー : GE HIS 01 32 .CO]

掲載番号	科目名	アーツマネジメント	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	菅原 真弓 (文)
94	英語表記	Arts Management						

●科目の主題

劇場の公演や美術館の展覧会、そして音楽会。こうした文化施設で行われる事業に加え、それ以外の芸術文化活動を含めた活動を、広く社会に発信していくための「仕組み」＝方法論をアーツマネジメントという。近年は演劇や美術、音楽などのファインアート（ハイアート）分野にとどまらず、広い意味での創造活動を発信する方法論をも指す言葉となった。地域活性化（まちづくり）の手法としても活発に行われている。本講義では、この言葉が欧米において登場した経緯から日本への流入、そして日本での独自の発展までを、事例を挙げながら学んでいく。

●授業の到達目標

アーツマネジメントに関する実践的な知の習得を目標とする。但し、必ずしもアーツマネジメントの実践者を養成するための学びには限定せず、この学びを通じて、自らの学問的専門分野に生かせる気づきを得、自らの視野を広げるための眼を養ってもらいたい。

●授業内容・授業計画

美術館学芸員であった経験を基に、主に美術分野における様々な事例を挙げて詳説する。美術館での教育普及事業やイベント、地域アートプロジェクトやこれらと観光との接点（アートツーリズム）について、またこれに加えて、地域活性化の手法としてのアーツマネジメントなども併せて紹介する。後半はグループワークを実施し、グループでの企画を構想し、プレゼンテーションを行ってもらう。

- 第1回 イントロダクション：アーツマネジメントとは何か
- 第2回 「アーツマネジメント」の登場と日本への流入
- 第3回 日本におけるアーツマネジメントのはじまり：芸術文化支援制度の整備
- 第4回 狭義のアーツマネジメント：美術館で行う事業を例に
- 第5回 広義のアーツマネジメント：芸術文化の社会への発信
- 第6回 キーワードは「連携」：文化庁芸術文化振興

基金のテーマ変遷を踏まえて

- 第7回 地域におけるアートプロジェクトの事例
- 第8回 外部講師によるレクチャー：アートプロジェクトの事例
- 第9回 外部講師によるレクチャー：地域資源、地域産業遺産とその活用
- 第10回 外部講師によるレクチャー：アートプロジェクトと地域活性化
- 第11回 地域アートプロジェクトを作る！：グループワークの趣旨説明とグループ分け
- 第12回 地域アートプロジェクトを作る！2：グループワーク
- 第13回 地域アートプロジェクトを作る！3：グループワーク
- 第14回 地域アートプロジェクトを作る！4：プレゼンテーション準備およびプレゼンテーション
- 第15回 地域アートプロジェクトを作る！5：プレゼンテーション、まとめ

●事前・事後学習の内容

まずは「アーツ（アート）マネジメント」という言葉がどのように用いられているのか、インターネットなどで調べてみて欲しい。そして身近な場所で行われているアーツマネジメントの実例を、授業外で自主的に見学したり、参加したり、といった経験を積んでほしいと願っている。

●評価方法

小レポート（3回程度）とグループワークの成果をもって評価する。グループワークの成果とは①グループワークでの発言など参加度②プレゼンテーションに用いるレジュメとこれをまとめたレポートを指す。

●受講生へのコメント

講義ではあるが、後半はグループワークを実施するので、自主的主体的な授業参加を求める。また日ごろからアートプロジェクト等に関心を持ち、文化施設に赴いてみることを希望する。

●教材

授業内で紹介する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 34]

掲載番号	科目名	日本事情 I A	単位数	2	授業 形態	講義 演習	担当教員	堀 まどか (文)
95	英語表記	Current Japanese Culture and Society IA						

●科目の主題

「日本事情 I A」は外国人留学生と日本人学生が、現代日本の諸事情について、ともに学び、考え、理解を深める科目である。とくに「日本の20世紀」をテーマにして幾つかの文学作品を読み、日本の歴史、文学、文化、宗教、教育、政治など日本のさまざまな事情について学ぶ。また留学生が感じた日本人の慣習・価値観について議論する。

※本科目では、交換留学生の履修登録を第一に優先し、正規留学生や日本人学生の履修希望者がクラスの適正人数をこえる場合には、履修制限をおこなう場合がある。

なお、期間中に他の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

●授業の到達目標

日本の近現代の諸事情・諸状況を理解し、日本に関する基礎知識を身につけ、幅広い学問的探究心を高め、日本での生活を充実させる。さまざまな文化意識や異なる価値観をもつ仲間たちと対話や討議を重ね、共同学習するなかで、国際社会や地域社会で活躍するための国際感覚と想像力をはぐくむ。

●授業内容・授業計画

第1週～：オリエンテーション、主題への導入

第2週～第6週：日本の歴史・文化を考えるための導入

第7週～第12週：応用能力の発展的養成

第13週～第14週：特別講義（日程については後日連絡）

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業の一週間前までに、次回の講義のための資料やテキスト、ディスカッションやプレゼンテーションのための課題を指示する。授業当日までに、内容を確認して授業にのぞむこと。

（学習時間として1回の授業時間に加え、2時間以上の自習や準備を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。）

●評価方法

平常点（出席、授業内参加、ディスカッション）50%、プレゼンテーション+レポート50%

問題意識を明確にした発表・レポートを特に評価する。授業への積極的な参加・討議・質問等についても重視する。

●受講生へのコメント

さまざまな文化背景をもつ仲間たちと、コミュニケーションすることをたのしみ、「日本」についてさらに知識と好奇心を深めてほしい。

●教材

必要テキストは、授業内で指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 35]

掲載番号	科目名	日本事情 I B	単位数	2	授業 形態	講義 演習	担当教員	堀 まどか (文)
96	英語表記	Current Japanese Culture and Society IB						

●科目の主題

日本は、世界の人々からどのように理解され評価されてきたのだろうか。19世紀から現代までの、日本研究や日本文化紹介や日本文学を取り扱った主要な作品や作家に焦点を当て、「日本」がどのような時代背景のなかで、どのように語られ、表象され、理解されてきたかを考える。この科目では、外国人留学生と日本人学生が、ともに語り、学び、考え、理解を深めるものとする。

※交換留学生の履修登録を第一に優先する科目であり、正規留学生や日本人学生の履修希望者がクラスの

適正人数をこえる場合には、履修制限をおこなう場合がある。

なお、期間中に他の専任教員による2回の特別講義が設けられている。

●授業の到達目標

日本の近代の姿を客観的に考え、学び、柔軟な思考と幅広い教養を身につける。さまざまな文化意識や異なる価値観をもつ仲間たちと対話や討議を重ね、共同学習するなかで、国際社会や地域社会で活躍するための国際感覚と想像力をはぐくむ。

●授業内容・授業計画

- 第1週～：オリエンテーション、主題への導入
- 第2週～第6週：日本文化を考えるための導入
- 第7週～第12週：応用能力の発展的養成
- 第13週～第14週：特別講義（日程については後日連絡）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

授業の一週間前までに、次回の講義のための資料やテキスト、ディスカッションやプレゼンテーションのための課題を指示する。授業当日までに、内容を確認して授業にのぞむこと。

（学習時間として1回の授業時間に加え、2時間以上の自習や準備を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。）

●評価方法

平常点（出席、授業内参加、ディスカッション）50%、プレゼンテーション+レポート50%
問題意識を明確にした発表・レポートを特に評価する。授業への積極的な参加・討議・質問等についても重視する。

●受講生へのコメント

さまざまな文化背景をもつ仲間たちと、多く語りあい、協力していくなかで、「異文化とはなにか、理解とはなにか」といったことについて、じっくり考えてみる時間にしてほしい。

●教材

必要テキストは、授業内で指示する。

（なお、参考文献として、『二重国籍』詩人 野口米次郎（堀まどか著、2012年、名古屋大学出版会）を挙げておく。）

[科目ナンバー : GE HIS 01 36]

掲載番号	科目名	日本事情ⅡA	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	増田 聡 (文)
97	英語表記	Current Japanese Culture and Society IIA						

●科目の主題

現代日本および諸外国のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について検討する。留学生が参加する授業という特性を生かし、受講者間の討議を交えながら授業は進行する。

●授業の到達目標

比較文化論的な観点から現代日本および諸外国の音楽文化・大衆文化を批判的に検討できる視座を獲得すること。および映像・音楽をもちいた効果的なプレゼンテーション技術を修得すること。

●授業内容・授業計画

カラオケ、携帯オーディオプレイヤー、多彩なCM音楽、携帯電話着信音楽、Jポップ、レンタルCD店、音楽配信、YouTube、ボーカロイドなど、現在の日本の都市空間やメディア空間で日常的に目に（耳に）することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本で生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業は講義形式と受講生による発表を交えるかたちで行われる。概説的な講義と数回のレポート提出を経た後、受講生は、日本の（あるいは自国の、または他

国の）音楽文化について、PCやiPod等のIT機器を使用しつつ映像や音楽を交えたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。日本や諸外国のポピュラー音楽文化についての比較文化論的な知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1) イントロダクションと授業方針の決定

(2～5) Jポップ、歌謡曲における「日本的イメージ」の諸相

(6～9) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(10～15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環境について

●事前・事後学習の内容

教科書、参考文献を通読し、現代日本あるいは諸外国の大衆音楽環境について考察を深めておくこと。また、授業内で触れたミュージシャンやジャンル、その他の固有名詞について、YouTubeやWikipediaなどのweb上のリソースを活用し、関連する情報を調べておくこと。

さらに、PCを用いたプレゼンテーションの手法について事前に訓練し、使用機材や接続環境、ネット環境（使用教室では、大学のネット環境がスムーズに使えない可能性が高い）の調査と準備を行い、アプリケーションや音楽・映像ファイルの扱いなどに習熟しておき、入念にリハーサルするなど、スムーズな発表が行えるようにしておくことを極めて重要な事前学習としてあげておく（毎年この準備が不十分なため、機材

的なトラブルで発表がうまくいかないケースがとても多いので注意されたし。

●**評価方法**

発表内容を中心に、出席点、討議への参加度、毎回課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する。

●**受講生へのコメント**

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を20名程度とする予定。日本人学生は履修登録だけでは受講できない場合があるので注意すること。受講生の選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること(初回の授業に欠席した学生の受講は認めない)。また、出席と討議への参加度を非常に重視するので積極的な授業参加が望まれる。受講に際しては基礎的な情

報処理技能(ウェブ閲覧と必要な情報の検索、音楽・動画の提示、プレゼンテーション資料作成など)に習熟していることが前提となる。発表準備はかなりの負担となるので、覚悟して受講すること。

●**教材**

- ・ 烏賀陽弘道『Jポップとは何か』(岩波新書)
入手の上通読しておくこと。また、以下の参考文献も読んでおくのが望ましい。
- ・ 輪島裕介『創られた「日本の心」神話—「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』(光文社新書)
- ・ 津田大介+牧村憲一『未来型サバイバル音楽論—USTREAM、Twitterは何を変えたのか』(中公新書ラクレ)
- ・ 円堂都司昭『ソーシャル化する音楽—「聴取」から「遊び」へ』(青土社)

[科目ナンバー : GE HIS 01 37]

掲載番号	科目名	日本事情ⅡB	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	綱島 洋之(非常勤)
98	英語表記	Current Japanese Culture and Society IIB						

●**科目の主題**

This course is originally intended for foreign exchange students, but Japanese students who wish to learn more about Japanese society from a different vantage point, or who are interested in social topics and wish to experience classes taught in English are very welcome as well.

Aiming at a further understanding of the Japanese society, this course examines contemporary cultural and social issues in Japan from the standpoint of the people who have been exposed to various forms of social exclusion e.g. poverty and discrimination. The lecturer will attempt to clarify how structural elements like economic tendencies, cultural ideologies and political decision-making interact with the social fabric and daily life in Japan. Fieldwork will also be included in order to critically review the media reports and to become familiar with the present situation in Osaka.

●**授業の到達目標**

The goal is to grasp the common background to several social and cultural phenomena in Japan, so that the students can make their own research topics clearer.

●**授業内容・授業計画**

Week 1 : Introduction

Week 2 : Social exclusion in Japan: an overview

Week 3~5 : Change in the labor market and homelessness

Week 6 : Gender Stratification and the Family System

Week 7 & 8 : Liberation movements by, for and of disabled people

Week 9~11 : Discrimination and participatory community development (incl. excursion)

Week 12 : Ethnic minority groups and 'Japaneseness'

Week 13 : Attempts to social solidarity

Week 14 & 15 : Reflections and presentations

●**事前・事後学習の内容**

Checking the media coverage of recent social and cultural issues events will be a good preparation. Writing down what you have thought during each class and checking again the media coverage of relevant issues will be useful for preparing the presentation material and writing the term paper mentioned below.

●**評価方法**

Grades are based on participation in discussion and presentation (60%) and a term paper (40%). The details are described below.

●**受講生へのコメント**

Each class will have 10-minute discussion, and in addition, at the end of the course, some or all the

students (depending on the number) will be required to give presentations on what they have learned and considered from different angles. And then, based on those presentations and comments of other students, all the students will write a term paper. Accordingly, class attendance will be useful for writing the term paper.

[科目ナンバー : GE HIS 01 41]

掲載番号	科目名	日本の古典文学 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	小林 直樹 (文)
99	英語表記	Introduction to the Classics of Japanese Literature I						

●科目の主題

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがなくなってしまうような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることであろう。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

●授業の到達目標

前近代の日本人が遺した文章と絵画から、我々とは異なる彼らの発想や思惟、世界観を読み取り、現代の「常識」を相対化する視点を養う。その上で、現代人が古典を読む意義を理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

本年度は、説話絵巻の二大名作、『伴大納言絵巻』と『信貴山縁起絵巻』をよむ。詞書（文章の部分）を

●教材

Summaries will be handed out every class. Some parts of the course material will be based on Yoshio Sugimoto's "An Introduction to Japanese Society: 4th Edition", Cambridge University Press (2015).

読んだ後に、それに該当する絵画部分を鑑賞し、物語を総合的に味わう。予定している授業の概略は以下の通り。

1. ガイダンス
2. 『伴大納言絵巻』『信貴山縁起絵巻』概説
- 3～4. 『伴大納言絵巻』上巻
- 5～6. 『伴大納言絵巻』中巻
- 7～8. 『伴大納言絵巻』下巻
- 9～10. 『信貴山縁起絵巻』山崎長者の巻
- 11～12. 『信貴山縁起絵巻』延喜加持の巻
- 13～14. 『信貴山縁起絵巻』尼公の巻
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：配布プリントの詞書本文を事前に熟読する。

事後学習：授業で熟考した詞書と絵の関係について整理するとともに、参考図書を読むことでさらに理解を深化させる。

●評価方法

試験による。

●受講生へのコメント

物語や歴史が好きの人向き。授業中はテキストとスクリーンに写される絵画世界にひたすら没頭してほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』（中公新書）他。

[科目ナンバー : GE HIS 01 43]

掲載番号	科目名	東洋の文学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	田淵 欣也 (非常勤)
100	英語表記	Oriental Literature						

●科目の主題

中国の白話小説『水滸伝』を読む。

●授業の到達目標

『水滸伝』は『三国志演義』などと共に中国の「四大奇書」の一つに数えられる作品であり、明代白話小説、ひいては中国長編小説の代表作と見なされている。日本においても、江戸時代以来、人々に親しまれて多くの翻訳や研究を生み、文学作品にも影響を与えた。本授業では、『水滸伝』を読むことを通じて、中国の古典小説とその背景について知識を得、理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

初めに『水滸伝』の概要について講義する。その上で、各話の名場面などを選んで読み進める。また映像作品を鑑賞し、どのように原作を踏まえ、またアレンジしているかも確認していく。

おおよその進歩計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 作品選読および解説

第15回 期末試験

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関して予告するので、翻訳などで事前に内容を確認することが望ましい。また学習内容の理解のため授業後にも復習を行い、試験に向けて講義の要点や各自の考えをまとめるようにす

ること。

●評価方法

主として平常点と学期末に行う試験により評価する。ただし、コミュニケーションカードの内容も適宜加味する。全体の三分の一、すなわち五回以上の欠席者には単位を与えない。

●受講生へのコメント

原文を扱うため、本来は漢文もしくは中国語の基礎力を身につけていることが望ましいが、授業中に解説していくので、そうでない者も興味があれば身構えずに受講してもらいたい。日本文学にも影響を与えた『水滸伝』の魅力を感じ取ってもらえればと思う。

●教材

必要に応じて作成した資料を配布する。

参考書：高島俊男『水滸伝の世界』（大修館書店、一九八七年・筑摩書房、二〇〇一年）

宮崎市定『水滸伝－虚構のなかの史実』（中央公論社、一九九三年など）

松村昂・小松謙『図解雑学水滸伝』（ナツメ社、二〇〇五年）

訳本：駒田信二訳『水滸伝』（平凡社、一九六七年・筑摩書房、二〇〇五年など）

吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水滸伝』（岩波書店、一九九八年など）

[科目ナンバー : GE HIS 01 44]

掲載番号	科目名	西洋の文学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	筒井 香代子 (非常勤) 他
101	英語表記	European Literature						

●科目の主題

この授業では、現代にも通じる問題である生の不安と彷徨をテーマに、独文学、英文学、仏文学よりそれぞれ作品を選び、講じる。

●授業の到達目標

それぞれの担当者が取り上げた作家、作品への理解を深める。19世紀から20世紀という時代と、その文学に慣れ親しむ機会を持つ。

●授業内容・授業計画

はじめに神野が独文学としてヨーゼフ・ロート(1894-1939)を取り上げる。ロートは旧オーストリア・

ハンガリー帝国の最東部の地で生まれた。第1次大戦後、彼はジャーナリストとして、ウィーン、ベルリンの他、ヨーロッパ各地を駆け巡るが、1933年にナチスが政権を取ると、パリへ亡命し、かの地で客死する。この授業では、「放浪のユダヤ人」という言葉そのものの人生を送ったロートの、多民族共生国家ハプスブルク帝国への懐古と放浪の哀しみとを、『ファルメライヤー 駅長』と『聖なる酔っぱらいの伝説』の中に読み解いていく。

ついで筒井が英文学としてトマス・ハーディ(1840-1928)の作品『ダーバヴィル家のテス』を取り上げる。

ハーディが生きた時代は激動の時代であり、諸々の価値観が揺らいだ。その中で科学の進歩やダーウィンの著書『種の起源』などがもたらした宗教的懐疑、信仰の喪失が、作品においても主要なテーマの一つとなる。時代の変化を背景に、確固たる不変のものを求めて苦しみもがき、彷徨する主な登場人物の姿が作品を通して描かれる。授業では、さらに主人公たちの結婚や階級問題、また当時の道徳観などをテーマと関連付けて見ていく。

そして最後に藤田が仏文学としてアルベール・カミュ(1913-1960)を取り上げる。アルジェリアで貧しいフランス人入植者の家庭に生まれ、2つの世界大戦を体験したカミュは、フランスやヨーロッパに対する複雑な眼差しを終生持ちつづけた。またその鋭い感性から日常生活や世界に潜む「不条理」を見出し、『異邦人』を執筆する。授業では小説の主人公ムルソーを中心に、カミュのその他の作品、また同時代の作家たちも参照しつつ、生の不安の現れの一つとも言えるカミュの「不条理」とはどのようなものかを探っていく。

- ①オリエンテーション (筒井)
- ②『ファルメライヤー 駅長』 1 (神野)
- ③『ファルメライヤー 駅長』 2 (神野)
- ④『聖なる酔っぱらいの伝説』 1 (神野)
- ⑤『聖なる酔っぱらいの伝説』 2 (神野)
- ⑥『ダーバヴィル家のテス』 1 (筒井)
- ⑦『ダーバヴィル家のテス』 2 (筒井)
- ⑧『ダーバヴィル家のテス』 3 (筒井)
- ⑨『ダーバヴィル家のテス』とその他の作品 (筒井)
- ⑩『異邦人』 1 (藤田)

- ⑪『異邦人』 2 (藤田)
- ⑫『異邦人』 3 (藤田)
- ⑬カミュと同時代の作家達 (藤田)
- ⑭まとめ (筒井)
- ⑮試験 (筒井)

●事前・事後学習の内容

あらかじめ取り上げられる作品を読んでおくこと。

●評価方法

定期試験60%、小レポート40%で評価する。第1回オリエンテーションを含む10回以上の講義への出席がなければ評価しない。

●受講生へのコメント

独・英・仏文学の授業に満遍なく出席し、西洋の文学の全体像を把握するようにしてほしい。

●教材

授業でハンドアウト(プリント)を配布する。また、受講者があらかじめ読んでおくべき作品は、以下の通り。

＜神野担当＞

ヨーゼフ・ロート作 池内紀訳『聖なる酔っぱらいの伝説 他四篇』(岩波文庫)、『ファルメライヤー 駅長』も収録されている。

＜筒井担当＞

トマス・ハーディ作 井上宗次・石田英二訳『テス(上)(下)』(岩波文庫)

＜藤田担当＞

アルベール・カミュ作 窪田啓作訳『異邦人』(新潮文庫)

[科目ナンバー : GE HIS 01 45]

掲載番号	科目名	日本の近代文学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	奥野 久美子 (文)
102	英語表記	Modern Japanese Literature						

●科目の主題

文学研究とは何なのか、大学で取って日本近代文学を学ぶ、研究するとはどういうことか、その意味と面白さの一端を知ることなどを主題とする。またその前提として、代表的な作家や作品にできるだけ多く触れるための動機づけもおこなう。

●授業の到達目標

鑑賞とは異なる研究の方法を学び、その一端を身に付けることを目標とする。また作品に描かれる事象や思想の時代的背景を知り、自らの環境や思想との比較により考察を深める。

●授業内容・授業計画

本講義では、「震災と文学」をテーマとし、日本の近代文学、また現代文学を代表する作家たちの作品の

中から、日本で過去に起きた震災を素材とした小説作品を精読し、時代や風俗、思想など、作品の諸背景をふまえた読みを試みる。各作品ごとに精読後小レポートを課し、また作品のテーマに応じてグループ討論も行う。

1. ガイダンス
2. 芥川龍之介と関東大震災；附：芥川龍之介と恒藤恭
3. 芥川龍之介「疑惑」(明治24年濃尾大地震) (1)
4. 芥川龍之介「疑惑」(2)
5. 芥川龍之介「疑惑」(3)
6. 芥川龍之介「疑惑」(4)
7. 東野圭吾「夢幻花」(平成23年東日本大震災) (1)
8. 東野圭吾「夢幻花」(2)

9. 東野圭吾「夢幻花」(3)
10. 東野圭吾「夢幻花」(4);附:東野圭吾「幻夜」(平成7年阪神淡路大震災)
11. 川端康成「空に動く灯」(大正12年関東大震災)(1)
12. 川端康成「空に動く灯」(2)
13. 川端康成「空に動く灯」(3)
14. まとめ
15. 授業内試験

●事前・事後学習の内容

授業各回前に必ずその回に扱う作品を事前に読んでおくこと。また、各作品の精読を終えるごとに小レポートを実施するので、講義内容の復習や作品内容の反芻など、各自準備を欠かさないようにすること。

[科目ナンバー : GE HIS 01 46]

掲載番号	科目名	芸術の世界	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	高梨 友宏 (文)
103	英語表記	Aesthetics and Science of Art						

●科目の主題

「芸術への美学的ないし哲学的アプローチの試み」

人の心を引きつけてやまない芸術作品。人は芸術作品にときに慰めを見だし、ときにそこから生きる希望を与えられてきた。芸術に理屈はいらない。ただ作品を前にして、心の感じるままにふるまえばよい。そう考えることももちろん間違いではない。しかし、芸術に心惹かれている状態から、一步踏み込んでみよう。するとそこには、私たちが芸術に惹かれるのはなぜか、芸術において、美しいとはどういうことなのか、あるいは一般的に、美とは何か、芸術は美を乗り越えていくのか自然の美と芸術の美は違うのか同じなのか。芸術の本質は変化するのか、変わらないのか。芸術によって人は善くされるのか、堕落させられるのか、芸術は人間にとってどんな意味をもつのか、等々の問いが開かれている。この授業では、こうした問いについて、古来、美や芸術についてなされてきた考えに学びつつ、ともに考えていきたい。

●授業の到達目標

「芸術に関する知識の習得ではなく、芸術についての考え方を身につけること」

上記「科目の主題」に挙げたような問いを考えていくために、絵画や音楽の作品を実例として紹介することはあるが、こうした芸術作品に関する知識を学ぶことにこの授業の主眼があるわけではない。むしろ作品の実例を通して、芸術に関する美学的・哲学的な考え方を習得することを目指したい。

●授業内容・授業計画

- ① 「はじめに、または芸術 (美)・真理・善」
- ②-⑤ 「芸術と美」

●評価方法

授業への参加姿勢、一作品ごとに課する小レポート、および学期末試験 (授業時間内)。

●受講生へのコメント

毎回、対象作品の下読みなどの準備を必要とする。また指定された教科書の購入と事前の下読みは必須である。

●教材

「疑惑」「空に動く灯」はプリントを配布する。

「夢幻花」は長編のため下記の文庫本を各自購入すること。

教科書: 東野圭吾『夢幻花』(PHP文芸文庫: 定価780円(税別))

美の所在/自然美と芸術美/芸術美の変様

⑥-⑨ 「芸術と崇高」

崇高論/崇高と芸術/共感覚と触覚的視覚/美的近代の変様

⑩-⑫ 「芸術と倫理」

美的経験と道徳/芸術による人間形成

⑬-⑭ 「まとめ (調整)」

●事前・事後学習の内容

事前学習として、下の「教材」の項に挙げた参考図書のうち、少なくともどれか1冊に目を通してほしい。内容が難しければ、十分理解できなくてもよい。事後学習としては、授業で話した内容を踏まえて、関連図書 (授業中に指示) を改めて読み直してほしい。また各自、自分の芸術経験について、授業で話したことを踏まえて反省を試みてほしい。

●評価方法

学期末試験による評価。

●受講生へのコメント

予備知識は特に必要としないが、芸術への関心はもとより、哲学や美学に関心を持つ人を歓迎。面倒な理屈に付き合う覚悟を携えて受講してほしい。

●教材

参考書: 今道友信『美について』講談社現代新書、カント『判断力批判』(から第1部「美(感)的判断力の批判」)(翻訳複数あり)、ヘーゲル『美学講義』(翻訳複数あり)、シラー『人間の美的教育について』法政大学出版、ドイツ観念論研究会編『思索の道標をもとめて-芸術学・宗教学・哲学の現場から-』萌書房など。その他、必要に応じて授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 48]

掲載番号	科目名	西洋美術の流れ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	石黒 義昭 (非常勤)
104	英語表記	History of Western Art						

●科目の主題

絵画、彫刻、建築などの作品には、人びとが世界をどのように認識してきたかということ、つまり人間の「ものの見方」が刻み込まれている。この講義では、古代ギリシアからバロックにいたる代表的な作品について、美学・芸術学の観点（哲学的立場）および美術史学の観点（実証的立場）から考察し、「ヨーロッパの人びとは世界をどう認識してきたか」問うていく。造形芸術だけではなく、できるだけ、音楽や文学もとりあげ、どのような価値観が形成されてきたのか、総合的に考えていきたい。

●授業の到達目標

- 1) ヨーロッパを可能なかぎり実感し、ヨーロッパを理解する態度を身につけることができる
- 2) 西洋美術史の展開とその背景をおおよそ理解することができる
- 3) 芸術作品を人間存在の記録として読み解く態度を身につけることができる

以上を、一言でいうと、ヨーロッパ発祥の諸学問分野を探究していくうえで必要となる基礎力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1) 授業内容

- ①テーマをしめしたうえで、DVD教材やパワーポイントなどによって、作品を見てもらう
- ②重要な事柄について説明する（場合によっては、説明のまえにコメントや質問を記してもらう）
- ③興味深い指摘や質問などがあれば、次回の講義冒頭で紹介する

2) 授業計画（状況によって変更される可能性あり）

- 第1回 導入（参考文献の紹介など）
- 第2回～第4回 古代ギリシア
- 第5回～第6回 古代ローマ
- 第7回～第8回 西欧中世
- 第9回～第12回 ルネサンスと宗教改革

第13回～第14回 バロック

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

初回に配布する参考文献一覧のなかから3冊以上読むこと。できれば、各時代にかんして1冊以上の参考文献（計5冊）を読むこと。学修には能動性・積極性が不可欠である。

●評価方法

学期末の定期試験（100％）とする。形式（論述、記述、穴埋めなど）は、履修者の数によって変る。

●受講生へのコメント

- 1) 特別な知識は前提としない。あくまで「共通科目」の授業である。しかし、例年、西洋史を学んでいない学生は、「高校で習っていないから、わからない」といった先入観をもちがちである。不明な点があれば、授業後に質問などして、疑問を曖昧なまま放置しないこと。講義の進め方などについても、もし問題があれば、気軽に提案してくれるとありがたい（不満を抱えたまま受講するのはつまらない。また、教員は、ときに三百名に達する履修者の氏名をいちいち覚えられない。質問や提案が成績に関係することはありえないので、安心して声をかけてほしい）。
- 2) 美学・芸術学や美術史学は、個々人の経験をもとにして成り立っている。実際に作品にふれなければ、この講義のような概説を聴いても、あまり意味がない。受講生は、展覧会や音楽会などに足をはこび、さまざまな作品に接してほしい。
- 3) 視聴覚教材をつかうときは教室の明かりを消さざるをえないので、メモをとる人は、手許を照らすライトなどを持参したほうがよい。

●教材

特定の教科書は使用しない。参考文献一覧（できるだけ文庫、新書など入手しやすいものから100冊程度紹介する）を配布する。

[科目ナンバー : GE HIS 01 49]

掲載番号	科目名	音楽の諸相	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	増田 聡 (文)
105	英語表記	Aspects of Musics						

●科目の主題

英米圏のブルース、ジャズ、ロック、ブラックミュージックを中心とする20世紀のポピュラー音楽史を講じる。19世紀末に発明され、20世紀前半に欧米を皮切りに世界中へと普及していったレコードやラジオといった音響再生産メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多彩なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ20世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、視聴覚資料に基づいて概観していく。

●授業の到達目標

20世紀英米ポピュラー音楽史の展開について標準的な知見を獲得し、それを社会史的・文化史的な背景と関連づけて理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽形成の社会的背景
- (2～4) 初期音楽産業、ジャズ、ブルース（アメリカ黒人音楽文化の浮上と複製メディアの役割）
- (5) ロックンロールの誕生（ティーンエイジャーと音楽産業）
- (6) 公民権運動とフォークロック、ビートルズ
- (7) 60年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黒人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック
- (10) 70年代ロックの拡大と展開
- (11) パンク・ロック
- (12) 70年代黒人音楽の発展（ディスク文化の浮上）
- (13) 80年代のMTV文化とヒップホップ
- (14) 90年代以降のテクノ／クラブカルチャーの展

開

(15) MTV以後の音楽／映像文化の諸相とインターネット

順序は入れ替わったり、二つの主題を一つのコマで行う場合もある。

●事前・事後学習の内容

後述する参考書、また関連書籍を読むとともに、シラバスや授業内で触れたミュージシャンやジャンルに関連する楽曲をYouTubeなどを活用して各自視聴しておくこと。またWikipediaなどのweb上のリソースや各種関連書を用いて、授業内で触れた固有名詞について関連する情報を調べ、音楽史・文化史上の背景知識を自学自習しておくこと。

●評価方法

学期末試験の点数のみにより評価する。出席は一切とらない。授業内容に強い関心を持つ学生の履修を希望する。

●受講生へのコメント

単位取得が困難な授業であるので、単に時間割を埋めるための履修登録はお勧めしない。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。視聴覚資料を多用するので、授業中の私語には厳しく対処する。

●教材

授業内容と関連する、あるいは発展的な内容を含む参考書として下記を挙げる。購入の必要はないが、授業期間内に通読しておくこと。

- ・増田聡・谷口文和『音楽未来形——デジタル時代の音楽文化のゆくえ』（洋泉社）
- ・大和田俊之『アメリカ音楽史—ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ）
- ・長谷川町蔵＋大和田俊之『文化系のためのヒップホップ入門』（アルテスパブリッシング）

[科目ナンバー : GE HIS 01 51]

掲載番号	科目名	文学と芸術へのいざない (演習)	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	山本 真由子 (文)
106	英語表記	Seminar: Introduction to the Literature and Art						

●科目の主題

『土佐日記』講読

●授業の到達目標

『土佐日記』を、詳しく読み解くことを通して、平安時代の和文、和歌への理解を深める。写本の影印を用いて読むことにより、くずし字に親しむ。

●授業内容・授業計画

『土佐日記』を、東海大学附属図書館蔵桃園文庫青谿書屋本の影印を用いて、詳しく読み解く。青谿書屋本『土佐日記』は、作者紀貫之の自筆本を忠実に書写した為家筆本を、さらに転写した本とされる。平安時代の文学作品で、作者の自筆に近い形で読むことのできるものは少ない。作品の表記、用語、表現など、さまざまな視点からの検討が俟たれる。

授業は主として、受講者の発表によって構成される。発表に際して、受講者は、各自の担当箇所のくずし字を通行の字体に置き換えて(翻字)、語句の意味を調べ(語釈)、その意味を踏まえた全体の解釈(通釈)をまとめたレジュメを用意する。授業では、レジュメを元に発表する。その発表を承けて、他の受講者も質疑に参加し、受講者全員で『土佐日記』を読み解いて

ゆく。

授業計画は次の通り。

- ①ガイダンス(『土佐日記』概説、調査方法の説明、発表順の決定など)
- ②講師による発表の例示。
- ③-⑭受講者による発表
- ⑮ まとめ

●事前・事後学習の内容

授業までに、その回に読む箇所のくずし字を通行の字体に置き換えて(翻字)おくこと。

授業後は、発表レジュメや授業の内容をふまえて、作品を読み直し、予習の翻字を修正すること。

●評価方法

授業時の発表と質疑への参加、発表後に質疑をふまえて改訂し学期末に提出するレポート(発表レジュメ)による。

●受講生へのコメント

受講者数は15名までとする。

●教材

授業時に詳しく指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 19]

掲載番号	科目名	数学の考え方2	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	河内 明夫 (理 特任)
107	英語表記	Concepts of Mathematics 2						

平成24年度以前に「数学の歩み」の単位を修得した者は本科目を履修できない。

●科目の主題

数学は科学の言葉であり、現在の科学文明の礎をなしている。数ある学問の中で一番役に立っているのは数学であると言っても過言ではない。しかし数学には、役に立つという実益の面だけでなく、美意識に訴える芸術的な面があり、一つの文化をなしている。多くの数学者は、実益の面より、むしろ美意識に動かされて数学を作ってきたと思われる。また歴史は、美意識を動機として作られた美しい数学が、時代を経て役に立つことを証明している。

●授業の到達目標

この講義では、数学の面白さ、美しさ、文化としての数学を伝えたい。そこから、数学の考え方が学び取れればと思う。

●授業内容・授業計画

ユークリッドから現代に至る数学の中から、幾つかの話題をオムニバス形式で取り上げる。話題間に緩やかな関連がある場合もあるが、基本的に各話題は独立し1～3回で読みきりとする。

●事前・事後学習の内容

レポートを指定回数以上提出する必要があるので、講義で述べたキーワードについて、図書を調べたりインターネットで検索したりする必要がある。

●評価方法

指定回数以上のレポート提出により評価する。

●受講生へのコメント

数学の予備知識としては、大学への文系志望者が学習する高校までの数学を仮定する。更に、数学への興味と論理的思考力のあることが不可欠である。

●教材

教科書は用いない。参考書は講義のなかで紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 02]

掲載番号	科目名	ニュートンから アインシュタインへ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	内藤 清一 (非常勤)
108	英語表記	History of Physical Concept from Newton to Einstein						

●科目の主題

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達に依って工夫、発見された種々の物理的思考法を、出来るだけ易しく理解できるように講義する。

●授業の到達目標

この“文科系学生の為の講義”を通して、次のような「21世紀的認識」を獲得出来るようになる事を（講義者の）“大きな目標”とする：「絶対的真理」が（我々の人類世界を含む）全宇宙を支配している」と云う基本的認識は、“21世紀に生きる文科系若者達にとっても、欠かすことが出来なくなってくる”であろう。「ああ言えば、こうも言える」との従来学問では、最早21世紀の諸問題に対処できず、21世紀を救うことは出来ない。

●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

1) ニュートンの法則 2) リンゴと月 3) 調和振動 4) 宇宙の航行 5) エネルギーの保存 6) 運動量の保存 7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則 10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則 14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール

更に、“物理学読本”（朝永振一郎編、みすず書房）を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。 2) 光が波であるとはどういう意味か。 3) エネルギーの旅 4) 電気振動 5) 原子論の発展 6) 原子内部の構造 7) 量子の概念と物理学の将来

●事前・事後学習の内容について

特に指定しない。

●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わる

ることがある。数式は若干使用する。

●教材

教科書 朝永振一郎“物理学読本”（みすず書房）。

[科目ナンバー : GE NAT 01 03]

掲載番号	科目名	ミクロとマクロの世界	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	牲川 章 (理 特任)
109	英語表記	Microscopic and Macroscopic Worlds						

●科目の主題

自然界の理解に向けたあくなき挑戦を通じて、一方でミクロ世界、他方でマクロ世界の理解が進んできた。ミクロ世界に分け入っていくと以下のような階層構造が見えてくる：物質→分子→原子→原子核+電子、原子核→陽子+中性子→クォーク。現在までにクォークは6種類確認されている。電子は、仲間と共にレプトンと呼ばれるグループを構成しているが、このグループも6種類の粒子から成っている。ここまでが、現在到達しているミクロ世界の最前線である。他方、恒星や宇宙などのマクロ世界に関する関心は太古の昔から存在した。現在では、星の構造やその進化、並びに宇宙そのものの進化に関する理解が深まり、これらは上述のミクロ世界の物理学と密接に関係していることが判明している。

本科目では、ミクロ世界からマクロ世界に亘る物理学を、その有機的つながりを軸にできるだけ数式を用いずに平易に解説する。

●授業の到達目標

ミクロ世界：理論の歴史的推移（熱の物理学→前期量子論→量子力学）を軸に、ミクロ世界の理解がどのように進んできたかの理解。

マクロ世界：特殊相対性理論→一般相対性理論をもとにマクロ世界、宇宙の理解がどのように進んできたかの理解。

ミクロ世界とマクロ世界の有機的関連の理解。

●授業内容・授業計画

以下の項目について解説する。

1. 物性物理学

物質は分子、原子から出来ているシステムであるという視点から解説する。磁石、超低温での超伝導現象などをとりあげる。

2. 素粒子物理学

上述のミクロ世界の物理学を採りあげる。2008年度ノーベル物理学賞の受賞対象となった南部陽一郎（本学特別栄誉教授、故人）、小林-益川の理論についても概説する。

3. 宇宙物理学

恒星の構造とその一生、138億年前のビッグバンに始まる宇宙の進化と現在の宇宙の構造などについて概説する。

●事前・事後学習の内容

事後、復習（反芻）を行うこと。

●評価方法

理解度（コミュニケーションカードを毎回提出、出席票を兼ねる）、出席状況等による総合評価。

●受講生へのコメント

授業中の質問は歓迎する。又、理解度を計るために毎回配布するコミュニケーションカードに「質問」を書き加えることも歓迎する。尚、上記の授業内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、プリントを毎回配布する。参考書は必要に応じて授業中に提示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 04]

掲載番号	科目名	化学の世界	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	小嵯 正敏 (理) 他
110	英語表記	World of Modern Chemistry						

●科目の主題

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、自動車、医療機器などに

使われている素材は高度な科学技術の上に成り立っている。もちろん、私たちの身体は化学物質からできている。生命体としての機能は物質の性質に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学

に興味をもってもらえること、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活（QOL = Quality Of Life）を日常的に送るために大変役に立つことを念頭において、化学と私たちの関わりについて多彩な話題を提供する。

●授業の到達目標

日常的に接する身の回りの化学製品や、生物に由来する化学物質、歴史やニュースに登場する化学物質について表層的なとらえ方から一歩進んで、化学の原理・考え方に基づいて理解する力を養う。

●授業内容・授業計画

3名の講師によるオムニバス形式で実施する。各タームでは以下のテーマについて解説する。

第1ターム 香りの化学（小嶋 正敏）

香りを通して、化学物質と生物の関わりを解説する。

第2ターム 身の回りの化学（廣津 昌和）

化学の基礎をふまえて、身の回りの化学を考える。

第3ターム ノーベル賞の化学（豊田 和男）

ノーベル賞を題材に、化学研究と私たちの生活との関わりを解説する。

●事前・事後学習の内容

日頃から化学に関するニュースや記事などに注意して、関連する化学の事項を勉強することを勧める。また、講義を聞いて関心をもったことに関しても、さらに深く学習してもらいたい。

●評価方法

毎回の平常点に加えて、オムニバスの各タームで随時小テストを行い、総合的に成績を評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。

上記の講義内容は一部変更することがある。

●教材

教科書は使用せず、教材は担当者が提供する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 05]

掲載番号	科目名	現代の分子科学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	中島 信昭 (理 特任)
111	英語表記	Modern Molecular Science						

●科目の主題

我々は地球温暖化、エネルギー、原子力問題に直面しており、避けて通れない。本科目ではこれら人類の危機にどう対処し、考えるかを分子科学(物理化学)の観点から紹介する。夏の暑さ、台風、節電、将来のエネルギー、原子力とその廃棄物処理など、これらの問題が顕在化しており、油断し、そのままにしておくと同様な困難に陥るであろう。

理科系の分野を専門としない学生に説明するが、空の色は青などの光に関連した現象の説明から入り、関係する簡単な実験、燃焼、熱膨張、LNGの作成、二酸化炭素で水が酸性化する、などを実演し、これらの根底にある物理、化学の法則はどのようなものかについて紹介する。

●授業の到達目標

地球温暖化とエネルギー、そして原子力に関連した問題に理解を深め、風力、太陽電池、人工光合成などの自然エネルギー、省エネ、原発、石炭、LNG火力発電所の位置付けを考える。今後どう対処していくのか、について各々考えをまとめる。これらを通じて物理、化学に親しみ、関心が深まることを期待している。

●授業内容・授業計画

以下の課題で講義し、レポートを課す。

- ① 爆発するエネルギー需要、温暖化の概要
- ② 光、色、空の青、水の青 夕焼け
- ③ 燃焼、

ろうそくの科学

④ 熱膨張 海面上昇、LNG ⑤ 海の酸性化 過去の気象

⑥ 人類の危機：地球温暖化 対策？ ⑦ 我々は何(元素)からできているか？

⑧ 核のエネルギー(核融合、核分裂)、レーザー

⑨ 前半のまとめ

⑩ 原子力発電所事故、廃棄物、原爆 ⑪ トリウムって何？

⑫ 人間100バケレル ⑬ 水素エネルギー、再生可能エネルギー

⑭ 自然エネルギー vs. 原子力 ⑮ 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

温暖化、エネルギー、その政策について、考えを一旦は固めておく。講義の後改める。

●評価方法

レポートと出席を含む平常点を加味した総合評価

●受講生へのコメント

温暖化、エネルギー問題、原子力に関する疑問・質問に物理・化学の観点から応えます。

●教材

教科書の指定なし。教材はパワーポイントのコピー等を提供する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 07]

掲載番号	科目名	生物学への招待	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	田中 俊雄 (理) 他
112	英語表記	Introduction to Biology						

●科目の主題

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、生命の最も基本的な単位である細胞（遺伝子・タンパク質）について理解し、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物の多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、海洋大型動物を題材として形態や行動、繁殖システムなどマクロな視点から生物進化を解説する。さらに、生命の特徴の1つである環境に対する反応について、主に植物を例にとって概説する。

●授業の到達目標

[第1ターム] まず、遺伝子DNAに刻まれた暗号が多様なタンパク質へと変換され、それらタンパク質のはたらきによって細胞を基本単位とする生命現象が営まれることを理解する。ヒトの遺伝子情報が解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。このように多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義と役割について理解する。

[第2ターム] ウミガメやペンギン、アザラシ、イルカなどの大型海洋動物と陸上動物の対比を軸に、形態、生理、回遊、繁殖システムなどマクロな視点から、セキツイ動物の進化について学ぶ。あわせて、迫りくる温暖化とその影響についても理解する。

[第3ターム] 生物は、まわりの環境の情報を捉え、それに適切に反応することによって生命活動を営んでいる。まず、植物の生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について理解する、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて理解する。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞とは何か 2. 遺伝子、タンパク質とは何か 3. 微生物とは何か 4. 微生物の多様性 5. タームのまとめと小テスト

[第2ターム] 担当：松沢慶将

1. ハ虫類、鳥類、哺乳類の形態、生理、ならびに生息環境への適応 2. クジラやウミガメの回遊とその意義、および定位能力 3. ハ虫類における性決定の仕組みと意義 4. タームのまとめと小テスト

[第3ターム] 担当：保尊隆享

1. 環境要因の種類と反応の概要 2. 光に対する反応 3. 重力に対する反応 4. 水に対する反応 5. 温度に対する反応

[まとめ] 担当：1. 田中俊雄

●事前・事後学習の内容

配布したプリントの内容および授業中に指摘した項目について、次回授業までに各2時間程度の予習・復習をしておくことが望ましい。

●評価方法

第1タームおよび第2タームに関しては、各タームの最終日に実施する小テストによって行う。第3タームに関しては、課題への回答の評価によって行う。3つのタームの成績を平均して評価するが、1つのタームにおいても評価点がゼロであった場合（例えば小テストを受けなかった場合）は不合格とする。なお、小テストは、第1タームの5回目と第2タームの4回目に実施する。

●受講生へのコメント

オフィスアワーは特に設けないが、必要に応じて質問に答えるための便宜をはかる（第2タームの場合は、授業終了後のみ）。

●教材

プリント：適宜配布 参考書等：田中担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』（培風館）、保尊担当：テイツ・ザイガー『植物生理学』（培風館）

[科目ナンバー : GE NAT 01 08]

掲載番号	科目名	地球の科学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	益田 晴恵 (理) 他
113	英語表記	Review of Earth Science						

●科目の主題

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、天然資源などを中心の話題としながら、地球の歴史や現在の姿、将来予測などを、地球に関する科学史や最深の地球学の知識に基づいて概説する。

●授業の到達目標

21世紀は「環境の世紀」と言われる。日本列島は、元々地球上の自然災害の多い場所に立地している。特に、近年は大規模な災害の発生が続き、自然と私たちのつきあい方に関心が持たれている。本講義は、私たちが暮らす自然の環境は、様々な自然現象の微妙なバランスの上に保たれていることを、地球全体の活動（すなわちエネルギー移動）の観点から理解し、自然環境問題を考えるきっかけとしたい。さらに、未来を見通した社会的選択について、自然環境を基盤として考える素養を育てたい。

●授業内容・授業計画

1 地球の活動と自然災害

- (1) 地球の内部構造 (2) 地震 (3) 津波 (4) 活断層 (5) 火山と災害 (6) 都市地盤の形成と特性 (7) 都市の環境変遷と災害 (以上、井上直人担当)

2 地球のエネルギー物質循環と環境

- (8) 水循環と水資源、地球システムの概念 (9) 大気圏・水圏の構造とエネルギー循環 (10) 大気と海洋の相互作用 (ENSOイベント) (11) 炭素循環と生物活動、地球温暖化 (12) 環境汚染と人間の社会活動 (13) 元素濃縮と地下資源 (14) ハビタブルゾーン (宇宙の中の地球) (15) 講義全体のまとめ (以上、益田晴恵担当)

●事前・事後学習の内容

事後に授業内容に関連したレポート提出を求める。

●評価方法

出席点40点、レポート20点、期末試験40点。出席点には、講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題や自然災害に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現在の姿を知る」ことの大切さが分かる授業を行いたい。できるだけ欠席しないでほしい。

●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 09]

掲載番号	科目名	体験で知る科学と技術	単位数	4	授業 形態	講義 演習 実験	担当教員	井上 淳 (理) 他
114	英語表記	Experimental Learning of Science and Technology						

●科目の主題

現代では自然科学とそれを応用した技術は著しい発達をとげ、社会のあり方に大きな影響を及ぼしている。本科目は、人文系専攻（生活科学部人間福祉学科・医学部看護学科を含む）の学生を対象に、基本的な実験・実習を通して自然科学と技術に親しむことを目的とする。

●授業の到達目標

実験・実習を通じて、自然科学と技術の知識を幅広く身につけ、また自らこれを探求し読みとく能力を養う。

●授業内容・授業計画

第1週はガイダンスで、授業の概要説明、実験・実習にともなう注意、実験棟内の実験室見学、および消

火訓練を行う。第2週からの内容は以下の通りで、日程はガイダンスで説明する。（担当者や内容は変更されることもある。）

1. 「顕微鏡による植物細胞の観察」レーウエンフックの顕微鏡と同じ原理の顕微鏡をガラスビーズとペットボトルを用いて作り、光学顕微鏡で得られる像と比較しながら植物細胞を観察する。（担当：曾我康一、若林和幸（生物学科））
2. 「地球の重力加速度」ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求める。（担当：神田展行（物理学科））
3. 「楽器と声の音波」電子楽器や自分の声をマイククロホンで電気信号に変え、音を波としてとら

えて、音の基本的な性質を理解する。(担当：山本和弘 (物理学科))

4. 「プリズムを通して見たLEDの光とプランク定数」光はエネルギーの塊であり、光の色はその波長と関係する。この実験では、プリズムをもちいて単色 LED の光を観察し、光とエネルギーを対応づける基本的な定数「プランク定数」を求める。この定数が0でないということが、現代物理学の根幹をなしている。(担当：小原顕 (物理学科))
5. 「二酸化炭素 (CO₂) の性質」CO₂ が地球温暖化の主役といわれている。CO₂ が水に溶け、酸性を示し、大理石に酸を加えるとCO₂ が放される、などの実験からCO₂ の性質を確かめる。温室効果、温暖化について理解を深める。(担当：中島信昭 (化学科))
6. 「偏光で見る自然」身の回りには光があふれているが、偏光板を通していろいろなものを見ると、日常見る光景と違った光景が見える。青空や、液晶モニター、方解石を通してみる二重文字も偏光と関係している。偏光板を用いて身の回りの光を観察し法則を考える。(担当：奥平敬元 (地球学科))
7. 「生物発光と化学発光」生物発光および化学発光は熱を伴わない発光 (冷光) である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。(担当：品田哲郎 (化学科))
8. 「医薬品の活性成分 - 解熱剤からアスピリンの単離」身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。(担当：舘 祥光 (化学科))
9. 「DNAとRNAの抽出」生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。(担当：曾我康一、若林和幸 (生物学科))
10. 「ニワトリの胚発生」めん鳥は卵を産み、卵からはヒヨコが生まれてくる。あたためられた有

精卵の中で何が起きているのか、慎重に殻をひらき、覗いてみよう。(担当：水野寿朗 (生物学科))

11. 「空中写真から読み取る活断層」地震をおこす可能性のある地下の活断層は、地表にも地形の違いとして明瞭に現れる。空中写真を用いて地形を立体的に観察し、活断層がどのような場所にある、どのような変位が生じているのかを理解する。(担当：井上 淳 (地球学科))
12. 「キャンパスの植物で探る陸上植物の進化」植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿に至ったのか、その過程を理解するために、杉本キャンパスに植栽されている実際の植物を観察しながらたどる。(担当：大久保敦 (大教セ))
13. 「ブラウン運動」直径1 μm 程度の微粒子が水中で不規則に動くのがブラウン運動である。2000倍の顕微鏡でその運動の時間経過を観察し、パソコンを使った解析によってアヴォガドロ定数を決定する。(担当：吉野治一 (化学科))

●事前・事後学習の内容

各トピックの内容やわからない語句などについてあらかじめ調べておくこと。授業終了後は、レポート作成などを行うこと。

●評価方法

すべてのテーマについて総合して評価する。

●受講生へのコメント

初学者を歓迎する。ただし履修希望者が48名を超えるときは抽選とする。また『実験で知る自然環境と人間 (~2012年度)』もしくは『実験で知る自然の世界 (~2015年度)』を修得したものは本科目を履修することはできない。初回授業は基礎教育実験棟308教室へ集合すること。学生教育研究災害傷害保険などの傷害保険への加入が受講に必要である。各実験室に技術職員が常駐しているので、困ったことがあれば指導を仰ぐこと。

●教材

初回に指導書を配布する。白衣などその他必要な道具は貸与する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 11]

掲載番号	科目名	科学と社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	木野 茂 (非常勤)
115	英語表記	Science and Society						

●科目の主題

この授業では、公害・環境問題・原子力・薬害・職業病など、身近な問題をテーマにして科学と社会のかわりを考える。

●授業の到達目標

これからの社会では、さまざまな問題に対してどうすればよいかを自分で考えることのできる力をつけることと、その解決のために他人と理解し合い、協力し合う力が必要である。この授業では、科目の主題を通して、自分ならどうするかを考える力をつけてほしい。

●授業内容・授業計画

この授業では、講義を聞いて知識を得るだけで終わらず、クラスメイトや先生とのコミュニケーションを通して知識を自分のものとし、互いに学び合う双方向のスタイルを進める。ディベート大会や対話型授業だけでなく、ペアワークやグループ討議などを講義の中で常時併用しながら進める。

1. 双方向型授業への誘い
2. 公害の原点：水俣病とは
3. 水俣病は終わっていない
4. 三池炭じん爆発（故原田正純氏のビデオ講義あり）
5. 公害と労災職業病
6. 原発問題でチーム・ディベート大会
7. プルトニウムと私たち（アイリーン・M・スミスさんのビデオ講義あり）
8. 原発で働く労働者
9. エネルギーと人間（小出裕章氏のビデオ講義あり）
10. 環境問題と差別（受講生による討論劇予定、役者募集）
11. 薬害を防いだ労働者（ゲスト：北野静雄氏・元大鵬薬品労組）
12. 薬害エイズは今…（ゲスト：花井十伍氏・薬害HIV被害者）
13. 環境問題と行政（ゲスト：二木洋子さん・元高槻市会議員）
14. レポート事前発表会（発表者4人、エントリー制）
15. 環境問題と専門家の役割

●事前・事後学習の内容

この授業ではテキストを用意しているので、授業の前に該当の章を読み、400～600字程度の要約を提出す

ることが事前学習にあたる。このアサインメントと呼ぶ事前学習で講義の理解度がいかに上がるかは毎年の受講生が等しく認めるところである。

事後学習はリフレクションである。毎回、授業後に感想や意見を自由にメールで出してもらい、それに私のコメントを付けたコミスベ（Communication Space）と名付けた頁を授業レジュメに掲載している。また、ディベート大会の後は振り返りを、ゲストの講義の後には返礼として短歌作りを行っている。

●評価方法

レポート評価4、平常評価（出席だけでなく日常の学習に対する評価）4、授業への積極度2で総合評価する。レポートの課題は授業で扱った範囲内なら自由であるが、内容は自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講生へのコメント

この授業は、環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、先生やクラスメイトと話してみたい人、新しいスタイルの授業を経験してみたい人にお勧めである。

この授業は双方向型授業をモットーとしているので、受動的ではなく授業への主体的能動的積極的な参加が望ましい。授業中に上演する劇の役者や事前レポート発表会へのエントリーを大いに歓迎する。また、授業後には感想や意見をメールで出せば、翌週の授業プリントでコメントを付けて返すことにしている。さらに、授業後にはクラスメイトや私との交歓会も設けている。

この授業のテーマでは当事者の方々の話を聞くことも大事なので、ゲストを招いたり、ビデオで話を聞く機会も設ける。なお、ゲストの二木さんと北野さんは市大の卒業生である。

関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせはe-mailで：shigeru.kino@gmail.com

第1回の出席者でディベートのチーム分けを行うので、出席できない場合は上記までメールで連絡すること。

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』（東京教学社）。

教室では、毎回、授業用プリントも配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えてもらっているの、自由に利用してほしい。

[科目ナンバー : GE NAT 01 12]

掲載番号	科目名	現代科学と人間	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	宮田 真人 (理) 他
116	英語表記	Today's Natural Sciences and Human Beings						

●科目の主題

自然科学の最先端知識に基づき、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を理解する。

●授業の到達目標

主題を理解し、有意義な考察が行えること。

●授業内容・授業計画

1. パンデミック（感染症世界流行）への警鐘：1970年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは幻想にすぎなかった。今日、出血熱、インフルエンザ、AIDS、耐性菌、プリオンなど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は発達した医療技術を有している反面で、グローバル化、高齢化、テロリズムといった、パンデミックを誘発しうる要因も多い。既存の映画を例に用いて、現代社会における感染症を考察する。(宮田 真人) [4回]
2. ヒトゲノム解読がもたらすもの：ゲノムとは、1つの細胞内にあるDNAのすべてを指し、その細胞からなる生物を作り上げるのに必要な遺伝子を含んでいる。ヒトゲノムを読み解くことによって多くの新たな知識がもたらされたが、その情報の活用については様々な議論がある。そのいくつかの実例について考える。1) ヒトとチンパンジーのあいだ：「ヒトらしさ」はゲノムから分かるか。2) 病気のかかりやすさと遺伝子検査：自分の遺伝情報をどのように扱うか。3) 子どもを設計する親：遺伝子増強はどこまで認められるか。(増井 良治) [3回]
3. 現代の科学技術の基礎には物理学がある。そして、現代物理学は、20世紀前半に構築された量子力学と相対性理論の上に成り立っている。現代物理学、特に量子力学の考え方を紹介し、その応用である低温物理学について述べる。(坪田誠) [4回]
4. 「薬」を題材に、昔の人々が物質をどう考えていたのかについて、歴史・民族性・地域性などの観点から解説する。薬の体内挙動を考慮することで私たちの体の仕組みをより深く理解する。(品田 哲郎) [3回]

●事前・事後学習の内容

1. 日頃からパンデミックについてよく考えること。
2. ヒトとチンパンジーの違いは何か、自分と親・他人の違いはどのようにして生じるのか等について、授業までに考えてみる。コミュニケーションペーパーに書く質問・疑問について、授業の後に自分自身でも調べて考え、次回の授業に臨む。3回の授業の内容をふまえて、最後の課題レポートに取り組み、自分なりの意見を述べること。
3. 授業中に指示された文献等を学習すること。

●評価方法

質問カード（毎時間提出）・レポートにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を期待する。

●教材

参考図書の指示、印刷物の配布など。

[科目ナンバー : GE NAT 01 14]

掲載番号	科目名	ドキュメンタリー・環境と生命	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	木野 茂 (非常勤)
117	英語表記	Documentary : Environment and Life						

●科目の主題

この授業では環境と生命に関する現代的な課題について考える力をつけることを目標とする。主に取り上げる課題は、原発、支援、生命、幸福、差別、難民などである。

授業の前半ではTVドキュメンタリーを観て感想や

意見を交流し、後半ではグループによる研究発表をもとにみんなで考える。

●授業の到達目標

授業の前半では、ドキュメンタリーの内容をまとめる力、自分の意見をまとめる力、他の人の意見を理解する力など、自分で考える力をつけることを目指す。

授業の後半では、グループで調べ、考え、発表し、クラスメイトとディスカッションすることにより、自分以外のクラスメイトとともに学ぶ力をつけることを目指す。

●授業内容・授業計画

前半の授業では最初に30～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品はTVで放送されたものが中心で、内容は環境と生命に関するものであるが、いずれも考えるべき課題がたくさん含まれている。番組一覧は第1回目の授業で発表する。

教室での鑑賞後は、番組内容を400字程度の要約カードにまとめ、次週教室で提出する。

また自分の感想や意見を400字程度にまとめ、facebookでクラスメイトと交換する。翌週、最も良かったと思う意見を投票し、選ばれた人には1分間スピーチとちょっとしたプレゼントで表彰するアトラクションがある。

前半では鑑賞と並行して、課題ごとのグループ研究も始める。

グループは各自の関心を尊重しながら4人程度になるよう調整する。研究テーマはグループで相談して決め、調査研究もグループで相談しながら進める。

後半の授業では、グループ研究の成果をグループ全員で発表し、クラスメイトとQ&Aを行う。このときの司会進行は受講生に行ってもらおう。

●事前・事後学習の内容

この授業ではグループ研究を行うので、そのための調査研究やレジュメ作成、プレゼン準備が事前学習にあたる。グループは初回で編成するので、2回目の授業からは事前の準備が必要である。

事後学習は、前半の授業ではドキュメンタリーの要

約作成とfacebookへの投稿がそれにあたる。後半のグループ発表では、発表の振り返りや感想意見のfacebookへの投稿となる。

●評価方法

ドキュメンタリーの番組要約2、facebookへのドキュメンタリー感想意見2、グループ研究2、facebookへのグループ研究発表に対する感想意見2、課題レポート2の割合で総合評価する。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●受講生へのコメント

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命の問題に関心を持つ人、聞くだけではなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにグループワークをやってみてみたい人にはお勧めである。

facebookは授業外時間に投稿・閲覧が可能なコミュニケーション用の電子掲示板として利用する。その使い方および使用上の注意事項は最初の回で説明する。

また、最初の回でグループ研究のグループ編成を行うので、必ず出席してほしい。やむを得ず欠席する人は次のアドレスまでメールで事前連絡すること →shigerukino@gmail.com

ともかくこの授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

授業後は、教室で話せなかったことも自由に交流できる「交歓会」の場を設けるので、ぜひ参加してほしい。

関連科目：「科学と社会」

●教材

毎回、プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 15]

掲載番号	科目名	森林環境と人間社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	大久保 敦 (大教)
118	英語表記	Forest Environment and Human Society						

●科目の主題

この授業では科学的な視点も含めた多角的視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

●授業の到達目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。

具体的には森林環境について

- ①興味・関心が持てるようになること
- ②多角的視点で観る態度を身につけること
- ③主体的に情報を得る態度を身につけること
- ④保全の意識を高めること
- ⑤将来に渡って学び続ける基礎を築くこと

●授業内容・授業計画

- ①森と林の違い (森林の基本概念)
- ②身の回りの森林環境1 (野外観察実習)
- ③身の回りの森林環境2 (野外観察実習まとめ)
- ④森林の恩恵1
- ⑤森林の恩恵2 (ディベート)

- ⑥森林の恩恵3 (ディベートのまとめ)
- ⑦森林の生い立ち1 植物分類の基礎 (室内観察実習)
- ⑧森林の生い立ち2 植物の上陸と森林の出現
- ⑨日本の森林
- ⑩世界の森林
- ⑪人間社会と森林1 日本の森林問題①
- ⑫人間社会と森林2 日本の森林問題②
- ⑬人間社会と森林3 地球規模の森林問題 (東南アジアの熱帯林)
- ⑭人間社会と森林4 地球規模の森林問題 (アマゾンの熱帯林)
- ⑮まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回目の授業において、この授業全体で参考となる文献やWEBサイトを紹介するので、各回の授業のテーマに関する事項について、授業開始前までに必ず内容を確認し授業に臨むこと。また、第6回目・7回目授業の事後学習の一環として中間レポートが課され

ます。さらに第15回目授業では最終まとめの課題に取り組むための事前の準備が必要です。

●評価方法

- 1. 毎授業の課題：70点
 - ①1回～14回授業課題40点
 - ②最終回授業課題30点
 - 2. 中間レポート：30点
- 1、2を総合的に評価 (記述内容を重視)

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待しています (受身の授業を期待している人には不向き)。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれ関連しているので授業目標を達成するために、全ての授業に参加することが理想です。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE NAT 01 16]

掲載番号	科目名	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	飯野 盛利 (理) 他
119	英語表記							

●科目の主題

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題 (食糧問題) であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題 (環境問題) である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の視点から考える。

●授業の到達目標

植物の機能や生態系について理解し、食糧・環境問題の諸相を知り、これらの問題の解決策を探るために自分で考え、行動できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1. 食糧・環境問題の現状 (担当: 飯野盛利、1回)
 - 2. 生態学から見た環境問題 (担当: 伊東明、2回)
- 環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物 (人間) にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。講義では、「共有地の悲劇」と「生物多様性」の2つのテーマを取り上げ、生態学的な概念を使った考え方について解説し、環境

問題を理解する助けとしたい。

- 3. 絶滅危惧植物と食料・環境問題 (担当: 厚井聡、2回)

現在、日本の野生植物の1/4が絶滅の危機に瀕しているとして「絶滅危惧植物」に指定されている。絶滅危惧植物の現状とその保全を紹介し、食料・環境問題との関係を考えてい。また、保全に対する附属植物園の取組みについて紹介する。

- 4. 食糧・環境問題に対する植物遺伝学からのアプローチ (担当: 植松千代美、2回)

不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその問題点について以下の点から解説する。(1) 環境問題と食糧問題入門、(2) 遺伝子組換え植物とその功罪。

- 5. 植物園から考える環境問題 (担当: 伊東・植松、4回)

植物園で実施されている環境問題研究プロジェクト「都市と森の共生をめざして」の成果をふまえて森の植物園の役割を考える。(1) なぜ今、都市と森の共生か (植松)、(2) 森林の二酸化炭素固定 (非常勤講師・小南裕志)、(3) 森林に暮らす動物の多様性 (非常勤講師・谷垣岳人)、(4) タンポポの多様性と保全 (伊東)、について解説する。

6. 地球温暖化防止のために（担当：植松、3回）

（1）地球温暖化－国際会議の現場から－（非常勤講師・早川光俊）、（2）菜の花プロジェクト（非常勤講師・藤井絢子）、（3）バイオエタノールを中心とする自然エネルギー利用の可能性（植松）、などについて最新の状況を紹介する。

7. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題（担当：飯野、1回）

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

●事前・事後学習の内容

配布プリント等を使って講義内容を復習し、講義で紹介した参考図書、新聞記事、Web記事などを読んで講義のテーマについて理解を深める。また講義では理

学部附属植物園における研究成果や取り組みを多数紹介するので、開講期間中あるいは事前・事後に植物園を訪れ、実際に植物を見ながら講義内容に関する理解を深める事がのぞましい。植物園は学生証提示で無料入園できる（月曜休園、詳細は植物園HP参照）。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと期末に実施する試験、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE NAT 01 17]

掲載番号	科目名	植物の機能と人間社会	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	曾我 康一（理）
120	英語表記	Plant Function and Human Society						

●科目の主題

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣したりするためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているのかを具体例を示しながら解説する。

●授業の到達目標

植物は忘れられやすい存在である。しかしながら、人間をはじめとするほとんどの生物は植物に依存して生きている。この科目を通して植物に興味・関心が持てるようになることを目指す。また、人間の生存にとって、植物がいかに重要であるかについて考えるきっかけを作ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 植物と動物
2. 植物の生殖
3. 環境シグナルに対する反応とシグナル伝達
4. 環境シグナルの受容
5. 植物ホルモン（オーキシン、ジベレリン）
6. 植物ホルモン（サイトカイニン、アブシシン酸、エチレン）
7. 組織培養技術とその利用
8. 遺伝子組換え技術

9. 遺伝子組換え植物の利用

10. 植物工場

11. 宇宙農業

12. 植物を利用した有用物質の生産

13. 植物による環境浄化

14. まとめ

15. まとめと試験

●事前・事後学習の内容

今回の講義で使用するプリントを講義終了時に配布するので、事前に内容を確認し、不明な用語などは参考書などを利用して調べておくこと。また、講義内容に関する不明な点は講義時に配布する質問票を用いて質問をするとともに、各自で参考書などを利用して確かめること。

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校において生物を履修していないことを前提に講義をおこなう。また、講義終了時に質問票を配布・回収し、次回以降の講義時に質問に答える。

●教材

プリントを配布する。

参考書：絵とき 植物生理学入門 改訂3版（オーム社）ISBN：978-4-274-21927-6

[科目ナンバー : GE NAT 01 18 .CO]

掲載番号	科目名	植物と人間 (演習)	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	飯野 盛利 (理) 他
121	英語表記	Seminar : Plants and human life						

●科目の主題

植物は生態系における生産者として、私たち人間を含む、ほぼ全ての生物の生存に必要な有機物とエネルギーを作り出している。植物は、私たちの食料としてだけではなく、衣料や医薬品の原料として、あるいは鑑賞用としても利用されている。このように、私たちの生活は植物と切っても切れない関係にある。本講義は、理学部附属植物園で収集・保存されている植物を活用して、植物と人間の関係について学び、植物についての理解を深めることを目標とする。

●授業の到達目標

植物園内に植栽されている植物の観察を通じて植物の多様性を体験的に学ぶ。また森林や植物進化の道筋、植物の遺伝資源としての重要性について学び、これらを伝える技術を習得する。

●授業内容・授業計画

・陸上植物の進化 (担当: 大久保敦、大教センター)

植物と人間を理解する上で、植物の進化の過程を把握しておくことは重要です。かつて地球上の陸地には植物も動物も存在しない時代があった。植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿の森林に至ったのか、その過程を植物園に植栽されている実際の植物、身近な果物や野菜を観察しながらたどる。

・遺伝資源と多様性 (担当: 植松千代美)

植物園には様々なバラ科植物が植栽されているが、それらの中からナシ属野生種のコレクションを例に、観察や簡単な実験を通して遺伝的多様性、野生種から栽培種への進化、遺伝資源の重要性などを学ぶ。

・熱帯植物の利用 (担当: 飯野盛利)

植物園で収集・保存されている熱帯植物には、鑑賞

植物として親しまれているもの、食料、香辛料として、また工業用に利用されているものなどが含まれている。それらを観察、学習する。また、各自が興味をもった植物について、図書、インターネット、文献などで調べ、それをポスターにまとめることを実習する。

・染料 (担当: 厚井聡)

植物は染料として利用され、人間の生活と密接に関係してきた。園内の植物を実際に観察しながら、植物の染料としての利用について学習する。

●事前・事後学習の内容

4名の教員が用意した配布資料を使って講義内容を復習するとともに、講義で紹介した参考図書、新聞や雑誌の記事、Webの記事などを読んで、各テーマについての理解を深める。

●評価方法

各担当教員が提示した課題のレポートをそれぞれ100点満点で評価し、各課題の評点を平均して科目の評価とする。また、演習科目であることを考慮して、講義時間中における発言などの積極的参加を評価し、加点する。

●受講生へのコメント

授業は夏季休暇中の研修期間に、大阪府交野市にある理学部附属植物園において、集中・オムニバス方式で行う。野外での実習が含まれるので、帽子など日除け対策を講じること。なお、1テーマ1日で4日間の内容だが、フィールドワークが中心のため、1日予備日を設けている。台風等で休講となった場合は予備日に補講を実施する。

●教材

プリントを適宜配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

掲載番号	科目名	情報基礎	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	村上 晴美 (創) 豊田 博俊 (非常勤) 永田 好克 (創) 安倍 広多 (創)
122	英語表記	Introduction to Information Processing						

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

□平成17年度以前の「情報処理 I」

□平成17年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータ・リテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかかわっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Webや電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピュータの基本的な仕組み、コンピュータがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Webブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Webページの作成手始め

簡単なWebページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTMLの基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2進数や16進数の表現、情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せて

コミュニケーションの便利さと問題点を覚える。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練されたWebページを目指して

Webページの視覚的構造をスタイルシートによって制御する方法を理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

●事前・事後学習の内容

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすること。

授業中に行った演習については、学術情報総合センター5階のPCルームなどで復習しておくこと。

●評価方法

レポートおよび期末試験によって評価する(授業への取り組み姿勢を加味する場合がある)。

●受講生へのコメント

演習中にコンピュータの操作につまずいたら、遠慮なく教員もしくはティーチングアシスタントにヘルプを求めること。教室内の飲食は禁止である。

●教材

講義メモやWebページなどを活用する。

参考書:

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」

情報処理学会編集ITText一般教育シリーズ「情報と社会」

[科目ナンバー : GE INF 01 01]

掲載番号	科目名	情報基礎	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	大西 克実 (創) 西村 雄一郎 (非常勤) 米澤 剛 (創) ベンカテッシュ ラガワン(創)
123	英語表記	Introduction to Information Processing						

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

□平成17年度以前の「情報処理Ⅰ」

□平成17年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

●科目の主題

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピューターを道具として使いこなすことをコンピューターリテラシーと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピューターの利用が不可避になりつつある中で、将来も柔軟にコンピューターと関わっていけるよう、リテラシーの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なアプリケーションに慣れ親しむことを交えながら、コンピューターの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピューターを活用できる能力を涵養する。

●授業の到達目標

ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションなど、よく用いられるアプリケーションの基本操作を身につける。インターネット、Webや電子メールなどの基本的な仕組みを理解し、情報利用者・発信者としての能力を身につける。コンピューターの基本的な仕組み、コンピューターがさまざまな情報をどのように扱っているかを理解する。

●授業内容・授業計画

- ①コンピューターとその操作の基礎
- ②電子メールとコミュニケーション
- ③④リテラシーと情報セキュリティ

コンピューターリテラシー、ネットワークリテラシー、メディアリテラシーやリテラシーのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権/著作権などの考え方を知る。

- ⑤⑥情報発信－ホームページ作成

各自のホームページ作成を通して、インターネット

世界での情報収集や情報発信の便利さと問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。

⑦⑧調べ方－情報検索

インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。

⑨⑩考え方－アルゴリズム

コンピューターで考え方を実現する方法はプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。

⑪⑫空間情報の利用

地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。

⑬⑭表計算,文書作成など

ここまで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがあり、演習では各自の習熟度に応じての対応を行います。担当教員はそのクラスの採点責任者ですが、講義の内容に応じて教材作成担当者などがその時間の解説・質問などを受け持つ場合もあります。

●事前・事後学習の内容

次回の講義に関する資料などを本授業のWebサイトに掲載する場合がある。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●教材

Webページを基本的に利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	授業 形態	講義 演習	担当教員	松浦 敏雄 (創) 他
124	英語表記	Introduction to Programming						

●科目の主題

この講義では、プログラミングとは何かを体験し、それを通じて、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用擬似言語を用いて体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通じて、プログラミングを経験する。

●授業の到達目標

自らアルゴリズムを考案し、プログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、制御構造(順次処理 条件分岐(1))
- (2) 制御構造(条件分岐(2), 繰り返し)
- (3) 制御構造(繰り返しのネスト), 実数の扱い
- (4) 図形描画, 乱数の扱い
- (5) 中間試験
- (6) Javaによるプログラム開発方法
- (7) 基本データ構造

- (8) オブジェクト指向プログラミングの概要
 - (9) mainの引数とファイル入出力の方法
 - (10) クラスの定義とクラス継承
 - (11) ~ (13) G U I プログラミング
 - (14) ~ (15) 最終課題
- 一部の授業は石橋勇人(創)が担当する。

●事前・事後学習の内容

事前学習：なし
事後学習：毎回宿題を課す

●評価方法

レポートおよび試験により総合的に判断する

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどが自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料およびWebページを利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	石橋 勇人 (創) 他
125	英語表記	Introduction to Programming						

●科目の主題

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

特定の言語(Python)を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として1コマを講義、1コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション(授業の概要、プログラム作成から実行までの流れ、など)
- (2) 制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理

- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題
- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) GUIプログラミング(1)
- (9) GUIプログラミング(2)
- (10) 正規表現とWebアクセス
- (11) 再帰呼び出し
- (12, 13) 最終課題
- (14, 15) 総括及び補足

※内容や順序は必要に応じて変更する場合がある。一部の内容は松浦敏雄(創)が担当する。

●事前・事後学習の内容

特に事前学習の必要はないが、毎回演習課題に解答して提出する必要がある。前回課題の復習も行うこと。

●評価方法

演習課題(70%程度)および試験(30%程度)によって評価する。

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行う

ので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

主としてWebページ上に掲示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	大西 克実 (創)
126	英語表記	Introduction to Programming						

●科目の主題

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピューターについての理解を深めることを目的とする。

●授業の到達目標

どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、コマンドプロンプト使用法
- (2) Java・形式、コメント・入力の扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if,while)
- (4) 制御構造 (for,continue,break)・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログ

ラミング

- (7) データ構造・再帰呼出
 - (8) 整列問題 (1)
 - (9) 整列問題 (2)
 - (10) ファイル入出力
 - (11) アプレットプログラミング (1) GUI部品
 - (12) アプレットプログラミング (2) イベント処理
 - (13) ネットワーキング
- (それぞれが、1回の授業に対応するわけではない)

●事前・事後学習の内容

講義中提示する課題を翌週までに提出すること。

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどは自由に使えること (「情報基礎」程度) を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Webページなどで提示する。

[科目ナンバー : GE INF 01 11]

掲載番号	科目名	プログラミング入門	単位数	2	授業形態	講義 演習	担当教員	永田 好克 (創) 他
127	英語表記	Introduction to Programming						

●科目の主題

この講義では、プログラミングとは何かを体験し、それを通じて、コンピューターについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用擬似言語を用いて体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Javaを用いる予定) を通して、プログラミングを経験する。

●授業の到達目標

自らアルゴリズムを考案し、プログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、制御構造(順次処理 条件分岐(1))

- (2) 制御構造(条件分岐(2), 繰り返し)
- (3) 制御構造(繰り返しのネスト), 実数の扱い
- (4) 図形描画, 乱数の扱い
- (5) 中間試験
- (6) Javaによるプログラム開発方法
- (7) 基本データ構造
- (8) オブジェクト指向プログラミングの概要
- (9) mainの引数とファイル入出力の方法
- (10) クラスの定義とクラス継承
- (11) ~ (13) GUIプログラミング
- (14) ~ (15) 最終課題

一部の授業は松浦敏雄(創)が担当する。

● 事前・事後学習の内容

事前学習：なし

事後学習：毎回宿題を課す

● 評価方法

レポートおよび試験により総合的に判断する

● 受講生へのコメント

エディタ、Webブラウザなどが自由に使えることを

前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

● 教材

配布資料およびWebページを利用する。

[科目ナンバー : GE INF 01 21]

掲載番号	科目名	情報の探索と利用	単位数	2	授業形態	講義演習	担当教員	吉田 大介 (創) 米谷 優子 (非常勤)
128	英語表記	Information Retrieval and its Application						

● 科目の主題

大学では自主的に研究や学習を進め、考察を深めることが期待され、その成果として論文・レポートの作成が必須となっている。論文・レポート作成においては、テーマを絞り込み、そのテーマに即した情報をさまざまな情報源から収集し、読解し、整理し、論理的に思考を深め、新たな情報として発信する、情報活用能力が求められる。本講義では、上のような知的生産の基礎を身に付けられるよう、論文・レポート作成のプロセスを段階的に取り上げて、各ステップの要点を習得できるように、講義と演習によって実践的な力を育成する。

● 授業の到達目標

論文・レポートの作成プロセスを理解し、大学の各専門分野での研究生活を円滑に、より効果的に進めるための、知的生産に関する基礎力を育成する。

● 授業内容・授業計画

- 1 授業の概要・計画 (概説)
- 2 論文・レポートの要件と作成のステップ
 - ・論文・レポートの意義と要件
 - ・論文・レポート作成のステップ
- 3 テーマの絞り込み・発想法
- 4-9 情報の収集
 - ・学術情報総合センターの使い方
 - ・OPAC、閲覧・貸出、外部データベース、ILL、レファレンスサービス
 - ・文献情報の探索と文献の入手、図書、雑誌記事、新聞記事
 - ・検索エンジン

・各種データベース

10-11 情報の読解

12-13 論文・レポートの執筆

・読んでもらえるレポート・論文

・表・グラフの挿入

・著作権への配慮・引用のルール

14-15 発表

・口頭発表・プレゼンテーションソフトによる発表の方法と要点

※理解度その他によって、授業計画は変更することがある。

● 事前・事後学習の内容について

授業内容を深く理解し身につけるために、ほぼ毎回課題を課す。授業外課題として課された場合は、事後学習として真摯に取り組み、期限を守って提出すること。また参考となる文献を適宜紹介するので、事前学習・事後学習として積極的に目を通すことが望ましい。

● 評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する(定期試験は実施しない)

● 受講生へのコメント

授業は講義と実際の演習を組み合わせで進行する。演習課題の提出が必須となるので、期日を守って提出すること。

電子提出の場合は提出の際のマナー等にも気をつけること。

● 教材

適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 32]

掲載番号	科目名	情報化の光と影	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	和久井 理子 (法 特任) 他
129	英語表記							

●科目の主題

今日、インターネットを介してウェブやメールで情報をやり取りすることは、生活に不可欠の行為となっている。しかし私たちはその背後に存在するさまざまな問題について自覚することが必要である。本科目では、現代社会の情報化に関連した問題について、経営学、経済学、法学、文学、医学という多視点から眺め、その功罪についてともに考えてみたい。

●授業の到達目標

情報化の功罪について多くの分野にわたって見聞を広め、自分の考えを表現できるようにする。

●授業内容・授業計画

第1回～第3回 太田雅晴、テキ林瑜、高田輝子 (商)

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報システムの関係論を論じる。

- (1) 情報化とイノベーション、太田雅晴
- (2) 情報と企業行動、テキ林瑜
- (3) 情報大規模化の光と影、高田輝子

第4回～第6回 中島義裕 (経済)

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。この講義では、最初に経済学の基礎を実験経済学的手法を利用して説明する。需要曲線と供給曲線によって価格が決定されること、このグラフを利用して税金や独占、生産調整など身近なニュースの背景が理解できることを示す。その上で、情報の非対称性が価格形成にもたらす影響と、その解決策について説明する。評価は小テストで行う。2回目と3回目の小テストでは、前の週の授業内容について問うので復習して来ること。

第7回～第8回 和久井 理子 (法 特任)

市場において自由で公正な競争を維持する法である独占禁止法では、情報化の進展に伴い新たな問題が浮上している。ここでは、これらの問題のうち、(1) オンライン・プラットフォーム上の取引と独禁法によ

る規制、及び、(2) ビッグデータと独禁法上の課題について取り上げて検討する。

第9回～第11回 島田 希 (文)

学校教育分野では、「教育の情報化」を進展させるべく様々な取り組みが展開されている。しかしながら、教室環境の整備状況に関しては都道府県市町村レベルにおいて格差がみられるほか、教科指導におけるICTの効果的な活用についても実証研究の途上にある。ここでは教育の情報化をめぐる現状およびその意義と課題について考えていく。

第12回 朴 勤植 (医)

医療分野においても急速に情報化が進んでいる。情報化の「光」として医療情報システムの発展と「陰」としての個人情報保護との関わりについて解説する。評価はレポートで行う。

第13回 福井 充 (医)

最近では、マスメディアなどで、健康食品や健康法などが取り上げられることも多く、中には根拠の乏しいものも見られる。氾濫する情報を正しく評価するための統計学的考え方について講義する。事前学習課題については、講義1ヶ月前までに<http://statisv02.med.osaka-cu.ac.jp/kougi/jyuhouka.htm>に記載するので各自確認のこと。評価はレポートで行う。

第14回 全体総括

●事前・事後学習の内容

担当教員より授業中に指示する。授業内容・授業計画欄も参照すること。

●評価方法

レポート、出席、小テストなど(各講義担当者による)。各担当者が担当1回当たり7.7点で評価したものを合計する。レポートを提出しなかったり小テストを受けないと、その部分は0点となる。

●受講生へのコメント

出席は必須である。

●教材

必要に応じて掲示するか、授業中に配布する。

[科目ナンバー : GE INF 01 33]

掲載番号	科目名	社会と統計	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	藤井 輝明 (商)
130	英語表記	Social Statistics						

●科目の主題

統計資料の読み方, 利用の仕方を, 身近な領域を中心に習得する。

●授業の到達目標

社会をデータから客観的に観察する態度を身につける。

社会が単純な決定関係にはないことの反映として, 社会データは変異を含むが, ここから規則性をみつける統計的方法を理解する。具体的には, 以下の通り。

データの分布, 代表値, 母数などの概念を理解し, 要約・記述する。相関と回帰等の基礎的方法を理解する。

社会データの作成と提供のあり方を理解し, 実際の公的データを利用できるようにする。

●授業内容・授業計画

人間は「子供」時代には「偶然の遊び」を楽しむが, 「大人」の人間は統計的思考に慣れていないだけでなく, 生理学的に確率を理解しないようにできているとさえいわれる。また, 自分の思いこみや考え方を覆す事実を突きつけられたときの「意図しないハプニングの驚き」はどのような人間にとってもさしあたり気持ちの良いものではない。「偶然の思考」の学としての統計学は, こうした偶然の中に秩序を見いだす技の体系である。

他方で, 統計とは, 政府などが社会の様々な側面を記録・調査し, 公表した, 数字の並びという意味でも用いられる。この意味での統計は, 作成の目的, 設計, 政府による利用, そして公表された統計が人々によって利用される過程も体系的に計画される必要があり, その中に偶然性の処理の手法を含みつつ, 社会に対する事前の認識, 公正な作成方法の評価, 統計をめぐる政府と国民との関係など, 社会的側面もあわせて考えなければ, 理解できない。授業では統計学のこの二つの側面を理解できるよう授業をするつもりである。

統計学は, 企業や官庁で大学時代に最も学んで欲しい学問の一つにあげられて久しい。2007年の統計法改正によって, 統計は社会の情報基盤と位置づけられ, 政府だけでなく国民の合理的意思決定の基礎資料たることを要請されている。より国民が利用できる統計の提供が模索される一方, 国民が統計により経験的合理的に意思決定する力は従来に増してその必要性が高まっている。

- 授業計画(予定)
- ① イントロダクション
- ② 代表値と散らばりの尺度
- ③ 期待値の性質と変数の標準化

- ④ 共分散と相関
- ⑤ 相関と回帰
- ⑥ 多変量回帰
- ⑦ データの集計
- ⑧ ここまでの復習と練習
- ⑨ 統計過程と統計の公共性
- ⑩ 公的統計制度 日本統計制度改革を中心に
- ⑪ 人口統計 高齢化, 少子化, 人口移動などの把握
- ⑫ 労働統計 雇用や賃金の状態
- ⑬ 家計に関する統計 収入, 支出, 資産などについての統計の読み方と加工法
- ⑭ ここまでの復習と練習
- ⑮ まとめ

●事前・事後学習の内容

- 事前学習
 - 高校の数学で学習した統計分野を復習しておく。
 - 小学校の総合学習, 生活科, 社会科, 中学校の社会科, 高校の地歴科, 公民科での発展的分野などで学習した, 体験学習, 地域研究, 事例研究を思い出しておく。
 - 毎回, 前回までの授業内容を復習する。
- 事後学習
 - 授業で使用した資料, 授業中に解いた問題, テイクノートをよく復習しておく。
 - 自由課題に取り組むことが推奨される。

●評価方法

期末試験と, 小テスト, レポートなどの平常点を総合的に判断する。

●受講生へのコメント

大学で授業をうける権利は他人に対する責任を伴う。私語, 暴言等の妨害行為, 授業中の遊興, 交信等他人の学習意欲を減退させる外部効果のある行為, 授業参加者の尊厳を踏みにじる行為を行うことは認められていないから, これらを行うものは参加できない。

●教材

自作資料を用いる。教科書・参考書を示す場合は授業中に指示する。

事前に科目選択等のための参考資料としては, たとえば以下の文献を参照 (授業では使用しない)。

- ① 金子治平・上藤一郎 (編) (2011) 「よくわかる統計学 I基礎編 第2版」(ミネルヴァ書房)
- ② 御園謙吉・良永良平 (編) (2011) 「よくわかる統計学 II経済統計編 第2版」(ミネルヴァ書房)

[科目ナンバー : GE INF 01 41 .CO]

掲載番号	科目名	ジオ・リテラシー入門	単位数	2	授業形態	実習	担当教員	木村 義成 (文)
131	英語表記	Introductory Geo-Literacy						

●科目の主題

本科目では、地域調査の基本となる地図を読む能力、地図を作る能力、地図を解釈する能力、地域を統計データや現地で収集したデータから分析する能力をジオ・リテラシーとして捉えて、地理情報システム (GIS) やGPSを利用した地域調査の手法を取得する。特に本科目では座学のみならず、実習を重視する。したがって、集中講義の形式で情報処理機器を備えた演習室で実施する。

●授業の到達目標

自分の興味のある分野に対して、特に公共機関から提供されている地理情報を収集し、加工し、簡単な地図化や空間分析ができるようになることが本科目の到達目標である。

●授業内容・授業計画

第1～6回

- ・イントロダクション
- ・GIS (Geographic Information System)、GPS (Global Positioning System)とは?
- ・地理情報の取得方法

第7～13回

- ・地理情報の可視化
- ・地理情報の空間分析

第14～15回

- ・総括、および全体質疑応答、最終課題の提示

●事前・事後学習の内容

本教科は、集中講義の期間中に地理情報に関する質

問を皆さんに提示する。必ず講義の修了後に質問内容に関して自分で調べて、次の日の講義・実習に臨むこと。受講生は、事後の自習に2時間程度は充てて欲しい。

●評価方法

評価は出席点と実習後の課題提出点で実施する。出席点が80%、課題提出点が20%を想定している。なお、1コマでも欠席した場合は、単位の認定が行われなため注意すること。集中講義期間中に全ての講義・実習に参加できる受講生のみを対象とする。授業の日程や教室は、ポータルサイト、学生サポートセンターおよび全学共通教育棟の掲示板にて周知するので、必ず確認すること。

●受講生へのコメント

- ・最大受講可能者数 (定員) を20名とする。
- ・受講希望者には、web履修登録に加えて、「受講を希望する理由」を必ず提出してもらう。提出の方法や期限などはポータルサイト、学生サポートセンターおよび全学共通教育棟の掲示板にて周知する。なお定員を上回る受講希望があった場合は、上記「受講を希望する理由」を履修者の選抜に利用する。

・また、全学共通科目「地図と地理情報」をすでに受講している学生を歓迎する。

●教材

教材・参考資料については、教員が当日指定する。

初年次セミナー First Year Seminar

1 回生の皆さん、ご入学おめでとうございます。「初年次セミナー」は、皆さんが大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、学び・考えるためのマナーについて、とともに思索する時間として用意されているものです。少人数のクラス編成でActive Learning を行う時間であり、皆さんがそれぞれの生きる道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願を、かたちにしたのもでもあります。

【初年次セミナーの到達目標】

平成29年度は8クラスの初年次セミナーが開講されます。具体的な授業内容はそれぞれ異なっていますが、次のような到達目標を共通して掲げています。

- ・異なる学部の学生との議論等を通じて興味関心の幅を広げ、自分の考え方や態度を相対化できること
- ・これからの人生において大学生活が持つ意義を広い視野から考えられるようになること
- ・異なる考え方や知識をもつ人々と対話・コミュニケーションができること
- ・情報検索、レポート執筆等のアカデミック・スキルを活用・増強させること

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	高橋 太 (理)
132	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

『「学び」のためのインターネット』

大学での『学び』を効率的に行っていくためには、旧来の書籍・論文等の紙ベース資料のほかに、インターネットを用いた資料検索・収集・利用技術が必要不可欠である。レポートや論文作成・研究情報の収集といった場面でもインターネットがもたらす膨大な情報は大いに参考になるであろう。しかし、最新の検索技術を有する検索エンジンによる資料収集は、とすれば学習者を情報の海の中に投げ込み、コピーペーストで見栄えの良いレポートを作成することで満足させてしまいがちである。現代は、個々の学習者が、より注意深く情報の真偽を確かめ、主体的に情報を取捨選択していく必要に迫られている時代だといえる。

このセミナーでは、実際にインターネットを利用して情報検索・収集を行い、「インターネットで学ぶ」技術を学習するとともに、インターネットによる『学び』の様々な問題点を参加する諸君とともに議論し、「どのようにインターネットを創造的な『学び』に活

【初年次セミナーの特徴】

上記の到達目標を実現するため、初年次セミナーは次のような授業のあり方を共通して持っています。

- ・どのような問題に取り組むかについて、学生自身が考えて決定すること
- ・設定した課題・問題について、学生自身が調査等を行うこと
- ・調べた課題について議論や発表を行うこと
- ・レポートや報告を作成すること

このように初年次セミナーは、学生自身の主体的な学習姿勢が強く求められる授業です。そのことを理解して、積極的に授業に取り組んでください。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、私たち1人ひとりの中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をともに探ろうとするところです。初年次セミナーを通じてこのことを、実感してもらえればと思います。

なお、2つ以上の初年次セミナーに履修登録することは出来ませんので注意してください。

用できるか」を考えて行きたい。

●授業の到達目標

インターネットの世界にある種々の情報を検索・入手するだけでなく、「学び」の目標に合わせてよりの確な情報源を取捨選択できるようになることがこの授業の最大の到達目標である。また、得られた情報に対して自分の意見や見解を付け加えて、批判的な取り扱いができるようになることも目標の一つである。

●授業内容・授業計画

次の諸点を授業内容とする。各課題において具体的な内容を選定する際には、受講生自らが各自の興味に従って決定する。各課題のあとには全員がすべての参加者の前でプレゼンテーションを行い、発表内容について討論を行う。

- 1) 大学・研究機関・企業等のホームページを訪問し、どのような内容の情報発信がなされているかを調べる。
- 2) 様々な情報検索エンジンを実際に使ってみて、その利点・問題点をまとめる。

- 3) 電子図書館など、インターネット上にある様々な学習・研究資源を調べ、実際に使用してみる。
- 4) インターネット上の百科事典であるWikipediaの未編集項目の一つを選び、文献調査・編集作業を行い、新たな項目としてインターネット上に公開する。

セミナーでは、実際にインターネットに接続した環境でディスカッションやプレゼンテーションを行うので、学術情報センター9階「情報教育実習室4」を使用する。

●事前・事後学習の内容

毎回の課題ごとに受講生を3～4名程度のグループに分け、グループ毎に調査、課題レポートの作成、プレゼンテーションの準備を行う。プレゼンテーションのための調査・準備は授業時間内だけでは終わらず、十分な打ち合わせ時間も取れないので、打ち合わせ等

は課外時間を利用して各グループでおこなうことになる。そのために授業の合間を見つけてグループリーダーが主導してミーティングを行うことを勧める。

●評価方法

課題ごとに平常点（課題への取り組み・授業参加度）（30%）、発表・討論への参加度（50%）、課題レポート（20%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

受講生は12名程度とする。インターネットの先は、もちろん【外】の世界なので、学生らしい節度ある行動がとれる人だけが受講して欲しい。担当者自身、コンピュータには全く詳しくなく、受講生諸君と共に学んでいけることを楽しみにしている。

●教材

教科書は使用しない。参考文献などは、授業中に適宜挙げる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	今津 篤志（工）
133	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

【デジタルものづくりに挑戦しよう！】

3Dプリンタやフィジカルコンピューティングを活用したデジタルものづくり（デジタルファブリケーション）の演習を通して、大学での学び方を習得します。

●授業の到達目標

- ①大学で学ぶための、課題設定、調査、実現、評価の獲得、に至る自律的なプロセスの基本を身につけること
- ②グループでの作業を通して、協調と、自分の意見の主張とのバランスを身につけること
- ③家族や友人ではなく全くの他人に評価してもらう、という観点に立って、自分のすべきことを考えられるようになること
- ④デジタルものづくりのツールを活用し、頭に描いた物を実現できるようになること

●授業内容・授業計画

コンピュータの中で設計した物を現実の世界に出力する3Dプリンタや、現実世界とコンピュータをセンサやモータでつなぐフィジカルコンピューティングの演習を行います。それらを実際に用いて、製作する物を立案し、完成させ、プレゼンテーションを行います。最終レポート以外はグループワークとして行います。

- 第1週 オリエンテーション
 第2～4週 使用する各ツールの演習
 第5週 プレゼンテーション1（テーマ立案）

第6～11週 製作

第12週 プレゼンテーション2（中間報告会）

第13～14週 改良

第15週 プレゼンテーション3（最終報告会）

●事前・事後学習の内容

各週によって異なりますが、次の週にやることのための準備が必要です。例えば、テーマ立案の前には自分の考えをまとめておいたり、プレゼンテーションの前には資料をまとめて予行演習を行う必要があります。また実際にものを完成させるには時間がかかりますので、授業時間にはできない作業を授業時間以外に行う必要はでてくるでしょう。

●評価方法

プレゼンテーション、個人レポート、完成物によって評価を行います。

●受講生へのコメント

受講生を15名程度以下に制限します。またノートPCの持参を必須とします。

グループワークであること、ものを使った演習であることから、欠席や遅刻、途中での脱落は原則認められません。

●教材

演習で用いる機材（ノートPCを除く）、材料は貸与します。

必要に応じて参考図書等を紹介いたします。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	西垣 順子 (大教)
134	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

【文献を使って自分の研究をやってみよう！】

受講生各自が興味関心を持っているテーマを使って各自が問題（リサーチクエスション）を設定し、その問題を解くための「研究」を行います。設定した問題に関係のある問題を検討した書籍を2冊以上探し出して読み、それらを批判的に検討して「自分の研究成果」をまとめていきます。

●授業の到達目標

- ①自らの興味関心を、学問的に探究しうる「問い」に変換し、資料を収集分析、批判的に検討するなどして、その問いへの自分なりの答えを探究できること
- ②自ら立てた問いの意義と回答について、他の受講生と共有し、議論ができること
- ③他の受講生の立てた問いを共有し、議論に建設的に参加できること

●授業内容・授業計画

①リサーチクエスションを設定する（4月）、②文献を2冊以上読みまとめる（5月-6月上旬）、③文献の内容とそれに対する批判的検討を総合した「自分の研究成果」をレポートにする（6月後半）、④レポートを改良しつつ最終プレゼンテーションとして発表する（7月）の4つのステージで授業を進行する。

第1週 ガイダンス

第2週 リサーチクエスションを立てる・グループわけ

第3週 図書館ガイダンス

第4-5週 1冊目の本を紹介するプレゼン

第6-7週 2冊目の本を紹介するプレゼン

第8週 予備日

第9-10週 レポートの作り方

第11週 レポートの提出と返却

第12週 仲間のレポートをブラッシュアップ

第13-14週 最終プレゼン収録

第15週 総合的討論

●事前・事後学習の内容

各自が設定したリサーチクエスションに関連して、書籍を探す、読む、批判的に検討してレポートとして執筆する、プレゼンテーションの準備をするといった作業は、すべて授業時間の外で行います。授業中は受講生相互の議論や情報交換の場になります。

●評価方法

最終レポートとプレゼンテーションが50点、議論等への参加状況50点の100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。初回の授業に必ず出席すること。教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。それがなければ授業が成り立ちませんので、積極的に参加してください。

次の2つは、単位認定に値するレポートを作るための現実的な必要条件になりますので、そのつもりで履修登録をしてください。

①遅刻や欠席をせずに授業に参加すること

②自習時間を授業に出席する時間（1週間あたり90分）より多く確保する。

●教材

授業中に、適宜参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	大久保 敦 (大教)
135	英語表記	First Year Seminary						

●科目の主題

身近な自然（キャンパス内の植物）を対象としたフィールドワークを通して、大学での学び方を学びます。

●授業の到達目標

①大学で学ぶための基本的な方法（レポートの書き方を含む）を身につけること。

②映像と音声を用いて効果的に自分の考えを第三者に伝える方法（ビデオ番組作成）の基礎を身につけること。

③グループでの作業を通して仲間と協力して円滑にチームワークを行えるようになること。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーション
- ②身近（キャンパス近辺）な自然に親しむ（野外観察実習）
- ③調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④事前プレゼンテーション
- ⑤事前プレゼンテーションの検証
- ⑥効果的なプレゼンテーションの方法1（④、⑤の事前プレゼンテーションをもとに）
- ⑦効果的なプレゼンテーションの方法2
- ⑧効果的なプレゼンテーションの方法3
- ⑨調査および撮影リハーサル
- ⑩調査および撮影リハーサル
- ⑪調査および撮影本番
- ⑫調査および撮影本番
- ⑬調査および撮影本番
- ⑭最終プレゼンテーション
- ⑮まとめ（最終レポート作成）

●事前・事後学習の内容

プレゼンテーションや撮影（リハーサルおよび本番）の準備は基本的に毎回の授業開始までに済ませておくこと（事前学習）が前提となっています。

●評価方法

平常点（授業参加度（20%）、小レポート・中間発表（30%）及び最終レポート・発表（50%）を総合的に評価します。

（ ）の数字はおおよその評価の割合を示します。

1、2を総合的に評価（記述内容を重視）

●受講生へのコメント

受講生は15名までとします。フィールドワークや植物、また映像や音声などのマルチメディアでのプレゼンテーションに興味があり、積極的に授業に参加しようとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向きです）。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	天野 景太（文）
136	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

「まちおこしや魅力創造の現場を『あるく・みる・きく』をテーマとした、現場学習（フィールドリサーチ）を伴ったプロジェクト遂行型のセミナーである。現在ゆるキャラやB級グルメのブランド化に象徴されるように、全国各地で地域の魅力を引き出すべくユニークな取り組みが行われている。そこで参加者各自で実際に行って調べてみたい場所を選び、調査プランを発表する。その中からセミナーで1つないし2つの場所を選び、実際に現地に出向いてカメラを携え街並みや人々の活動のリアルな姿を観察したり、現地の関係者に聞き取りをしたりといったフィールドワーク（6月下旬の土・日に合宿形式で実施予定、昨年度は6月25～26日に徳島県上勝町において実施した）を行い、その結果を調査日誌（フィールドノート）にまとめ、発表・議論する。

●授業の到達目標

授業におけるディスカッション、現場学習を通じた問題発見、レポートやプレゼンテーションの技法と作法といった基礎的なスタディスキルの獲得はもちろんのこと、プロジェクトを通じた企画力、運営力、コミュニケーション力の鍛錬を通じて、実社会のリアリティを捉え、解釈するセンスを磨くこと、そして何より、自ら思考し、試行錯誤し、行動する実践を通じながら、

今後のキャンパスライフや就職活動等において主体的に活躍するために必要な素養を体得することが目的である。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス、自己紹介、報告順序の決定
- 第2回 スタディスキル、プレゼンテーションの技法に関する講義
- 第3回～第6回 調査候補地に関するプレゼンテーション（フィールド選定コンペ）
- 第7回～第10回 合宿プランの企画（問題関心・仮説の設定、現場で何をしようとするのか）
- 第11回～第14回 ふりかえり（フィールドノートの報告、相互評価）
- 第15回 まとめ（現場学習レポートに基づく最終報告）

●事前・事後学習の内容

個人作業として、プレゼンテーションの準備、机上調査、フィールドワークの成果の考察、フィールドノートの作成などを、グループワークとして、合宿の企画、現地調査の準備（調査協力者との交渉など）といった作業が求められる。

●評価方法

授業に積極的に参加し、議論や現場学習に貢献する

とともに、セミナーを通じていかに自己成長がみられたかが全てである。内訳は演習における平常点(50%)、最終成果物としてのフィールドノート(50%)である。当然ながら合宿は参加必須。なお授業を無断欠席したり、やむを得ない事情で欠席するにしても出席率が70%未満の場合、原則としてF評価となる。

●受講生へのコメント

本セミナーは、合宿場所の選定、フィールドワークの企画と実施、成果の考察に至る全課程を参加学生の主体性に基づいて運営する。この意味で、参加者全員がセミナーに積極的に関与し、盛り上げていくことへの意欲と実行力がなければ、セミナー自体が成立しなくなる。逆に意欲が強ければ強いほど実りあるものとなる。参加者は、「生きた」社会体験を通じて今後の

糧となるなにかを得られるはずである。情熱を持った学生の参加を期待したい。なお合宿参加のため、一定の時間と費用の負担が生じることを了解の上、履修のこと。また、合宿の参加には教育後援会への加入か学生教育研究災害傷害保険(年間1000円程度)への加入を要する。履修人数は20名を上限とする。

●教材

安福恵美子他(2006)『「観光まちづくり」再考』古今書院

参考資料は授業中に資料を配付する。なお、フィールドノートに関しては、日本大学後藤研究室「東京人観察学会」(<http://n510.com/>)、現場学習レポートに関しては担当教員の授業で過去に制作されたフィールドノートをまとめた報告書(閲覧可)が参考になる。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	渡邊 席子(大教)
137	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

本セミナーは、高校性から大学生へ、やがては社会人になるために必要な基礎力を、それぞれの受講生が自分に合った形で学びとることを目指す1回生向けの少人数演習科目である。

なお、本セミナーはactive learning形式(学生による討論、発表、グループワーク等を伴う形式)を採用している。受講生には、積極的にセミナーに参画することを通じて、大人の知的思考方法・知的表現方法・礼節ある討論への参画姿勢を(ときに失敗もしながら)自ら学びとっていただきたい。

●授業の到達目標

本セミナーの到達目標は、「誰かに答えを教えてもらうのではなく、大学および社会で自ら学び行動するために必要な思考力の基礎を確立できること」である。

●授業内容・授業計画

本セミナーでは、個人またはグループで各種active learning課題に取り組む。課題への取り組みを通じて、何が問題の本質であるのかを見極めながら(調べる、思考する)、受講生同士で創造的な討論を行い(聴く・話す)、800~2000字程度の企画書形式のレポートをまとめ(書く)、書いた内容が本当に企画として成立するのかを自己評価・相互評価し(読む・行動する)、自分の知的スキルの強みを把握し、弱みのカバーを目指す。

第1回：ガイダンス+導入課題

第2~3回：基礎演習1(ショートプレゼンテーション実践を通じて、今の自分にできることを知り、もっと伸ばしたいことを把握、整理する)

第4~8回：基礎演習2(企画書形式のレポート作

成：試行錯誤と間違いを通じて成長することの重要性を体感する)

第9~14回：基礎演習3(企画書形式のレポート作成2回目：より本格的な企画立案を通じて、解くべき課題を発見し、解決し、成果に結びつけるための現実的具体策を提案するとともに、実行してその現実可能性を確認する)

第15回：まとめと総合自己評価

●事前・事後学習の内容

セミナーの進捗状況に応じて、主に次の課外学習課題を出す。

自分で到達すべき目標をたて、実践し、その結果どうなったかを振り返る報告書(複数回)

企画に先立つ実地調査

企画を立てるために用いる信頼のおける情報の収集と記録

また、受講者の学習到達度合いに応じて、副次的な宿題を出す場合がある。

●評価方法

(1) 平常点(参画への意思・態度・行動、各種課題・宿題・報告書等の内容、授業目標達成にかかる具体的な問題解決とその結果に対する適切な自己評価、時間・期限を順守できていたか等)：80点満点

(2) 各種課題に関する学生同士の相互評価：20点満点

→合計100点満点

●受講生へのコメント

・受講者は、初回のガイダンスに必ず出席すること。

- ・受講人数の上限を12名とする。
- ・①全15回のうち、13回以上の演習への誠実な参画と、それに見合った学修成果を上げていること、②節目ごとに行う個人目標設定とその達成度評価の提出、③企画書および企画解説(完成版)の提出、の3点をすべて満たすことが単位認定の最低ラインである。より詳しい受講・参画要件については、初回ガイダンスで説明する。
- ・誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学び、身に付け、掴みとる」意思を持つとともに、極度に失敗を恐れることなく試行錯誤してみる積極的を有する学生、ないしは、現時点の自分の力量に不足を感じ、もっと学ぶ力を伸ばし

たい／積極性を持ちたいとの強い意志のある学生の受講を希望する。(つまり、最初から「よいお手本」を見せてもらって真似たい＝「試行錯誤のプロセスをすっ飛ばし、楽をして”正答”を得たい」人には向かない。直面している課題に対して何をどうしたらいいのかわからない、自分自身で1から考え発見し実践しときに失敗し、その失敗経験から学びたいストイックな人向けである。)

●教材

- ・教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。なお、教材となりうる素材を受講者自身が集めて持ち寄る場合もある。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	徳原 大介 (医)
138	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

受講生の多くは子供から大人になろうとする人たちであり、大人にサポートされる立場から子供をサポートする立場になっていく人たちではないでしょうか。本セミナーが子供の健全な育成をサポートする社会人の第一歩となることを期待し、小児医療の現場に携わる小児科医とともに、子供の病気(反復性腹痛や拒食、肥満など)に関わる社会的な問題点(不登校、虐待、貧困等)について実際の症例をもとに学び理解し、社会の未来を担う子供をサポートするために受講者や社会がどうあるべきか深く考えて欲しい。

●授業の到達目標

- (1) 担当教員が経験した実際の症例をもとに、子供の健康福祉に関わる社会的要因を抽出する。
- (2) 社会的要因に対する解決策を受講者自ら提案・意見交換を行う。
- (3) 個々の症例のまとめ、社会的要因、解決策等について受講者全員がプレゼンテーションを行う。

●授業内容・授業計画

- 第1回：ガイダンス
 第2～3回：症例その1、意見交換、
 第4～5回：症例その2、意見交換
 第6～7回：症例その3、意見交換
 第8回：前半セミナーのまとめ、プレゼンテーション

- 第9～10回：症例その4、意見交換
 第11～12回：症例その5、意見交換
 第13～14回：症例その6、意見交換
 第15回：後半セミナーのまとめ、プレゼンテーション

●事前・事後学習の内容

第1回の事前学習：反復性腹痛・拒食・肥満についてネットや書物を利用して学習してください。

第1回の事後学習～以降の事前・事後学習：各講義の際に説明します。その指示に従って、事前・事後学習を行ってください。

●評価方法

授業への出席は必須です。意見交換が40点、プレゼンテーションが60点の合計100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

受講生は15名以下とします。受講生同士だけでなく、小児医療の現場で携わる小児科医とともに積極的に意見交換してください。本セミナーを介して、子供の健全な育成をサポートする方が一人でも多く増えることを期待しています。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

[科目ナンバー : GE FIR 01 01]

掲載番号	科目名	初年次セミナー	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	飯吉 弘子 (大教)
139	英語表記	First Year Seminar						

●科目の主題

本授業では、「大学での基本的な学びの姿勢」すなわち「自ら学び考えること」の基本を身につけることを目指している。具体的には、レポート作成の一連の流れやプロセスに沿って、高校までの学びのあり方とは異なる「大学での学び方」の基本を理解し身につけることを目指す。具体的には、レポート作成の一連のプロセスを通して、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝えるように表現することを経験する中で、とくに「自分で考える」ことの重要性に気付いてもらいたいと考えている。また、「自分とは異なる考えを持つ他者と考えを共有し、共にまなび合う経験」も重視して授業を進める。

●科目の到達目標

この授業の最終的な目標は、「大学生として自ら学び考え、それを他者と共有すること」の基本を学ぶということであるが、そのための具体的到達目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」の3点となる。

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

- 1～2回：ガイダンスとテーマ選定
- 3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定
- 6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次草稿提出
- 9～12回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次草稿提出・発表準備
- 13～15回：発表と相互評価、最終レポート提出

毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化と意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センター(図書館)の活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

●事前・事後学習の内容

毎回の授業時に提示する、次回授業までの課外課題や作業について、各自で調べたり考えたりしながら、記入し完成させてくること。その課外課題や作業を用いて、次回の授業を行う。また、授業内発表や、レポートの第1次草稿、第2次草稿および完成稿についても、授業時間外の作業が必要となる。それぞれの発表や原稿の提出期限までに、授業内指示に基づいて、各自で準備したり書き進めたりすること。

●評価方法

授業活動への参加度合、作業プロセスへの真剣な取り組み、レポート・発表等を総合評価する。最終レポートや発表の評価はもとより、作業プロセスの記録と授業内提出物や資料、レポート作成の途中成果物(第1次草稿・第2次草稿ほか)等を全てファイリング保存して、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業活動への積極的参加度合20%、提出課題20%、最終発表の相互評価20%、最終レポート30%、途中資料・プロセス10%とする。

●受講者へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は15名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んで楽しさを実感してほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方や視点・アプローチがあることを実感してほしい。
4. また、グループワークでは、単なる意見交換ではなく、創造的・生成的な話し合いの基本姿勢についても学んでほしい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

3. 基礎教育科目

[科目ナンバー : GE MAT 01 01]

掲載番号	科目名	線形代数 I	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	尾角 正人 (理)
140	英語表記	Linear Algebra I						金信 泰造 (理)
								河内 明夫 (理 特任)
								安本 真士 (理 特任)
								橋本 要 (数学研究所員)
								橋爪 恵 (数学研究所員)
								伊達山 正人 (理)

●科目の主題

行列と連立一次方程式、行列式

●授業の到達目標

行列の演算に関する基本事項を学び、それを連立一次方程式の解法に応用できる。正則行列について理解している。行列式の計算方法に習熟し、逆行列の計算や連立一次方程式の解法に応用できる。

●授業内容・授業計画

- 第1、2週 行列の演算に関する基本事項
- 第3、4週 行列の基本変形
- 第5、6週 連立一次方程式の解法
- 第7、8週 正則行列の性質
- 第9、10週 行列式の定義とその基本的性質
- 第11、12週 行列式の展開公式
- 第13、14週 行列式を用いた逆行列の表示、クラメル
の公式
- 第15週 期末試験

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し、身につけるためには演習問題を解くことが重要である。そのため、各授業の後に2時

間程度の復習を行うことが望ましい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、SI 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

●教材

三宅敏恒『線形代数学-初歩からジョルダン標準形へ』(培風館)

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

ハワード・アントン『アントンのやさしい線型代数』(訳: 山下純一, 現代数学社)

三宅敏恒『入門線形代数』(培風館)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること

[科目ナンバー : GE MAT 01 02]

掲載番号	科目名	線形代数 II	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	古澤 昌秋 (理)
141	英語表記	Linear Algebra II						宮地 兵衛 (理)
								橋本 要 (数学研究所員)
								栢田 幹也 (理)
								尾角 正人 (理)
								小松 孝 (理 特任)

●科目の主題

ベクトル空間、線形写像、内積空間

●授業の到達目標

線形代数Iを発展させ、ベクトル空間の基底、次元といった基礎概念を学び、それらを基に、線型写像の固有値、固有ベクトル、固有空間、表現行列、対角化可能性の判定、及び内積空間、といった今後の理学・工学の学習における基礎知識となる線形代数の重要な基本事項を習得する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 ベクトル空間、第2回 1次独立と1次従属、第3回 ベクトルの1次独立な最大個数、第4回 ベクトル空間の基と次元、第5回 1~4回の復習としての問題演習、第6回 線形写像、第7回 線形写像の表現行列、第8回 固有値と固有ベクトル、第9回 行列の対角化、第10回 6~9回の

復習としての問題演習、第11回 内積、第12回 正規直交基と直交行列、第13回 対称行列の直交化、第14回 2次形式、第15回 総復習としての問題演習

●事前・事後学習の内容

線形代数Iに比較して、授業内容は抽象性を著しく増す。しかし、それらは線形代数Iにおける、行列や行列式に対する具体的な操作に結局は帰着される。他人が数学をしているのを眺めているだけでは、決して数学を分かるようにはならない。能動的、積極的に授業内容に関する演習問題を解くことが求められる。1回の授業に対して、最低3時間程度の自主的学習は必要であろう。学習に困難を感じた場合は、オフィス・アワー、数学相談室等の受講生に対する支援を活用されたい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考慮する。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容、進度、あるいは、重点の置き方が多少異なる場合がある。線形代数Iの知識を前提とする。数学科の学生は、専門科目の代数学I、II

との接続の関係で、SI数のクラスの線形代数IIの授業を必ず受講すること。

●教材

原則として、線形代数Iと同一の教科書を用いるが、担当者によっては変更される場合もあるので、購入するときには注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 03]

掲載番号	科目名	解析 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	鎌田 聖一 (理) 河内 明夫 (理 特任) 佐野 昂迪 (理) 阿部 健 (理) 齋藤 洋介 (数学研究所員) 伊達山 正人 (理) 兼田 正治 (理)
142	英語表記	Analysis I						

●科目の主題

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分である。その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

●授業の到達目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

●授業内容・授業計画

次の項目について解説し演習も行う。初めの6回分で、関数や写像の概念、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限值計算、7回目にまとめと復習、次の5回分で、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、残りの3回分で、面積や曲線の長さの計算への応用、実数の完備性や連続関数の諸性質、まとめと復習。

●事前・事後学習の内容

各項目について事前に教科書を読むこと。事後学習は、授業で学習した内容を再度教科書とノートを読み返して理解を深める。授業中に指定された演習問題を解く。

●評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

●受講生へのコメント

高等学校の数学Ⅲ、数学Cの知識を前提とする。解析Iと解析IIの内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析Ⅲ、Ⅳの前提にもなっているので、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学I、IIとの接続の関係で、SI数のクラスの解析Iの授業を必ず受講すること。

●教材

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)
三宅敏恒『入門微分積分』(培風館)
ラング『解析入門』(岩波)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 04]

掲載番号	科目名	解析 II	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	栢田 幹也 (理) 伊藤 昇 (数学研究所員) 加藤 信 (理) 齋藤 洋介 (数学研究所員) 兼田 正治 (理) 蓮井 翔 (数学研究所員) 阿部 健 (理)
143	英語表記	Analysis II						

●科目の主題

線形代数学と関連づけて、多変数関数の微積分、ベクトル解析の基礎を学習する。

●授業の到達目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。物理現象を記述

する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。この科目終了時には、ベクトル場の微積分を用いて物理現象を記述した式の意味が理解できるようになる。

●授業内容・授業計画

15回の授業内容・計画は以下の通り。1) 多変数の連続写像、2) 多変数関数の微分、3) 合成関数の微分に関する連鎖律、4) ヤコビ行列、5) 微分演算子とラプラシアン、6) テイラーの定理と極値問題、7) 陰関数・逆関数定理、8) ラグランジュ乗数法、9) 可測性と可積分性、10) 累次積分、11) 多重積分の変数変換公式、12) 広義積分とガンマ関数、13) 線積分と面積分、14) ガウス・グリーン・ストークスの定理、15) ポテンシャルと微分形式。いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に

委ねることもある。

●事前・事後学習の内容

豊富な内容をもつこの科目を修得するためには、沢山の問題を解いて理解を深めるが一番の方法である。予習・復習合わせて3時間位を充てる必要がある。

●評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、中間テスト、小テスト、レポート、授業出席回数などを評価の参考にすることもある。

●受講生へのコメント

解析Ⅰと線形代数学の基本的な内容を予備知識とする。数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SI数のクラスの解析Ⅱの授業を必ず受講すること。

●教材

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)、三宅敏恒『入門微分積分』(培風館)、ラング『続 解析入門』(岩波)。担当者によって使用教科書が異なることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 01]

掲載番号	科目名	解析Ⅲ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	西尾 昌治 (理) 濱野 佐知子 (理) 佐官 謙一 (理 特任)
144	英語表記	Analysis III						

●科目の主題

常微分方程式

●授業の到達目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

2階斉次線形微分方程式(3回)、基本解と定数変化法(2回)、定数係数線形微分方程式と演算子(2回)、

行列の指数関数(2回)、Laplace変換による解法(2回)、常微分方程式の基本定理(2回)、Hamilton系と勾配系(1回)、不動点の安定性(1回)、解の極限軌道(1回) - 以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

●事前・事後学習の内容

関連する教材を事前に見て内容をおおまかに確認してから授業を受けるようにする。また、学習内容を理解し身に着けるため授業後に復習を行うことが望ましい。特に演習問題を解くことが有効である。

●評価方法

レポート課題、定期試験など。

●受講生へのコメント

予備知識としては、微積分学(解析Ⅰ、Ⅱ)及び線形代数学の基本的内容を想定している。

●教材

上記の授業内容を含む記述がされている本を教科書または参考書として用いる方針である。

[科目ナンバー : GE MAT 02 02]

掲載番号	科目名	解析Ⅳ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	大仁田 義裕 (理) 佐官 謙一 (理 特任)
145	英語表記	Analysis IV						

●科目の主題

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的発展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。

●授業の到達目標

この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の基礎を理解し、留数計算などに应用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1～4回：複素平面と複素数の指数関数, 正則関

数, 等角性と1次関数, 整級数,

第5～10回：Cauchyの積分定理, Cauchyの積分公式とTaylor展開, 最大値原理とLiouvilleの定理

第11～15回：Laurent展開, 留数の定積分計算, などが予定の授業項目で, 適時, 演習問題等も課す。

●事前・事後学習の内容

2変数関数に関する微分積分学まではよく学習しておくこと。リーマン面, 解析接続, 調和関数等は複素関数論で重要であるが, 授業時間数の制約のため割愛するので事後学習の内容として勧めたい。

●評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが, 授業担当者によっては, 先行試験, レポート, 授業出席回数, 等を加えて総合的に評価することもある。

●受講生へのコメント

予備知識としては, 微分積分学(解析Ⅰ, Ⅱ)の基本的内容を想定している。

●教材

教科書等については, 今吉洋一『複素関数概説』(サイエンス社), 釜江哲朗/小松孝共著『解析学(下)』(学術図書)など担当者によって, 使用する教科書が変わることがあるので, 購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 02 03]

掲載番号	科目名	応用数学A	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	小松 孝 (理 特任) 伊達山 正人 (理) 阿部 健 (理)
146	英語表記	Applied Mathematics A						

●科目の主題

本科目のテーマは確率・統計である。

我々が性質を知りたいものの集まりがあるが, その全てのものを調べることが不可能なとき, その集まりから一部を標本として取り出し, この標本から全体の性質を推測する方法を考えるのが統計学の目的である。一部のものから全体について客観的な判断をするための, 基本的な統計学の应用能力を持つことは, 理工系の学生にとって必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので, 確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。標本そのものも確率変数という確率空間上の関

数として捉えられる。このような数学的定式化のために確率論の基本事項を学んでおくことも必要となる。前半では, 標本平均や標本分散等の, 色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

●授業の到達目標

本科目では, 確率論の基礎, 特に確率変数の独立性, 大数の法則と中心極限定理の意味を理解し, その上に成立する統計学の基本的内容として標本平均や標本分散等を推定する等, 理工系学生に必要な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1, 2週 確率の定義, 確率変数と期待値

- 第3、4週 典型的な確率分布
- 第5、6週 多次元の確率分布、確率変数の独立性
- 第7、8週 大数の法則と中心極限定理
- 第9、10週 正規母集団と統計量
- 第11、12週 推定
- 第13、14週 仮設検定、回帰分析
- 第15週 期末試験

理論的な内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度にとどめる。

●事前・事後学習の内容

テキスト等で授業内容の個所を事前に読み、理解すべきポイントを確認しておくこと。事前学習なしに、授業のスピードに合わせて理解することは難しい。授

業後にも、与えられた演習問題等を解くことなどを通して理解を深めておく必要がある。事前・事後に各1時間程度の学習は必要である。

●評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数等によって、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

予備知識としては、微分積分学（解析I、II）および線形代数学の基本的な事柄を前提としている。

●教材

上記授業内容に近い形式でまとめられている本を、各担当者が選んで使用する。

[科目ナンバー : GE MAT 02 04]

掲載番号	科目名	応用数学B	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	釜江 哲朗 (理 特任) 西尾 昌治 (理)
147	英語表記	Applied Mathematics B						

●科目の主題

本科目のテーマはFourier解析と偏微分方程式である。

●授業の到達目標

関数をFourier級数やFourier積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることを可能にすることにある。

Fourier解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するために必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解はFourier変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier級数や特殊関数による展開が用いられる。

●授業内容・授業計画

Fourier級数 (3回)、Fourier正弦、余弦展開(1回)、

Fourier変換(2回)、Delta関数(1回)、物理学における基礎方程式(1回)、矩形領域での初期値・境界値問題(3回)、Helmholtz方程式とBessel関数・legendre関数(1回)、円筒領域での初期値・境界値問題(1回)、Greenの積分公式とLaplace方程式(2回) - 以上が授業予定の項目である。

●事前・事後学習の内容

関連する教材を事前に見て内容をおおまかに確認してから授業を受けるようにする。また、学習内容を理解し身に着けるため授業後に復習を行うことが望ましい。特に演習問題を解くことが有効である。

●評価方法

レポート課題、定期試験など。

●受講生へのコメント

予備知識としては、解析I、II、III及び線形代数学の基本的な事柄を想定している。

●教材

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

[科目ナンバー : GE MAT 02 05]

掲載番号	科目名	応用数学C	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	吉田 雅通 (理)
148	英語表記	Applied Mathematics C						

●科目の主題

採取されたデータに基づいて数値計算的な処理を行なう上で生じる諸問題を、解決あるいは近似的に解明するアルゴリズムの数学的側面：主に、近似解の構成法、および、それに伴う誤差の事前評価

●授業の到達目標

取り組む問題は多岐にわたり、かつ問題それぞれの目的には個性があるため、授業の進行具合などにより、各問題への比重は変わりうる。しかしながら、科目の主題としてあげたように、あたえられた問題をいかに解決するか？という問いへの数理的着想（特に、数学的事実に基づいたアルゴリズムの構成と、それに伴う誤差評価）を理解し具体的に実行できることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

第1、2週は数値計算の基礎的な事柄と導入的な問題に対する数理的解決法を数例あげる。その後は、大別して2つの方向：一連の線形計算の方向と解析・確率統計の手法による方向が考えられる。但し、これらは必ずしも独立とは限らず、両者を混ぜた問題解決法も多い。授業進度に依るが、ひとまずのプランを以下に挙げてみる。第3週～第5週は補間法(主にラグランジュ補間)、第6週～第9週は数値積分と数値計算的極値問題、第10週～第13週は連立1次方程式の直接

解法と反復解法、第14週～第15週は固有値の数値計算。

●事前・事後学習の内容

数値計算はとりわけ、習うより慣れよという側面が強い。各項目で紹介された手法を、具体的な問題に対して、自分の手を動かして解くこと（時に電卓などを援用しつつ）が肝要である。講義15回の中盤あたりでレポート問題を幾つか課す予定である。それらをもとにして、具体的に、かつ自分の手を動かして取り組むことが、数値計算上の諸問題の個性および打開策をつかむ早道です。

●評価方法

定期試験、レポートの評価を主とする。それだけでは評価が困難な場合には、追加レポート課題に対する評価や授業出席の度合いを評価の参考に加えることもある。

●受講生へのコメント

応用数学Cには、それまでに準備されてきた数学的な諸事実によって、数値計算という一見すると素朴な問題のもつ深みと困難さを具体的に示す側面もあります。繰り返しますが、まず自分の手を動かしてみてください。また、基本はあくまで数学的側面です。

●教材

特に指定しないが、授業が始まる前に、教科書の指定を行なうことがある。

[科目ナンバー : GE MAT 01 05]

掲載番号	科目名	基礎数学A	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	古澤 昌秋 (理) 伊藤 昇 (数学研究所員) 佐野 昂迪 (理) 齋藤 洋介 (数学研究所員) 佐官 謙一 (理 特任)
149	英語表記	Fundamental Mathematics A						

●科目の主題

1変数及び多変数の関数の微分法を中心として、数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業の到達目標

1変数及び多変数の関数の微分法を最適化問題への応用を念頭に習得し、さらにそれらを発展させて、条件付き最適化問題の代表的な解法であるラグランジュの未定乗数法を習得する。これらの事項の理論的に厳密な展開ではなく、実用的な側面に重点を置いて、「使える数学」を目標に授業を展開する。

●授業内容・授業計画

第1回～第4回：1変数関数の微分法（微分とは何

か、多項式の微分、関数の増減と極値、微分の公式：線形性・積の微分・商の微分、合成関数の微分、指数関数・対数関数の導入及びそれらの微分）第5回：1～4回の復習としての問題演習、第6回～第9回：多変数（主に2変数）関数の微分法（偏微分とは何か、接平面、極値をとる候補点、第2次偏導関数、2変数関数の2次近似）、第10回：6～9回の復習としての問題演習、第11回～第14回：多変数（主に2変数）関数の極値問題（無制約極値問題、制約条件付き極値問題、ラグランジュの未定乗数法）、第15回：総復習としての問題演習

●事前・事後学習の内容

高等学校における数学I、数学A、数学II、数学Bを履修していることを前提に講義を行う。他人が数学をしているのを眺めているだけでは、決して数学を使えるようにはならない。能動的、積極的に授業内容に関する演習問題を解くことが求められる。1回の授業に対して、最低3時間程度の自主的学習は必要であろう。学習に困難を感じた場合は、オフィス・アワー、数学相談室等の受講生に対する支援を活用されたい。

●評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考慮する。

●受講生へのコメント

クラスごとに授業内容、進度、あるいは、重点の置き方が多少異なる場合がある。

●教材

浦田健二（他）『経済学を学ぶためのはじめての微分法』（同文館出版）

木村哲三（他）『経済学を学ぶための微分法の基礎』（同文館出版）

田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』（裳華房）
Pemberton/Rau “Mathematics for Economists”
(University of Toronto Press)

担当者によって使用する教科書が異なることがあるので、購入するときには注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 06]

掲載番号	科目名	基礎数学B	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	金信 泰造 (理) 齋藤 洋介 (数学研究所員) 釜江 哲朗 (理 特任) 宮地 兵衛 (理) 河内 明夫 (理 特任)
150	英語表記	Fundamental Mathematics B						

●科目の主題

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

●授業の到達目標

行列、行列式、ベクトル空間に関する基礎的概念と計算力を習得する。

●授業内容・授業計画

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。(2回)
2. 行の基本操作とその応用……行基本操作、掃き出し法による連立一次方程式の解法、逆行列の決定。(4回)
3. 行列式……行列式の定義、余因子展開、逆行列と連立一次方程式の一般解の公式 (Cramerの公式) (5回)
4. ベクトル……ベクトルの成分 (平面、空間)、座標幾何への応用、空間ベクトルの外積。(2回)
5. 固有値とその応用……固有値と行列の対角化、対称行列の対角化。(2回)

●事前・事後学習の内容

高等学校の数学I、数学A、数学II、数学Bを履修していることを前提に講義をおこなう。講義後は、その時間の講義でおこなった範囲の教科書の演習問題を各自で解き、講義内容の理解に務める必要がある。

●評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

●受講生へのコメント

オフィス・アワー等の受講生への支援については、講義の際に説明があるので、それらを積極的に活用して講義内容の理解に努めること。

●教材

田代嘉宏『数学概論 線形代数/微分積分』（裳華房）
三宅敏恒『線形代数-例とポイント』（培風館）

Pemberton/Rau “Mathematics for Economists”
(University of Toronto Press)

担当者によって、使用する教科書が変わるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE MAT 01 07]

掲載番号	科目名	統計学 A	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	福井 充 (医)
151	英語表記	Statistics A						

●科目の主題

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。

●授業の到達目標

標本調査の概念を理解する。

1 変量・2 変量の記述統計を理解し、作表・作図・計算ができる。

確率分布の概念を理解し、正規分布・二項分布・ポアソン分布の確率計算ができる。

仮説検定、信頼区間の概念を理解する。

●授業内容・授業計画

1. 統計学とは。標本調査の考え方 (1 回)
2. 記述統計・単変量 (2 回): 度数分布表・ヒストグラム・箱ひげ図、平均・分散・標準偏差・中央値・パーセント点
3. 記述統計・2 変量 (2 回): 散布図、相関係数・回帰直線
4. 確率分布 (4 回): 確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布 (正規分布・二項分布・ポアソン分布)
5. 検定の考え方 (4 回): (1 母集団の母比率比較

を例に) 有意水準と検出力、片側検定と両側検定、棄却域、P 値

6. 推定の考え方 (2 回): (1 母集団の母比率の推定を例に) 点推定、区間推定

●事前・事後学習の内容

テキストの例題、配布する演習問題を用いて復習を行うこと。演習問題の一部についてはWebを通じて提出を求め、提出された解答を基に講義内で解説を行う。

●評価方法

定期試験 (80% 程度) とレポート (20% 程度) で評価する。

●受講生へのコメント

解析学 (微積分)・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。(詳細は授業時に指示)

●教材

教科書: 丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学B、3・4 回生での医学統計学でも使用する。

補足資料、演習問題を講義中に配布する

[科目ナンバー : GE MAT 01 08]

掲載番号	科目名	統計学 B	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	福井 充 (医)
152	英語表記	Statistics B						

●科目の主題

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

●授業の到達目標

1 変量および2 変量データについての基本的な検定・推定手法(t検定、F 検定、カイ 2 乗検定、Wilcoxonの順位と検定など)について理解し、データに応じて正しく使用できる。

●授業内容・授業計画

各種統計的手法の適用について例題を用いて講義する。具体的には

1. 1 つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定 (2 回)
2. 2 つの正規母集団の母平均・母分散の比較 (データに対応のない場合) (2 回)
3. 2 つの正規母集団の母平均の比較 (データに対応のある場合) (1 回)
4. 2 つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定 (データに対応のない場合) (2 回)
5. 2 つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定 (データに対応のある場合) (1 回)
6. 2 つの母集団の母比率の比較 (データに対応のない場合) (3 回)
7. 2 つの母集団の母比率の比較 (データに対応の

ある場合) (1回)

8. 独立性の検定 (1回)

9. 適合度検定 (2回)

●事前・事後学習の内容

テキストの例題、配布する演習問題を用いて復習を行うこと。演習問題の一部についてはWebを通じて提出を求め、提出された解答を基に講義内で解説を行う。

●評価方法

定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

解析学 (微積分)・線形代数学および集合論の概念・

記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。また、統計学Aでの講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること。試験は関数電卓の使用を前提とする。(詳細は授業時に指示)

●教材

教科書:丹後俊郎著「医学への統計学 第3版」(朝倉書店)

注) この教科書は統計学A、3・4回生での医学統計学でも使用する。

補足資料、演習問題を講義中に配布する

[科目ナンバー : GE PHY 03 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学 I	単位数	4	授業形態	講義	担当教員	有馬 正樹 (理) 中川 道夫 (非常勤) 牲川 章 (理 特任) 河合 俊治 (非常勤)
153	英語表記	Basic Physics I						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する科目として「力学」を講義する。

●授業の到達目標

身近に起こる力学現象を支配する基礎方程式をもとにして、様々な複雑な系に対する系統的な考察の方法を学ぶ。そして、演習を通して「力学」の理解を深めるとともに応用力をつける。

●授業内容・授業計画

1. 運動:空間と時間、速度
2. 運動の法則:慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー:1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力:ケプラーの法則、クーロン力による散乱
5. 角運動量:角運動量と力のモーメント
6. 質点系の力学:運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量
7. 剛体の簡単な運動:剛体の運動方程式、固定軸

をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント

8. 相対運動:回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

(これらの内容は、受講者の理解度などに応じて変更することもある)

●事前・事後学習の内容

授業に臨むにあたり、前回の講義内容をノートなどで確認しておくこと。そして、講義で説明された事柄は、授業後に自分自身で手を動かして再確認すること。

●評価方法

授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する

●受講生へのコメント

まじめに出席すること。講義がわからないと感じたときには遠慮なく先生や仲間に質問すること。自分自身でじっくりと考えることが大事だから、時間に余裕をもって勉強に取り組むこと。

●教材

戸田盛和 著『力学』(岩波書店)を用いる。また、演習書や参考書を適宜紹介する。

(担当者によって使用する教材が代わるがあるので、教科書の購入の際は注意すること)

[科目ナンバー : GE PHY 03 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅱ	単位数	4	授業 形態	講義	担当教員	浜端 広充 (理)
154	英語表記	Basic Physics II						河合 俊治 (非常勤)

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、電磁気学を学習する。

●授業の到達目標

本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 静電場
クーロンの法則, 電場, ガウスの法則, 静電ポテンシャル, 電気双極子, コンデンサー, 誘電率
2. 定常電流
オームの法則, 抵抗, キルヒホッフの法則
3. 電流と磁場
磁場, 磁場に関するガウスの法則, アンペールの法則, ビオ・サバールの法則, ローレンツ力, 磁気双極子, 透磁率, 変位電流
4. 電磁誘導と準定常電流
ファラデーの法則, 自己および相互誘導, 過渡現象

象

5. 電磁気学の基本法則
マクスウェルの方程式, 電磁波

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、小テスト、定期試験などを総合して評価する。

●受講生へのコメント

電磁気学は、力学と並んで物理学の中でも最も基本的な学問分野であるので、意欲的に取り組んで身につけて欲しい。

●教材

教科書として「砂川重信著『電磁気学[改訂版]初めて学ぶ人のために』(培風館)」を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 04 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅰ-A	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	糸山 浩 (理)
155	英語表記	Basic Physics I-A						牲川 章 (理 特任)

●科目の主題

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は振動及び波動の講義である。

●授業の到達目標

基礎物理学Ⅰの発展と位置付けられると同時に、「場」という概念の導入にもなっている。マクロな古典的現象を対象にし、波動に関しては初歩から始め、多くの例を取り扱う。

●授業内容・授業計画

- 基礎物理学Ⅰの履修を前提とする。
1. 力学と振動：単振動と減衰振動、強制振動と減衰項付きの強制振動、仕事率、パラメータ励振、固有値問題としての連成振動、連成振動の一般論、連続極限
 2. 波動（1次元）：弦の微小振動と一般解、初期値問題、境界条件、流体中の音波、定常波と

変数分離、フーリエ展開、分散と群速度、波のエネルギーと運動量

3. 多成分・空間2,3次元への拡張：粒子と場、ベクトルとテンソル、弾性体と流体、物体の変形と歪テンソル、応力テンソル、フック則、等方媒質中の弾性波
4. 横波ベクトルとしての電磁波
5. 幾何光学極限と回折・干渉

●事前・事後学習の内容

参考書、配布プリント、クイズによる講義内容の復習。友人と相談しても良いが、宿題を自立心をもって解く。

●評価方法

試験及び宿題（レポート）による。

●受講生へのコメント

「波動」の高校生での習熟度に関しては、受講生間

の差が大きい。大学受験レベルでの波動の数学的取り扱いに不慣れな受講生は、講義期間最初のヶ月に自習すること。

●教材

「親切的な物理(下) 渡辺久夫著」。高校の物理から

の橋渡しとして；「振動と波動」(岩波書店)寺沢徳雄、中級標準的な振動・波動の教科書；「波動」(東大出版会)岩本文明、上記書よりやや進んだ数学的記述を含む。どちらも2、3年次に進んでも有用な本。糸山による教科書「初年次からの波動と場」が準備中である。

[科目ナンバー : GE PHY 04 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅱ-A	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	西川 裕規 (理)
156	英語表記	Basic Physics II-A						

●科目の主題

微分形のMaxwell方程式の、物理的理解、その解析の枠組(そこで使用する数学的諸概念手法に触れること)、電磁場と荷電粒子系、電磁気学を通じた特殊相対性理論への入門、が主題である。

●授業の到達目標

基礎物理学の範囲内で、基礎物理学ⅡのAdvanced Courseとして設けられた電磁気学の講義というのが本授業の位置付けである。本授業の到達目標は次のようなことである；(1) 3次元ベクトル解析の諸概念の理解はもちろんのこと、実際の計算運用ができること、(2) 微分形のMaxwell方程式の物理的意味の理解、(3) Maxwell方程式の解析の枠組みとそこで使用する数学的諸概念手法に触れ親しみ、続く専門教育に備えること、(4) 電磁気学を通して特殊相対性理論に触れ親しみ、続く専門教育に備えること。

●授業内容・授業計画

「ベクトル解析の復習」

第1回：線積分、面積分、体積積分の定義と性質、微積分学の基本定理

第2回：勾配、回転、発散の意味、微分形のMaxwell方程式と電荷保存則

「ベクトル解析の計算手法、スカラーポテンシャル、ベクトルポテンシャル」

第3回：Levi-Civita記号、Einstein規約、スカラーポテンシャル、ベクトルポテンシャル

「Fourier解析入門」

第4回：平面波の式、Fourier級数、変換

第5回：デルタ関数、畳込積、高次元化

「電磁場の波数周波数分解」

第6回：源なしの電磁場(電磁波)

第7回：源が既知の電磁場(1)(静電磁場：縦波横波とHelmholtzの定理、LaplacianのGreen関数)

第8、9回：源が既知の電磁場(2)(一般の電磁場：d'AlembertianのGreen関数)

「電磁場と荷電粒子」

第10回：連成振動から場(場の解析力学入門)、電磁ポテンシャル、ゲージ変換、Maxwell方程式を導

くLagrangian密度

第11回：Lorentz力、電磁エネルギー等の場の保存量

「電磁気学と特殊相対性理論」

第12回：Einsteinの相対性原理、Lorentz(-Poincare)変換、特殊Lorentz変換

第13回：Minkowski時空のいくつかの特徴、Maxwell方程式と電荷保存則の書換

第14回：時空変位、時空微分、基底ベクトルのLorentz変換に対する変換則、物理法則の共変性、電荷密度場、電流密度場と電磁場の変換則

第15回：反変、共変ベクトル、テンソル、添字の慣習他

なお上記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●事前・事後学習の内容

事後学習として、講義で示した計算結果等を、初めから終わりまで自分の手で再導出することが重要である。また事前学習としては、上述の授業内容について、書籍やインターネットを通じてある程度調べて授業に臨むことが場合によれば望ましい。

●評価方法

期末試験の成績と授業中に課すレポート課題の成績で評価する。

●受講生へのコメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。授業では、初等的なところから解き起こすが、上記の本授業の割当をこなす必要のため進度は早いので、常時継続的な事後学習が重要である。

●教材

特定の教科書に沿っては授業を進めないが、次に挙げる書籍(一部は絶版)は本授業の参考になる。

太田浩一著『電磁気学の基礎Ⅰ、Ⅱ』(東京大学出版会)、高橋康著『電磁気学再入門』(講談社サイエンスフィク)、砂川重信著『理論電磁気学』(紀伊国屋書店)、深谷賢治著『電磁場とベクトル解析』(岩波書店)、井田大輔著『ベクトル解析と微分形式』(東洋書店)

[科目ナンバー : GE PHY 02 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅰ－E	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	浜端 広充 (理) 小栗 章 (理) 菊地 右馬 (理 特任)
157	英語表記	Basic Physics I -E						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。

●授業の到達目標

最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。なお下記の授業内容等は受講者諸氏の理解度等に応じて前後、変更する場合もある。

●授業内容・授業計画

- 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
- 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
- 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動
- 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポ

テンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存

- 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量
- 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動
- 剛体のつりあいと回転

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

小テスト、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

●教材

長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 02 02]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅱ－E	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	菊地 右馬 (理 特任) 牲川 章 (理 特任)
158	英語表記	Basic Physics II -E						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、電磁気学を学習する。

●授業の到達目標

本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象にする電磁気学を学習し、その基本概念の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

- 電荷と静電場
クーロンの法則、電場、ガウスの法則、静電ポテンシャル、電気双極子、コンデンサー
- 定常電流と静磁場
オームの法則、抵抗、キルヒホッフの法則、磁場、ローレンツ力、ピオ・サバルの法則、磁気双極子、アンペールの法則

3. 電磁誘導

ファラデーの法則、自己および相互誘導

4. 電磁気学の基本法則

変位電流、マクスウェルの方程式、電磁波

●事前・事後学習の内容

復習を怠らないこと。予習もすることが望ましい。

●評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。理解できない事項は遠慮なく質問すること。

●教材

教科書として「長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）」を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE PHY 03 03]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅲ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	矢野 英雄 (理) 井上 慎 (理) 中川 道夫 (非常勤) 畑 徹 (非常勤)
159	英語表記	Basic Physics III						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた熱力学を学習する。熱力学は熱とエネルギーの等価性を示し、また、現象が進む方向を示す。熱力学第一法則、第二法則をもとに、種々のエネルギー（熱力学関数）や気体分子運動論を学ぶ。

●授業の到達目標

熱力学は、力学では扱わなかった「物体内部の現象」を対象とし、冷・熱で体感するような巨視的な現象を系統的に整理し、構築された学問である。本科目では、物体に内包する巨視的なエネルギーと状態量エントロピーの概念を理解できることを目標とする。これらは、物体内部の現象を微視的に取り扱う統計力学の基礎となり、また物理化学や機械工学などへと広く応用される。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週（熱現象と熱力学）
 - ・熱平衡と温度、・状態量、・理想気体の状態方程式、・ファンデルワールスの状態方程式
- 第3週～第5週（熱力学第一法則）
 - ・準静的過程、・熱力学第一法則、・内部エネルギー、・熱容量と比熱、・等温過程、・断熱過程、・カルノーサイクル
- 第6週～第7週（熱力学第二法則）
 - ・可逆と不可逆過程、・熱力学第二法則、・熱機関の効率、・熱力学温度、・クラウジウスの不等式

第8週～第10週（エントロピー）

・エントロピー、・エントロピー増大の法則、不可逆性と確率論的意味、・微視的状态

第11週～第12週（熱力学関数）

・エンタルピー、・自由エネルギー、・熱平衡

第13週～第15週（気体分子運動論）

・エネルギー等分配の法則、・速度の分布則

●事前・事後学習の内容

授業までにレポート課題や指定の問題を解いておくこと。また授業で必要とする数学（微分、ルジャンドル変換など）を予習しておくこと。授業の各項目はそれまでの学習内容の積み上げによって進むため、復習や演習問題を解き、学習内容を理解しておくことが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

主として期末試験により評価する。担当者によって、レポートや小テストなども評価に加える。

●受講生へのコメント

力学（基礎物理学Ⅰなど）と解析Ⅰ,Ⅱの履修が望ましい。

●教材

教科書として「國友正和著、基礎熱力学(共立出版)」を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

[科目ナンバー : GE PHY 03 04]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅳ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	中尾 憲一 (理)
160	英語表記	Basic Physics IV						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。

●授業の到達目標

量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理

解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

●授業内容・授業計画

- 第1回 古典論の限界1：光の二重性
- 第2回 古典論の限界2：電子の二重性（1）
- 第3回 古典論の限界3：電子の二重性（2）
- 第4回 シュレディンガー方程式1：弦を伝わる波動（1）
- 第5回 シュレディンガー方程式1：弦を伝わる波

- 動 (2)
- 第6回 シュレディンガー方程式3：演算子と固有状態
- 第7回 シュレディンガー方程式4：シュレディンガー方程式の導入
- 第8回 物理量と期待値
- 第9回 1次元問題1：井戸型ポテンシャル
- 第10回 1次元問題1：調和振動子(1)
- 第11回 1次元問題2：調和振動子(2)
- 第12回 1次元問題3：階段型ポテンシャルによる反射と透過
- 第13回 1次元問題4：トンネル効果
- 第14回 1次元問題5：周期境界条件と状態密度
- 第15回 まとめと復習

●事前・事後学習の内容

教科書の予習・復習と章末の練習問題。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

●受講生へのコメント

講義だけで理解できる内容ではないので、自習を怠らないように。また、不明な点があれば積極的に質問に来て下さい。

●教材

教科書として原康夫著「量子力学」(岩波基礎物理シリーズ5)を使用。また参考図書・演習書等を適宜紹介します。

[科目ナンバー : GE PHY 02 03]

掲載番号	科目名	基礎物理学Ⅳ-E	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	畑 徹 (非常勤)
161	英語表記	Basic Physics IV-E						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、古典物理学と呼ばれるマクロ世界での現象を記述する力学、熱力学、電磁気学とミクロ世界を記述する統計物理学、量子物理学及び相対性理論に代表される現代物理学について、その成り立ちと現代社会との関わりについて学ぶ。

●授業の到達目標

ミクロの世界では、粒子のエネルギーは連続的ではなく飛び飛びの値をもつという量子論の考え方の理解を目標とする。具体的には、粒子の運動における「粒子性」と「波動性」の二重性の理解、そこから発展した、粒子の運動を波動として捉えた波動方程式の理解である。そのことを基礎に、量子力学と呼ばれる新しい物理が現代社会の様々な分野で重要な役割を果たしていることの理解を到達目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週 物理学の体系、ミクロの世界の発見、光の波動性と粒子性
- 第3週～第5週 ミクロの世界における電子の粒子性と波動性、飛び飛びのエネルギー状態、量子論の誕生
- 第6週～第8週 プランク定数の発見、量子力学：波動方程式の導入
- 第9週～第10週 波動方程式を用いたポテンシャル中の電子のエネルギー状態、スピ

ンの発見

- 第11週～第12週 物質中の多粒子の世界、多粒子系における異なる統計則 (フェルミ統計とボーズ統計)
- 第13週～第15週 物理学最前線：量子現象のトピックス (超伝導、超流動、レーザーなど)、相対性理論

●事前・事後学習の内容

講義で出てきた内容を理解するため、随時レポート課題を出すので自分で調べて提出すること。

また、事後学習を兼ねて、小テスト課題を示すので、予習しておくこと。

●評価方法

主として期末試験により評価する。また、レポートや小テストなども評価に加える。

●受講生へのコメント

内容的には、高校ではほとんど習っていない、まったく新しいことなので非常に難しく、講義を聞いていないと着いて行けなくなるので要注意。

●教材

参考書：長岡洋介著「基礎物理学シリーズ 現代物理学」(東京教学社) わかりやすい。

小出昭一郎著「基礎物理学5 現代物理学」(東京大学出版会) やや高度。

講義は、この両方を参考に行う。少なくともどちらかは購入しておくこと。

[科目ナンバー : GE PHY 01 01]

掲載番号	科目名	物理学 I	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	牲川 章 (理 特任)
162	英語表記	Introduction to Physics I						

●科目の主題

力学を主に、波動についても触れる。

●授業の到達目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Iでは、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

●授業内容・授業計画

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方・物理量の表し方
2. 運動の記述
 - ・速度・加速度・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第1・2・3法則
4. 力と運動
 - ・運動方程式とその解

5. 振動

- ・単振動・減衰振動・強制振動
- 6. 仕事とエネルギー
 - ・仕事・エネルギー・保存力・エネルギー保存則
- 7. 回転運動
 - ・角運動量・回転運動の法則
- 8. 剛体の力学
 - ・剛体の運動方程式慣性モーメント
- 9. 見かけの力
 - ・加速度系からみた運動
- 10. 波動と光

●事前・事後学習の内容

復習を怠らないこと。予習もすることが望ましい。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポートなど。

●受講生へのコメント

理解できない事項は遠慮なく質問すること。

●教材

教科書として、原 康夫著『(第5版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 02]

掲載番号	科目名	物理学 II	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	村田 恵三 (非常勤)
163	英語表記	Introduction to Physic II						

●科目の主題

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。

●授業の到達目標

自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Ⅱでは、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

●授業内容・授業計画

1. 真空中の静電場
 - ・電荷, ・クーロンの法則, ・電場のガウスの法則
2. 導体・誘電体と静電場
 - ・導体, ・誘電体, ・キャパシター
3. 電流と回路
 - ・オームの法則, ・キルヒホッフの法則, ・CR回路
4. 電流と磁場
 - ・電流のつくる磁場, ・ローレンツ力,
 - ・ビオーサバルの法則, ・磁場のガウスの法則
 - ・アンペールの法則
5. 電磁誘導
 - ・電磁誘導の法則, ・自己誘導, ・相互誘導

- 6. マクスウェル方程式と電磁波
- 7. 現代物理学の概要
 - ・相対性理論, ・ミクロの世界と量子論,
 - ・原子核と素粒子

●事前・事後学習の内容

教科書を軸に、色々な話題を出している。それらの事例を学生自ら拡張、応用するような事例に展開し、講義中に提案することを心がけよう。

●評価方法

日常のレポートと期末試験の結果を総合して評価する。

●受講生へのコメント

教科書にないことの話題や補足を行うので、色々な事に興味を持って欲しい。

●教材

教科書として、原 康夫著『(第4版)物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

[科目ナンバー : GE PHY 01 03]

掲載番号	科目名	入門物理学 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	佐藤 弘一 (理 特任) 吉野 裕高 (理 特任)
164	英語表記	Introduction to Physics I						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、力学を中心に学習する。

●授業の到達目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

●授業内容・授業計画

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方を述べ、項目として、

- 1) 速度と加速度
 - 速度, 加速度, 等速直線運動, 等加速度運動
- 2) 運動の法則(ニュートンの運動の法則)
 - 座標系, ベクトル, 運動の法則, 力, 放物運動
- 3) 周期運動
 - 周期運動, 単振動, 単振り子, 等速円運動
- 4) 力と運動、エネルギー
 - 力と仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, エネルギー保存則, 運動量, 運動量保存則

5) 剛体の運動

剛体, 慣性モーメント, 重心の運動, 回転運動

6) 熱と温度

熱, 温度, 状態方程式, プランクの法則, 熱力学の法則

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、本科目が必修あるいは選択必修に指定されていない場合、基礎物理学 I-E を履修すること。

●教材

原康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

[科目ナンバー : GE PHY 01 04]

掲載番号	科目名	入門物理学Ⅱ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	佐藤 弘一 (理 特任) 吉野 裕高 (理 特任)
165	英語表記	Introduction to Physics II						

●科目の主題

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、電磁気学を中心に学習する。

●授業の到達目標

近年種々の自然科学は目覚ましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的理解が得られることを目指す。

●授業内容・授業計画

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
電荷と電気力, 電荷の保存則, 静電誘導, クーロンの法則
- 2) 電場
電場, ガウスの法則
- 3) 電位
位置エネルギー, 電位と電位差,

4) 誘電体とキャパシタ

キャパシタ, 電気容量, 電場のエネルギー, 誘電体と電場

5) 電流とオームの法則

流, 起電力, オームの法則

6) 電流と磁場

磁場, アンペールの法則, 磁気力

7) 電磁誘導

電磁誘導, 誘導起電力, 磁場のエネルギー

8) 新しい物理学の展開

光・電子の二重性, 不確定原理, 相対性理論, 原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

●事前・事後学習の内容

事前に教科書で予習しておくこと。講義後は講義内容の理解を深めるため、演習問題やレポート課題などに積極的に取り組むこと。

●評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学Ⅱ-Eを履修すること。

●教材

原康夫著『基礎からの物理学』(学術図書出版社)

[科目ナンバー : GE PEX 01 02]

掲載番号	科目名	入門物理学実験	単位数	2	授業形態	実験	担当教員	常定 芳基 (理) 他
166	英語表記	Introductory Physics Experiments						

●科目の主題

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、

理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱと物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

●教材

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PEX 01 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学実験Ⅰ	単位数	3	授業形態	実験	担当教員	田越 秀行 (理) 他 山本 和弘 (理) 他 竹内 宏光 (理) 他
167	英語表記	Basic Physics Experiments I						

機械工学科：①学籍番号奇数の学生は前期火曜クラス、
②学籍番号偶数の学生は前期木曜クラス

●科目の主題

基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

基礎物理学実験Ⅰは高校で物理学を履修した学生を対象とする。1回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2回目以降は、前半・後半各6テーマとして、1回1テーマ、原則として2名1組で実験を行い、レポートを作成する。

1. 前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波

長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧・電流特性を測定し、その整流作用を観測する。

2. 後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がりからヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨張」：金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスターの特性」：トランジスターの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは1週間以内に提出

する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

機械工学科の学生は火曜クラスと木曜クラスに分かれる。学籍番号奇数の学生は前期火曜クラスを、偶数の学生は前期木曜クラスを受講すること。

本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱと物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は物理学実験S Bを履修すること。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理I、IIの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

●教材

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PEX 02 01]

掲載番号	科目名	基礎物理学実験Ⅱ	単位数	3	授業形態	実験	担当教員	小原 顕 (理) 他 岩崎 昌子 (理) 他
168	英語表記	Basic Physics Experiments II						

●科目の主題

基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。

●授業の到達目標

1. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。
2. 実験に対する自主性と積極性を養う。

●授業内容・授業計画

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」：大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」：パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速度を直接測定する。「光の回折」：レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。「過渡現象と交流回路」：抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象の時定数の測定、位相差の測定、インダクタンスの測定から交流についての理解を深める。「差動増幅器」：OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」：波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」：強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」：電磁場中での荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。「レーザー」：固体レーザーの発振の様子や第二高調波発生の観測を通して、

非線形光学の基礎を学ぶ。

「真空」：低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」：黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」：水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」：シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

●事前・事後学習の内容

実験開始前までに、教科書の該当するテーマの目的、理論、測定機器についての予習を行い、事前報告書にまとめる。実験終了後は、事前報告書を含めた実験レポートを提出する。実験レポートの内容が不十分であれば指導の上、再提出を求められる。

●評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験または基礎物理学実験Ⅰ（それに相当するもの）を修得していなければならない。

●教材

本理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第4版』（東京教学社）

[科目ナンバー : GE PCH 01 01]

掲載番号	科目名	基礎物理化学A	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	宮原 郁子 (理) 他 神谷 信夫 (理) 麻田 俊雄 (非常勤) 杉崎 研司 (理 特任)
169	英語表記	Basic Physical Chemistry A						

●科目の主題

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

●授業の到達目標

量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1～4回 原子の構造と量子論の基礎
 第5～7回 二原子分子の化学結合－共有結合とイオン結合
 第8、9回 三原子分子と結合角－分子を曲げる力の謎
 第10～12回 分子軌道法と混成－多原子分子の構造
 第13～14回 分子間に働く力
 (SIクラス) 第1～7回を宮原郁子、第8～14回を

塩見大輔が担当

●事前・事後学習の内容

講義で配布される資料や演習問題について予習復習をおこなうこと。

●評価方法

試験の成績に出席状況を加味して評価する。

●受講生へのコメント

分子構造や化学結合を理解することは、あらゆる化学分野の基礎である。高校物理や高校数学を復習しておくこと。

●教材

適宜、資料プリントを配布する。

参考書： 千原秀昭・中村亘男訳、「アトキンス物理化学・上巻」(東京化学同人)(宮原郁子、塩見大輔 担当)

寺嶋正秀・馬場正昭・松本吉泰著「現代物理化学」(化学同人)(杉崎研司 担当)

[科目ナンバー : GE PCH 01 02]

掲載番号	科目名	基礎物理化学B	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	豊田 和男 (理) 宮崎 裕司 (非常勤)
170	英語表記	Basic Physical Chemistry B						

●科目の主題

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、ヘルムホルツエネルギー、ギブズエネルギーなど、熱力学における基本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力を養う。

●授業の到達目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解し、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

●授業内容・授業計画

1. 熱力学の基本概念と気体の状態方程式 (2回)
 2. 熱力学第1法則 (内部エネルギー、エンタルピー

一、熱容量、気体の膨張など) (5回)

3. 熱力学第2法則 (熱機関、熱力学温度、エントロピー、クラウジウスの不等式など) (4回)
 4. 様々な条件での自発変化の方向と平衡 (ヘルムホルツエネルギー、ギブズエネルギー、マクスウェルの関係式、化学ポテンシャルなど) (4回)

●事前・事後学習の内容

授業前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習をすることが望ましい。各回の授業前に教材の指定された部分に目を通しておくこと。また、教科書や資料を読むだけでなく演習問題に取り組んで自分の理解を試すことが必要である。

●評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

なるべく専門用語は使わず、わかりやすく説明する。化学になじみのない受講生も歓迎する。

上記の講義内容は一部変更することがある。

菅宏著「はじめての化学熱力学」(岩波書店)(宮崎裕司担当)

●教材

資料プリントを配布する(豊田和男担当)

[科目ナンバー : GE OCH 01 01]

掲載番号	科目名	基礎有機化学Ⅰ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	坂口 和彦(理)
171	英語表記	Basic Organic Chemistry I						

●科目の主題

有機化合物は自然界に広く存在し、我々の生活に深く関わっている。有機化学は、有機化合物を理解し扱う学問分野である。本講義では、有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に学習する。専門科目としての有機化学への入門としても位置づけられる科目である。

●授業の到達目標

有機化合物の「構造」、「性質」、「反応」の基礎を体系的に理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

教科書に基づいて講義を行い、毎回、問題演習(10分程度)を行う。試験は中間試験と期末試験の2回を実施する。

- 1、2回目 結合と構造異性
- 3回目 アルカンとシクロアルカン
- 4、5回目 アルケンとアルキン
- 6、7回目 芳香族化合物
- 8回目 中間試験と解答解説

- 9、10回目 立体異性
- 11、12回目 有機ハロゲン化合物；置換反応と脱離反応
- 13、14回目 アルコールとフェノール
- 15回目 期末試験と解答解説

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し身につけるには、よく復習し、演習問題(教科書の章末問題)を解くことが重要である。

●評価方法

試験の成績、出席、授業中の演習課題などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎有機化学ⅠとⅡを連続して受講することで、有機化学の理解がいつそう深まる。上記の授業内容は進捗状況により一部変更することがある。

●教材

教科書：H. ハート/L.E. クレーン/D.J. ハート著・秋葉欣哉/奥彬 共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

[科目ナンバー : GE OCH 01 02]

掲載番号	科目名	基礎有機化学Ⅱ	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	森本 善樹(理)他
172	英語表記	Basic Organic Chemistry II						

●科目の主題

機能性材料から生命現象を担う生体物質まで、現代社会のあらゆる場面で有機化合物が重要な役割を果たしている。本科目では、有機化合物を理解するうえで不可欠な有機化学の諸原理や基礎的概念を修得することをめざし、種々の官能基を持つ化合物の構造、性質、反応について系統的に解説する。基礎有機化学Ⅰに継続する科目である。基礎有機化学ⅠとⅡを連続して受講することで、有機化学への理解がいつそう深まる。

●授業の到達目標

- 1、有機化合物の中で、エーテル、カルボニル化合物、アミン、複素環化合物の性質を理解する。
- 2、有機化合物の反応性を支配する要因を理解し、

反応機構を理解する。

- 3、生体を構成する有機化合物の構造とその化学的性質・反応性を理解する。

●授業内容・授業計画

(森本 善樹(理)担当) 1. エーテルとエポキシド 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸とその誘導体 4. アミン 5. 複素環化合物
(白杵 克之助(理)担当) 6. 脂質 7. 炭水化物 8. アミノ酸、ペプチド、タンパク質 9. ヌクレオチドと核酸

●事前・事後学習の内容

授業までに教科書の指定された箇所を一通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身につけるため

には教科書にある演習問題を解くことが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

中間試験、期末試験の成績により総合的に成績を評価する。

●**受講生へのコメント**

基礎有機化学 I を受講しておくこと。授業終了後演習問題を解いて、よく復習すること。

上記の講義内容は一部変更することがある。

●**教材**

H. ハート著・秋葉欣也・奥彬共訳 [ハート基礎有機化学] (培風館)

[科目ナンバー : GE OCH 01 03]

掲載番号	科目名	基礎有機化学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	岡田 恵次 (非常勤)
173	英語表記	Fundamental Organic Chemistry						

●**科目の主題**

化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化合物の官能基とその性質・反応性について系統的に解説する。有機化合物への理解を広げる。

●**授業の到達目標**

我々の身の回りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。ここでは、有機化合物の官能基の性質や反応性について解説し、化学を専門としない理系の学生が、有機化合物の基本的性質を理解できるようになることを目指す。

●**授業内容・授業計画**

次の課題内容にて、15回の講義を行う。

1,2. 結合と構造異性, 3. アルカンとシクロアルカン, アルカンとアルキン, 4,5. 芳香族化合物、中間テスト、6,7. 立体異性, 8. 有機ハロゲン化合物, 9,10. アルコール, フェノール, チオール、中間テスト, 11. エーテルとエポキド、12,13. アル

デヒドとケトン, 14. カルボン酸とその誘導体, 15. アミンとそれに関連した窒素化合物などの各論を系統的に講義する。

●**事前・事後学習の内容**

授業で進む部分を事前に読むこと、事後に章末問題を解くことが望ましい

●**評価方法**

定期試験(50%)、中間テスト(15×2=30%)、出席率(20%)を総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

1) 教科書をじっくり読むこと、次いで、2) 演習問題を解くことが大切である。

●**教材**

教科書としてH.ハート/D.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣也/奥彬共訳「ハート基礎有機化学」三訂版 (培風館)

[科目ナンバー : GE OCH 01 04]

掲載番号	科目名	基礎有機化学M	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	宮田 興子 (非常勤)
174	英語表記	Fundamental Organic Chemistry M						

●**科目の主題**

本講義では、有機化学の基礎を学ぶことで生体分子や薬の構造と性質について理解を深める。

●**授業の到達目標**

生体分子(炭水化物、タンパク質・酵素、核酸などの高分子化合物、脂質二重膜)および薬の性質を分子構造から読み解くための基礎と、薬に対する生体応答を分子構造レベルで考えることができる素養を身に着ける。

●**授業内容・授業計画**

授業内容: テキストに基づいて講義を進める。課題

プリントを配布し、演習と解説を2~3回に1度、30分程度行う。

授業計画: 1. 有機化学の基本概念: 電子構造と結合の種類 2. 酸と塩基 3. 医薬品と生体分子との相互作用 4. 医薬品開発プロセス [1~4で7回] 5. 医薬品の標的となる生体分子の化学 6. 医薬品の構造有機化学 7. 治療薬各論 [5~7で8回]。

●**事前・事後学習の内容**

教科書や配布資料をあらかじめ予習しておくこと。

演習課題はその翌週にレポート提出する。

●評価方法

試験、演習、出席状況などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

生体分子の成り立ちと薬の作用を有機化学と関連付

けて考える一助としてほしい。

●教材

教科書：赤路健一、林良雄、津田裕子著「ベーシック創薬化学」(化学同人)

補助資料：適宜配布する。

[科目ナンバー : GE ICH 02 01]

掲載番号	科目名	基礎無機化学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	西岡 孝訓 (理) 小林 克彰 (理 特任) 中島 隆行 (非常勤)
175	英語表記	Basic Inorganic Chemistry						

●科目の主題

無機化学は、無機化合物の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。近年では、生命科学や最先端の科学技術においてもその重要性が認識されつつある。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

●授業の到達目標

無機化合物の構成単位である原子の性質、その集合体である分子や固体の構造や性質についての知識を習得する。さらに分子の構造の記述や軌道の表記に必要な対称の概念、酸塩基、酸化還元学習を通して物質の構造や機能性について理解する。

●授業内容・授業計画

SII化クラス (担当：西岡)：

無機化学の基礎を理解するため、原子構造・分子構造と結合、酸と塩基、酸化と還元などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

1～2 原子の構造、3～4 固体の構造、5～7 分子の構造と結合、8～9 酸と塩基、10～12 酸化と還元、13～14 分子の対称性、15 測定技術

SII (数物生地) TII (機電建都情) クラス (担当：未定)：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素(非金属元素)や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や固体無機物質、金属酵素などに焦点をあて、無機化学的観点から生命科学や最先端の科学技術の理解に役立つ授業内容とする。

1～2 原子のなかの電子の振舞い、3～4 元素の性質と周期性、5～7 原子価結合法と構造、8～10 分子軌道法による結合と構造の解釈、11～12 無機固体とその結合、13～15 平衡と反応

MI医クラス (担当：中島)：

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

1～4 無機化学の基礎 (元素の性質と周期性、ルイス構造、VSEPR則)、5～11 酸塩基と酸化還元、12～15 生物無機化学

●事前・事後学習の内容

授業前に教科書あるいは配付資料に目を通しておくこと。また、授業内容をより深く理解するためには、教科書あるいは参考書の問題を解くことが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席状況、レポート、講義中に実施する小テスト、試験などの成績を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

(SII化) 物理化学の基礎を学習しておくことが望ましい。

(SII (数物生地) (TII (機電建都情))) 授業終了後演習問題を解いて、復習すること。

(MI医) 適宜中間テストを行い、理解度をチェックしながら進める。

●教材

教科書

(SII化) Weller他著、田中他訳「シュライバー・アトキンス無機化学 (上)」(東京化学同人)

(SII (数物生地) (TII (機電建都情))) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(MI医) 資料を配付

参考書

(SII化)、(MI医) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

(SII (数物生地) (TII (機電建都情))、(MI医) Weller他著、田中他訳「シュライバー・アトキンス無機化学 (上)」(東京化学同人)

[科目ナンバー : GE ACH 02 01]

掲載番号	科目名	基礎分析化学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	東海林 竜也 (理) 細川 千絵 (非常勤)
176	英語表記	Basic Analytical Chemistry						

●科目の目標

分析化学は、物質の分離、精製、検出、同定、定量分析などの方法論を研究開発する学問分野である。分析化学では水溶液中の化学反応を利用することが多いため、本科目では主に溶液内イオン平衡について取り扱う。

●授業の到達目標

- ・有効数字の取り扱いを習熟する。
- ・溶液内の基礎的な熱力学を理解する。
- ・酸塩基平衡を通じ、溶液内の化学平衡を理解する。
- ・最先端の分析化学を理解する。

●授業内容・授業計画

理学部化学科向け

東海林竜也が担当する。溶液内反応に基づく分析手法の基礎理論と溶液内平衡反応(酸塩基平衡)を中心に進める。講義中演習を行うことがあるので、関数電卓を持参すること(スマートフォンの関数電卓アプリケーションの使用は不可とする)。第1-2回:有効数字と誤差、第3-5回:溶液中の熱力学、第6回:平衡状態における化学反応速度論、第7-12回:酸塩基平衡、第13-15回:中和滴定。

工学部等他学部向け

細川千絵が担当する。第1回:総論とイントロダクション、分析化学を学ぶ意義、第2-5回:化学平衡

論(化学平衡の概念、酸塩基平衡、酸化還元平衡)、第6-11回:各種機器分析装置の原理と応用(電気化学分析、分光分析、質量分析、クロマトグラフィー他)、第12-15回:最先端分析化学(産業における分析化学、生体分析化学、食品・環境分析)

●事前・事後学習の内容

講義前に次回の講義内容について連絡するので予習すること。講義後、復習しレポートを作成する。

●評価方法

定期試験やレポートなどにより総合的に成績を評価する。

●コメント

指数、対数、平方根等が計算可能な関数電卓を使用できることが望ましい。

●教科書等

理学部化学科向け

教科書: 姫野貞之、市村彰男 著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』第2版(化学同人)

参考書: 土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

工学部等他学部向け

教科書なし

参考書: 土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学I基礎』(丸善)

[科目ナンバー : GE CHE 01 01]

掲載番号	科目名	入門化学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	中澤 重顕 (理 特任)
177	英語表記	Introduction to Chemistry						

●科目の主題

現代化学を考えるために必要な、分子の性質の基礎的な知識や産業及び日用品への応用例を学ぶ。

●授業の到達目標

化学を専門としない理系学生を対象とした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生が高校レベルの化学の知識を越え、かつ現代化学が理解できるように講義する。高校程度の基礎からはじめ、単位系や元

素の周期表、現代化学の体系の基礎を習得することを目指す。医薬品、化粧品、液晶、リチウム二次電池をはじめ、日常に溢れる化学物質を理解できるように化学・分子の世界を概観し分子の世界の法則を直観的に理解できるようになるとともに、最先端の化学研究の一端に触れることにより、最終的には自ら化学について思考できるように化学の基礎的概念のイメージを習得する。

物質社会の根底にある化学・分子の法則とはどのようなものか、分子の形がどのようにして機能と結びついているか、化学が日常生活で果している役割などを学ぶことを通じて、化学の面白さ・学問的な深さを知り、化学を身近で親しみのある科目にする。

●授業内容・授業計画

- ①高校化学の基礎的な話
- ②化学に強くなる「化学の基礎」
- ③化学反応とエネルギー・熱・温度・光
- ④光学異性体の不思議と化学
- ⑤化学結合と分子を理解のための初歩的量子化学
- ⑥水にまつわる化学の話
- ⑦タンパク質とDNAの分子科学・分子進化
- ⑧生命と化学物質との関わり
- ⑨化粧品・食品・料理の化学
- ⑩最近の電池の話

- ①原子・分子・微視的粒子の世界の法則
 - ②産業に活用される機能分子
- 各項目を1、2週で行う。

●事前・事後学習の内容

各授業後に復習をし、内容を理解して身に付けておくこと。授業3回に1度小テストを実施し理解度を確認する。テストは決して難しくはないが復習をしっかりとっておかないと解けない問題になっている。

●評価方法

小テストと定期試験。
小テスト40：定期試験60で配点する。

●受講生へのコメント

小テストの再試験は行わない。

●教材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

[科目ナンバー : GE CEX 01 01]

掲載番号	科目名	基礎化学実験 I	単位数	3	授業形態	実験	担当教員	坂口 和彦 (理) 他
178	英語表記	Basic Chemistry Experiments I						

●科目の主題

身近の物質変化を基にした基礎の実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

●授業の到達目標

化学実験に必要な基本操作を習得する。化学反応や分析法の原理を理解し実践する。実験観察を行い、正確な記録をとる。実験結果について客観的な考察を行い、レポートにまとめる。

●授業内容・授業計画

- 1回 「ガイダンス」：実験内容の説明と安全指導
- 2～6回 陽イオンの定性分析実験：(1) 銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析と各イオンの確認(2) 沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等
- 7回 原子スペクトル分析実験：原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析
- 8～11回 有機化学実験：(1) 有機実験基本操作法(2) 純物質の単離・精製実験“アスピリン錠剤からアセチルサリチル酸の抽出”(3) 機能性物質の合成実験“メチルオレンジの合成”(4) 酢酸イソアミルの合成

12～14回 物理化学実験：(1)「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる(2) 酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する(3) 実験結果のまとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

●事前・事後学習の内容

実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験にのぞむこと。分からないことは、積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。補講に相当する追加実験は提供しない。レポート提出を課している課題については、実験結果や考察をまとめたレポートを作成し、期日までに提出する。

●評価方法

実験後の口頭試問やレポートにより実験内容の理解度および実験結果の考察力を評価し、さらに、実験中の態度とともに総合的に評価する。毎回出席して実験することを前提とし、口頭試問やレポートの受理された時点で初めて評価が行われる。

●受講生へのコメント

高校化学基礎レベルの知識を必要とする。受講希望者が化学実験室の定員を越える場合は、選択科目として受講する者について抽選を行い、受講人数を制限する。各実験の開始時に指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに

参加し、毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯賠償責任保険、またはこれらと同等の災害補償が可能な保険に必ず加入していること。

[科目ナンバー : GE CEX 02 01]

掲載番号	科目名	基礎化学実験Ⅱ	単位数	3	授業形態	実験	担当教員	板崎 真澄（理）他
179	英語表記	Basic Chemistry Experiments II						

●科目の主題

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ねて組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいことも、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

●授業の到達目標

化学実験に必要な基本操作を習得する。化学反応や分析法、機器分析の原理を理解し実践する。実験観察を行い、正確な記録をとる。実験結果について客観的な考察を行い、レポートにまとめる。

●授業内容・授業計画

TII（化）クラス（担当 板崎真澄，館 祥光，塩見大輔 他）

第1回：「ガイダンス」：実験内容の説明と安全指導。

第2～4回：遷移金属錯体の合成とその性質・機器を用いた陰イオンの分離や定性分析。

第5～9回：芳香族化合物の合成とスペクトル解析・量子化学計算。

第10～11回：微粒子のブラウン運動の観察・拡散定数およびアボガドロ定数の決定。

第12～14回：DNA融解温度の測定と電気泳動・高速液体クロマトグラフィー等によるDNAの機器分析。

SII化クラス（担当 板崎真澄，館 祥光，迫田憲治 他）

第1回：「ガイダンス」：実験内容の説明と安全指導。

第2～6回：「有機化学」：次の課題1～3を実施する。1. 有機化学実験法 2. p-ニトロアニリンの合成 3. 得られた化合物のスペクトル測定と解析。4. 面接，質疑応答

第7～8回：「無機化学」：1. 赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2. 遷移金属錯体の合成と配位子置換反応

第9～14回：「物理化学」：以下をテーマとする実験

を実施する。初回にレポート作成，国際単位系，測定誤差と有効数字，天秤の扱いについて解説する。1. 吸収スペクトル 2. 分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 3. 窒素レーザーによる発光寿命の測定 4. 吸着平衡 5. 核磁気共鳴

●事前・事後学習の内容

実験の内容は予習（必須）しておき，操作の意味を十分理解して実験にのぞむこと。分からないことは，積極的に担当者に質問し，あいまいな理解のままにしておかないこと。補講に相当する追加実験は提供しない。レポート提出を課している課題については，実験結果や考察をまとめたレポートを作成し，期日までに提出する。

●評価方法

実験後の口頭試問やレポートにより実験内容の理解度および実験結果の考察力を評価し，さらに，実験中の態度とともに総合的に評価する。毎回出席して実験することを原則とし，口頭試問を行う。レポートの受理をもって，評価が行われる。

●受講生へのコメント

基礎化学実験Iを履修した学生に対して提供される基礎科目である。また，基礎教育科目の「基礎有機化学I，II」，「基礎無機化学」，「基礎物理化学A，B」を履修していることが望ましい。受講人数を制限することがある（必修を除く）。各実験の開始時に指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。履修希望者は必ず初回のガイダンスに出席し，かつ毒物および劇物の取り扱いに関する誓約書を提出すること。学生教育研究災害障害保険（学研災）および付帯賠償責任保険，またはこれらと同等の災害補償が可能な保険に必ず加入していること。実験内容は一部変更する場合がある。

●教材

『基礎化学実験 改訂2版』（大阪市立大学大学院理学研究科・基礎教育化学実験グループ編，2014，ふくろう出版）

[科目ナンバー : GE CEX 02 02]

掲載番号	科目名	化学実験	単位数	2	授業 形態	実験	担当教員	古澤 直人 (生) 他
180	英語表記	Exercise in Analytical Chemistry						

●科目の主題

基礎化学実験 I を履修した食品栄養科学科 2 年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深めるとともに、3 年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

●授業の到達目標

分析化学を理解するための化学的知識・操作技術を養うとともに、レポート作成力をしっかり身に着ける。

●授業内容・授業計画

1) 精密機器 - HPLC の実際 (古澤・生活科学): 分析化学分野で汎用されている HPLC の原理とその有用性を知ることが目的に、HPLC を用いて食品中に残留する数種抗菌性物質の定量を行う。分析対象は sulfamonomethoxine および sulfadimethoxine とし、試料の前処理は固相抽出 (SPE) 法により行う。

2) 分光光度計によるブロムフェノールブルーの pKa 決定 (金東浩・生活科学): ブロムフェノールブルー (BPB) は水素イオン濃度 (pH) の変化に伴い、変色する酸塩基指示薬である。本実験では、種々な pH の BPB 溶液の吸光度を測定し、BPB の解離平衡方程式を用いて BPB の酸解離定数 (pKa) を求めること

により、pH 滴定法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

3) 生化学 (市川直樹・生活科学): タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGE によるタンパク質の分離、コウシ胸腺からの DNA の抽出、DNA とタンパク質の紫外外部吸収曲線の比較などを行う。

4) 食品の分析 (福村智恵・生活科学): 食品に含まれる色素成分の化学的性質について実験する。また、モール法による食品中の食塩含量の定量を行う。

5) まとめ: 考察ならびにレポートの解説・指導を行う。

●事前・事後学習の内容

事前: 各実験項目の目的・原理を理解しておく。

事後: 各自の結果を十分に考察し、レポートにまとめる。

●評価方法

レポート。

●受講生へのコメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

●教材

実験テーマごとに教科書を配布する。

[科目ナンバー : GE BIO 01 01]

掲載番号	科目名	生物学概論 A	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	幸田 正典 (理) 他 伊東 明 (理) 他
181	英語表記	General Biology A						

●科目の主題

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層 (レベル) を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかについて学ぶ。

●授業の到達目標

生命の歴史と進化の理論の基本、及び、生態学の基本概念を理解できる。それらの理論と概念に基づいて、生物の多様性とその保全について議論できる。

●授業内容・授業計画

授業の前半 [7 回] (名波・伊東) では、『生態系』のしくみ (構造) と働き (機能) を理解するために必要

となる、生態学の基本概念を学習する。生態学の概要を説明した後、生態系の構成要素である、個体、個体群、群集の構造と機能について具体例を紹介しながら解説する。また、生態系における物質の循環とエネルギーの流れについても学ぶ。さらに、生物多様性がどのように創造され、どう維持されているのかについて、進化的な見方にも触れながら解説する。

授業の後半 [7 回] (幸田・安房田) では、行動生態学の視点から、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学び、生物進化と関連づけ系統分類学の基礎的考え方についても伝える。

最後に全体のまとめを行う [1 回]。

●事前・事後学習の内容

授業で配布するプリント等を使って授業内容を毎回

復習すること。また、授業中に紹介する参考図書、及び、学術的な情報（論文、ホームページ、動画、等）から、各回の授業内容に関連するもので自分の興味のあるものを選んで学習し、理解の幅を広げること。

●評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

●受講生へのコメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スラ

イドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

●教材

参考書（前半）：日本生態学会編『森林生態学』（共立出版）、その他、講義時に各項目ごとに参考書を紹介する。（後半）：クレブス・デービス著『行動生態学』（蒼樹書房）、ドーキンス著『利己的な遺伝子』（紀伊国屋書店）

[科目ナンバー : GE BIO 01 02]

掲載番号	科目名	生物学概論 B	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	藤田 憲一（理）他
182	英語表記	General Biology B						

●科目の主題

生物は、外部環境から隔てられた体内に独自の環境を作り出して、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また生物は、単細胞から多細胞まで多彩な形態的構造を持つ存在である。これらの生物学的な特徴について概説する。

●授業の到達目標

内部環境を作り出す源となっている生体膜の役割・機能や、生体内で行っている代謝について理解する。また組織の微細構造、器官の配置、さらには全体の形態へと、生物のからだをさまざまなスケールから俯瞰的に理解する。

●授業内容・授業計画

前半（藤田 憲一（理））

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで生体内で活躍する基本的な低分子が相互変換する代謝について触れる。さらに生体膜を挟んだ低分子の輸送や環境シグナルの受容についても具体例を挙げながら紹介する。

- 第1回 生体膜の役割
- 第2回 生体分子の概説
- 第3回 エネルギー獲得系の代謝
- 第4回 生体膜の内外での物質輸送
- 第5回 膜蛋白質の構造と機能
- 第6回 環境シグナルの受容体
- 第7回 膜タンパク質の具体例

後半（水野 寿朗（理））

多細胞生物の体のなりたちと形づくりについて議論する。主に動物を対象とし、その形態学的特徴を細胞、

組織、器官、解剖学的構造のスケールに整理する。またこれらの構造が作り上げられる過程や主な機能も概観する。

- 第8回 動物形態学の歴史
- 第9回 動物の一般的な体制
- 第10回 体の外層に分布する諸器官
- 第11回 体の内層に分布する諸器官
- 第12回 体の中層に分布する諸器官
- 第13回 動物の組織系
- 第14回 動物の生殖系と発生
- 第15回 授業の総まとめ

●事前・事後学習の内容

講義の前日までに、資料をウェブサイトよりダウンロード・印刷して講義内容について予習し、授業に臨むこと。授業の終わりに前回の講義内容の範囲から小テストを実施し、理解度を確認する（藤田）。プリントを毎回配布する。日常的に聞き慣れない名称や用語を多面的に理解するために、参考書や辞書を活用し復習を中心に行うこと（水野）。

●評価方法

前半5割、後半5割の配点で総合評価する。評価方法は定期試験を中心として、小テストやレポートを加味する。

●受講生へのコメント

高校で「生物」を履修していない者には十分な予習を勧める。

●教材

配付資料およびウェブサイトからダウンロードしたもの。

[科目ナンバー : GE BIO 02 01]

掲載番号	科目名	生物学概論C	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	後藤 慎介 (理) 他
183	英語表記	General Biology C						

●科目の主題

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

●授業の到達目標

環境からの物質とエネルギーの取り出し、アミノ酸やスクレオチドといった細胞の構築単位の合成、構築単位からのタンパク質や核酸の組み立てなど、生物が自身を維持するために行う代謝とその調節機構についての基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える(後藤担当)。続いて、生体構成上の高分子物質(生体高分子)、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する(寺北明久[理]担当)。

(1) 摂食と消化、(2) 栄養、(3) 栄養要求と化学防衛、(4) 代謝速度とエネルギー、(5) 潜水に関する問題、(6) 代謝速度と体サイズ、(7) 移動のエ

ネルギーと生理学的な時間、(8) DNAの生合成、(9) RNAの生合成1、(10) RNAの生合成2、(11) タンパク質の生合成1、(12) タンパク質の生合成2、(13) タンパク質の品質管理、(14) 遺伝子発現の調整、(15) 期末試験と解説

●事前・事後学習の内容

配布したプリントに事前に目を通し、授業に臨むこと。また、事後には各自講義の要点をまとめるなど、次の授業の準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート・試験

●受講生へのコメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

●教材

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書として、クヌート・シュミット=ニールセン著『動物生理学 [原書第5版] 環境への適応』(東京大学出版会)(後藤担当分)、ブルース・アルバーツ他著『Essential細胞生物学(原書第4版)』(南江堂)(寺北担当分)を勧める。

[科目ナンバー : GE BIO 02 02]

掲載番号	科目名	生物学概論D	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	中村 太郎 (理)
184	英語表記	General Biology D						

●科目の主題

DNAを扱う研究・技術の大きな進展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。また、遺伝子組換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子の研究を元にした技術は、私たちの生活に欠かせないものとなっている。本授業では、生命現象を分子(とくにDNA、RNA)レベルで明らかにする学問、分子生物学の基礎を学ぶ。

●授業の到達目標

本授業では、まず、遺伝子の構造と機能について学習する。次にそれに基づく応用例や最先端の研究を学ぶことで、分子生物学の基礎を身につけるとともに、統一的生命感を学習する。

●授業内容・授業計画

1. 遺伝子とは何か (I)：遺伝子の正体 DNA ～ 研究の歴史
2. 遺伝子とは何か (II)：DNAの構造
3. 遺伝子とは何か (III)：RNAとは
4. 遺伝子とは何か (IV)：転写
5. 遺伝子とは何か (V)：RNAの加工
6. 遺伝子とは何か (VI)：tRNA、リボソーム
7. 遺伝子とは何か (VII)：翻訳
8. 遺伝子とは何か (VIII)：DNA複製
9. 遺伝子とは何か (IX)：タンパク質をいづれくらい作るかを定めるメカニズム(原核生物)
10. 遺伝子とは何か (X)：タンパク質をいづれくらい作るかを定めるメカニズム(真核生物)

11. ウイルス (I)：遺伝子のしくみを理解することによりウイルスを学ぶ。ウイルスを理解することにより、遺伝子のしくみを学ぶ。
12. ウイルス (II)：インフルエンザウイルス、HIVなどのウイルスの感染を遺伝子の視点から解説する。
13. 遺伝子工学入門：インスリンなどのタンパク質製剤についてその生産原理と方法を説明する。
14. 遺伝子解析の手法：PCRなど遺伝子解析に関するいくつかの方法を紹介する。
15. 期末試験と解説

●事前・事後学習の内容

講義の始めに前回の講義内容に関するミニテストを行うので、復習をきちんとしておくこと。

●評価方法

試験 (50点) と講義中に課すミニテスト (50点)

●受講生へのコメント

高校で生物を履修していない人にも理解できるように配慮する。

●教材

参考書としてアルバーツ他「Essential細胞生物学」第4版 南江堂を薦める。

[科目ナンバー : GE BIO 01 03]

掲載番号	科目名	生物学概論 I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	幸田 正典 (理) 他
185	英語表記	An Introduction to Biology I						

●科目の主題

ヒトを含め、動物たちは地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、さまざまな動物の生理、形態、行動について学習する

●授業の到達目標

さまざまな動物の生理、形態、行動に関する基礎的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

ヒトを含めたさまざまな動物の実例を提示しながら授業を進める。

- (1) 生理的調節機構の例として、さまざまな動物の呼吸、エネルギー代謝、体温調節機構について概説する【後藤慎介 (理) 担当：講義回数7回】。
- (2) 進化生物学、進化心理学や行動生態学的視点からヒトを含めた動物の行動を概説する。動物行動の研究手法、自然淘汰による生物進化、動物の雄と雌、動物の認知行動、ヒトの進化

について説明する【幸田正典 (理) 担当：講義回数8回】。

●事前・事後学習の内容

教科書および配布したプリントに事前に目を通し、授業に臨むこと。また、事後には各自講義の要点をまとめるなど、次の授業の準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

定期試験

●受講生へのコメント

授業内容 (1) では以下の教科書を使用する。初回授業までに入手しておくこと。授業内容 (2) では印刷物を資料として配布する。必要に応じてスライド、ビデオを見せる。

●教材

授業内容 (1) の教科書：クヌート・シュミット＝ニールセン「動物生理学－環境への適応」(東京大学出版会) 1章, 5章, 7章。

[科目ナンバー : GE BIO 01 04]

掲載番号	科目名	生物学概論 II	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	宮田 真人 (理) 他
186	英語表記	An Introduction to Biology II						

●科目の主題

医科学の習得に必要な生物学の基礎知識を習得する。

●授業の到達目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報がどの

ように発現するかを理解するためには、分子から個体にいたる多様な生命現象を理解する素養が求められる。本講義では、(I) 遺伝子がどの様に維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(II) 多細胞動物の発生過程に注目し、

組織・器官・形態を構築する仕組みを筋組織の形成を例に分子レベルで説明する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

●授業内容・授業計画

- (I) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製、(宮田 真人 (理))
- (II) 1. 細胞分化と遺伝子発現、2. 筋肉の分化と転写制御、3. 誘導と筋肉の分化、4. 組織における幹細胞について、5. 再生医学序論、(小宮 透 (理))

●事前・事後学習の内容

- (I) 小テストには十分な準備をして臨むこと。
- (II) あらかじめ資料を配布するので、事前に目を通

し予習を行う。授業中に提起された項目について各自調べて理解を深める。

●評価方法

小テスト、出席点、受講態度、定期試験を総合して評価する。

●受講生へのコメント

本科目で解説する“生命科学の基礎”が現代医学の基礎でもあること、本科目が必修であること、再試験は行わないことなど、を認識して受講に臨むこと。いかなる不正行為にも厳罰をもって対処する。

●教材

アルバート他「細胞の分子生物学」第五版、(ニュートンプレス)
 ギルバート「発生物学」第10版、(メディカルサイエンス・インターナショナル)

[科目ナンバー : GE BIO 01 05]

掲載番号 187	科目名	生物学概論Ⅲ	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	福永 昭廣 (非常勤)
	英語表記	An Introduction to Biology Ⅲ						

●科目の主題

生命現象を理解するために必要な細胞生物学的基礎知識を得る。

●授業の到達目標

生体物質、細胞の構造、細胞内小器官の機能、細胞分裂、生体膜のはたらきなど、細胞生物学的な基本事項について理解する。

●授業内容・授業計画

教科書に基づいた講義を主として行うが、必要に応じてプリント教材を配布して使用する。

- 1. 生物学の基本 (生物の多様性と共通性、遺伝と階層性) (1回)
- 2. 生体を構成する物質 (タンパク質、糖質、脂質) (3回)
- 3. 細胞の構造 (1回)
- 4. 細胞内小器官の機能 (2回)
- 5. 細胞の分裂 (体細胞分裂と減数分裂) (1回)
- 6. 生体膜と物質の出入り (2回)
- 7. 細胞内輸送と細胞内消化 (2回)

- 8. 細胞骨格と細胞結合 (2回)
- 9. 講義全体のまとめ (1回)

●事前・事後学習の内容

各講義の最後に次回行う講義の教科書範囲を伝えるので、事前に該当部分の内容を確認して受講すること。

●評価方法

定期試験の成績により評価する。

●受講生へのコメント

教科書や参考書 (本学の図書館で所蔵) を活用して積極的に学んでください。

●教材

教科書として和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」(羊土社)を使用する。必要に応じて適宜、プリント教材を配布する。

参考書: 東京大学生命科学教科書編集委員会編「理系総合のための生命科学」(羊土社)、

アルバート他「細胞の分子生物学」(Newton Press)、室伏きみ子、小林哲幸共著「やさしい細胞の科学」(オーム社)、佐々木史江他著「人の生命科学」(医歯薬出版)

[科目ナンバー : GE BEX 01 01]

掲載番号	科目名	生物学実験 A	単位数	2	授業形態	実験	担当教員	水野 寿朗 (理) 他
188	英語表記	Biological Laboratory A						

●科目の主題

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

●授業の到達目標

1. 実験テーマの目的と手順を理解し、自らの記録に基づき結果の分析や考察を行う。
2. 生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得する。
3. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
2. 体内時計の観察
3. 細胞分裂と染色体の観察
4. 植物の成長
5. 植物からの核酸の抽出
6. 植物の分枝パターンと葉群配置の観察 (2回)
7. 植物に由来する色素の分析
8. 植物園で学ぶ樹木の多様性
9. 花粉の形態と花粉管発芽の観察
10. ニワトリの胚発生の観察
11. アフリカツメガエルの卵と胚発生
12. 酵素活性の測定 (他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用、

および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など) (2回)

13. 実習器具のメンテナンス

(実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある)

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定の教科書に目を通し、各実験テーマの基礎的な知識について予習をすること。

事後学習：返却レポートの評価やコメントを参考にすること。

●評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する (必修を除く)。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回の授業に出席すること。

実習開始日までに、実験中の事故を補償できる保険に加入しておくこと。

●教材

教科書を使用する。履修登録の完了している者は初回から持参すること。

『生物学実験への招待 Aコース』(大阪公立大学共同出版会)

[科目ナンバー : GE BEX 01 02]

掲載番号	科目名	生物学実験 B	単位数	2	授業形態	実験	担当教員	水野 寿朗 (理) 他
189	英語表記	Biological Laboratory B						

●科目の主題

理数工系の学生に期待される幅広い生物学の素養を身につけるための実験科目である。

●授業の到達目標

1. 実験テーマの目的と手順を理解し、自らの記録に基づき結果の分析や考察を行う。
2. 生物学の研究に特有の実験方法や観察技術を習得する。
3. 積極的にさまざまな生物材料に触れ、また野外での採集や観察に慣れる。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス

2. 昆虫の形態観察と同定、標本作製

3. ヒトとハエの甘味感度テスト

4. ゴウリムシを用いた細胞小器官の形態観察とその機能の解析

5. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画法など (2回)

6. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、および酵母のアルコール発酵能の測定など微生物の機能に関する解析 (2回)

7. PCR (遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作 (3回)

8. 生体高分子のin vitro, in silico検出（3回）

（実習材料等の都合により、内容・順序を変更することがある）

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定の教科書に目を通し、各実験テーマの基礎的な知識について予習をすること。

事後学習：返却レポートの評価やコメントを参考にすること。

●評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

●受講生へのコメント

受講希望者が多数の場合、人数を制限する（必修を

除く）。

修正登録で履修を希望する者は必ず初回の授業に出席すること。

実習開始日までに、実験中の事故を補償できる保険に加入しておくこと。

●教材

教科書を使用する。履修登録の完了している者は初回から持参すること。

『生物学実験への招待 Bコース』（大阪公立大学共同出版会）

[科目ナンバー : GE GEO 01 01]

掲載番号	科目名	一般地球学A-I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	升本 眞二（理） ・江崎 洋一（理）
190	英語表記	General Geosciences A-I						

●科目の主題

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったのかを主題とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上で起こる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

●授業の到達目標

- ・地球を解明するための視点（時間と空間）に関する基本的な理解
- ・地球の形（ジオイドや標高を含む）や大きさに関する理解
- ・地形図の作成方法（投影法を含む）や地表の観測（GNSSなど）に関する理解
- ・地球の物理的性質（重力・磁力・熱など）に関する基本的な理解
- ・放射年代測定法の基本原理と各測定法の原理や対象の理解
- ・地球史の復元方法や変遷過程に関する基礎的な理解
- ・プレートテクトニクスに関する基礎的事項（運動、境界など）の理解
- ・地震とその被害に関する基礎的事項（発生場所、断層、津波など）の理解

●授業内容・授業計画

1. 地球を解明するための視点（時間と空間のスケール）
2. 地球の形と地図（2回）
3. 地球表層部の形態（陸地と海洋の形

4. 地球の物理学的特性（重力・磁力・熱）

5. 岩石の年代（放射年代；2回）

6. 地層の年代（化石；2回）

7. 地球・生物の歴史と環境変遷（2回）

8. プレートテクトニクス（生成から消滅、運動学；3回）

9. 地震と活断層

（配布する資料に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。）

●事前・事後学習の内容

配布した資料の内容を、必ず事前に確認し、授業に臨むこと。また、講義終了後に講義やレポートの内容を一通り復習すること。

●評価方法

演習・小テスト・レポートによる平常点（40%）と期末試験の成績（60%）で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。電卓を持参のこと。なお、地球学科の必修科目である。

●教材

講義に関係するすべての資料をまとめたものを授業の第1回目に配布するので、毎回持参すること。教科書は使用しない。

参考書：『地球生物学』（池谷仙之・北里 洋著、東京大学出版会、2004）、『地球学へのいざない』（OMUPユニヴァ編集部編、大阪公立大学出版会、2003）、『地球学入門』（酒井治孝著、東海大学出版会、2003）、『生命と地球の歴史』（丸山茂徳・磯崎行雄著、岩波新書、1998）、『地質学1』（平 朝彦著、岩波書店、2001）など。

[科目ナンバー : GE GEO 01 02]

掲載番号	科目名	一般地球学A-II	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	篠田 圭司 (理) 他
191	英語表記	General Geosciences A-II						

●科目の主題

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にともない状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間の経過の観点から地球を定量的に理解するために、基本的な法則をもとにして、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

●授業の到達目標

1. 万有引力の法則から地球や太陽の質量、太陽までの距離を定量的に求めることができること。
2. 波の屈折の法則などから地球内部構造・組成を定量的に求めることができること。
3. 太陽定数、熱放射の式から地球の平均気温、温室効果を定量的に求めることができること。
4. 放射性同位元素の崩壊の法則などから、地球の形成年代を定量的に求めることができること。
5. 火成作用変成作用による造岩鉱物の状態変化を、温度圧力による物質変化として理解できること。

●授業内容・授業計画

授業テーマとキーワード

- 第1回：力と運動、地球の質量、太陽の質量などの求め方（万有引力の法則、ケプラーの法則）
 第2回：地球の内部構造（地震波、波の屈折の法則（スネルの法則））
 第3回：地球を構成する物質（コンドライト隕石、核、マントル）
 第4回：岩石と鉱物（球の最密充填、面心立方格子）
 第5回：大気の運動（転向力）
 第6回：地球環境と水（水の化学的特徴）
 第7回：大気の温室効果1（プランクの熱放射の式、温室効果ガス）

第8回：大気の温室効果2（太陽定数）

第9回：元素と同位体（放射性同位体、半減期）

第10回：年代測定法1（放射性同位体を用いた年代測定、14C）

第11回：年代測定法2（放射性同位体を用いた年代測定、アイソクロン）

第12回：安定同位体地球化学（安定同位体）

第13回：地球の活動（火成作用と変成作用、鉱物の相変化）

第14回：地球物質の状態変化（相図、エネルギーとエントロピー）

第15回：試験

●事前・事後学習の内容

授業前に、次回の講義に関する本シラバスのキーワードについて事前に概略を確認し、授業に臨むこと。また、授業後に授業内容に関する問題を課すので、次回の授業までに解答し提出すること。

●評価方法

主として期末試験により評価する。

●受講生へのコメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の物理・化学・数学の基礎的な知識を前提とする。毎回授業内容に関して理解を深めるために、基本的な計算問題を課すので、計算機を持参すること。地球学科の必修科目である。

●教材

（参考書）

地球学入門（酒井治孝、東海大学出版）

基礎地球科学（西村祐二郎他、朝倉書店）

図説地球科学（岩波書店）

授業内容に関連した印刷物を配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 03]

掲載番号	科目名	一般地球学B-I	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	井上 淳 (理) 他
192	英語表記	General Geosciences B-I						

●科目の主題

現在、私達が持っている地球像や地球の歴史に関する知識や概念は太古からあったものではない。この授業では、現在考えられている地球システムや地球の歴

史がどのような実験や観察にもとづいているか、地球像や地球史に対しての考え方が古代から現代にかけてどのように変化してきたのかなど、地球科学についての基礎的な事項を地球科学の発展過程と共に解説する。

●授業の到達目標

1. 地球システムの基本的な事項を理解する。
2. 現在私達が持っている地球像がどのような観察事象に基づき、どのようにして得られているかを理解する。
3. 太古から現在までの時代を通して、地球像や地球の歴史に対する考え方がどのように変化してきたかを理解する。
4. 現在という時代が、地球の歴史の中でどのように位置づけられるかを理解する。

●授業内容・授業計画

1. 自然科学と地球科学：自然科学の考え方や地球科学
2. 地球について（2回）：地球の形・大きさ・質量・密度
3. 地質学の始まりと岩石の種類と成因
4. 堆積物と層序
5. 地球史と古生物（2回）：地球環境の変遷と生物進化
6. 大気と気候（2回）：大気循環と気候分布
7. 第四紀の自然環境史（2回）：氷期と間氷期、気候変動に伴う自然環境変遷

8. 人類の進化（2回）：人類の発生と進化、日本列島の人類史
9. 地形の形成（2回）：気候変動に伴った地形の形成

●事前・事後学習の内容

行うべき予習や調べておくトピックや内容について授業内で指示するので、事前に学習すること。複数の回にまたがって、授業内容が関連することがあるので、授業後、次の授業までに十分に復習をしておくこと。

●評価方法

原則、期末試験の成績（80%）と最終レポートの内容（20%）で評価する。これに授業内でのミニレポートの内容などを加味して最終的な成績とする。詳しくはガイダンスで説明する。

●受講生へのコメント

主に高等学校で地学を履修したことのない学生を対象として授業を行う。私語や携帯電話の使用など授業態度の悪い学生は、大きく減点するので注意すること。

●教材

指定しない。毎回の授業でプリントを配布する。

[科目ナンバー : GE GEO 01 04]

掲載番号	科目名	一般地球学B-II	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	柵山 徹也（理）他
193	英語表記	General Geosciences B-II						

●科目の主題

地球で観測される様々な変動現象に関する基本的な観測事実と解釈を学ぶことによって、主に固体地球の誕生・進化プロセスや、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象の基本的なメカニズムを理解することを目標とする。

●授業の到達目標

- ・地球の持っている大スケールの特徴（勢力圏、地形、内部構造）に関する理解
- ・観測される変動現象（地殻変動、地震や断層運動、火山活動）の特徴とそれらの成因に関する理解
- ・プレートテクトニクス論とその成立過程の理解
- ・地球史を理解する上で重要な岩石の種類とそれらの形成過程の理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている地球の進化に関する理解
- ・過去の地層・岩石から推定されている日本列島の形成史に関する理解

●授業内容・授業計画

1. 地球圏の拡がり
2. 固体地球の構成物質1：太陽・地球の化学組成

3. 固体地球の構成物質2：地球の構成物質
4. 固体地球の内部構造
5. 地球の形成と分化
6. プレートテクトニクス1：地球の変動現象とプレート運動
7. プレートテクトニクス2：プレートテクトニクス論の成立と歴史
8. 火山とマグマ1：マグマの生成から噴火にいたる過程
9. 火山とマグマ2：噴火タイプと火山災害
10. 地震と断層運動1：
11. 地震と断層運動2：
12. 固体地球圏の物質循環
13. 日本列島の形成史
14. 地球と生命の共進化1：化石と地質年代
15. 地球と生命の共進化2：生命史の7大事件

●事前・事後学習の内容

学習内容を理解し、身に着けるために、事前に参考書で該当項目を予習してから授業に臨み、授業後に改めて参考書を読みながら復習を行うことが望ましい。

●評価方法

各項目に対する講義内容の理解をまとめたレポート(30%)と期末試験の成績(70%)で評価する。

●受講生へのコメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等

学校の物理、化学、数学の基礎を理解しておくこと。

●教材

参考書：「ニューステージ新地学図表」(浜島書店)、「地球学入門」(東海大学出版部)、「地質学1地球のダイナミクス」(岩波書店)

[科目ナンバー : GE GEO 01 05]

掲載番号	科目名	建設地学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	奥平 敬元(理)他
194	英語表記	Geology for Engineers						

●科目の主題

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

●授業の到達目標

建設、環境、防災などの工学分野に関連する地質学・地球科学の基礎知識を習得する。

●授業内容・授業計画

1. 代表的な造岩鉱物の紹介と観察
2. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
3. 地震と地震波
4. 地層を読む：地層に記録された過去の地球環境、環境変遷、環境変動リズム
5. 地球の歴史：地球の成り立ちと生き立ち、地球史の研究手法
6. 堆積岩の性質と分類
7. 都市の地盤構造と災害：平野の地層構成・地盤沈下・地震時の地盤挙動
8. 第四紀堆積盆地と平野・丘陵・山地の地形発達

9. 火山噴火過程と火山噴出物の種類

10. GISの基礎：GISの基礎概念、GISによる地球情報の処理

11. リモートセンシングの基礎と応用

12. 都市地盤の人工改変と防災

13. 大阪の水資源とその管理

14. 粒状土層と地下水流動

15. 総合討論

●事前・事後学習の内容

事前に各回の内容に関連する書籍や資料を通読しておくこと。授業後は、各回の内容を十分に復習すること。

●評価方法

地球に関する基礎概念(地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止)に対する理解の程度を定期試験の成績(50%)と小テスト・レポートの成績(50%)で評価する。

●受講生へのコメント

「建設地学実験」と連動した講義を行うので、なるべく同時に受講すること。

●教材

資料を配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 03]

掲載番号	科目名	建設地学実験	単位数	2	授業形態	実験	担当教員	奥平 敬元(理)他
195	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercises for Engineers						

●科目の主題

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

●授業の到達目標

建設、環境、防災などの工学分野に関連する地質学・

地球科学の技術や手法の基礎を修得する。

●授業内容・授業計画

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 結晶によるX線回折とX線回折法による鉱物同定
2. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法

3. 地震波データの特徴の読み取り、震源の決定・地殻の厚さの推定
4. 水流作用と波浪作用による礫の形状の違い
5. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷
6. 砂岩組成からの供給源の推定
7. 地盤特性に関わる砂・粘土の簡易実験及び地盤データベースで見る平野域の地盤特性
8. 様々な地質図法と地質構造の理解
9. 火山地質図の読み方・火山噴出物の観察
10. GISによる地球情報の処理と可視化
11. リモートセンシングの基本処理と環境指標の抽出
12. 大都市（東京・大阪）の自然災害リスク地形の判読
13. 都市の水環境-大和川の水質汚濁

14. 粒状土層の鉛直透水実験と二次元地下水流動のデータ解析
15. 総合討論

●事前・事後学習の内容

各回の実習内容について事前にテキストをよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●受講生へのコメント

一部「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、必ず同時に受講すること。

●教材

テキストと資料を配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 01]

掲載番号	科目名	地球学実験 A	単位数	2	授業形態	実験	担当教員	山口 覚(理) 他
196	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercise A						

●科目の主題

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

●授業の到達目標

- ・地質学の基礎となる基本的な地質図の読み方・書き方を理解する。
- ・岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法を理解する。
- ・堆積岩の構成と分類を理解する。
- ・空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現方法を理解する。
- ・地球の大きさ、緯度・経度および地磁気偏角を総合的に理解する。
- ・パソコンを用いたデータの集計や解析と標準誤差の取り扱いを理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1・2回 地質図の描き方と読み方
- 第3・4回 岩石の構成鉱物と内部構造、岩石の分類および命名法
- 第5・6回 火山灰や砂岩の構成鉱物の抽出と観察

- 第7・8回 堆積岩の構成と分類：礫の形状・水流による砂床形
- 第9・10回 地形の解析と可視化：空中写真判読、GISによる地形解析・各種表現
- 第11・12回 緯度・経度、地球の大きさおよび地球の磁場
- 第13・14回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理
- 第15回 レポート

●事前・事後学習の内容

各回の実習内容について事前にテキストをよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●受講生へのコメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学A-I・II」もしくは「一般地球学B-I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●教材

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GEX 01 02]

掲載番号	科目名	地球学実験B	単位数	2	授業 形態	実験	担当教員	益田 晴恵 (理) 他
197	英語表記	Geosciences, Laboratory Exercise B						

●科目の主題

地球の大部分は、我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、広範な知識や専門的な技術を用いることで、ある程度の精度をもってその概要を知ることができる。本実験では、こうした知識や技術の基本的な事項について、実験および演習を通して幅広く習熟する。

●授業の到達目標

- ・GISによる地球情報の処理や地形解析について理解する。
- ・空中写真などを用いて、地形図の読み方を理解した上で、活断層の調査法を理解する。
- ・粉末X線回折による鉱物同定法を理解する。
- ・地質時代における生物変遷と絶滅生物の形態と機能について理解する。
- ・河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応について理解する。
- ・マグマの噴火機構と噴火様式を理解する。

●授業内容・授業計画

- 第1・2回 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真による地形判読と災害
- 第3・4回 ボーリングデータベースを用いた大阪平野の地層分布と帯水層の評価
- 第5・6回 透水・ボーリング・流動化実験と変動

水圧伝播実験

- 第7・8回 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物同定
- 第9・10回 地球史における生物変遷と化石記録
- 第11・12回 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応
- 第13・14回 マグマと火山活動：マグマ分化機構と噴火様式
- 第15回 レポート

●事前・事後学習の内容

各回の実習内容について事前にテキストをよく読んでおくこと。授業内で行った実習内容について、授業後レポートなどを提出すること。

●評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

●受講生へのコメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学A-I・II」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。授業内容の順番を入れ替えることがある。関数電卓を用意すること。

●教材

テキストを配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 01]

掲載番号	科目名	図形科学I	単位数	2	授業 形態	講義 演習	担当教員	瀧澤 重志 (工)
198	英語表記	Graphic Science I						

●科目の主題

図形科学Iは、図法幾何学を基礎とする作図法を、実際に手を動かしながら学ぶ科目である。加えて、様々な形やそれらを分類する概念があることも学ぶ。

●授業の到達目標

各種投影法の内容を理解し、2次元の図面から3次元の立体構成やその逆がイメージできるようになり、実際にそれらの概念を用いて作図できるようになること。加えて、様々な立体図形を特徴づける幾何学的な性質について理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス

- 第2週 基礎作図
- 第3週 投影法の概要と正投影
- 第4週 軸測投影
- 第5週 透視投影：直接法1
- 第6週 透視投影：直接法2
- 第7週 透視投影：消点法1
- 第8週 透視投影：消点法2
- 第9週 透視投影：距離点法
- 第10週 透視投影：簡易焦点法
- 第11週 立体図形
- 第12週 図形の演算：切断
- 第13週 図形の演算：展開

第14週 図形の演算：陰影

第15週 学期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習では、教科書の内容でわからない点を調べておくことが望ましい。事後学習は、毎回出される演習課題を行うことである。

●評価方法

提出課題(45%)、及び学期末試験の結果(55%)により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●受講生へのコメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規(透明30cm程度)、三角定規(24cm程度)、製図用コンパスなどの作図用具が必要となる。詳細は初回の授業のガイダンスの際に説明する。

●教材

「図形科学Ⅰ」(大阪市立大学生協で販売)を使用予定。演習課題は授業の都度に配布する。

[科目ナンバー : GE GRA 01 02]

掲載番号	科目名	図形科学Ⅱ	単位数	2	授業形態	講義 演習	担当教員	瀧澤 重志(工)
199	英語表記	Graphic Science II						

●科目の主題

図形科学Ⅱでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス(Blender)の講義・演習を行う。

●授業の到達目標

図形科学Ⅰでの作図は線画によるものが中心であったが、図形科学Ⅱでは、モデリング、マテリアル、レンダリング、アニメーションなどのCGの基礎を学ぶとともに、プログラミングにより、手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている。

●授業内容・授業計画

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 Blenderの概要
- 第3週 モデリング1
- 第4週 モデリング2
- 第5週 ライティング, カメラワーク, ワールド設定
- 第6週 マテリアル, テクスチャ
- 第7週 レンダリング
- 第8週 アニメーション
- 第9週 シミュレーション
- 第10週 BlenderのためのPython入門
- 第11週 Blender + Python 1
- 第12週 Blender + Python 2

第13週 Blender + Python 3

第14週 実技試験

第15週 最終課題の提出・講評

●事前・事後学習の内容

事前学習として、各講義に関連するBlenderのWeb教材等を眺めておくことが望ましい。事後学習は、毎回の出題される演習課題を完成させることである。

●評価方法

各回の提出課題(35%)、実技試験の結果(35%)、及び最終課題の提出作品(30%)により評価を行う。なお、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

●受講生へのコメント

手描きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学Ⅰを事前に履修しておくことが望ましい。授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となることが多い。このため、履修学生自身が所有するコンピューターや学術情報センターの端末を利用する必要がある。また、インターネットメールやUSBメモリなども必要になる。

●教材

教科書や参考書はガイダンス時に指示する。なお、過去の授業の提出作品は、次のURLのホームページに掲載されている。

http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/?page_id=1092

4. 外国語科目

- シラバス
英 語
- 新修外国語履修の仕方について
- 新修外国語クラス分け表
- シラバス
ド イ ツ 語
フ ラ ン ス 語
中 国 語
ロ シ ア 語
朝 鮮 語
日 本 語

英語 English

(平成19年度以降入学者用)

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに25名程の少人数・習熟度別クラス編成で、必修科目のCollege English(CE)が、1年生で4時間、2年生で2時間の合計6時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ1時間ずつ、合計週2時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して1.5倍に増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。

さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目のAdvanced College English(ACE)を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目		選択科目	
		月曜	水曜
1年	前期	CE I	CE II
	後期	CE III	CE IV
2年	前期	CE V ※2	
	後期	CE VI ※1・2	

※1. ただし、医学部医学科は2年前期に開講する。

※2. ただし、医学部看護科は開講しない。

○単位数：各科目とも1単位。

○クラス指定制（共通テスト等の成績による）である。クラス分けは学期当初又はそれまでに全学ポータル等に掲示する。

○College English I～VIのいずれかの成績が「F(E)」(不合格)又は「欠」であった者は、その科目については「再度履修者向けクラス」で履修しなければならない。

クラス分け表

CE I～CEIV

	CL I	EJ I	SMH I	TN I
Advanced	a	a	a	a
Upper Intermediate	b～e	b～e	b～e	b～e
Intermediate	f～j	f～j	f～j	f～j
Lower Intermediate	j～n	j～n	j～n	j～l
Elementary	o	o	o	m

CEV～CEVI

	C II	E II	J II	L II	S II	T II	H II	M II
Advanced	a～b	a～b	a～b	a～b	a～b	a～c	a	a～c
Intermediate	c～e	c～e	c～e	c～e	c～e	d～g	b～c	
Elementary	f～h	f～h	f～g	f～g	f～g	h～k	d～e	

履修科目内容

< 1年 >

[科目ナンバー : GE ENG 01 01]

掲載番号	科目名	College English I (CE I)	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
200	英語表記	College English I (CE I)						

●科目の主題

授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを口頭で表現する力を養う。

●授業の到達目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリスニング・スピーキング能力の向上を目的とした課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、60:40とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リスニングとスピーキングが中心である。音声英語をすばやく理解する力と時間をかけても適切に表現する力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	Richards	TN I a	月・3	(Chen)
CL I b	月・1	(Sievert)	TN I b	月・3	(Jacobs)
CL I c	月・1	(Quinn)	TN I c	月・3	(Dalby)
CL I d	月・1	(Thorson)	TN I d	月・3	(Stepanczuk)
CL I e	月・1	[Leigh]	TN I e	月・3	(Vaughan)
CL I f	月・1	(Fenstermaker)	TN I f	月・3	[Mansfield]
CL I g	月・1	(McAvoy)	TN I g	月・3	(Sievert)
CL I h	月・1	野田	TN I h	月・3	(Feldman)
CL I i	月・1	(Dalby)	TN I i	月・3	(Jones)
CL I j	月・1	(Stepanczuk)	TN I j	月・3	(Thorson)
CL I k	月・1	(Feldman)	TN I k	月・3	(Quinn)
CL I l	月・1	(Vaughan)	TN I l	月・3	(McAvoy)
CL I m	月・1	豊田	TN I m	月・3	(Fenstermaker)
CL I n	月・1	山本	SMH I a	月・4	(McAvoy)
CL I o	月・1	(Chen)	SMH I b	月・4	[Leigh]
EJ I a	月・2	(Stepanczuk)	SMH I c	月・4	(Fenstermaker)
EJ I b	月・2	Richards	SMH I d	月・4	(Chen)
EJ I c	月・2	(Feldman)	SMH I e	月・4	(Jacobs)
EJ I d	月・2	(Sievert)	SMH I f	月・4	(Jones)
EJ I e	月・2	(Jones)	SMH I g	月・4	(Dalby)
EJ I f	月・2	(Quinn)	SMH I h	月・4	(Stepanczuk)
EJ I g	月・2	(Thorson)	SMH I i	月・4	[Mansfield]
EJ I h	月・2	[Leigh]	SMH I j	月・4	(Sievert)
EJ I i	月・2	(McAvoy)	SMH I k	月・4	(Feldman)
EJ I j	月・2	(Fenstermaker)	SMH I l	月・4	(Vaughan)
EJ I k	月・2	(Chen)	SMH I m	月・4	(Quinn)
EJ I l	月・2	(Dalby)	SMH I n	月・4	(Thorson)
EJ I m	月・2	(Jacobs)	SMH I o	月・4	[高森]
EJ I n	月・2	[Mansfield]			
EJ I o	月・2	(Vaughan)			

[科目ナンバー : GE ENG 01 02]

掲載番号	科目名	College English II (CE II)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
201	英語表記	College English II (CE II)						

●科目の主題

授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

●授業の到達目標

中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリーディング・ライティング能力の向上を目的とした課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リーディングとライティングが中心である。英文を正しく読み取る力と英語母語話者に通じる基本的な表現力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(多賀)	SMH I a	水・3	(Feldman)
EJ I b	水・1	(Selzer)	SMH I b	水・3	(Thorson)
EJ I c	水・1	[Leigh]	SMH I c	水・3	(Silva)
EJ I d	水・1	Richards	SMH I d	水・3	(多賀)
EJ I e	水・1	(Sievert)	SMH I e	水・3	(McAvoy)
EJ I f	水・1	(Micklas)	SMH I f	水・3	(Lau)
EJ I g	水・1	(Fenstermaker)	SMH I g	水・3	(Hudgens)
EJ I h	水・1	(Feldman)	SMH I h	水・3	(Jones)
EJ I i	水・1	(Thorson)	SMH I i	水・3	(Vaughan)
EJ I j	水・1	(Lau)	SMH I j	水・3	山本
EJ I k	水・1	(McAvoy)	SMH I k	水・3	(Sievert)

EJ I l	水・1	(Silva)	SMH I l	水・3	(Micklas)
EJ I m	水・1	(Vaughan)	SMH I m	水・3	(Fenstermaker)
EJ I n	水・1	高島	SMH I n	水・3	[高森]
EJ I o	水・1	(Hudgens)	SMH I o	水・3	(Selzer)
CL I a	水・2	(Thorson)	TN I a	水・4	(Vaughan)
CL I b	水・2	(Lau)	TN I b	水・4	(Sievert)
CL I c	水・2	(Silva)	TN I c	水・4	(Micklas)
CL I d	水・2	豊田	TN I d	水・4	(Silva)
CL I e	水・2	(McAvoy)	TN I e	水・4	(Fenstermaker)
CL I f	水・2	(多賀)	TN I f	水・4	(Feldman)
CL I g	水・2	(Hudgens)	TN I g	水・4	(Thorson)
CL I h	水・2	(Vaughan)	TN I h	水・4	(McAvoy)
CL I i	水・2	山本	TN I i	水・4	(Lau)
CL I j	水・2	(Selzer)	TN I j	水・4	(Selzer)
CL I k	水・2	(Micklas)	TN I k	水・4	(Hudgens)
CL I l	水・2	(Fenstermaker)	TN I l	水・4	(Jones)
CL I m	水・2	(Feldman)	TN I m	水・4	山崎
CL I n	水・2	(Jacobs)			
CL I o	水・2	[高森]			

[科目ナンバー : GE ENG 01 03]

掲載番号	科目名	College English III (CE III)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
202	英語表記	College English III (CE III)						

● 科目の主題

授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを口頭で適切に表現する力を養う。

● 授業の到達目標

前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

● 授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

● 事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリスニング・スピーキング能力の向上を目的とした課題(予習・復習)を具体的に指示する。

● 評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、60:40とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

● 受講生へのコメント

本科目は、リスニングとスピーキングが中心である。前期に習得した基本的な技能を踏まえ、要点を聞き取り、相手に自分の思いをうまく伝える力を身につけてほしい。

● 教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
CL I a	月・1	(Sievert)	TN I a	月・3	(Fenstermaker)
CL I b	月・1	(Quinn)	TN I b	月・3	(Dalby)
CL I c	月・1	(Thorson)	TN I c	月・3	(Chen)
CL I d	月・1	[Leigh]	TN I d	月・3	(Jacobs)
CL I e	月・1	(McAvoy)	TN I e	月・3	[Mansfield]
CL I f	月・1	(Fenstermaker)	TN I f	月・3	(Stepanczuk)
CL I g	月・1	(Chen)	TN I g	月・3	(Vaughan)
CL I h	月・1	(Dalby)	TN I h	月・3	(Sievert)
CL I i	月・1	(Stepanczuk)	TN I i	月・3	(Feldman)
CL I j	月・1	(Vaughan)	TN I j	月・3	(Quinn)
CL I k	月・1	山崎	TN I k	月・3	(Jones)
CL I l	月・1	山本	TN I l	月・3	(Thorson)
CL I m	月・1	野田	TN I m	月・3	(McAvoy)
CL I n	月・1	(Feldman)	SMH I a	月・4	(Thorson)
CL I o	月・1	Richards	SMH I b	月・4	[Leigh]
EJ I a	月・2	(Feldman)	SMH I c	月・4	(McAvoy)
EJ I b	月・2	野田	SMH I d	月・4	(Fenstermaker)
EJ I c	月・2	(Sievert)	SMH I e	月・4	(Dalby)
EJ I d	月・2	[Mansfield]	SMH I f	月・4	(Chen)
EJ I e	月・2	(Quinn)	SMH I g	月・4	(Jacobs)
EJ I f	月・2	(Thorson)	SMH I h	月・4	(Jones)
EJ I g	月・2	[Leigh]	SMH I i	月・4	[Mansfield]
EJ I h	月・2	(McAvoy)	SMH I j	月・4	(Stepanczuk)
EJ I i	月・2	(Chen)	SMH I k	月・4	(Feldman)
EJ I j	月・2	(Fenstermaker)	SMH I l	月・4	山本
EJ I k	月・2	(Jones)	SMH I m	月・4	(Vaughan)
EJ I l	月・2	(Jacobs)	SMH I n	月・4	(Sievert)
EJ I m	月・2	(Dalby)	SMH I o	月・4	(Quinn)
EJ I n	月・2	(Stepanczuk)			
EJ I o	月・2	(Vaughan)			

[科目ナンバー : GE ENG 01 04]

掲載番号	科目名	College English IV (CE IV)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
203	英語表記	College English IV (CE IV)						

●科目の主題

授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

●授業の到達目標

前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

●授業内容・授業計画

前期と比べ、扱う言語データ量(文字)を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリーディングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じてリーディング・ライティング能力の向上を目的とした課題(予習・復習)を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。

●受講生へのコメント

本科目は、リーディングとライティングが中心である。長文を読んで大意を把握する力と、自分の考えを英語で的確に表現する力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I a	水・1	(Selzer)	SMH I a	水・3	(Hudgens)
EJ I b	水・1	(Hudgens)	SMH I b	水・3	(Feldman)
EJ I c	水・1	(Vaughan)	SMH I c	水・3	(McAvoy)
EJ I d	水・1	(多賀)	SMH I d	水・3	(Silva)
EJ I e	水・1	[高森]	SMH I e	水・3	(Thorson)
EJ I f	水・1	[Leigh]	SMH I f	水・3	Richards
EJ I g	水・1	(Sievert)	SMH I g	水・3	(Selzer)
EJ I h	水・1	(Micklas)	SMH I h	水・3	(Lau)
EJ I i	水・1	(Fenstermaker)	SMH I i	水・3	(Jones)
EJ I j	水・1	(Feldman)	SMH I j	水・3	[高森]

クラス	曜日・時限	担当者	クラス	曜日・時限	担当者
EJ I k	水・1	(Thorson)	SMH I k	水・3	(Vaughan)
EJ I l	水・1	(McAvoy)	SMH I l	水・3	(Sievert)
EJ I m	水・1	高島	SMH I m	水・3	(Micklas)
EJ I n	水・1	(Lau)	SMH I n	水・3	山本
EJ I o	水・1	(Silva)	SMH I o	水・3	(Fenstermaker)
CL I a	水・2	(Thorson)	TN I a	水・4	(Lau)
CL I b	水・2	(McAvoy)	TN I b	水・4	(Fenstermaker)
CL I c	水・2	(Selzer)	TN I c	水・4	Richards
CL I d	水・2	(Silva)	TN I d	水・4	(Feldman)
CL I e	水・2	(多賀)	TN I e	水・4	(Vaughan)
CL I f	水・2	(Lau)	TN I f	水・4	(Micklas)
CL I g	水・2	[高森]	TN I g	水・4	(Silva)
CL I h	水・2	山本	TN I h	水・4	(Thorson)
CL I i	水・2	Richards	TN I i	水・4	(Sievert)
CL I j	水・2	(Jones)	TN I j	水・4	(Hudgens)
CL I k	水・2	(Vaughan)	TN I k	水・4	(Selzer)
CL I l	水・2	(Micklas)	TN I l	水・4	(Jones)
CL I m	水・2	(Fenstermaker)	TN I m	水・4	(McAvoy)
CL I n	水・2	(Hudgens)			
CL I o	水・2	(Feldman)			

< 2年 >

[科目ナンバー : GE ENG 02 01]

掲載番号	科目名	College English V (CE V)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
204	英語表記	College English V (CE V)						

●科目の主題

授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

●授業の到達目標

1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。

●授業内容・授業計画

4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて4技能それぞれに対応する課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等の教員の評価と共通テストの結果を合算する。教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。ただし、共通テストの未受験者は、教員の評価にかかわらず「F(E)」とする。※ただし、医学科は担当教員の評価のみとする。

●受講生へのコメント

本科目は、1年次のCEで培ったリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける理解力と表現力を統合的に扱う。より多くの英語に触れることで、応用力を身につけてほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
CIIa	火・1	(筒井)	HIIc	木・1	(藤井)
CIIb	火・1	(熊懐)	HIId	木・1	(山口)
CIIc	火・1	(倉恒)	IIe	木・1	(津田)
CII d	火・1	(高)	SIIa	木・2	(津田)
CIIe	火・1	(山澤)	SIIb	木・2	(山口)
CII f	火・1	(清川)	SIIc	木・2	(藤井)
CII g	火・1	(片岡)	SII d	木・2	古賀
CII h	火・1	井狩	SII e	木・2	(高橋)
JIIa	火・2	(笹倉)	SII f	木・2	(北岡)
JIIb	火・2	(清川)	SII g	木・2	(フィゴーニ)
JIIc	火・2	(山澤)	EIIa	木・3	田中(孝)
JII d	火・2	(倉恒)	EIIb	木・3	(フィゴーニ)
JII e	火・2	(高)	EIIc	木・3	(長嶺)
JII f	火・2	(熊懐)	EII d	木・3	(荒木)
JII g	火・2	(筒井)	EII e	木・3	(辻)
TIIa	火・3	田中(一)	EII f	木・3	田中(一)
TIIb	火・3	野末	EII g	木・3	杉井
TIIc	火・3	(片岡)	EII h	木・3	(高橋)
TII d	火・3	(名和)	MIIa	木・3	(清川)
TII e	火・3	(山澤)	MIIb	木・3	(中村)
TII f	火・3	(清川)	MIIc	木・3	(上里)
TII g	火・3	(笹倉)	LIIa	木・4	杉井
TII h	火・3	関	LIIb	木・4	井狩
TII i	火・3	田中(孝)	LIIc	木・4	(フィゴーニ)
TII j	火・3	山崎	LII d	木・4	(荒木)
TII k	火・3	古賀	LII e	木・4	(長嶺)
HIIa	木・1	(北岡)	LII f	木・4	古賀
HIIb	木・1	(高橋)	LII g	木・4	(辻)

[科目ナンバー : GE ENG 02 02]

掲載番号	科目名	College English VI (CE VI)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
205	英語表記	College English VI (CE VI)						

●科目の主題

所属学部の専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

●授業の到達目標

1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。

●授業内容・授業計画

段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて総合的な英語運用能力に関する課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目は、CEの総仕上げである。これまで学んだことを専門科目で活かせるよう、リーディングとリスニングにおいて、正しく理解した上で要点が整理できる力を、ライティングとスピーキングでは自分の考えをうまく的確に表現する力をしっかり養ってほしい。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
CⅡa	火・1	(倉恒)	HⅡb	木・1	(山口)
CⅡb	火・1	(山澤)	HⅡc	木・1	(藤井)
CⅡc	火・1	(清川)	HⅡd	木・1	(高橋)
CⅡd	火・1	(熊懷)	HⅡe	木・1	(北岡)
CⅡe	火・1	(片岡)	SⅡa	木・2	(フィゴーニ)
CⅡf	火・1	(筒井)	SⅡb	木・2	(清川)
CⅡg	火・1	(高)	SⅡc	木・2	(北岡)
CⅡh	火・1	田中 (孝)	SⅡd	木・2	(高橋)
JⅡa	火・2	(高)	SⅡe	木・2	(藤井)
JⅡb	火・2	(筒井)	SⅡf	木・2	(山口)
JⅡc	火・2	(熊懷)	SⅡg	木・2	(津田)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
JⅡd	火・2	(清川)	EⅡa	木・3	野末
JⅡe	火・2	(山澤)	EⅡb	木・3	(荒木)
JⅡf	火・2	(倉恒)	EⅡc	木・3	(上里)
JⅡg	火・2	(笹倉)	EⅡd	木・3	(フィゴーニ)
TⅡa	火・3	田中(孝)	EⅡe	木・3	(清川)
TⅡb	火・3	野田	EⅡf	木・3	(長嶺)
TⅡc	火・3	(山澤)	EⅡg	木・3	(中村)
TⅡd	火・3	(笹倉)	EⅡh	木・3	(辻)
TⅡe	火・3	(片岡)	LⅡa	木・4	関
TⅡf	火・3	(名和)	LⅡb	木・4	(中村)
TⅡg	火・3	(筒井)	LⅡc	木・4	(荒木)
TⅡh	火・3	田中(一)	LⅡd	木・4	(長嶺)
TⅡi	火・3	古賀	LⅡe	木・4	(辻)
TⅡj	火・3	野末	LⅡf	木・4	(上里)
TⅡk	火・3	関	LⅡg	木・4	(フィゴーニ)
HⅡa	木・1	(津田)			

CEVI (前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
MⅡa	木・4	(上里)	MⅡc	木・4	(中村)
MⅡb	木・4	(清川)			

◎Advanced College English (ACE)

Advanced College Englishは高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACE科目の受講を希望する者は、履修登録期間中にWebシステムにて登録をすること。

・各科目とも25名程度を上限とする。定員を上回った場合は抽選とし、抽選後の取り消しは一切認めない。

[科目ナンバー : GE ENG 03 03]

掲載番号	科目名	ACE: TOEFL 80	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	川端 淳司 (非常勤)
206	英語表記	ACE: TOEFL 80						

●科目の主題

本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準であるTOEFL iBT80点(従来のCBTの213点に相当)を取得

することを目標とした訓練を行う。

●授業の到達目標

ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

●授業内容・授業計画

基礎レベルの問題で確実に得点できるよう、受講生に適切な進捗で授業を進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

TOEFL80はiBTテスト（すべてインターネットで行うテスト）で80点をを目指すための講座です。iBTテストは、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションから構成されており、4時間30分もの長時間におよぶきわめてタフな試験です。その分、ある一定の点数を取得すれば信用度や評価も高いため、大学生としては総合的な英語力を身に付けておくには最適な試験といえます。スピーキングとライティングはほとんどやったことがないので、とても高いハードルのように感じている学生が多いようですが、実際は取り組んでみると案外できると実感するようになると思います。実際のところ、スピーキングやライティングのアウトプットセクションは、リーディングやリスニングのインプットセクションより点数が高めにしやすいのです。TOEFL80では、インプットセクションはもちろんのこと、アウトプットセクションの実践演習に多くの時間をかけます。スピーキングなどは単に漫然と英語を話せばよいというのではなく、しっかりと自分の考えや、講義の内容などを英語でまとめる力が要求されます。授業では、全体的な英語力の底上げを目指すと同時に、TOEFLで高得点を取るために必要なスキルやテクニックを伝授していきます。TOEFLを何度か受験した人はもちろん、これからチャレンジしてみたい人も、目標をしっかりとをもって、真に国際人にふさわしい英語運用能力の習得を目指しましょう。

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 04]

掲載番号	科目名	ACE: TOEFL 80+	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	川端 淳司（非常勤）
207	英語表記	ACE: TOEFL 80+						

●科目の主題

米国・カナダ・オーストラリアの主要大学の入学基準である TOEFL iBT80点(TOEFL ITP 550点, Versant 48点)以上の英語力を有する学生を対象に、ドリル等の演習形式の授業を行い、4技能(reading, writing, listening, speaking)を鍛える。本科目は、GC副専攻登録学生以外でも、さらに上のレベルの英語力をを目指す学生も受講できる。

●授業の到達目標

国際的に活躍するための英語運用能力を備えた人材を養成することを目指す。

●授業内容・授業計画

TOEFLの4技能を測る試験の特徴に応じた、より高度の演習問題を受講生の進捗に合わせて取り組んで行く。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

小テスト、課題、平常点を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

TOEFL80+はTOEFL80の上位クラスに当たりますが、TOEFLの受験経験がなくても、今までのスコアがそれほど良くなくても、何とでも短期間で80以上を目指したいという強い意欲がある人には最適の講座です。80点以上を目指すためには、リーディングセクションで高得点を取る必要があります。まずは、語彙力が不足している人が圧倒的に多いため、1万語以上の単語を効率よく習得し、それをもとに早く正確に英語を処理する能力を身につけるための実践的なトレーニングを行っていきます。リスニングセクションは、長くやや難しい内容の英語を聞き取る力と重要なポイントをメモとして書き留める力が要求されます。リスニングでしっかり得点を取るためには、何をすればよいのかを伝えていきます。大きく苦手なセクションがあると、80点以上を取ることが難しくなります。スピーキング及びライティングに関しては、単に話せばいい、書くことができればいいというものではありません。得点を取るためには、何が求められているのかをしっかりと理解したうえで、対策を取っていく必要があります。講義ではスピーキングおよびライティングの実践的な演習も多く行っています。

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 02]

掲載番号	科目名	ACE: TOEIC 650	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	高森 理絵 (英語C 特任) 川端 淳司 (非常勤)
208	英語表記	ACE: TOEIC 650						

●科目の主題

データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

●授業の到達目標

ビジネスの国際化に伴い、企業が求めるTOEICの基準点突破を目標とした訓練を行う。2016年5月以降、TOEICに導入された新形式の出題傾向に沿った対策を行い、繰り返し予行演習を行う。TOEICの攻略という実利的側面はもちろんのこと、将来的にも、語学能力試験等を利用しながら、目標を持って学び続けられるよう、総合的な英語運用能力の向上を目指す。

●授業内容・授業計画

本試験の対策に特化した教材に基づき、受講生の進度に応じた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

これからTOEICの受験を考えているみなさん、受験したことはあるけれど、まだ目標のスコアに届いていないみなさん、この講座で試験対策をしてみませんか。TOEICには、昨年5月から新傾向の問題が導入されました。一人で試験対策に取り組むことが不安なみなさんは、ぜひ、この講座で予行練習を何度も繰り返し、自信をつけましょう。

教室でクラスメイトとともに学ぶことで、試験対策のノウハウに止まらず、将来、実用的に活かす英語を身に付けることができるでしょう。さあ、国際社会で求められる基準点の突破に向けて、一緒に頑張りましょう。(高森)

私が本学で教える受講生たちは、ある程度TOEIC対策に必要な基本的な英語力を供えています。特にリーディングセクションは時間をかければ、高得点を取る力を供えている受講生も多く見受けられます。文法や語彙などは、その多くを忘れてしまったという人もいますが、必要な範囲をしっかりと見直し、早く正確に解く意識を忘れずにトレーニングをすれば、短期間であっても650という結果を出すことはそれほど難しくありません。またリスニングセクションは、長い間英語を聞いていないという受講生もいるため、まずは耳馴らしから始め、各Partの傾向と対策を行っていきます。TOEICだけというよりは、より実践的なリスニング力を身に着けるために、シャドーイングやリピーティングなどのトレーニング法なども指導していきます。TOEICは本年度より若干のリニューアルがありました。これまでの対策法や学習法が大きく変わるわけではありません。新しくなった部分を確認しながら、まずは自分の弱点をしっかりと補強し、目標点を目指して頑張りましょう。(川端)

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 11]

掲載番号	科目名	ACE: Comparative Culture	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	Jim Mansfield (英語C 特任)
209	英語表記	ACE: Comparative Culture						

●科目の主題

英語を通して、日本を新たな視点から知る。

●授業の到達目標

日本について学術的な議論をする技能を身につける。エクササイズを通じて、日本のどこが面白く驚くべきことかに気付く。

●授業内容・授業計画

授業中は英語のみを使用する。評判の記事等を題材に文化的テーマを絞り、英語圏からの視点と日本からの視点を比較検討しながら、ディスカッションやプレゼンテーションを介して文化理解を深める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This course is mainly in English, and please do not use smartphones during class. If you need any additional assistance or information then I'm available to speak with you before or after the class.

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 07]

掲載番号 210	科目名	ACE: Critical Writing	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	豊田 純一 (文) David Chen (非常勤) Jim Mansfield (英語C 特任)
	英語表記	ACE: Critical Writing						

●科目の主題

ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合した上で、論理的かつ自分の意見を主張する文章を書く技術がcritical writingである。本科目は、CE I、IIをすでに単位修得した学生を対象とする。

●授業の到達目標

問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で、自らの考えを英語の文章を用いて表現する力を養成する。

●授業内容・授業計画

critical writingの理解から始めて、実際に英文を構成する能力の養成を段階的に行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

Critical Writingの趣旨にのっとり、このコースは先行研究を論文中で紹介する際における様々な表現技法などの習得を目指します。これには先行研究を読んで理解するのが前提としてあり、その内容に関して批判的な論評を展開していきます。このような学術的な諸式にはある程度のフォーマットがありますので、それを細かく説明していきます。授業は講義と演習の両面があります。(豊田)

ACE Writing continues to provide instruction of writing skills learned in first year. While the early part of the course will look at general essay forms, students will have the opportunity to do independent research and to present their findings. This course would be useful for students who would like to improve their knowledge and writing skills, and practice writing about various topics. (Chen)

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 06]

掲載番号 211	科目名	ACE: Media English	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	野田 三貴 (英語C) 高森 理絵 (英語C 特任)
	英語表記	ACE: Media English						

●科目の主題

現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。この視点に立って、Media Englishを扱う。

●授業の到達目標

ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

●授業内容・授業計画

代表的なメディアの英語の文章や音声媒体を用いて、受講生の進度に合わせた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

語彙・表現・スタイルなど独特のものがあるので、慣れるまでに少し時間がかかるかもしれませんが、根気よく取り組んでください。メディア・リテラシーも同時に高めていきましょう。(野田)

朝起きて、テレビを見ながら出掛ける支度をしたり、スマート・フォンで最新情報をチェックしたり、、、。みなさんは様々な方法で、日々、情報を取り入れていますね。みなさんが、忙しく毎日をご過ごしている間に、世界では、今この瞬間、どんなことが起きているのでしょうか。この講座ではBBCやCNNのような、英語で配信されるニュースを見て、様々なメディアの関連記事に触れます。見慣れた日本のニュース番組の枠に留まらず、海外メディアからも、情報を取り入れてみましょう。日本に関する話題が、海外で取り上げられることもあり、報道や視点の多様性に気づくことでしょう。実際に海外で放送された興味深いニュースから、映像とともに、楽しく英語を学びましょう。(高森)

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 09]

掲載番号	科目名	ACE: Literature	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	杉井 正史 (文)
212	英語表記	ACE: Literature						

●科目の主題

英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因（時代背景、作家自身のこと）を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

●授業の到達目標

文学テキストの代表的なジャンル・修辞技法・モチーフについて理解できるようになる。
文学テキストの精読を通して、異なる歴史観・文化観・言語観を理解できるようになる。

●授業内容・授業計画

適宜解説を加えながら、演習形式で読み進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

必ず毎回出席すること。また、毎回予習してくること。

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 08]

掲載番号	科目名	ACE: Presentation	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	Elizabeth Leigh (英語C 特任)
213	英語表記	ACE: Presentation						

●科目の主題

色々な題材を用いてプレゼンテーションの訓練を行う。

●授業の到達目標

様々な専門分野に必要な、英語による口頭発表能力の向上を図る。

●授業内容・授業計画

この授業では企業や学校で用いられるプレゼンテーションをたくさん練習する。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This course provides a lot of practice of both business and academic presentations; the emphasis is on practical application of presentation skills.

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 10]

掲載番号	科目名	ACE: Discussion	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	David Chen (非常勤)
214	英語表記	ACE: Discussion						

●科目の主題

この授業では academic discussion の諸相について学ぶ。

●授業の到達目標

筋道を立てて物事を説明し、意見を述べて、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

●授業内容・授業計画

教育や研究の分野で行われる議論を取り上げて、その方法を学び、実践的な訓練を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

This course will look at various elements of academic discussions, including the structure of discussions and effective preparation, and would be useful for students who would like to improve their communication skills begun in first year courses. Class work includes vocabulary development, research assignments, and speaking practice in group settings.

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 01]

掲載番号	科目名	ACE: Intensive Reading	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	野田 三貴 (英語C) 井狩 幸男 (文)
215	英語表記	ACE: Intensive Reading						

●科目の主題

難解な英文を正確に読み解く。

●授業の到達目標

表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、英文を正確に読む力を養成する。

●授業内容・授業計画

指定したテキストを読み進める。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

一定の長さの論説やエッセイを読みこなす力を養いましょう。背景知識も吸収しながら、批判的読みができることを目指します。(野田)

授業を通して、語彙や文法を知っているだけでは文章が読めないことを実感し、どうすれば英語で書かれた文章が読めるようになるかを考え実践する為に、積極的に授業に関わることを期待する。(井狩)

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

[科目ナンバー : GE ENG 03 05]

掲載番号	科目名	ACE: Films	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	多賀 亜紀 (非常勤)
216	英語表記	ACE: Films						

●科目の主題

映画は娯楽のためだけではなく外国語学習の教材としても有用である。映像と音声を同時に理解することで、ストーリーを楽しみながら、特に口語的な言い回しを学ぶことができる。それは、教科書だけの文字学習からは得にくいリアルな英語に接する機会でもあると考える。

●授業の到達目標

必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

●授業内容・授業計画

できるだけ多くの受講生の興味に合うとともに、大学生が社会を理解するのに適切な教材を選び、段階的に語学能力を向上させるカリキュラムを組み立てている。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価する。

●受講生へのコメント

この授業では、英語圏を舞台とした映画を通して、それぞれの国の英語・文化・歴史を学ぶことを目的としている。時間の都合上、1つのテーマにつき、3～4本の映画の「抜粋」部分を視聴する形式となる。

受講希望者は第1回目のオリエンテーションに必ず出席すること。授業の進め方や成績評価の仕方を説明し、プレゼンテーション及びライティングの担当者割りなどを決定する。

受講生は、テキストの他、必要に応じて参考資料を前週に配布するので、内容をよく読み込んだうえで、次週の授業に出席すること。プレゼン担当者への積極的な質問や意見発表を重視する。

●教材

指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

前期

科目名	クラス	曜日・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEIC 650	全	月・2	[高森]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	水・4	豊田
Comparative Culture	全	火・1	[Mansfield]
Discussion	全	木・4	(Chen)
Intensive Reading	全	火・3	野田
Media English	全	月・4	野田
Literature	全	火・2	杉井

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEFL 80+	全	木・3	(川端)
TOEIC 650	全	月・2	[高森]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	火・1	[Mansfield]
Critical Writing	全	木・4	(Chen)
Presentation	全	水・2	[Leigh]
Intensive Reading	全	火・2	井狩
Films	全	水・3	(多賀)
Media English	全	月・4	[高森]

掲載番号	科目名	再度履修者向けクラス (CE I・II・III・IV・V・VI)	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
217	英語表記	College English for re-registration						

●科目の主題

未履修科目の単位を取得する。

●授業の到達目標

再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IV・V・VIの再習熟をはかる。

●授業内容・授業計画

受講生の進度に合わせた授業を行う。

●事前・事後学習の内容

各授業時間中に、授業進度に応じて課題（予習・復習）を具体的に指示する。

●評価方法

出席回数要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価する。

●受講生へのコメント

再度履修することになった原因をしっかりと考えて受講すること。

●教材

クラス毎に指定された教材を用いる。教員の指示に基づいて準備すること。

●履修条件

受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、WEB履修登録を行った上で、各学期の最初の授業に出席すること。最初の授業に出席しない者は、受講許可を取り消すこともあるので十分注意すること。

CEⅢ・Ⅳ（前期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	山本	全「再」	水・5	野末
全「再」	月・5	高島	全「再」	水・5	関
全「再」	火・4	野田			

CEⅠ・Ⅱ（後期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	野田	全「再」	水・5	山崎
全「再」	月・5	豊田			

CEⅤ（前期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	高島

CEⅥ（前期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(熊懐)	全「再」	水・5	[高森]
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	井狩

CEⅤ（後期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(熊懐)	全「再」	水・5	田中（一）
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	木・5	杉井

CEⅥ（後期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	古賀

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語（英語以外の外国語）を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場がない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげることを諸君に期待する。

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次のA、B二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1 年次前期	基礎 1 Basic 1 ・ 基礎 2 Basic 2	応用 1 A Applied 1 A
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4 応用 2 A Applied 2 A
2 年次以降	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 . . .	

B.

1 年次前期	基礎 1 Basic 1 ・ 基礎 2 Basic 2	
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4
2 年次前期	応用 1 B Applied 1 B	2 年次以降
2 年次後期	応用 2 B Applied 2 B	
	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 . . .	

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

日本語教育編成表（留学生対象）

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1」、「基礎2」（合計2単位）および「応用1A」（1単位）を、Bパターンの学部の学生は「基礎1」および「基礎2」（合計2単位）を履修すること。なお、「基礎1」「基礎2」はペアの担当者により進度を合わせて授業が行われる同時履修科目である。月曜日に提供されている「基礎1」と水曜日に提供されている「基礎2」を両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部の学生は「基礎3」、「基礎4」および「応用2A」（各1単位）を、Bパターン
の学部の学生は「基礎3」および「基礎4」（各1単位）を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1」、「基礎2」の両方の単位を修得していなければ、Aパターン
の場合は「基礎3」、「基礎4」および「応用2A」を、Bパターンの場合は「基礎3」および「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターン
の学部の学生は、2年次前期で「応用1B」（1単位）を、2年次後期で「応用2B」（1単位）を履修すること。
なお、「応用1B」および「応用2B」は「基礎3」および「基礎4」を受講していることを前提に授業が行われる。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」（2単位）が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」、「基礎4」のいずれかの単位を修得していなければ「特修」を履修することはできないので、注意すること。

備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部担当に願い出て、相談すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A：新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B」+「4A～5Bから2科目」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A～4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B：「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」、「応用1A」、「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。なお、平成28年度以前に入学し、「基礎1・2」が不合格であった者については「基礎1」、「基礎2」の両方を履修すること。2年次提供の「応用1B」、「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表

*別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表

*クラス内の数字は、各所属学部学籍番号下3桁を表す。

科目		ドイツ語				フランス語				
学部	クラス	基礎1・基礎2 基礎3・基礎4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (12科目)	基礎1・基礎2 基礎3・基礎4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	
商学部	a	001～110		001～110	1クラス	1クラス		1クラス	1クラス	
	b	111～終		111～終						
経済学部	a	001～110				1クラス				
	b	111～終								
法学部	a	001～095	001～095			1クラス	1クラス			
	b	096～終	096～終							
文学部	a	001～080	001～080			001～080	001～080			
	b	081～終	081～終			081～終	081～終			
理学部	a	数学、生物	※注1参照			1クラス	※注1参照			
	b	物理、地球								
	c	化学、理科選択								
工学部	a	機械			1クラス					
	b	電子・物理 建築(001～017)								
	c	電気情報 建築(018～終)								
	d	化学バイオ								
	e	都市							1 ク ラ ス	
医学部看護学科										
医学部 医学科部	a	001～045			1クラス					
	b	046～終								
生活科学部	a	1クラス			1クラス	居住環境				
	b					食品栄養 人間福祉				

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部の学籍番号下3桁を表す。

科目		中国語				ロシア語			朝鮮語		
学部	クラス	基礎1・基礎2 基礎3・基礎4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	基礎1・基礎2 基礎3・基礎4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)	基礎1・基礎2 基礎3・基礎4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)
商学部	a	001~075	/	001~075	/	2クラス	/	/	3クラス	/	/
	b	076~150		076~150							
	c	151~終		151~終							
経済学部	a	001~055	/	/	/	{商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 医学部医学科 医学部看護学科 (CEJLSMN) クラス }	/	/	{商学部 工学部 (CT)クラス}	/	/
	b	056~110									
	c	111~165									
	d	166~終									
法学部	a	001~095	001~095	/	/	/	/	/	{法学部、 文学部L (JL)クラス}	/	/
	b	096~終	096~終								
文学部	a	001~085	001~085	/	/	/	/	/	{法学部、 文学部L (JL)クラス}	/	/
	b	086~終	086~終								
理学部		※注1参照									
工学部	a	機械 電子・物理	/	/	1クラス	/	1クラス	1クラス	/	1クラス	1クラス
	b	電気情報 化学バイオ									
	c	建築 都市									
医学部看護学科											
医学部		医学部医学科									
生活科学部		居住環境 食品栄養 人間福祉			1クラス						

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

ドイツ語 German

カリキュラム概要

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を築いてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりがない。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の実相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

[科目ナンバー : GE GER 01 02]

掲載番号	科目名	ドイツ語基礎 1	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
218	英語表記	German Basic 1						

●科目の主題

「基礎 1」は「基礎 2」との同時履修科目（片方だけの履修は不可）で、ドイツ語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造について体系的に学ぶ。

●授業の到達目標

ドイツ語の綴りと発音の基礎から始めて、名詞の性・数と格変化、動詞の人称変化を学び、単一文と単一時称など、ドイツ語の語・句・文の基本的な構造とそのしくみについて把握する。

●授業内容・授業計画

第 1 週：導入部 授業方針・到達目標・評価方法の確認・周知、辞書・参考書の紹介。

第 2 週～第 5 週：動詞の人称変化、名詞の性・数、冠詞と名詞の格変化、など。

第 6 週～第 10 週：単一文の語順、前置詞の格支配、並列接続詞、など。

第 11 週～第 14 週：形容詞の格変化、比較表現、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1 回の授業時間に加え、事前・事後学習として 1 時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

C I a (月2) 藤原美沙 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』 郁文堂

C I b (月2) 林田陽子 (非常勤)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』 同学社

E I a (月1) 林田陽子 (非常勤)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』 同学社

E I b (月1) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

J I a (月1) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』 朝日出版社

J I b (月1) 長谷川健一 (文)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』 同学社

L I a (月2) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』 朝日出版社

L I b (月2) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』 郁文堂

S I a (月3) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』 郁文堂

S I b (月3) 林田陽子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—話すための文法—』 朝日出版社

S I c (月3) 三上雅子 (文)

春日正男、松澤淳、Wolfgang Schlech『DVD わかるぞドイツ語！見えるぞドイツ』 朝日出版社

T I a (月4) 國光圭子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—話すための文法—』 朝日出版社

T I b (月4) 長谷川健一 (文)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』 同学社

T I c (月4) 藤原美沙 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』 郁文堂

T I d (月4) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

T I e N I (月4) 三上雅子 (文)

在間進『新生ドイツ語文法V6』 朝日出版社

M I a (月3) 海老根 剛 (文)

三室次雄『>Dialog< 対話で学ぶドイツ文法[CD付]』 郁文堂

M I b (月3) 藤原美沙 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』 郁文堂

H I (月3) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

[科目ナンバー : GE GER 01 03]

掲載番号	科目名	ドイツ語基礎2	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
219	英語表記	German Basic 2						

●科目の主題

「基礎2」は「基礎1」との同時履修科目（片方だけの履修は不可）で、ドイツ語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造について実践的に学ぶ。

●授業の到達目標

ドイツ語の綴りと発音の基礎から始めて、名詞の性・数と格変化、動詞の人称変化を学び、単一文と単一時称など、ドイツ語の語・句・文の基本的な構造とそのしくみについて把握する。

●授業内容・授業計画

第1週：導入部 授業方針・到達目標・評価方法の確認・周知、辞書・参考書の紹介。

第2週～第5週：動詞の人称変化、名詞の性・数、冠詞と名詞の格変化、など。

第6週～第10週：単一文の語順、前置詞の格支配、並列接続詞、など。

第11週～第14週：形容詞の格変化、比較表現、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当

C I a (水1) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

アンドレア・ラップ他『ミュンヘンに夢中 (DVD付)』同学社

C I b (水1) 神野ゆみこ (非常勤)

上野成利、本田雅也、及川直志『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール 改訂版 CD付き』白水社

E I a (水2) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ!レーゼン』第三書房

E I b (水2) 神野ゆみこ (非常勤)

アンドレア・ラップ、石井学 他『ミュンヘンに夢中 DVD付き』同学社

J I a (水2) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』白水社

J I b (水2) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』朝日出版社

L I a (水1) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』白水社

L I b (水1) 長谷川健一 (文)

飯田道子、江口直光『アップフェールト<ノイ>スキットで学ぶドイツ語』三修社

S I a (水4) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

アンドレア・ラープ他『ミュンヘンに夢中 (DVD付)』 同学社

SIb (水4) 田中秀穂 (非常勤)

秋田静男ほか『イン・ドイチュラント – ドイツ語インフォメーション 映像つき』 朝日出版社

SIc (水4) 神野ゆみこ (非常勤)

秋田静雄ほか『イン・ドイチュラント – ドイツ語インフォメーション 映像つき』 朝日出版社

TIa (水3) 田中秀穂 (非常勤)

秋田静男ほか『イン・ドイチュラント – ドイツ語インフォメーション 映像つき』 朝日出版社

TIb (水3) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ!レーゼン』 第三書房

TIc (水3) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』 白水社

TI d (水3) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ!レーゼン』 第三書房

TIeNI (水3) 千田まや (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—恋するベルリン DVD付き—』 朝日出版社

MIa (水4) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ!レーゼン』 第三書房

MIb (水4) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』 白水社

HI (水4) 千田まや (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—恋するベルリン DVD付き—』 朝日出版社

[科目ナンバー : GE GER 02 01]

掲載番号	科目名	ドイツ語基礎3	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
220	英語表記	German Basic 3						

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、より高度なドイツ語のしくみを把握する。

●授業の到達目標

複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の文体と文構造を学習し、ドイツ語の基礎的な文法知識をひとつお習得することをめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語基礎1での学習内容の復習を行う。

第2週～第5週：話法の助動詞、分離動詞、動詞の3基本形、未来形、過去形、完了形、など。

第6週～第10週：再帰動詞、zu不定詞、従属接続詞、関係代名詞、など。

第11週～第14週：受動態、接続法、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当

C I a (月2) 高井絹子 (文)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』郁文堂

C I b (月2) 林田陽子 (非常勤)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』同学社

E I a (月1) 林田陽子 (非常勤)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』同学社

E I b (月1) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

J I a (月1) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』朝日出版社

J I b (月1) 長谷川健一 (文)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』同学社

L I a (月2) 神竹道士 (文)

神竹道士『ドイツ文法ベーシック3 改訂版』朝日出版社

L I b (月2) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』郁文堂

S I a (月3) 國光圭子 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』郁文堂

S I b (月3) 林田陽子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間一話するための文法一』朝日出版社

S I c (月3) 三上雅子 (文)

春日正男、松澤淳、Wolfgang Schleich『DVD わかるぞドイツ語！見えるぞドイツ』朝日出版社

T I a (月4) 國光圭子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間一話するための文法一』朝日出版社

T I b (月4) 長谷川健一 (文)

西本美彦、西本アンゲリカ、高田博行『新・文法システム15』同学社

T I c (月4) 藤原美沙 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』郁文堂

T I d (月4) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

T I e N I (月4) 三上雅子 (文)

在間進『新生ドイツ語文法V6』朝日出版社

M I a (月3) 海老根 剛 (文)

三室次雄『>Dialog< 対話で学ぶドイツ文法[CD付]』郁文堂

M I b (月3) 藤原美沙 (非常勤)

神竹道士他『アルタナティーフ - 第2外国語としてのドイツ語文法』郁文堂

H I (月3) 竹内一高 (非常勤)

配布プリント

[科目ナンバー : GE GER 02 02]

掲載番号 221	科目名	ドイツ語基礎4	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
	英語表記	German Basic 4						

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、より高度なドイツ語のしくみを把握する。

●授業の到達目標

複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の文体と文構造を学習し、ドイツ語の基礎的な文法知識をひとつおろし習得することをめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語基礎2での学習内容の復習を行う。

第2週～第5週：話法の助動詞、分離動詞、動詞の3基本形、未来形、過去形、完了形、など。

第6週～第10週：再帰動詞、zu不定詞、従属接続詞、関係代名詞、など。

第11週～第14週：受動態、接続法、など。

*教科書によって学習する文法項目が前後する場合がある。

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

C I a (水1) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

アンドレア・ラープ他『ミュンヘンに夢中 (DVD付)』同学社

C I b (水1) 神野ゆみこ (非常勤)

上野成利、本田雅也、及川直志 『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール 改訂版 CD付き』白水社

E I a (水2) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ!レーゼン』第三書房

E I b (水2) 神野ゆみこ (非常勤)

アンドレア・ラープ、石井学 他『ミュンヘンに夢中 DVD付き』同学社

J I a (水2) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』白水社

J I b (水2) 田中秀穂 (非常勤)

清野智昭 『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉Web改訂版 エピローグ付』朝日出版社

L I a (水1) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう!ドイツ語』白水社

L I b (水1) 長谷川健一 (文)

飯田道子、江口直光『アップフェールト<ノイ>スキットで学ぶドイツ語』三修社

S I a (水4) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

アンドレア・ラープ他『ミュンヘンに夢中 (DVD付)』同学社

S I b (水4) 田中秀穂 (非常勤)

秋田静男ほか『イン・ドイチュラント -ドイツ語インフォメーション 映像つき』朝日出版社

S I c (水4) 神野ゆみこ (非常勤)

秋田静雄ほか『イン・ドイチュラント -ドイツ語インフォメーション 映像つき』朝日出版社

T I a (水3) 田中秀穂 (非常勤)

秋田静男ほか『イン・ドイチュラント -ドイツ語インフォメーション 映像つき』朝日出版社

T I b (水3) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ！レーゼン』第三書房

T I c (水3) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

T I d (水3) 廣瀬ゆう子 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ！レーゼン』第三書房

T I e N I (水3) 千田まや (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—恋するベルリン DVD付き—』朝日出版社

M I a (水4) 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ！レーゼン』第三書房

M I b (水4) 田島昭洋 (非常勤)

神竹道士、國光圭子、田島昭洋『やってみよう！ドイツ語』白水社

H I (水4) 千田まや (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間—恋するベルリン DVD付き—』朝日出版社

[科目ナンバー : GE GER 02 03]

掲載番号	科目名	ドイツ語応用 1 A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	中村 恵 (非常勤) 江川 英明 (非常勤) 大森 智子 (非常勤)
222	英語表記	German Applied 1A						

●科目の主題

ドイツ語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション（ドイツ語・ドイツ語文化への導入）

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音—補強

第4週～第9週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

J I a 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ！レーゼン』第三書房

J I b 江川英明 (非常勤)

大岩信太郎『はじめての独作文[改訂新正書法版]』朝日出版社

L I a 大森智子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間 (恋するベルリン) Web 改定版 エピローグ付』朝日出版社

L I b 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ! レーゼン』第三書房

[科目ナンバー : GE GER 02 04]

掲載番号	科目名	ドイツ語応用 2 A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	中村 恵 (非常勤) 江川 英明 (非常勤) 大森 智子 (非常勤)
223	英語表記	German Applied 2A						

●科目の主題

ドイツ語「基礎 3」、「基礎 4」履修中の者を対象として、「基礎 3」「基礎 4」と連携しながら、AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語圏の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

●授業の到達目標

「基礎 3」および「基礎 4」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第 1 週 : < 応用 1 A > の既習事項の確認
- 第 2 週 ~ 第 3 週 : ドイツ語の応用能力の拡充
- 第 4 週 ~ 第 9 週 : ドイツ語の応用能力の強化
- 第 10 週 ~ 第 14 週 : ドイツ語の応用能力の仕上げ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1 回の授業時間に加え、事前・事後学習として 1 時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

J I a 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ! レーゼン』第三書房

J I b 江川英明 (非常勤)

大岩信太郎『はじめての独作文[改訂新正書法版]』朝日出版社

L I a 大森智子 (非常勤)

清野智昭『ドイツ語の時間 (恋するベルリン) Web 改定版 エピローグ付』朝日出版社

L I b 中村恵 (非常勤)

新倉真矢子他『ゲナウ! レーゼン』第三書房

[科目ナンバー : GE GER 02 05]

掲載番号	科目名	ドイツ語応用 1 B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	神野 ゆみこ (非常勤) 石黒 義昭 (非常勤)
224	英語表記	German Applied 1B						

●科目の主題

ドイツ語「基礎 3」、「基礎 4」を受講した者を対象として、AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第 1 週：既習事項の確認
- 第 2 週～第 5 週：ドイツ語の応用能力への導入
- 第 6 週～第 10 週：ドイツ語の応用能力の初歩的養成
- 第 11 週～第 14 週：ドイツ語の応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1 回の授業時間に加え、事前・事後学習として 1 時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

- C II a 神野ゆみこ (非常勤)
荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！(DVD付き改訂版)』朝日出版社
- C II b 石黒義昭 (非常勤)
荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！(DVD付き改訂版)』朝日出版社

[科目ナンバー : GE GER 02 06]

掲載番号	科目名	ドイツ語応用 2 B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	神野 ゆみこ (非常勤) 石黒 義昭 (非常勤)
225	英語表記	German Applied 2B						

●科目の主題

ドイツ語「基礎 3」、「基礎 4」を受講した者を対象として、AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

●授業の到達目標

ドイツ語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：＜応用1B＞の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、1回の授業時間に加え、事前・事後学習として1時間の自習を前提としている。たとえばテキストの予習や宿題、テストや発表の準備があげられるが、具体的な内容については担当者の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

●受講生へのコメント

語学の習得には地道な努力が必要です。楽しみながらしっかり基礎力をつけましょう。

●教材および授業担当者

C II a 神野ゆみこ (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！(DVD付き改訂版)』朝日出版社

C II b 石黒義昭 (非常勤)

荻野蔵平、Andrea Raab『ドイツってすてき！(DVD付き改訂版)』朝日出版社

[科目ナンバー : GE GER 03 01]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修1a	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	ジモン・エルトレ (文 特任)
226	英語表記	German Specialised 1a						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1aでは授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第3週: Kennenlernen (挨拶、自己紹介など)
- 第4週～第6週: Freizeit (自由時間の過ごし方など)
- 第7週～第9週: Tagesablauf (時刻、スケジュールなど)
- 第10週～第12週: Essen und Trinken (食べ物、飲み物)
- 第13週～第14週: Familie (家族)
- 第15週: まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント

[科目ナンバー : GE GER 03 02]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修1b	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	ジモン・エルトレ (文 特任)
227	英語表記	German Specialised 1b						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1bでは授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第3週: Kennenlernen (挨拶、自己紹介など)
- 第4週～第6週: Freizeit (自由時間の過ごし方など)
- 第7週～第9週: Tagesablauf (時刻、スケジュールなど)
- 第10週～第12週: Essen und Trinken (食べ物、飲み物)
- 第13週～第14週: Familie (家族)
- 第15週: まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント

[科目ナンバー : GE GER 03 03]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修2	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	ジモン・エルトレ (文 特任)
228	英語表記	German Specialised 2						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では授業は受講生とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

●授業の到達目標

「ヨーロッパ共通参照枠」の最初のレベル、A1。

●授業内容・授業計画

「ドイツ語特修1a/b」の続き。

第1週：Sommerferien（夏休み）

第2週～第4週：Wohnen（住まい）

第5週～第8週：Einkaufen（買い物）

第9週～第11週：Geburtstag（誕生日）

第12週～第14週：Reisen（旅行）

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は、第1週の授業で説明します。

●受講生へのコメント

必ず毎週、復習のため出される宿題をやってください。宿題は授業の最初に集めます。

●教材

プリント

[科目ナンバー : GE GER 03 04]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修3a	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	海老根 剛（文）
229	英語表記	German Specialised 3a						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3aではドイツ映画を教材に使用し、実際に対話場面を演じてみることを通して、ドイツ語の表現をより具体的に、実感を持って理解することを目指す。

●授業の到達目標

外国語を話すとはどのような経験なのかを実感を持って理解する。具体的なシチュエーションの中で言葉を発する練習をすることで、実践的な言語感覚の要請を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：授業の主題と方法の説明
- 第2週～第3週：ドイツ語表現の基礎の確認
- 第4週～第8週：場面を演じる（1）
- 第9週～第14週：場面を演じる（2）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

毎回の授業で行う発表によって評価する。固定したグループで行う作業が基本になるので、欠席する学生、予習を行わない学生、授業に積極的に参加しない学生はただちに不合格となる。

●受講生へのコメント

この授業では毎回受講者に発表をしてもらいます。練習の時間と発表時間を十分に確保するため、受講人数は最大20名とします。受講希望者多数の場合には、初回の授業時に選抜を行います。授業の予習は必須です。

●教材

プリントなどを適宜配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 05]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修3b	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	田島 昭洋（非常勤）
230	英語表記	German Specialised 3b						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3bではドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

●授業の到達目標

聴解と発音、読解においてA1～A2レベルを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

モーツァルトの歌劇『魔笛』の台本を読み、映像を見、ドイツ語の表現を学ぶ。庶民性と芸術性が最高度に融合した親しみやすく奥深い本作品は比較的平易な日常会話表現が使われており、芸術性を理解しながら実践的なドイツ語能力の養成が期待できる。

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●教材

資料・台本は毎回担当者が印刷して持参する。参考書等を紹介する。

[科目ナンバー : GE GER 03 06]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修4	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	田島 昭洋（非常勤）
231	英語表記	German Specialised 4						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4ではドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

●授業の到達目標

聴解と発音、読解においてA1～A2レベルを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

ウェーバーの歌劇『魔弾の射手』の台本を読み、映像を見、ドイツ語の表現を学ぶ。ドイツ語圏（森）を舞台にした初のドイツ語による「ドイツ国民オペラ」として名高い本作は、比較的平易な日常会話表現が使われており、芸術性の理解とともに実践的なドイツ語力の養成が期待できる。

第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化

第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●教材

資料・台本は毎回担当者が印刷して持参する。参考書等を紹介する。

[科目ナンバー : GE GER 03 07]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修5	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	大森 智子 (非常勤)
232	英語表記	German Specialised 5						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5ではドイツ語技能検定（独検）受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

●授業の到達目標

各受講者が希望するドイツ語技能検定（独検）の級に合格する。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テスト準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

各受講者が希望する級に合わせてほぼ毎回小テストを行い、学習到達度を確認する。この小テストと平常点（出席をふくむ）を合わせた評価の比率を60%とし、残りの40%は、各受講者が希望する級の模擬試験のような形で行う中間試験と定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

受講者全員にドイツ語技能検定（独検）受験を義務付けるものではない。「基礎」や「応用」の習得後、さらに継続してドイツ語を総合的に学習したいという理由だけでも、もちろん受講することができる。

●教材

各受講者に合わせて、担当教員が適宜準備して配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 08]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修6	単位数	2	授業 形態	演習 講義	担当教員	海老根 剛 (文)
233	英語表記	German Specialised 6						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6ではドイツ語技能検定(独検)受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。この授業では特にリスニングに重点を置く。さまざまな種類の聴く能力を多様な仕方で養成する。

●授業の到達目標

独検3～2級程度合格を目指す。リスニングに重点を置きつつ、必要に応じて文法事項の復習なども行う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

宿題、授業内で行う練習課題、および数回の小テストで評価する。

●受講生へのコメント

外国語の運用能力の基礎はリスニングにあります。正しく発音が聞き取れなければ、正しく発音することもできないからです。そして正しく発音することは、正確な読解能力の養成にとっても重要です。

この授業では、多様な方法でリスニングの能力を高めていきます。独検対策だけでなく、ドイツ語の聞き取りが苦手な人やリスニング能力を高めたい人にとっても有益な授業となるはず。予習・復習は必須です。最大受講人数は30名とする。受講者多数の場合は、初回の授業で選抜を行う。

●教材

適宜、プリントを配布。音声ファイルも配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 09]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修7	単位数	2	授業 形態	演習 講義	担当教員	神野 ゆみこ (非常勤)
234	英語表記	German Specialised 7						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

●授業の到達目標

辞書と文法書を使って、または場合によってはインターネット上の情報を参考に、現代のドイツについて書かれた文章を読解できるように目指す。難易度としては独検3級レベルからはじめて、2級レベルの読解文章を扱う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、テーマごとの小テスト、平常点（訳読の発表や課題など）により評価する。

●受講生へのコメント

辞書は毎時間、持参のこと。授業中はスマホやタブレットの使用は、特に指示がない限り不許可。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 10]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修8	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	大森 智子 (非常勤)
235	英語表記	German Specialised 8						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

●授業の到達目標

ドイツ語の新聞・雑誌記事・ホームページなど、必要に応じて自分で読みこなすことができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

担当した箇所の読解・宿題・小テストなどの平常点（出席をふくむ）が評価の70%を占める。残りの30%は、辞書持ち込み可の定期試験で評価する。定期試験は、新聞・雑誌・ホームページの記事から出題される。

●受講生へのコメント

「基礎」や「応用」の習得後、半年のブランクがあっても、不安なく受講できる。

●教材

担当教員が適宜準備して配布する。

[科目ナンバー : GE GER 03 11]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修9	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	江川 英明（非常勤）
236	英語表記	German Specialised 9						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9ではドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

●授業の到達目標

テキストを丹念に読むことによって、専門課程の原典講読に必要な読解力を身につける。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化

第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ドイツ語の原文を単純に訳すだけでなく、その文の含蓄をよく考え、それに相応しい日本語にすること。そのために辞書を丹念に引くことが重要です。

●教材

ミヒャエル・エンデ『エンデのメモ箱』朝日出版社

[科目ナンバー : GE GER 03 12]

掲載番号	科目名	ドイツ語特修10	単位数	2	授業 形態	演習 講義	担当教員	江川 英明（非常勤）
237	英語表記	German Specialised 10						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10ではドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

●授業の到達目標

テキストを丹念に読むことによって、専門課程の原典講読に必要な読解力を身につける。

●授業内容・授業計画

第1週：ドイツ語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：ドイツ語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：ドイツ語の実践能力の強化

第9週～第14週：ドイツ語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修ドイツ語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、小テスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ドイツ語の原文を単純に訳すだけでなく、その文の含蓄をよく考え、それに相応しい日本語にすること。そのために辞書を丹念に引くことが重要です。

●教材

ミヒャエル・エンデ『エンデのメモ箱』朝日出版社

フランス語 French

カリキュラム概要

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は53ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

[科目ナンバー : GE FRN 01 02]

掲載番号	科目名	フランス語基礎 1	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
238	英語表記	French Basic 1						

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語圏文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはずで

す。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI (月2) 辻 昌子 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

EI (月1) 久後 貴行 (非常勤)

藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』(駿河台出版社)

JI (月1) 藤本 智成 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

LIa (月2) 白田 由樹 (文)

中村敦子『フランス語の音色』(駿河台出版社)

LIb (月2) 久後 貴行 (非常勤)

中村敦子『フランス語の音色』(駿河台出版社)

SI (月3) 原野 葉子 (文)

藤田裕二他『新・東京ーパリ, 初飛行 (新装改訂版)』(駿河台出版社)

TNI (月4) 酒井 美貴 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

HIa (月3) 辻 昌子 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

HIb (月3) 酒井 美貴 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

MI (月3) 福島 祥行 (文)

ジャニック・マーニュ他

『エスカパード! フランス語への旅——文法とアクティヴィテの15課 (改訂版)』(駿河台出版社)

[科目ナンバー : GE FRN 01 03]

掲載番号	科目名	フランス語基礎2	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
239	英語表記	French Basic 2						

●科目の主題

「基礎2」は「基礎1」との同時履修科目(片方だけの履修は不可)で、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVD(クラスによってはコンピュータ)などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週: イントロダクション(フランス語・フランス語圏文化への導入)
- 第2週~第3週: フランス語の文字と発音
- 第4週~第8週: フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週~第14週: フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週: まとめ

●事前・事後学習の内容

当科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習と

してはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語は難しいと思っている人が多いですが、きちんと手順をふんで学んでいけば意外に理解できるはずです。手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI（水1）鈴木田 研二（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

EI（水2）秋吉 孝浩（非常勤）

藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』（駿河台出版社）

JI（水2）鈴木田 研二（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

LIa（水1）福島 祥行（文）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

LIb（水1）白田 由樹（文）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

SI（水4）原野 葉子（文）

藤田裕二他『新・東京ーパリ，初飛行（新装改訂版）』（駿河台出版社）

TNI（水3）藤田 あゆみ（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

HIa（水4）藤田 あゆみ（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

HIb（水4）大山 大樹（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

MI（水4）小林 裕史（非常勤）

ジャニック・マーニュ他

『エスカパード！ フランス語への旅——文法とアクティヴィテの15課（改訂版）』（駿河台出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 01]

掲載番号	科目名	フランス語基礎3	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
240	英語表記	French Basic 3						

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時制・除法、関係詞節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

過去や未来の時制、条件法や接続法等の基礎文法を理解するとともに、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語を読み・書き・話し・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識をばらばらにではなく、互いに結びつけながら定着させていく必要があります。とくに復習をしっかりとこなうことで理解を広げ、できる・わかるが増えていく楽しさを感じてください。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI（月2）久後 貴行（非常勤）

中川努・中井珠子・曾我祐典『フランス語2020』（白水社）

EI（月1）久後 貴行（非常勤）

藤田裕二・東海麻衣子『タルト・タタン』（駿河台出版社）

J1（月1）藤本 智成（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

LIa（月2）辻 昌子（非常勤）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

LIb（月2）福島 祥行（文）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

SI（月3）酒井 美貴（非常勤）

藤田裕二他『新・東京－パリ，初飛行（新装改訂版）』（駿河台出版社）

TNI（月4）酒井 美貴（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

HIa（月3）白田 由樹（文）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

HIb（月3）辻 昌子（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

MI（月3）原野 葉子（文）

ジャニック・マーニュ他

『エスカパード！ フランス語への旅——文法とアクティヴィテの15課（改訂版）』（駿河台出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 02]

掲載番号	科目名	フランス語基礎 4	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
241	英語表記	French Basic 4						

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時制・除法、関係詞節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

過去や未来の時制、条件法や接続法等の基礎文法を理解するとともに、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ
- 第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

フランス語を読み・書き・話し・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識をばらばらにではなく、互いに結びつけながら定着させていく必要があります。とくに復習をしっかりとこなうことで理解を広げ、できる・わかることが増えていく楽しさを感じてください。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

CI（水1）鈴木田 研二（非常勤）

大塚陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社）

EI（水2）秋吉 孝浩（非常勤）

倉方秀憲・セルジュ・ジュンタ『セーヌ・ドゥ・ヴィ』（早美出版社）

JI（水2）小田中 章浩（文）

中川努・中井珠子・曾我祐典『フランス語2020』（白水社）

LIa（水1）福島 祥行（文）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

LIb（水1）白田 由樹（文）

中村敦子『フランス語の音色』（駿河台出版社）

SI（水4）原野 葉子（文）

藤田裕二他『新・東京ーパリ、初飛行（新装改訂版）』（駿河台出版社）

TNI (水3) 小林 裕史 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

HIa (水4) 大山 大樹 (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

HIb (水4) 藤田 あゆみ (非常勤)

大塚陽子『プティ・シュマン (改訂版)』(白水社)

MI (水4) 小林 裕史 (非常勤)

ジャニック・マーニュ他

『エスカパード！ フランス語への旅——文法とアクティヴィテの15課 (改訂版)』(駿河台出版社)

[科目ナンバー : GE FRN 02 03]

掲載番号	科目名	フランス語応用1A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	藤澤 秀平 (非常勤) 大山 大樹 (非常勤) 藤本 智成 (非常勤)
242	英語表記	French Applied 1A						

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD (クラスによってはコンピュータ) などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション (フランス語・フランス語圏文化への導入)

第2週～第3週：フランス語の文字と発音—補強

第4週～第8週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間 (特修は2時間) の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点 (出席をふくむ) 等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

J1 藤澤 秀平 (非常勤)

大木充他『グラメール・アクティヴ』(朝日出版社)

LIa 大山 大樹 (非常勤)

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

L1b 藤本 智成（非常勤）

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 04]

掲載番号	科目名	フランス語応用2A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	藤澤 秀平（非常勤） 大山 大樹（非常勤） 藤本 智成（非常勤）
243	英語表記	French Applied 2A						

●科目の主題

フランス語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語圏文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音一補強

第4週～第8週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間（特修は2時間）の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

クラス・担当者ごとに異なるので、よく確認してください。

J1 藤澤 秀平（非常勤）

大木充他『グラメール・アクティヴ』（朝日出版社）

L1a 藤本 智成（非常勤）

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

L1b 大山 大樹（非常勤）

大久保政憲『きみと話したい！フランス語』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 05]

掲載番号	科目名	フランス語応用1B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	秋吉 孝浩 (非常勤)
244	英語表記	French Applied 1B						

●科目の主題

フランス語「基礎3」、「基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

フランス語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

藤田裕二『パリ-ブルゴーニュ』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 02 06]

掲載番号	科目名	フランス語応用2B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	岩本 篤子 (非常勤)
245	英語表記	French Applied 2B						

●科目の主題

フランス語「基礎3」、「基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

フランス語「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：フランス語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

藤田裕二『パリ-ブルゴーニュ』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 01]

掲載番号	科目名	フランス語特修1	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	岩本 篤子（非常勤）
246	英語表記	Specialised French 1						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1では、フランスの童謡について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

●授業の到達目標

歌詞特有の表記、脚韻等をふまえた表現に慣れつつ、内容を理解できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については

担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

積極的な参加を望みます。

●教材

プリント使用

[科目ナンバー : GE FRN 03 02]

掲載番号	科目名	フランス語特修2	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	岩本 篤子（非常勤）
247	英語表記	Specialised French 2						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では、フランスの歌（主にポップス）について、その背景を考えながら、歌詞の訳、歌唱を通して、フランス文化への理解を深める。

●授業の到達目標

歌詞特有の表記、脚韻等をふまえた表現に慣れつつ、内容を理解できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化

第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

積極的な参加を望みます。

●教材

プリント使用

[科目ナンバー : GE FRN 03 03]

掲載番号	科目名	フランス語特修3	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	藤田 あゆみ (非常勤)
248	英語表記	Specialised French 3						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3では絵本や漫画を幅広く読んでいく。「リザとガスパール」、「タンタンの冒険」シリーズのような日本でも知られているフランスの絵本やアルバム作品を初めとして、第9の芸術として認められ、ルーヴル美術館とのコラボレーション展も開かれた日仏の漫画作家達の作品にも触れてみる。

●授業の到達目標

基礎フランス語で学んだ文法事項を再検討しながら、フランス語中級レベルの文法読解力とともに、フランス語の総合的な力も養っていくことをめざす。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

十分な予習と積極的な授業参加を望む。

●教材

配布プリントを教材とする。

[科目ナンバー : GE FRN 03 04]

掲載番号	科目名	フランス語特修4	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	小田中 章浩 (文)
249	英語表記	Specialised French 4						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4では、フランスの映画に使われている基本的な会話を学ぶことによって、フランス語の初級文法を復習し、

中級レベルの文法へと理解を進める。さらに会話の訳、発音練習、登場人物のせりふの背後にある心理を探ることによって、フランス文化の理解を深める。

●授業の到達目標

テキストを用いて学習し、繰り返して発音練習を行った後、映画で用いられている会話を耳で聞いて理解できるようになること。フランス語検定3級に準ずる文法が理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

映画を見て楽しみながら、フランス語の文法、発音をしっかり学ぶ授業です。

●教材

Les Parapluies de Cherbourg（ドゥミー：シェルプールの雨傘）窪川英水 編注（白水社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 05]

掲載番号	科目名	フランス語特修5	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	ロラン・バレイユ (文 特任)
250	英語表記	Specialised French 5						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5では、留学を楽しむための、最低限のサバイバル会話力を身に付けることを目的として編んだ、練習中心のテキストを使います。初めて会ったフランス人に自己紹介、タクシーに乗ってなんとかホテルに、そして買い物……とテーマはあくまで実用的。

●授業の到達目標

観光などで使うフランス語能力を身につけること、そして、フランスの文化、社会を理解することを目標とします。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化

第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を観ます。

●教材

内村瑠美子他『フランス語でサバイバル!』（白水社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 06]

掲載番号	科目名	フランス語特修6	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	ロラン・バレイユ (文 特任)
251	英語表記	Specialised French 6						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6では、コミュニケーションの楽しさを十二分に味わいながら、自然な「対話力」を身につけます。またそのつと的確に与えられる文法説明によって、たしかな語学力を養います。

●授業の到達目標

観光などで使うフランス語能力を身につけること、そして、フランスの文化、社会を理解することを目標とします。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を観ます。

●教材

レナ・ジュンタ他『ぜんぶ話して!』（白水社）

[科目ナンバー : GE FRN 03 07]

掲載番号	科目名	フランス語特修7	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	ロラン・バレイユ (文 特任)
252	英語表記	Specialised French 7						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では、フランス人が考案したバリエーションの多い教科書を用いて、同じフランス人が演じている物語風なビデオを見ながら、会話、文法、リーディング、リスニングを学びます。

●授業の到達目標

フランス語だけの教科書を使い、聞き取り、言葉の綴り(dictée)と発音が上達することを目標とします。

●授業内容・授業計画

第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化

第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

学期の終わりに、クラスでフランス映画を観ます。

●教材

Interactions 1, Clé international

[科目ナンバー : GE FRN 03 08]

掲載番号	科目名	フランス語特修8	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	藤本 智成 (非常勤)
253	英語表記	Specialised French 8						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では、仏検（実用フランス語技能検定試験）対策を行う。過去問演習を通して、おもに3級（大学2年修了程度）の合格を目指す。

●授業の到達目標

「基本的なフランス語を理解し、簡単なフランス語を聞き、話し、読み、書くことができる」という3級の検定基準への到達を目標にする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

仏検対策一辺倒にはせず、音楽や映画のワンシーンに触れる時間も設ける。

●教材

プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE FRN 03 09]

掲載番号	科目名	フランス語特修9	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	久後 貴行 (非常勤)
254	英語表記	Specialised French 9						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9ではフランスの菓子について、製法の異なる生地の種類や地方ごとの特色から整理し、主な菓子のレシピ（ルセット）をフランス語で読む。併せて写真やビデオなども使用する。

●授業の到達目標

菓子のレシピを読むことを通じて、フランス語読解力を身につけることを目標とする。また、菓子の歴史的背景や発祥の地の特色などを学ぶことを通じて、フランス文化への理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1週：教材の配布と授業計画の説明、フランス菓子の概略
第2週～第3週：レシピに類出する表現の確認
第4週～第8週：生地の種類ごとに主要な菓子のレシピを読解
第9週～第14週：地方ごとの特産物を生かした主要な菓子のレシピを読解
第15週：まとめ
また、ほぼ毎回、菓子に関連する写真やビデオなどを使用する。

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストの準備等があげられるが、一般的な学習用仏和辞典には意味が書かれていないような専門用語が出てくる場合もあるので、ネットも含め、幅広い資料にあたって調べることを。

●評価方法

定期試験、提出物など課題、授業中の平常点（出席をふくむ）から評価する。

●受講生へのコメント

菓子の基本材料は、小麦粉、バター、卵、砂糖の4つであるが、それから作り出される菓子は多種多様である。これらの材料をどのように使って様々な菓子が作られているか、その工夫に好奇心を持ち、授業に取り組んで欲しい。

●教材

プリント配布。

[科目ナンバー : GE FRN 03 10]

掲載番号	科目名	フランス語特修10	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	藤澤 秀平（非常勤）
255	英語表記	Specialised French 10						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10では、インターネットを通して視聴できるインタビュー、ニュースなどを教材とする。また同時に、web上で読める新聞記事などの読解も行う。

●授業の到達目標

メディアから受容できるフランス語の音声に少しでも馴れること。また、基礎フランス語で学んだ文法事項を再検討しながら、現代流通しているフランス語の読解にも挑む。

●授業内容・授業計画

第1週：フランス語の基礎的能力の確認と主題への導入
第2週～第3週：フランス語の実践能力の初歩的養成
第4週～第8週：フランス語の実践能力の強化
第9週～第14週：フランス語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修フランス語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

十分な予習と積極的な授業参加が大前提となる。

●教材

配布プリントを教材とするが、電子辞書も含む仏和辞典を携帯すること。

中国語 Chinese

カリキュラム概要

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まっていくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

[科目ナンバー : GE CHN 01 02]

掲載番号	科目名	中国語基礎1	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
256	英語表記	Chinese Basic 1						

●科目の主題

中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1」「中国語基礎2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：イントロダクション

第2週～第5週：発音の基礎練習

第6週～第7週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方、疑問詞疑問文

第8週～第9週：動詞述語文、所有を表す動詞「有」

第10週～第11週：形容詞述語文、数量を尋ねる疑問詞、時を表す語、反復疑問文

第12週～第13週：完了を表す「了」、所在を表す「在」

第14週：連動文、選択疑問文

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材および授業担当者

竹島毅・趙昕：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- CIa（月2）田 婧（非常勤）
- CIb（月2）秋岡 英行（非常勤）
- CIc（月2）福田 知可志（非常勤）
- EIa（月1）秋岡 英行（非常勤）
- EIb（月1）福田 知可志（非常勤）
- EIc（月1）韓 艶玲（非常勤）
- EId（月1）田淵 欣也（非常勤）
- JIa（月1）大岩本 幸次（文学部）
- JIb（月1）田 婧（非常勤）
- LIa（月2）岩本 真理（文学部）
- LIb（月2）韓 艶玲（非常勤）
- MHI（月3）長谷川 慎（非常勤）
- TIa（月4）王 標（非常勤）
- TIb（月4）長谷川 慎（非常勤）
- TIcNI（月4）田淵 欣也（非常勤）

[科目ナンバー : GE CHN 01 03]

掲載番号	科目名	中国語基礎2	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
257	英語表記	Chinese Basic 2						

●科目の主題

中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1」「中国語基礎2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション
- 第2週～第5週：発音の基礎練習
- 第6週～第7週：動詞「是」、「吗」疑問文、名前の聞き方と答え方、疑問詞疑問文
- 第8週～第9週：動詞述語文、所有を表す動詞「有」
- 第10週～第11週：形容詞述語文、数量を尋ねる疑問詞、時を表す語、反復疑問文
- 第12週～第13週：完了を表す「了」、所在を表す「在」
- 第14週：連動文、選択疑問文
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙昕：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- CIa (水1) 趙冬輝 (非常勤)
- CIb (水1) 王標 (非常勤)
- CIc (水1) 大野陽介 (非常勤)
- EIa (水2) 王標 (非常勤)
- EIb (水2) 史彤春 (非常勤)
- EIc (水2) 大野陽介 (非常勤)
- EId (水2) 田婧 (非常勤)
- JIa (水2) 井出克子 (非常勤)
- JIb (水2) 趙冬輝 (非常勤)
- LIa (水1) 史彤春 (非常勤)
- LIb (水1) 松浦恆雄 (文学部)
- MHI (水4) 趙冬輝 (非常勤)
- TIa (水3) 趙冬輝 (非常勤)
- TIb (水3) 井出克子 (非常勤)
- TIcNI (水3) 田婧 (非常勤)

[科目ナンバー : GE CHN 02 01]

掲載番号	科目名	中国語基礎3	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
258	英語表記	Chinese Basic 3						

●科目の主題

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：前期の復習
- 第2週：経験の「过」、介詞「跟」「给」
- 第3週：動詞の進行を表す「在」、主述述語文
- 第4週：様態補語、動詞重ね型
- 第5週：比較を表す「比」、持続を表す「着」
- 第6週～第7週：名詞述語文 変化を表す「了」
- 第8週：「是～的」構文、二つの目的語をもつ文
- 第9週～第10週：結果補語、存現文
- 第11週～第12週：可能補語、使役を表す「让」
- 第13週～第14週：方向補語、受身を表す「被」、「把」の文
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙昕：「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」（白水社）

- CIa (月2) 田 婧 (非常勤)
- CIb (月2) 秋岡 英行 (非常勤)
- CIc (月2) 福田 知可志 (非常勤)
- EIa (月1) 秋岡 英行 (非常勤)
- EIb (月1) 福田 知可志 (非常勤)
- EIc (月1) 韓 艶玲 (非常勤)
- EId (月1) 田淵 欣也 (非常勤)
- JIa (月1) 大岩本 幸次 (文学部)
- JIb (月1) 田 婧 (非常勤)
- LIa (月2) 岩本 真理 (文学部)
- LIb (月2) 韓 艶玲 (非常勤)
- MHI (月3) 長谷川 慎 (非常勤)
- TIa (月4) 王 標 (非常勤)
- TIb (月4) 長谷川 慎 (非常勤)
- TIcNI (月4) 田淵 欣也 (非常勤)

[科目ナンバー : GE CHN 02 02]

掲載番号	科目名	中国語基礎4	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	クラス毎に異なる
259	英語表記	Chinese Basic 4						

●科目の主題

様々な補語や助動詞など、様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：前期の復習
- 第2週：経験の「过」、介詞「跟」「给」
- 第3週：動詞の進行を表す「在」、主述述語文
- 第4週：様態補語、動詞重ね型
- 第5週：比較を表す「比」、持続を表す「着」
- 第6週～第7週：名詞述語文 変化を表す「了」
- 第8週：「是～的」構文、二つの目的語をもつ文
- 第9週～第10週：結果補語、存現文
- 第11週～第12週：可能補語、使役を表す「让」

第13週～第14週：方向補語、受身を表す「被」、「把」の文
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%程度、期末試験60%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

手間を惜しまず、復習と実践をくり返しながら身につけていきましょう。

●教材

竹島毅・趙昕「さあ、中国語を学ぼう！—会話・講読—」白水社

- CIa (水1) 趙 冬輝 (非常勤)
- CIb (水1) 王 標 (非常勤)
- CIc (水1) 大野 陽介 (非常勤)
- EIa (水2) 王 標 (非常勤)
- EIb (水2) 史 彤春 (非常勤)
- EIc (水2) 大野 陽介 (非常勤)
- EId (水2) 田 婧 (非常勤)
- JIa (水2) 井出 克子 (非常勤)
- JIb (水2) 松浦 恆雄 (文学部)
- LIa (水1) 史 彤春 (非常勤)
- LIb (水1) 松浦 恆雄 (文学部)
- MHI (水4) 趙 冬輝 (非常勤)
- TIa (水3) 趙 冬輝 (非常勤)
- TIb (水3) 井出 克子 (非常勤)
- TIcNI (水3) 田 婧 (非常勤)

[科目ナンバー : GE CHN 02 03]

掲載番号	科目名	中国語応用1A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	王 標 (非常勤) 馮 艶 (非常勤) 范 紫江 (非常勤)
260	英語表記	Chinese Applied 1A						

●科目の主題

ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第4週：発音の基礎練習
- 第5週：呼称、挨拶
- 第6週：自己紹介
- 第7週：これは何ですか

- 第8週～第9週：これはいかがですか（1）（2）
- 第10週～第11週：買い物（1）（2）
- 第12週～第14週：どこにありますか（1）（2）
- 第15週：総復習

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40％程度、期末試験60％程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

[科目ナンバー : GE CHN 02 04]

掲載番号	科目名	中国語応用2A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	王 標（非常勤） 馮 艷（非常勤） 范 紫江（非常勤）
261	英語表記	Chinese Applied 2A						

●科目の主題

ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることに留意する。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：何がありますか（1）（2）
- 第3週～第4週：何時に行きますか（1）（2）
- 第5週～第6週：ホテルのフロントで（1）（2）
- 第7週～第8週：タクシーに乗る（1）（2）
- 第9週～第10週：試着と支払い（1）（2）
- 第11週～第12週：苦情を訴える（1）（2）
- 第13週～第14週：紛失届を出す（1）（2）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40％程度、期末試験60％程度とする。平常点は、宿題の提出、暗唱課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

塚本慶一・劉穎：『新版 1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）

[科目ナンバー : GE CHN 02 05]

掲載番号	科目名	中国語応用1B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	田淵 欣也 (非常勤) 張 新民 (文) 大岩本 幸次 (文)
262	英語表記	Chinese Applied 1B						

●科目の主題

前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業の到達目標

「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：既習事項の確認
- 第3週～第6週：中国語の応用能力への導入
- 第7週～第10週：中国語の応用能力の初歩的養成
- 第11週～第14週：中国語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

CIIa 田淵 欣也

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一歩』（白水社）

CIIb 張 新民

陳淑梅・陸薇『ことばと文化 一挙兩得 中級中国語』（朝日出版社）

CIIc 大岩本 幸次

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 02 06]

掲載番号	科目名	中国語応用2B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	田淵 欣也 (非常勤) 張 新民 (文) 大岩本 幸次 (文)
263	英語表記	Chinese Applied 2B						

●科目の主題

中級レベルにふさわしい表現力、読解力の養成に努める。

●授業の到達目標

「基礎1」から「基礎4」で学習した内容を、より自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：＜応用1B＞の既習事項の確認
- 第3週～第6週：中国語の応用能力の拡充
- 第7週～第10週：中国語の応用能力の強化
- 第11週～第14週：中国語の応用能力の仕上げ
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

●受講生へのコメント

ペーパーテストや練習問題は解けるようになっても、外国語で作文や会話で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで理解を深めていきましょう。

●教材

- CⅡa 田淵 欣也
尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一步』(白水社)
- CⅡb 張 新民
陳淑梅・陸薇『ことばと文化 一挙両得 中級中国語』(朝日出版社)
- CⅡc 大岩本 幸次
洪潔清『Chinese Adventure ～DVDで学ぶ中国文化～』(金星堂)

[科目ナンバー : GE CHN 03 01]

掲載番号	科目名	中国語特修1	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	韓 艶玲 (非常勤)
264	英語表記	Chinese Specialised 1						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修1では、飲食、趣味、キャンパス生活、旅行、インターネットなどテーマごとに、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、生の中国語に多く触れてもらい、テーマに沿った最新の中国事情を紹介し、

会話能力の向上と中国文化への理解を主題とする。

●**授業の到達目標**

中国語を用いて広範囲の話題について会話ができ、中国語を母国語とする相手と比較的流暢にコミュニケーションをとることができる。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●**事前・事後学習の内容**

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●**評価方法**

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●**受講生へのコメント**

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●**教材**

守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』（朝日出版社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 02]

掲載番号	科目名	中国語特修2	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	韓 艶玲（非常勤）
265	英語表記	Chinese Specialised 2						

●**科目の主題**

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修2では、飲食、趣味、キャンパス生活、旅行、インターネットなどテーマごとに、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、生の中国語に多く触れてもらい、テーマに沿った最新の中国事情を紹介し、会話能力の向上と中国文化への理解を主題とする。

●**授業の到達目標**

中国語を用いて広範囲の話題について会話ができ、中国語を母国語とする相手と比較的流暢にコミュニケーションをとることができる。

●**授業内容・授業計画**

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は履修制限をおこなう場合がある。

●教材

守屋宏則・柴森：『中国語フィットネス14』（朝日出4版4社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 03]

掲載番号	科目名	中国語特修3	単位数	2	授業形態	演習 講義	担当教員	岩本 真理（文）
266	英語表記	Chinese Specialised 3						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修3では、検定試験を一つの目安として、総合的な学力の向上をめざす。

●授業の到達目標

中国語検定4級のレベルを到達目標とし、リスニング、語彙、文法、作文の各方面で、バランスのとれた語学力の養成をめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

毎回、各自に暗唱を課す。また中国語辞書は必携である。電子辞書、アプリケーションでも許可する。

●教材

相原茂『亜鈴式で鍛える 中国語コロケーション』朝日出版社

[科目ナンバー : GE CHN 03 04]

掲載番号	科目名	中国語特修4	単位数	2	授業形態	演習講義	担当教員	岩本 真理 (文)
267	英語表記	Chinese Specialised 4						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修4では、検定試験を一つの目安として、総合的な学力の向上をめざす。

●授業の到達目標

中国語検定3級のレベルを到達目標とし、リスニング、語彙、文法、作文の各面で、バランスのとれた語学力の養成をめざす。

●授業内容・授業計画

第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

毎回、各自に暗唱を課す。また中国語辞書は必携である。電子辞書、アプリケーションでも許可する。

●教材

相原茂『亜鈴式で鍛える 中国語コロケーション』朝日出版社

[科目ナンバー : GE CHN 03 05]

掲載番号	科目名	中国語特修5	単位数	2	授業形態	演習講義	担当教員	大野 陽介 (非常勤)
268	英語表記	Chinese Specialised 5						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修5では、長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。

●授業の到達目標

中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

宿題を課す頻度が多いので、予習復習は自宅ですっかりとやっておくこと。

●教材

松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 06]

掲載番号	科目名	中国語特修6	単位数	2	授業形態	演習講義	担当教員	大野 陽介 (非常勤)
269	英語表記	Chinese Specialised 6						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修6では、長文読解能力を養うと同時に、新聞・雑誌などで話題となった題材を通じて、多様な側面から現代中国を理解することを目的とする。

●授業の到達目標

中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

宿題を課す頻度が多いので、予習復習は自宅でしっかりとやっておくこと。

●教材

松浦恆雄ほか：『チャイナ・アップデート』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 07]

掲載番号	科目名	中国語特修7	単位数	2	授業形態	演習講義	担当教員	張 新民（文）
270	英語表記	Chinese Specialised 7						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修7では、中国語圏の映画を教材として、その背景を考えながら、せりふの翻訳、朗読を通して、高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成し、中国文化への理解を深める。

●授業の到達目標

中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的に整ったスピーチを行うことができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 03 08]

掲載番号	科目名	中国語特修8	単位数	2	授業形態	演習講義	担当教員	張 新民 (文)
271	英語表記	Chinese Specialised 8						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修8では、中国語圏の映画を教材として、その背景を考えながら、せりふの翻訳、朗読を通して、高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成し、中国文化への理解を深める。

●授業の到達目標

中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的に整ったスピーチを行うことができる。

●授業内容・授業計画

- 第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：中国語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE CHN 03 09]

掲載番号	科目名	中国語特修9	単位数	2	授業 形態	演習 講義	担当教員	范 紫江 (非常勤)
272	英語表記	Chinese Specialised 9						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修9では、「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。

●授業の到達目標

「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

沈国威・安力：『新版トーク・トピックス』（白帝社）

[科目ナンバー : GE CHN 03 10]

掲載番号	科目名	中国語特修10	単位数	2	授業 形態	演習 講義	担当教員	范 紫江 (非常勤)
273	英語表記	Chinese Specialised 10						

●科目の主題

「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスご

とに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。

特修10では、「入門」、「初級」で身に付けた正確な発音を基に自由に会話できることを目標とする。中国人教員が担当、生の中国語に多く触れてもらい、「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行なう。

●授業の到達目標

「話す」力を高め、口頭作文、言い換え、復唱、暗誦などの練習を通して、口頭によるコミュニケーションでよく使われる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで発音できることを目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：中国語の基礎的能力の確認と主題への導入

第2週～第3週：中国語の実践能力の初歩的養成

第4週～第8週：中国語の実践能力の強化

第9週～第14週：中国語の実践能力の発展的養成

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

特修中国語の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、2時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習・復習や、宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

受講希望者がクラスの適正人数を越える場合は、履修制限をおこなう場合がある。

●教材

沈国威・安力：『新版トーク・トピックス』（白帝社）

ロシア語 Russian

カリキュラム概要

ウクライナ問題に端を発する経済制裁や、原油価格の下落により、ロシア経済は現在失速ぎみといわれていますが、2017年には再びプラス成長に転じることが予測されています。その経済的な潜在性とともに、シリア問題等で政治的発言力を強めているロシアから目がはなせません。また、ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアにも目を向けています。日本アニメは相変わらず圧倒的人気を保ち、村上春樹など日本作家の本が書店に並び、日本料理は大人気です。ロシアの魅力は何か、と聞かれたら、かつては、文学（トルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かったように思われますが、広大なロシアの自然、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ラフマーニノフ、ショスタコーヴィチなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、有力選手を輩出するロシアのフィギュアスケート、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きることがありません。ロシア語は国連の公用語のひとつで、世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ソ連の崩壊から20年以上たちましたが、ロシアはつねに変化し続けています。ぜひロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。

[科目ナンバー : GE RUS 01 02]

掲載番号	科目名	ロシア語基礎 1	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	江村 公 (文 特任) バクン・エレナ (非常勤)
274	英語表記	Russian Basic 1						

●科目の主題

平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進めるとともに、ロシア語文法の骨組みを理解するための導入的授業。ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらうために、映像資料なども紹介する。

●授業の到達目標

ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章を的確に音読できるようになるのが第一の目標。第二には、名詞の性と数、格変化の仕組み、動詞の使い方など初歩的な文法機能を理解できるようになること。さらに簡単なあいさつの表現を習得すること。

●授業内容・授業計画

担当者それぞれが創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。担当者それぞれが採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

多くの方がロシア語は難しいと思っているかもしれませんが、なるべくわかりやすくゆっくりと授業を進めていきます。外国人教員の先生方は日本語堪能ですので、心配ありません。

●教材

THI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）適宜プリントを配布

CEJLSMNI (バクン)

プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 01 03]

掲載番号	科目名	ロシア語基礎2	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	江村 公 (文 特任) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)
275	英語表記	Russian Basic 2						

●科目の主題

平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進めるとともに、ロシア語文法の骨組みを理解するための導入的授業。ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらうために、映像資料なども紹介する。

●授業の到達目標

ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章を的確に音読できるようになるのが第一の目標。第二には、名詞の性と数、格変化の仕組み、動詞の使い方など初歩的な文法機能を理解できるようになること。さらに簡単なあいさつの表現を習得すること。

●授業内容・授業計画

担当者それぞれが創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。担当者それぞれが採点した評価点の平均点を算出し、最終的な成績とする。授業ごとの詳細について、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

多くの方がロシア語は難しいと思っているかもしれませんが、なるべくわかりやすくゆっくりと授業を進めていきます。外国人教員の先生方は日本語堪能ですので、心配ありません。

●教材

THI (ズマグロワ)

プリント教材使用

CEJLSMNI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）適宜プリントを配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 01]

掲載番号	科目名	ロシア語基礎3	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	江村 公 (文 特任) バクン・エレナ (非常勤)
276	英語表記	Russian Basic 3						

●科目の主題

前期の授業テキストを引き続き使用し、やさしい日常会話の表現と基本的な文法事項を学習する。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も採用する。

●授業の到達目標

名詞の格変化に慣れ、使いこなせるようになるのが第一の目標。第二には、動詞の体の違いを理解できるようになること。さらに語彙や表現の積み上げを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。授業ごとの詳細は各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

多くの方がロシア語は難しいと思っているかもしれませんが、なるべくわかりやすくゆっくりと授業を進めていきますので、基礎を大切にしながら取り組んでいきましょう。

●教材

THI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）他に適宜プリント配布。

CEJLSMNI (バクン)

プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 02]

掲載番号	科目名	ロシア語基礎4	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤) 江村 公 (文 特任)
277	英語表記	Russian Basic 4						

●科目の主題

前期の授業テキストを引き続き使用し、やさしい日常会話の表現と基本的な文法事項を学習する。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化

の背景を理解してもらうための視聴覚教材も採用する。

●授業の到達目標

名詞の格変化に慣れ、使いこなせるようになるのが第一の目標。第二には、動詞のさまざまな使い方など文法機能を理解できるようになること。さらに語彙や表現の積み上げにも留意する。

●授業内容・授業計画

- 第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。また、テキストの音源を授業前に聞いておき、音に慣れるよう努めるなど、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習、復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

多くの方がロシア語は難しいと思っているかもしれませんが、なるべくわかりやすくゆっくりと授業を進めていきますので、基礎を大切にしておき、着実に取り組んでいきましょう。

●教材

THI (ズマグロワ)

プリント配布

CEJLSMNI [江村]

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』(ナウカ出版) 適宜プリントを配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 03]

掲載番号	科目名	ロシア語応用1A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)
278	英語表記	Russian Applied 1A						

●科目の主題

ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。ロシア語の文字と発音を外国人教師の指導の下、より確実なものにする。学習に参加する学生との交流とロシアの文化理解に焦点をあてた授業を行なう。

●授業の到達目標

文字と発音に慣れ、簡単な表現を習得する事を目標とする。アルファベット・発音、基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数、などの文法事項が理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション (ロシア語・ロシア文化への導入)
- 第2週～第3週：ロシア語の文字と発音の補強
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

授業はさまざまな教材を使用し、授業を進めていきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 04]

掲載番号	科目名	ロシア語応用2A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)
279	英語表記	Russian Applied 2A						

●科目の主題

ロシア語をより集中的に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。外国人教師の指導の下、ロシア語の「聞く・話す・読む・書く」の基本的力を養う。

●授業の到達目標

運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結び付き、造格、完了体・不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞、活動体・不活動体（対格）、以上の文法事項が理解できるようになること。

●授業内容・授業計画

- 第1週：〈応用1A〉既習事項の確認
- 第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充
- 第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化
- 第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

授業はさまざまな教材を使用し、最新のロシア文化事情も紹介しながら、授業を進めていきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 02 05]

掲載番号	科目名	ロシア語応用 1 B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	バクン・エレナ (非常勤)
280	英語表記	Russian Applied 1B						

●科目の主題

役に立つ会話表現を学びながら、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの外国人教員が担当する。色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。

●授業の到達目標

ロシア語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容をより自由に活用できるようになる。挨拶の表現・部屋の中の語彙・教室の語彙・食べ物の語彙・飲み物の語彙・家族の語彙・買い物の語彙などを理解し、実際に運用できるようになることが目標。

●授業内容・授業計画

- 第 1 週：既習事項の確認
- 第 2 週～第 3 週：ロシア語応用能力の導入
- 第 4 週～第 9 週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第 10 週～第 14 週：ロシア語応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ 1 時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点 50%、学期末試験 50% で評価。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

さまざまな資料を用いて、授業を行ない、現代ロシアの最新の文化についても紹介していきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級（南雲堂フェニックス）

[科目ナンバー : GE RUS 02 06]

掲載番号	科目名	ロシア語応用 2 B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	バクン・エレナ (非常勤)
281	英語表記	Russian Applied 2B						

●科目の主題

役に立つ会話表現を学びながら、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの外国人教員が担当する。色々な話題についてロシア語で聴いたり、話したりすることを目指して、語彙、表現を学習する。仕事、スポーツ、生活面で注目されている話題にも触れる機会を持つ。

●授業の到達目標

ロシア語「基礎 1」から「基礎 4」で学習した内容を、より自由に活用できるようになる。挨拶の表現・部屋

の中の語彙・教室の語彙・食べ物・飲み物の語彙・家族の語彙・買い物の語彙などを理解し、実際に運用できるようになることが目標。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習事項の確認
- 第2週～第3週：ロシア語応用能力の導入
- 第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は授業で説明する。

●受講生へのコメント

さまざまな資料を用いて、授業を行ない、現代ロシアの最新の文化についても紹介していきます。楽しく勉強しましょう。

●教材

ディヴォフスキイ、北岡千夏著『会話で学ぶロシア語』初級、中級（南雲堂フェニックス）

[科目ナンバー : GE RUS 03 01]

掲載番号	科目名	ロシア語特修 1	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	江村 公 (文 特任)
282	英語表記	Russian Specialized 1						

●科目の主題

復習を兼ねながら、基礎で触れていない文法事項を取り上げ、ロシア語の総合力の完成を目指す。視聴覚教材を用いてロシアの文化を紹介し、その現代的課題についても考える授業。

●授業の到達目標

移動の動詞の特徴、形容詞の比較級、最上級、簡単な関係代名詞が理解でき、運用できるようになることが目標。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習内容の確認
- 第2週～第3週：ロシア語の動詞と形容詞について
- 第4週～第9週：ロシア語実践的能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：映画の鑑賞と役立つ表現についての理解

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加・小テストによる平常点50%、学期末試験50%で評価。詳細は初回の授業で詳しく説明する。

●受講生へのコメント

テキストを使用しながら、ロシアを旅行したり、生活したりするための役に立つ表現を習得していきたいと思っ
ます。さらに映画の鑑賞を通して、ロシアの文化事情についても学んでいきましょう。

●教材

古賀義顕、鴻野わか菜、アンナ・パニーナ著『ロシア語の教科書』（ナウカ出版）他に適宜プリントを配布する。

[科目ナンバー : GE RUS 03 02]

掲載番号	科目名	ロシア語特修2	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	江村 公 (文 特任)
283	英語表記	Russian Specialized 2						

●科目の主題

読解のための文法事項の確認を行なったうえで、インターネット上のロシア語記事を読む。それにあわせて、映
画の鑑賞を通して、ロシアの歴史と文化を学び、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

●授業の到達目標

辞書を使い、簡単な文章が読めるようになるのが第一の目標。インターネットで自身の関心のあるトピックを見
つけるなど、情報リテラシーを高めることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習内容の確認
- 第2週～第3週：関係代名詞、関係副詞、形動詞など文法確認
- 第4週～第9週：ロシア語文章講読
- 第10週～第14週：映画鑑賞によるロシア語能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程
度の予習・復習（合計2時間）を行うことが望ましい。

●評価方法

授業毎の予習が義務づけられ、割り当てされた範囲は訳出してから出席することが前提となるため、出席・授業
参加による評価を行なう。詳細は初回の授業で詳しく説明する。

●受講生へのコメント

使用テキストについては、授業参加者の関心にあわせて選択する予定。

●教材

プリント教材使用

[科目ナンバー : GE RUS 03 03]

掲載番号	科目名	ロシア語特修3	単位数	2	授業 形態	演習	担当教員	ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)
284	英語表記	Russian Specialized 3						

●科目の主題

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をし
つつ、会話と読解の力の向上を目指す。『ロシア語教程I』の第12課まで復習しつつ、より高度な文法事項につ

いて学び、コミュニケーション能力の養成を行なう授業。

●授業の到達目標

関係代名詞の用法、無人称文（副詞と述語）、数詞（40－2000）、動詞の体（その3）、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体（その4）、体調の表現、西暦年代を理解し、運用できるようになるのが目標。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習内容の確認
- 第2週～第3週：ロシア語の文法の補強
- 第4週～第9週：ロシア語実践能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語実践能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席・授業参加による平常点と定期試験で評価。詳細は授業で詳しく説明する。

●受講生へのコメント

さまざまな資料を用いて、グループワークなどを交えつつ、実践的な授業を行ないます。楽しく勉強していきましょう。

●教材

プリント配布

[科目ナンバー : GE RUS 03 04]

掲載番号	科目名	ロシア語特修4	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)
285	英語表記	Russian Specialized 4						

●科目の主題

『ロシア語教程Ⅰ』の内容の残りを仕上げ、コミュニケーティブ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。

●授業の到達目標

数量の表現、複数生格、数詞、動詞の体（その5）、活動体対格（複数）、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞を理解し、運用できるようになるのが目標。

●授業内容・授業計画

- 第1週：既習内容の確認
- 第2週～第3週：ロシア語文法の補強
- 第4週～第9週：ロシア語実践能力の初歩的養成
- 第10週～第14週：ロシア語実践能力の発展的養成

●事前・事後学習の内容

授業時間内に指示する。新しく習った文法事項はかならず復習しておくこと。各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

出席点・授業参加による平常点と定期試験で評価。詳細は授業で詳しく説明する。

●**受講生へのコメント**

さまざまな資料を用いて、グループワークなどを交えつつ、実践的な授業を行ないます。楽しく勉強していきましょう。

●**教材**

プリント配布

朝鮮語 Korean

カリキュラム概要

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

[科目ナンバー : GE KOR 01 02]

掲載番号	科目名	朝鮮語基礎 1	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	金 月徳 (非常勤)
286	英語表記	Korean Basic 1						

●科目の主題

「基礎1」は「基礎2」との同時履修科目（片方みの履修は不可）で朝鮮語初学者を対象とし、文字と発音のしくみ、文の構造や用言の活用形、韓国・朝鮮の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：入門篇（朝鮮語・韓国朝鮮文化への導入）
- 第2週～第3週：ハングルの発音、単語の読み方と音韻変化
- 第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

●受講生へのコメント

朝鮮語はもっとも日本語に近い言語です。語順はほぼ同じで、漢字語の多くは共通なので学びやすいのですが、表音文字であるハングルを使いこなすのがポイント。何より音に慣れましょう。

●教材

すべてのクラスで共通の教材を用います。

『ミニマム韓国語』 高秀賢 （国書刊行会）

[科目ナンバー : GE KOR 01 03]

掲載番号	科目名	朝鮮語基礎2	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	北島 由紀子(文 特任) 金 宝英 (文 特任)
287	英語表記	Korean Basic 2						

●科目の主題

「基礎2」は「基礎1」との同時履修科目（片方だけの履修は不可）で、朝鮮語初学者を対象とし、文字と発音のしくみ、文の構造や用言の活用形、韓国・朝鮮の文化について学ぶ。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示する。

●授業の到達目標

簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：入門篇（朝鮮語・韓国朝鮮文化への導入）
- 第2週～第3週：ハングルの発音と単語の読み方と音韻変化
- 第4週～第8週：朝鮮語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：朝鮮語の基礎的な総合能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

「基礎1」と「基礎2」の各担当者が協議して同一の成績をつける。定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。詳細は教員に確認すること。

●受講生へのコメント

朝鮮語はもっとも日本語に近い言語です。語順はほぼ同じで、漢字語の多くは共通なので学びやすいのですが、表音文字であるハングルを使いこなすのがポイント。何より音に慣れましょう。

●教材

すべてのクラスで共通の教材を用います。

『ミニマム韓国語』 高秀賢 （国書刊行会）

[科目ナンバー : GE KOR 02 01]

掲載番号	科目名	朝鮮語基礎3	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	野崎 充彦(文)
288	英語表記	Korean Basic 3						

●科目の主題

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、ヘヨ体を用いた「です・ます」形、勧誘や願望を表す表現、過去形などについて学ぶとともに、朝鮮語の能力を総合的に問う教科書付随の検定模擬問題にも挑戦し、既習文法の定着を促す。授業では、テキストの他にCD等を用いて、聴覚情報を提示する。

●授業の到達目標

日常会話で多用される「です・ます」形、過去の時制、勧誘、願望、敬語表現などの文法を理解し、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認
- 第3週～第6週：朝鮮語の基礎的な文法知識の拡充(教科書13課～17課)
- 第7週：朝鮮語の基礎的文法の確認と強化 (中間試験)
- 第8週～第11週：朝鮮語の基礎的な文法の拡充 (教科書18課～20課)
- 第12週～第14週：朝鮮語の基礎的な文法知識の強化と仕上げ
- 第15回：まとめ (期末試験)

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

定期試験の他、中間試験、小テスト、平常点(出席を含む)などにより評価する。

●受講生へのコメント

朝鮮語を読む・書く・話す・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識を確実に定着させていく必要があり、そのためには知識の導入と練習の反復が不可欠です。特に復習をしっかりと行うことで新しく習い始めた語学において、できる・わかるが増えていく楽しさを実感してください。

●教材

『ミニマム韓国語』 高秀賢 (国書刊行会)

[科目ナンバー : GE KOR 02 02]

掲載番号	科目名	朝鮮語基礎 4	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	北島 由紀子(文 特任) 金 宝英 (文 特任)
289	英語表記	Korean Basic 4						

●科目の主題

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、ヘヨ体を用いた「です・ます」形、勧誘や願望を表す表現、過去形などについて学ぶとともに、朝鮮語の能力を総合的に問う教科書付随の検定模擬問題にも挑戦し、既習文法の定着を促す。

●授業の到達目標

日常会話で多用される「です・ます」形、過去の時制、勧誘、願望、敬語表現などの文法を理解し、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週～第2週：「基礎1」、「基礎2」の既習事項の確認 (教科書1課～9課)
- 第3週～第6週：朝鮮語の基礎的な文法知識の拡充(教科書10課～13課)
- 第7週：朝鮮語の基礎的文法の確認と強化 (中間試験)
- 第8週～第11週：朝鮮語の基礎的な文法の拡充 (教科書14課～16課)
- 第12週～第14週：朝鮮語の基礎的な文法知識の強化と仕上げ (ハングル検定模擬問題、作文練習等)
- 第15回：まとめ (期末試験)

●事前・事後学習の内容

事前・事後の学習としてはテキストの予習、復習や宿題、また試験の準備等があげられる。目安としては1回の授業につき1時間以上の復習をすることが望ましい。詳細は各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験の他、中間試験、小テスト、平常点（出席を含む）などにより評価する。

●受講生へのコメント

朝鮮語を読む・書く・話す・聞くといった実践に結びつけるには、文法知識を確実に定着させていく必要があり、そのためには知識の導入と練習の反復が不可欠です。特に復習をしっかりと行うことで新しく習い始めた語学において、できる・わかるが増えていく楽しさを実感してください。

●教材

北島由紀子：改訂版『パランセ韓国語初級－ハングル能力検定試験5級完全準拠』金京子他
朝日出版社 2013年
金宝英：基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 木内明著 国書刊行会

[科目ナンバー : GE KOR 02 03]

掲載番号	科目名	朝鮮語応用 1 A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	金 静愛 (文 特任)
290	英語表記	Korean Applied 1A						

●科目の主題

朝鮮語「基礎1」、「基礎2」履修中の者を対象として、「基礎1」「基礎2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみや文の構造について学ぶとともに、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

「基礎1」および「基礎2」で学習した内容を自由に活用できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション（朝鮮語・朝鮮語圏文化への導入）
- 第2週～第3週：朝鮮語の文字と発音
- 第4週～第8週：朝鮮語の応用能力の初歩的養成（第1～5課）
- 第9週～第14週：朝鮮語の応用能力の発展的養成（第6～10課）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

定期テスト2回：50%、出席：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

生越直樹（著）『ことばの架け橋』改訂版

[科目ナンバー : GE KOR 02 04]

掲載番号	科目名	朝鮮語応用2A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	金 静愛（文 特任）
291	英語表記	Korean Applied 2A						

●科目の主題

応用1Aで学んだことを踏まえ、様々な語法や表現の学習を進めるとともに、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを行う。

●授業の到達目標

応用1Aで学習した内容をさらにレベルアップすることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：イントロダクション（応用1Aの復習）
- 第2週～第7週：朝鮮語の応用能力の初歩的養成（第11～16課）
- 第9週～第14週：朝鮮語の応用能力の発展的養成（第17～20課）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や復習、宿題、テストや発表の準備など。授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する予定のため、各自講義で学んだことを復習するなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

定期テスト2回：50%、出席：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語で伝えたいことを発信するのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

生越直樹（著）『ことばの架け橋』改訂版

[科目ナンバー : GE KOR 02 05]

掲載番号	科目名	朝鮮語応用1B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	金 静愛（文 特任）
292	英語表記	Korean Applied 1B						

●科目の主題

朝鮮語基礎を履修した者を対象として、コミュニケーション能力を高める訓練をしながら、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを積極的に行う。

●授業の到達目標

基礎で学んだ内容をもとに、より自然なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：既習事項の確認
 第2週～第3週：朝鮮語のコミュニケーション能力への導入（第1～2課）
 第4週～第8週：朝鮮語のコミュニケーション能力の初歩的養成（第3～5課）
 第9週～第14週：朝鮮語のコミュニケーション能力の発展的養成（第6～10課）
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や宿題をきちんと行い、疑問点があればそのつど教員に質問し、正確な理解を身につけることが大切である。

●評価方法

定期テスト2回：50%、出席：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語でコミュニケーションをとるのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

吉本一他（著）『みんなの韓国語2』

[科目ナンバー : GE KOR 02 06]

掲載番号	科目名	朝鮮語応用2B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	金 静愛（文 特任）
293	英語表記	Korean Applied 2B						

●科目の主題

応用1A履修した者を対象として、コミュニケーション能力を高める訓練をしながら、朝鮮半島の文化についても学習する。授業では、テキストの他にCDやDVDなどを用いて、聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などを積極的に行う。

●授業の到達目標

基礎で学んだ内容をもとに、より自然なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1週：既習事項の確認
 第2週～第7週：朝鮮語のコミュニケーション能力の基礎的養成（第10～15課）
 第9週～第14週：朝鮮語のコミュニケーション能力の発展的養成（第16～20課）
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

テキストの予習や復習、宿題、テストや発表の準備など。授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する予定のため、各自講義で学んだことを復習するなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

定期テスト2回：50%、出席：30%、平常点（小テスト、提出物ふくむ）：20%

●受講生へのコメント

試験や練習問題はできるようになっても、外国語でコミュニケーションをとるのは難しいものです。習った知識を実践することで朝鮮語の理解を深めていきましょう。

●教材

吉本一他（著）『みんなの韓国語2』

[科目ナンバー : GE KOR 03 01]

掲載番号	科目名	朝鮮語特修1	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	野崎 充彦（文）
294	英語表記	Specialised Korean 1						

●科目の主題

朝鮮語特修1では生の言語に慣れるため、TVドラマや映画などの視覚・聴覚教材を用い、そこに出てくる語法や表現・語彙の聞き取りや理解のトレーニングに励む。さらに、物語の背景となる韓国文化についても解説を加える。なお、受講生の希望に応じ、検定試験対策にも取り組む。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

第1週：入門篇： 韓国ドラマ・映画の世界

第2週～第14週： TVドラマや映画に出てくる語法と表現・語彙（検定試験対策）

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

予習よりも徹底した復習と反復練習が必要である。

●評価方法

平常点（50%）、定期試験（50%）

●受講生へのコメント

語学的な知識だけでなく、韓国文化や社会への関心を高めてることを望む。

●教材

プリント

[科目ナンバー : GE KOR 03 02]

掲載番号	科目名	朝鮮語特修2	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	金 宝英（文 特任）
295	英語表記	Specialised Korean 2						

●科目の主題

朝鮮語特修2ではより実践的な場面での会話の想定し学習内容を構成する。まず学んだ文法を生かして文章の読み、作文、聴解、会話を通じて応用力を高める練習をする。さらに会話の背景となる韓国文化について韓国のドラマやK-popを用いてより理解を高める。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：朝鮮語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：朝鮮語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：朝鮮語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：朝鮮語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に提示した単語を覚え授業に備える。また習った会話は丸暗記し、応用会話ができるようにする。

●評価方法

会話ミニテスト（20%）、中間試験（30%）、定期試験（50%）

●受講生へのコメント

朝鮮語学習を深めてきた学生には、より高い完成度を目指す授業内容。
今後の学習にもつながるように、受講者は自主的に学習の方法を工夫するようにする。

●教材

プリント授業
西江韓国語 2A（西江大学国際文化教育院出版部）

[科目ナンバー : GE KOR 03 03]

掲載番号	科目名	朝鮮語特修3	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	野崎 充彦（文）
296	英語表記	Specialised Korean 3						

●科目の主題

朝鮮語特修3では特修1で学んだことを踏まえ、さらに高度な実力養成をめざす。TVドラマや映画などの視覚・聴覚教材を用いて、語法や表現・語彙の聞き取りや理解のトレーニングし、さらに物語の背景となる韓国文化についても解説を加える。なお、受講生の希望に応じ、検定試験対策にも取り組むことも1と同様である。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：入門篇： 韓国ドラマ・映画の世界
- 第2週～第14週： TVドラマや映画に出てくる語法と表現・語彙（検定試験対策）
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

予習よりも徹底した復習と反復練習が必要である。

●評価方法

平常店（50%）、定期試験（50%）

●受講生へのコメント

語学的な知識だけでなく、韓国文化や社会への関心を高めてることを望む。

●教材

プリント

[科目ナンバー : GE KOR 03 04]

掲載番号	科目名	朝鮮語特修4	単位数	2	授業形態	演習	担当教員	金 宝英 (文 特任)
297	英語表記	Specialised Korean 4						

●科目の主題

朝鮮語特修4では特修2で学んだことを小祖に、さらに実践的な場面での会話を想定して学習を進める。文章読解、作文、ヒアリング、会話を通じて応用力を高める。さらに韓国文化について韓国のドラマやK-popを用いてより理解を高める。

●授業の到達目標

読み、書き、聞く、話す4技能が韓国語能力試験3級レベルまでの到達を目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：朝鮮語の基礎的能力の確認と主題への導入
- 第2週～第3週：朝鮮語の実践能力の初歩的養成
- 第4週～第8週：朝鮮語の実践能力の強化
- 第9週～第14週：朝鮮語の実践能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に提示した単語を覚え授業に備える。また習った会話は丸暗記し、応用会話ができるようにする。

●評価方法

会話ミニテスト (20%)、中間試験 (30%)、定期試験 (50%)

●受講生へのコメント

朝鮮語学習を深めてきた学生には、より高い完成度を目指す授業内容。
今後の学習にもつながるように、受講者は自主的に学習の方法を工夫するようにする。

●教材

プリント

日本語 Japanese

カリキュラム概要

日本語は、他の言語と同様に、じつに奥の深い言語である。ことばが文化と密接に関連していることを考えれば、日本語の習得は日本文化・日本社会の理解とも無縁ではない。本講座は、留学生の日本語力向上と、それに付随する日本文化理解を目的としている。

留学生にとって日本語の習得は容易なことではない。もちろん「日本語の習得」といっても、その内容も基準も、状況に応じて様々である。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアの中で使われる日本語の新しい言葉を通しての趣味・娯楽など、個々人の必要度に応じて、どこが「習得」の基準になるかが決まる。しかしここでは、研究活動や大学生活において必要な日本語の習得をめざしている。

大学生活を更に豊かなものにするため、学習活動や研究活動のために必要となる日本語能力を身につけること。つまり、学習活動に必要な日本語能力とは、講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力である。また、研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで要約し、自分の問題意識を絞ってゼミで発表する、質疑応答してディスカッションする技術、さらにはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。そして、本講座の最終目標は、言葉の学習を通して、日本語の豊かさを知り、ことばや日本文化や日本社会の特質や特性を考えて、個々人の専門分野や個人研究のなかでさらに問題意識を追求していくことである。

「日本語1～5」ではそのような日本語能力の養成を、幅広い観点・多彩な角度からおこなう。なお、各講座、内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

[科目ナンバー : GE JPN 03 01]

掲載番号	科目名	日本語1A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	堀 まどか (文)
298	英語表記	Japanese 1A						

●科目の主題

本科目では、「ニュースを読む」なかで、日本語の基礎を確認しながら、日本の現代社会について学び、はばひろい知識と教養を深める。新聞記事やニュース記事から導きだされる疑問や課題について、いかに他者と話題を共有し、ディスカッションをふかめるかを学ぶ。日本語の能力の「読む・聞く・話す」の3つを、バランスよく伸ばす。

●授業の到達目標

大学生活や卒業後に必要となる日本語能力をやしなうこと。①高度な論説文や新聞記事の読解力をつける。②難しい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。④時事問題や広い分野の専門的課題について、討論する技術をつける。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本の現代社会への関心と導入
- 第4週～第8週：日本語の基礎能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の基礎能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

出席、発表、授業内でのディスカッション、レポートなどにより、総合的に評価する。出席日数、学習意欲や授業参加は、非常に重要な評価軸となる。

●受講生へのコメント

専門分野の異なる仲間たちとともに、これまで習ってきた日本語の知識を実践的に使用し、日本語運用能力を高めていこう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 02]

掲載番号	科目名	日本語1B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	堀 まどか (文)
299	英語表記	Japanese 1B						

●科目の主題

本科目では、時事問題を中心に、日本語の基礎を確認しながら応用力を身につけ、日本の現代社会についての教養を深めるものである。日本語の能力の「読む・聞く・話す・書く」の4つを、バランスよく伸ばす。新聞記事やニュース記事から導きだされる疑問や課題について、他者と話題をいかに共有し、ディスカッションをふかめるかを学ぶ。

●授業の到達目標

大学生活や卒業後に必要となる日本語能力をやしなうこと。①高度な論説文や新聞記事の読解力をつける。②難しい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。④時事問題や広い分野の専門的課題について、討論する技術をつける。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・印象づける自己紹介や発表の方法について
- 第2週～第3週：日本の現代社会への関心と導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

出席、発表、授業内でのディスカッション、レポートなどにより、総合的に評価する。出席日数、学習意欲や授業参加は、非常に重要な評価軸となる。

●受講生へのコメント

外国語で自分の思いを伝えたり発信することは、案外難しい。これまで培ってきた日本語の知識を実践・応用しながら、異文化コミュニケーションを楽しもう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 03]

掲載番号	科目名	日本語2A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	坂本 美加 (非常勤)
300	英語表記	Japanese 2A						

●科目の主題

簡単な作文トレーニングを通じて、レポート・論文といった、アカデミック・ライティング能力の向上を目指す。レポートや論文を書くために必要な基礎的事項を学ぶ。

●授業の到達目標

大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。特に、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力、レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。

●受講生へのコメント

文章を書くことに苦手意識を持つ留学生は多い。しかし、学習活動では限られた時間の中での論述試験や多くのレポート課題に取り組まなければならない。文章の構成や論理の組み立て方を学び、練習課題を数多くこなすことで作文力を身につけ、苦手意識をぜひ克服してほしい。

●教材

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

[科目ナンバー : GE JPN 03 04]

掲載番号	科目名	日本語2B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	坂本 美加 (非常勤)
301	英語表記	Japanese 2B						

●科目の主題

レポート・論文を書くための作文トレーニングを行う。特に、アカデミック・ライティングで必要とされる論理的な文章の構成、展開方法、要約のしかたについて学ぶ。

●授業の到達目標

大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。特に、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力、レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価する。

●受講生へのコメント

文章を書くことに苦手意識を持つ留学生は多い。しかし、学習活動では限られた時間の中での論述試験や多くのレポート課題に取り組まなければならない。文章の構成や論理の組み立て方を学び、練習課題を数多くこなすことで作文力を身につけ、苦手意識をぜひ克服してほしい。

●教材

二通信子・佐藤不二子『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）他、適宜プリントを配付する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 05]

掲載番号 302	科目名	日本語3A	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	堀 まどか (文)
	英語表記	Japanese 3A						

●科目の主題

本科目では、日本語で書かれた文学作品に触れるなかで、①日本語の基礎を確認し、②日本での研究や学習に励むための、基礎知識や文化理解、研究の視点を身に付け、③日本の文化社会について考え、国際的な課題に応用する視点を養う。テキストは、日本語と英語の両方が存在するものを使用し、語彙や表現を比較して「翻訳」の方法に注意しながら、丁寧によんでいく。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本語の能力のなかの、とくに「読む」力をつけることを中心に、「聞く、話す、書く」の3つをバランスよく伸ばすことをめざす。「日本語」翻訳や通訳に関心をもつ学生にとっての、基礎力を養う。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認

第2週～第3週：日本語の基礎的能力の初歩的養成
 第4週～第8週：日本語の基礎的能力の応用的養成
 第9週～第14週：日本語の応用能力の養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点（出席、発表、授業内でのディスカッション、レポート）を主体にして、総合的に評価する。詳細については、授業内に説明する。

●受講生へのコメント

この科目は、N1～N4レベルまでの様々な日本語能力の学生が受講可能です。一人一人の能力と意欲に合わせて、無理なく授業を進めていきます。焦らずにじっくり日本語に取り組みましょう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 06]

掲載番号 303	科目名	日本語3B	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	堀 まどか (文)
	英語表記	Japanese 3B						

●科目の主題

本科目では、日本語で書かれた文学作品に触れるなかで、①日本語の基礎を確認し、②日本での研究や学習に励むための、基礎知識や文化理解、研究の視点を身に付け、③日本の文化社会について考え、国際的な課題に応用する視点を養う。テキストは、日本語と英語の両方が存在するものを使用し、語彙や表現を比較して「翻訳」の方法に注意しながら、丁寧によんでいく。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本語の能力のなかの、とくに「読む」力をつけることを中心に、「聞く、話す、書く」の3つをバランスよく伸ばすことをめざす。「日本語」翻訳や通訳に関心をもつ学生にとっての、応用力を養う。

●授業内容・授業計画

第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
 第2週～第5週：日本語の基礎的能力の養成
 第6週～第9週：日本語の応用能力の初歩的養成
 第10週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

平常点（出席、発表、授業内でのディスカッション、レポート）を主体にして、総合的に評価する。詳細については、授業内に説明する。

●受講生へのコメント

日本で長く愛されてきた文学作品の精読を通して、日本社会や文化、歴史について、幅広い関心と教養を深めていきましょう。学生たちが共に教え合い、話し合い、学びあう場にしましょう。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 07]

掲載番号	科目名	日本語 4 A	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	坂本 美加（非常勤）
304	英語表記	Japanese 4A						

●科目の主題

口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が興味・関心を持っている社会問題などからテーマを選んでプレゼンテーションを行い、そのテーマについてクラス全員でディスカッションする。また、発表スライド、発表レジュメを作成する際の日本語表現の復習を行う。

●授業の到達目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。日本語「1, 2」で学習した内容を、より高度に運用できることを目標とする。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

発表及びレポート、平常点（出席をふくむ）等により評価する。

●受講生へのコメント

相手に伝える技術を学ぶだけでなく、質疑応答、ディスカッションにも積極的に参加し、日本語運用能力を向上させるように取り組むこと。

●教材

鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（スリーエーネットワーク）他。

[科目ナンバー : GE JPN 03 08]

掲載番号	科目名	日本語 4B	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	坂本 美加 (非常勤)
305	英語表記	Japanese 4B						

●科目の主題

口頭発表技術を高める活動を中心に行う。歌舞伎、文楽、茶の湯、生け花などの日本の伝統的な芸能・文化を題材に、理解した内容を正確に自分のことばでまとめて伝えるプレゼンテーション能力を身につけるためのトレーニングを行う。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするが、正規留学生の受講も歓迎する。協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。自分が得た知識や自分の考えをより自由に発信できるようになることを目標とする。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- 第1週：オリエンテーション・既習事項の確認
- 第2週～第3週：日本語の応用能力への導入
- 第4週～第8週：日本語の応用能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：日本語の応用能力の発展的養成
- 第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

発表およびレポート、平常点（出席をふくむ）等により評価する。

●受講生へのコメント

相手に伝える技術を学ぶだけでなく、質疑応答にも積極的に参加し、日本語運用能力を向上させるように取り組むこと。

●教材

プリント配付。

[科目ナンバー : GE JPN 03 09]

掲載番号	科目名	日本語 5A	単位数	1	授業 形態	演習	担当教員	高坂 史朗 (非常勤)
306	英語表記	Japanese 5A						

●科目の主題

日本語によるプレゼンテーションにより、日本語の総合的運用力を高める。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本の文化について、学生（留学生）が関心のあるテーマを掲げ、それについて調査・研究し、発表する。日本での生活を体験する中で日本とその文化の特徴を考え、自分の日本研究の核を形成する。

それぞれの学生がプレゼンテーションすることによって、日本語の表現能力を高める。母国での日本語学習が2年間（120時間）日本語能力N3以上が望ましい。

●授業内容・授業計画

第1週：オリエンテーション・既習事項の確認

第2週～第3週：日本文化の諸相

第4週～第8週：学生の日本文化についての発表を中心に授業を進める

第9週～第14週：日本の文化についてのディスカッション

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

授業時の発表やそれへの参加・発言などで評価する。また最終レポートを課せる。

●受講生へのコメント

日本語の学習には日常生活の体験や日々の学習ばかりではなく、自分の関心のあるテーマを核として日本の文化に自ら関わってゆくことが重要である。その問題意識を形成することを目標にする。

●教材

授業時に指示する。

[科目ナンバー : GE JPN 03 10]

掲載番号	科目名	日本語5B	単位数	1	授業形態	演習	担当教員	高坂 史朗（非常勤）
307	英語表記	Japanese 5B						

●科目の主題

日本語によるプレゼンテーションにより、日本語の総合的運用力を高める。

※なお、この授業は交換留学生を対象とするので、協定校からの交換留学生は必ず履修すること。

●授業の到達目標

日本の都市について、学生（留学生）が関心のある都市・地域を掲げ、それについて調査・研究し、発表する。日本の各地を見聞する中でその都市とその文化の特徴を考え、自分の日本の研究の主題を形成する。

それぞれの学生がプレゼンテーションすることによって、日本語の表現能力を高める。母国での日本語学習が2年間（120時間）日本語能力N3以上が望ましい。

●授業内容・授業計画

第1週：オリエンテーション・既習事項の確認

第2週～第3週：日本の都市とその文化

第4週～第8週：学生の日本の都市についての発表を中心に授業を進める

第9週～第14週：日本の都市についてのディスカッション

第15週：まとめ

●事前・事後学習の内容

外国語科目の単位は、学習時間として1回の授業時間に加え、1時間の自習を前提としている。事前・事後の学習としてはテキストの予習や宿題、テストや発表の準備等があげられるが、具体的な内容については各担当教員の指示に従うこと。

●評価方法

授業時の発表やそれへの参加・発言などで評価する。また最終レポートを課せる。

●受講生へのコメント

日本語の学習には日常生活の体験や日々の学習ばかりではなく、自分の関心のあるテーマを核として日本の文化に自ら関わってゆくことが重要である。大阪を中心に日本の諸都市を考察することによって日本へのアプローチの仕方を形成することを目標にする。

●教材

授業時に指示する。

5. 健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

学習の意義

近年の著しい科学技術の発達、生活の利便性を向上させる一方で、人々の健康に大きな影を落としている。日常生活における機械化、電動化、モータリゼーションの発達等による運動不足が「生活習慣病」の要因であることは周知の事実である。かつて成人病と呼ばれたこの疾患は、もはや子ども世代にも深刻な問題を投げかけており、生涯を通して身体運動を実践することの重要性が指摘されている。発育発達の完成期を迎える大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学び、かつ体験することは、将来健康で豊かな社会生活を送るために必要不可欠なものである。

本科目では、1) 健康・スポーツ科学講義、2) 健康・スポーツ科学実習を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通してスポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

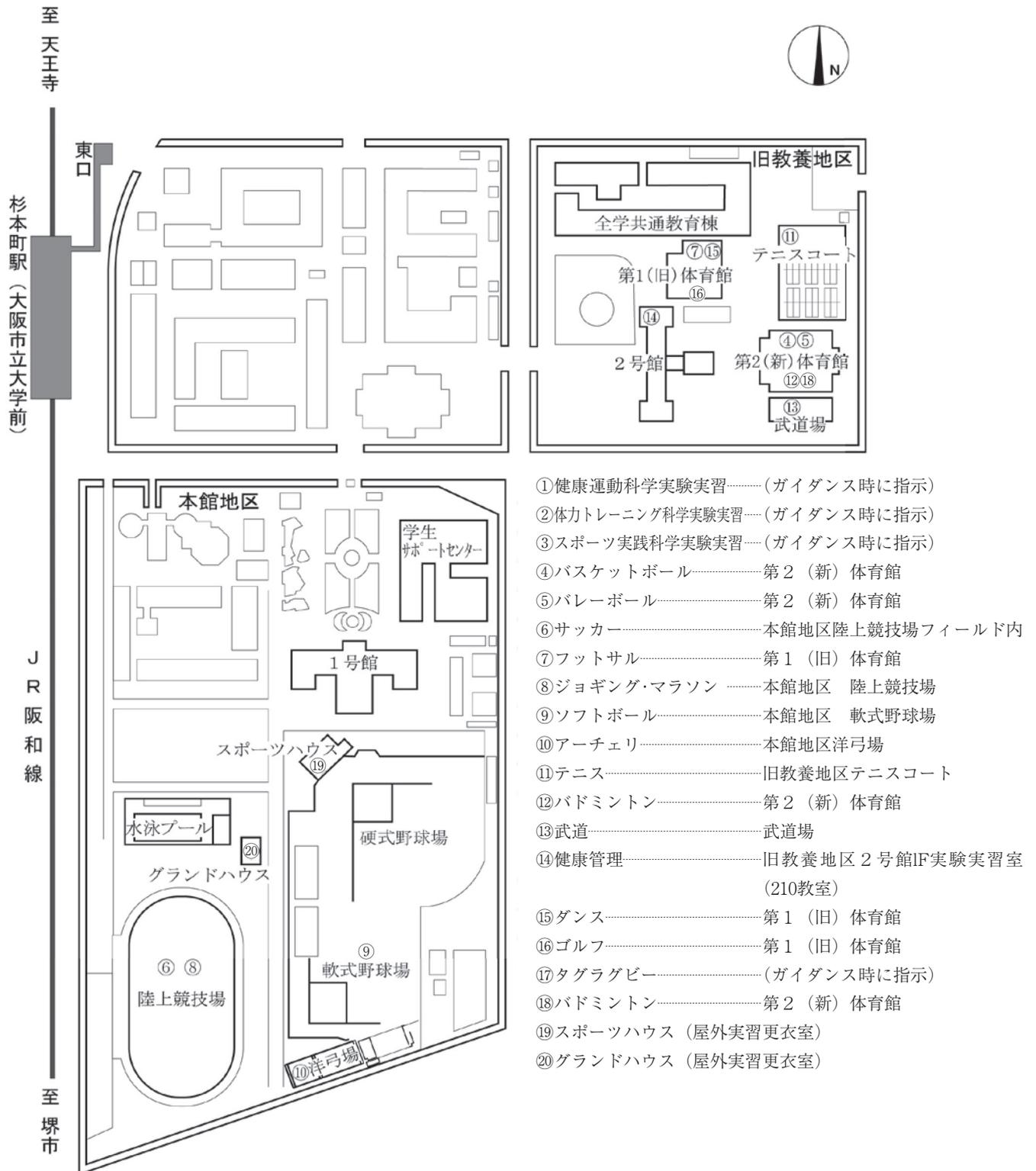
- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部の指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学講義（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 講義の履修希望者が授業定員を上回る場合、抽選により履修を制限することがある。この場合、当選者は辞退できない。
- (5) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (6) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (7) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (8) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (9) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (10) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (11) 実習を履修しようとする者は、各自で傷害保険等に加入しなければならない。
- (12) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者に対しては、「健康管理1」を開講している。
- (13) 健康上の事由により、学期途中で実習を履修できなくなった者は、担当教員の指示を受けなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示を受けなければならない。
- (14) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理1への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (15) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (16) 実習に関するその他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途全学ポータル及び第1体育館前「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館横の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

○実習授業時の集合場所

(注) 前期・後期第1週は実習ガイダンスを行う。実習ガイダンスの場所は全学ポータル及び第1体育館前に掲示する。



[科目ナンバー : GE HEA 01 01]

掲載番号	科目名	健康運動科学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
308	英語表記	Exercise Science for Health						

●科目の主題

日本人の寿命は、女性87.05歳、男性80.79歳であるが、健康寿命（日常生活に制限のない期間）は10歳程度短い。また、国民医療費は増加が続き41兆円を超えている。このような日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、健康増進法やスポーツ基本法などに基づいた「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため、「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない3要素（栄養、運動、休養）の一つである。また、スポーツは、世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利でもある。

人間の体の仕組みと運動が健康に及ぼす効用について理解し、運動・スポーツを享受し、健康寿命の延伸に寄与する健康運動（生涯スポーツ）を創造するための最新の運動・スポーツ科学について教授する。

●授業の到達目標

現代社会における人間の健康において、運動がいかに重要な役割を果たしているのかを理解するとともに、種々の運動に対するからだの適応と運動が及ぼす効果について理解し、自身が目的に応じた運動実践の方法を理解する。生涯を通じて、運動を享受して実践することができる知識を習得することを目標とする。

● 授業内容・授業計画

- ・現代社会における健康（ガイダンス）（1）
 - ・現代社会における健康の理解
 - ・健康と運動・スポーツ科学について
- ・健康・体力について（2～5）
 - ・健康と体力のとらえ方
 - ・身体組成、肥満

- ・筋の構造と特徴
- ・骨格筋の形態や機能に及ぼす影響
- ・エネルギー代謝・健康とコンディショニング（6～7）
 - ・ストレッチング、ウォームアップ、クールダウン、アイシング、RICE処置
 - ・熱中症と運動時の水分補給
- ・健康とトレーニング（8～13）
 - ・トレーニングの原理・原則
 - ・健康に必要な体力要素（筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力、調整力、柔軟性）の理解とそのトレーニング法
 - ・たばこ健康・運動
 - ・運動と生活習慣病
 - ・健康と骨・栄養（14）
 - ・まとめ（15）

●事前・事後の学習内容

事前に、次回の講義に関する資料をWebサイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、講義内容について小テスト等を数回実施する。各自講義の要点をノートにまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート、小テスト（数回）、まとめテスト、受講状況等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

できるだけ相方向的な授業を心がけています。講義を通じて身近な疑問や課題を解決して、自分の生活の中に運動を享受して実践できるように解説します。運動不足を感じている学生、これから運動やスポーツを始めようという学生の積極的な受講を期待する。

●教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE HEA 01 01]

掲載番号	科目名	健康運動科学	単位数	2	授業 形態	講義	担当教員	横山 久代 (健スポ)
309	英語表記	Exercise Science for Health						

●科目の主題

昨今のマラソンブームに象徴されるように、運動・スポーツを自ら実践することによって、その達成感・爽快感や健康面への効果を享受しようとする動きは高

まりつつある。一方で、肥満・糖尿病をはじめとする生活習慣病は、誰もが直面しうる普遍的な疾患でありながら、心血管疾患などの死亡リスクを増大させ、本邦でも深刻な健康問題となっている。さらに世界に先

駆け超高齢化社会を迎える長寿国日本において、認知症・運動器疾患対策により高齢者の日常生活を自立させ、「健康寿命」の延伸を図ることは喫緊の課題である。将来、さまざまな分野での活躍が期待される学生が、地域保健をとりまく情勢、とりわけ生活習慣病について十分な問題意識を持ち、スポーツが本来もつ文化的価値のみならず、それら健康障害の予防・治療手段としての運動・スポーツを科学的に理解し、実践する能力を養う。

●授業の到達目標

・生活習慣病や、今後さらなる患者数増加が予測される認知症、骨粗鬆症などの各種疾患の概要について説明できる

・予防、治療の方法について、特に運動の役割について説明できる

・運動・スポーツを環境や社会的問題との関わりの中で捉え、市民の健康増進に結びつけるための実践方法について説明できる

●授業内容・授業計画

1. 総論（この講義全体の目標、ガイダンス）
2. 肥満とメタボリックシンドローム
3. 糖尿病の概念
4. 糖尿病の治療
5. 痛風・高尿酸血症
6. 高血圧
7. 妊娠糖尿病
8. 骨粗鬆症
9. 認知症
10. 嗜好品と健康障害
11. 運動による生体適応

12. スポーツ現場における救急医療
13. メディカルチェック
14. 各種疾患における運動の実践方法
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として、次回の講義で取り上げるテーマについて、現在話題となっていることや医療情勢上問題視されていることなどを新聞記事や文献を利用して調べておくこと。また、講義後はそのテーマについて、概要と現代社会で取り組むべき課題、課題解決に向けた手段、特に運動が果たす役割について復習し、論述ができるようにしておくこと。

●評価方法

期末筆記試験（100%）

●受講生へのコメント

現場での勤務実績を重ねた医師の視点から、身近なケースや診療経験をふまえてわかりやすく解説するので、高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できる内容となっている。これまで、健康やスポーツにとくに関心のなかった学生の受講も歓迎するが、課題解決に向け自ら考察する力を養うことを目標とするため、ディスカッションなど積極的に授業に参加する姿勢を求める。

●教材

特定の教科書は使用しない。

参考図書：健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方（講談社、2012年発行、田口貞善監修）、スポーツ医学研修ハンドブック（文光堂、2012年発行、日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修）

[科目ナンバー : GE HEA 01 02]

掲載番号	科目名	スポーツ実践科学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	荻田 亮（健スポ）
310	英語表記	Kinematic and Practical Science for Sports						

●科目の主題

我々人間にとって、スポーツとは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。また、スポーツは単に楽しみとして実施するだけではなく、身体機能の向上や健康づくりのためには不可欠である。

本講義では、生涯にわたってスポーツや身体活動を実践するために必要な身体の諸機能と、目的に応じた効果的な運動・スポーツ実践についての理解を深める。

●授業の到達目標

運動に対する身体適応や、個々の目的に応じた効果的な運動方法についての理解を深めるとともに、生活の中における運動・スポーツの実践方法を習得するこ

とを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. スポーツ実践科学の概要、2. スポーツの意義、3-4. スポーツと健康・体力、5-8. スポーツと身体の仕組み（骨格筋・エネルギー・神経系・呼吸循環系）、9-11. スポーツと身体の適応、12. 発育・発達とスポーツ、13. 加齢・老化とスポーツ、14. スポーツとダイエット、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業において事前に学習すべき内容について説明する。また、授業終了後には各自講義の要点をまとめるなど、事後の学習に取り組み、理解を深めておくこと。各講義の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習

を行うことが望ましい。

●評価方法

試験（60％）、小テスト（20％）、出席状況（20％）等により、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

運動やスポーツに興味を持ち、主体的に講義に取り

組む学生の受講を歓迎する。

●教材

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

掲載番号	科目名	体カトレーニング科学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	岡崎 和伸（健スポ）
311	英語表記	Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription						

●科目の主題

‘体力’は、競技スポーツ選手が優れた成績を収めるために重要な因子である。また、体力は、各種疾患や生活習慣病の罹患と関係すること、体力が低下すると日常生活活動が制限されて、支援・介護が必要になることが示されている。このように、体力は競技スポーツ選手にとって重要であるだけでなく、我々の日常生活や健康に深く関わっている。

本科目では、体力の捉え方、体力に影響する因子、および、体カトレーニングについて学び、運動やスポーツを楽しむ（する・見る）ための基礎を習得する。これらを通して、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するために、どんな運動をどのくらい実施すれば良いか？ といった具体的な実践方法とその習慣を獲得する。また、運動やスポーツに親しむことで、アクティブで充実した社会生活を営むための下地を養う。

●授業の到達目標

自身の‘からだ’の中で‘体力’をどのように捉えれば良いか？ 実生活で経験する、年齢、環境、食生活などが体力にどのように影響するのか？ 競技スポーツのパフォーマンスを決定する体力はどんなものか？ を理解すること、さらに、運動による‘からだ’の応答や体カトレーニングによる‘からだ’の適応変化を科学的に理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 体力とは何か、2. 体力と健康、3～4. 体力と

スポーツ：一流スポーツ選手の体力、5. 体力に影響する因子：心理的因子と生理的因子、6. 体カトレーニングの基礎、7～8. 循環器系トレーニング、9～10. 骨格筋系トレーニング、11～12. トレーニング効果（トレーナビリティ）を決定する因子、13～14. エルゴジェニックエイド：ドーピングとサプリメント、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、学習内容を理解し身に着けるために、講義の要点をまとめるなど復習を欠かさないこと。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

期末試験の成績、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

●受講生へのコメント

自身の‘からだ’に関する講義であり、誰でも興味を持って受講できます。毎回、講義内容に沿った簡単な課題や調査、測定、実験を行ったり、あるいは、身体を動かしたりしながら理解を深めていきます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE HEA 01 03]

掲載番号	科目名	体カトレーニング科学	単位数	2	授業形態	講義	担当教員	今井 大喜（健スポ）
312	英語表記	Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription						

●科目の主題

体力といえば、筋の発揮するパワーや持久力が、その一般的なイメージとして定着している。しかし、体

力にはそれら以外の要素も数多く存在している。本講義では、“体力”を身体・精神的要素から、さらには行動・防衛体力と分類し、「種々の体力要素」に関

するトレーニング理論について、今なぜ体力をトレーニングする必要があるのか社会的背景から紐解きながら、科学的エビデンスに基づいて解説していく。

●**授業の到達目標**

各種の体力要素およびそのトレーニング方法について理解を深め、自ら実践できる能力を習得することを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 1.体力の捉え方、2.健康と体力、3. 体力における精神的要素、4.トレーニングの概念、5-6.筋・骨格系とトレーニング、7-8.呼吸・循環とトレーニング、9-10.脳・神経系とトレーニング、11-12.スポーツトレーニング、13.バイオフィードバックトレーニング、14.コンディショニングのための栄養、15. まとめ

●**事前・事後学習の内容**

事前学習では、シラバスの授業内容をキーワードに自身の知識を整理しておくこと。事後学習では、配布資料を参考に新たに得た概念や知見等について整理すること。

●**評価方法**

期末試験、レポート課題等から総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

いわゆる「筋トレ」についてのみの講義する科目ではない。

●**教材**

参考資料を配布し、必要に応じて参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 01]

掲載番号	科目名	アーチェリー1	単位数	1	授業形態	講義	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
313	英語表記	Archery 1						

●**科目の主題**

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返して射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目では、初めてアーチェリーという新しいスポーツに接し、アーチェリーの基本技術を習得し、集中力を養うとともに生涯スポーツに通ずるコンディショニングやトレーニングの方法についても習得する。

●**授業の到達目標**

アーチェリーの基本技術（射法8節；スタンス、セット、フックアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）を習得し、インドア競技で実施されている18メートルからシューティングできる技術を獲得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング（ストレッチング等）や種々の筋力トレーニングの方法（アイソトニック・アイソメトリック）について理解し、応用できることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- ・健康・スポーツ科学実習ガイダンス（1）
- ・アーチェリーの歴史と競技の概要：ガイダンス（2）
- ・弓具とその取り扱いについて（3～5）
- ・基本技術（射法8節；スタンス、セット、フックアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）の習得とシューティング（3～14）
- ・索引き（3～4）

・近射（5～6）

・射距離の延長とサイトの調節（6～9）

・スコアリングと個々の技術向上（10～14）

・コンディショニング（ストレッチング）および筋力トレーニング（アイソトニック・アイソメトリック）の方法（3～10）

・知識の復習と総括（15）

●**事前・事後の学習内容**

初回に配布する資料（安全に関する事項・競技に関する事項）の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業時に説明した技術やトレーニングを事前・事後に実践し、アーチェリーの技術習得および体力の向上に努めること。

●**評価方法**

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

初心者を対象とします。積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

●**教材**

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 02]

掲載番号	科目名	アーチェリー 2	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
314	英語表記	Archery 2						

●科目の主題

アーチェリーは多くの「動的」スポーツに対して、移動の少ない「静的」スポーツである。シューティングを安定して行うためには、姿勢（安定したフォームの形成）、筋力（繰り返し射つ筋力）、集中力（メンタルコントロール）が特に重要となる。

本科目は、アーチェリー競技についてより発展させた実習である。シューティング技術の向上と競技全般に渡る知識の習得と併せてアーチェリーを通して集中力を高め、生涯スポーツとしてアーチェリーを楽しむ。

●授業の到達目標

基礎的な技術（射法8節；スタンス、セット、ノッキング、セットアップ、ドローイング、フルドロー、リリース、フォロースルー）をふまえて、10～30mのシューティングを行う。アーチェリーの競技におけるより深い知識、より高い技術の習得および弓具の使用などを発展させた実習である。生涯スポーツとしてアーチェリーを実践できるようにすることを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ・健康・スポーツ科学実習ガイダンス（1）
- ・アーチェリー競技の概要とルール（2～14）
- ・シューティングフォームおよび技術の発展（3～14）
- ・視覚情報（写真、ビデオ等）の活用（3～12）

- ・レクリエーション・アーチェリーの体験（8～9）
- ・シューティング時の重心動揺や筋活動などの変化とパフォーマンスの関係について（8～13）
- ・弓具の発展と取り扱いについて（3～13）
- ・シューティング距離の延長と競技の体験（10～14）
- ・30メートル（80cm的）のシューティング（12～14）
- ・18メートル（インドア40cm的）のシューティング（13～14）
- ・復習と総括（15）

●事前・事後の学習内容

授業時に配布する資料の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業時に説明した技術やトレーニングを事前・事後に実践し、アーチェリーの技術習得および体力の向上に努めること。

●評価方法

知識、技術の習得状況、受講状況など総合的に判断する。

●受講生へのコメント

アーチェリー1の受講者またはアーチェリー経験者が対象です。より深くアーチェリーの楽しさ、醍醐味を味わって下さい。

●教材

必要に応じて資料の配付、ビデオ等の視聴を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 03]

掲載番号	科目名	ゴルフ 1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	上野 聖志 (非常勤)
315	英語表記	Golf 1						

●科目の主題

長い歴史を持つゴルフは2016年のリオデジャネイロオリンピックで正式種目に返り咲いた事からも、今また新たに注目されているスポーツである。ゴルフ競技では精神面が強く求められると同時に、老若男女を問わずコミュニケーションを図ることが求められることから、その実践は社会における自己のコントロール能を高め、生涯にわたる自己形成に寄与する。

本実習では、ゴルフの実践を通して、技術的な向上といった側面だけでなく、生涯スポーツに関する総合的な素養を含めた全人的能力の向上を目的とする。

●授業の到達目標

ゴルフの構成要素としては、身体の軸や体幹を意識した「運動性」、静止しているボールに対してゴルフクラブを扱いスイングを行う「技術性」、静から動を作り出すために必要な集中力やメンタルコントロールといった「精神性」、プレーの失敗後や成功後の「自己感情への対応」、そしてゴルフ競技で重んじられるルール・マナー・エチケットといった「社交性」の5要素があげられる。

本実習においては、以上にあげられる5要素の総合的な向上を目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1、競技特性と安全、ルール、マナー、道具について
- 2、ストレッチとパッティング、距離感について
- 3、アプローチの基本、ハンドファーストインパクトについて
- 4、グリップ、アドレス、クラブヘッドの振り方
- 5、軌道、フェース面、インパクトを学ぶ
- 6、コック・リコックをL字スイングで学ぶ
- 7、軸をイメージした身体の動かし方、スイング軌道を作る
- 8、腕の振り、胴体部分の同調した動き
- 9、7番アイアンを使ったフルスイングの技術
- 10、ドライバー（ウッド）とアイアンショットの違い
- 11、飛距離アップのための身体とクラブの使い方
- 12、動画にてスイング分析を行い、自己修正力を身につける
- 13~14、様々なクラブ、様々な技術でのポイントゲーム
- 15、知識の復習と総括（まとめ）

●事前・事後学習の内容

授業中に指示する文献、動画等を事前に確認し、学習しておくこと。授業で実施したシャドウトレーニング、ストレッチ等を事後の学習として実践し、理解を

深めておくこと各実習の前後にそれぞれ30分程度の子習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

知識、技術の習得状況、授業への取組姿勢、レビュー記入内容ならびに出席状況等により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

ゴルフは年代をつなぐスポーツでもある。将来の為に取り組むという方も歓迎したい。

一方で、長く硬い道具や、大きな力が加わるボールは扱い方を間違えると凶器にも成り得る。安全面など他者に対する配慮を含め、実習へのまじめな取り組みができない受講生は、本実習での活動を認めない場合がある。

実習内容は基本的な技術から進めるので、履修に際してゴルフ経験の有無は問わない。

受講に際しては、スポーツウェアおよび室内専用のスポーツシューズ（ゴルフシューズ不可）、ならびに防滑用ゴルフグローブの着用が必要となる。グローブの仕様等についての詳細は授業時に説明する。

●教材

必要に応じて資料（文献、動画）などの紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 05]

掲載番号	科目名	サッカー 1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	今井 大喜（健スポ）
316	英語表記	Association Football 1						

●科目の主題

サッカーは、世界的にポピュラーであり、我々にとって身近なスポーツである。また、11人でおこなうチームスポーツである為、プレー中には仲間と数多くのコミュニケーション要し、個人の社会性を養える。さらに、広いグラウンドでプレーすることは、我々に心地良い爽快感を提供するであろう。本科目では、サッカーの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

サッカーの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、サッカーを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフense・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明、キック、トラップ、3. パス、ヘディング、ドリブル、4. オフェンス練習（シュート練習含む）、5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、6. セットプレー、7. 審判法、ミニゲーム、8. ゲーム①、9. ゲーム②、10. チーム毎の課題別練習、11~15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本サッカー協会HP等を参照して確認しておくこと。事後学習として、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 07]

掲載番号	科目名	ジョギング・マラソン1	単位数	1	授業 形態	講義	担当教員	岡崎 和伸 (健スポ)
317	英語表記	Jogging Marathon 1						

●科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりとした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195 km (フルマラソン) を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催されるようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギング未経験者や初心者が、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う。

●授業の到達目標

“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ウォーキングから“ゆっくり走る”ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移行する。ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションな

ども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、
2. ジョギング体験、
3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、
4. ジョギングフォーム、各種ドリル、
5. “ゆっくり走る”ジョギング①、
6. “ゆっくり走る”ジョギング②、
7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、
8. 補強運動、ウエイトトレーニング、
9. マラソンレースペースでのジョギング (ペース走)、
10. ファルトレイクラン、
11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義 (雨天時)、
12. ジョギングマップ作成、
13. ロングスローディスタンス (LSD)、
14. 簡易持久力評価テスト、
15. 自己評価

●事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。授業で実施する運動をスムーズに開始できるように、授業前に軽いストレッチングや体操を実施しておくこと。また、運動効果を高め障害を予防するために、授業後や自宅において十分にストレッチングや体操を実施すること。

●評価方法

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●受講生へのコメント

ジョギングやマラソンの経験の有無、走能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 08]

掲載番号	科目名	ジョギング・マラソン2	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	岡崎 和伸 (健スポ)
318	英語表記	Jogging Marathon 2						

●科目の主題

“ジョギング”とは、ゆっくりとした速さで走ることである。一般的にランニングよりもスピードが遅く、健康増進効果の高い有酸素運動として人気が高い。一方、“マラソン”とは、42.195 km (フルマラソン) を走って順位や時間を競う陸上競技種目である。近年、誰でも参加できる市民マラソン大会が多数開催される

ようになり、現在、国内のフルマラソンの年間完走者数は20万人以上、また、ジョギング人口は1千万人以上にも及んでいる。

本科目では、ジョギングやマラソン経験者が、フルマラソンや半分の距離を走るハーフマラソンの完走や目標記録の達成のためのトレーニングを実践し、それらを通してジョギングやマラソンの楽しみ方を学ぶ。

●授業の到達目標

持久力評価テスト結果から自己の走能力を把握し、それを参考にして目標を設定すること、また、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ジョギングのペース、距離、時間は各自の走能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、毎回それを提出する。練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、4. 無酸素性作業閾値(AT)の計測、マラソンペースの設定、5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、6. マラ

ソンレースペースでのジョギング(ペース走)①、7. ファルトレイクラン、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ロングスローディスタンス(LSD)①、10. マラソンレースペースでのジョギング(ペース走)②、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義(雨天時)、12. インターバル走、13. ロングスローディスタンス(LSD)②、14. 持久力評価テスト、15. 自己評価

●事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。授業で実施する運動をスムーズに開始できるように、授業前に軽いストレッチングや体操を実施しておくこと。また、運動効果を高め障害を予防するために、授業後や自宅において十分にストレッチングや体操を実施すること。

●評価方法

課題への取り組み、課題レポート内容から評価する。

●受講生へのコメント

ジョギング・マラソン1の受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	加藤 由香(非常勤)
319	英語表記	Softball 1						

●科目の主題

ソフトボールはアメリカ発祥のスポーツで、日本には大正時代に紹介された。ソフトボールにはファーストピッチとスローピッチがある。平成24年度から文部科学省・学習指導要領の改訂に伴い、小学生高学年から中学校の球技にベースボール型としてソフトボールが加わり「学校体育ソフトボール」が導入された。本実習では、ファーストピッチとスローピッチの基本からゲームまでと併せて、将来の学校現場での指導者を想定して、学校体育ソフトボールも紹介する。

ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、ゲームで活用できるようにする。目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心

にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる・捕る・打つ基本的な個人技術について合理的な体の使い方観点から説明をし習得する。基本的な個人技術習得後は、ゲームに必要な応用技術を習得する。次に、チーム編成を行い、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

1. ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本練習 2. キャッチボール、ゴロ捕球・フライ捕球 3. 守備練習 4. ウインドミルピッチング 5. バッティング、バント 6. グループ別バッティング・守備練習 7. チーム編成、審判法、ルール 8~10. ゲーム 11. チーム再編成、チーム別練習 12~15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事後学習として、競技ルールについて、ガイドブックなどで勉強すること。

●評価方法

出席状況、履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決能力および目標達成に向けたチー

ムへの貢献度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基本的な技術獲得から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
320	英語表記	Softball 1						

●科目の主題

ソフトボールは、野球に比して老若男女行える生涯スポーツとして、社会で広く認識されている。ダイナミックなウィンドミル投法により投球されるボールを、瞬時に判断して打ち返す喜びは、ソフトボールが生涯スポーツとして発展している魅力の一つであろう。本科目では、ソフトボールの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

ソフトボールの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、ソフトボールを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる、捕る、打つ、といった基礎的な個人技術を習得した後、ポジション別の守備技術や連係プレーを習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

- ウォーミングアップとクーリングダウン、ス

トレッチ、施設および用具の説明、2. ルールの説明キャッチボール、ゴロ捕球、3. ピッチング (ウィンドミル投法)、4. バッティング、5. ティーバッティング、6. ポジション別守備練習、7. 審判法、8. ゲーム① (スローピッチ)、9. ゲーム② (ファーストピッチ)、10. チーム毎の課題別練習、11~15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本ソフトボール協会HP等を参照して確認しておくこと。事後学習として、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 09]

掲載番号	科目名	ソフトボール1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	鈴木 雄太 (健スポ)
321	英語表記	Softball 1						

●科目の主題

ソフトボールは野球に比べ、ボールが大きく、安全性が高いことから、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツの1つである。ソフトボールには、ファーストピッチとスローピッチがあるが、特に後者はレクリエーションとして世界中で楽しまれている。本科目では、ファーストピッチとスローピッチ両方の実践を通して、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ

態度を養う。

●授業の到達目標

ソフトボールのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、ソフトボールの各ポジションの役割や連係プレーを理解することを目標とする。また、チームでの課題解決や安全管理、ゲームの運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツを

楽しむための基礎を養成することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

前半は、ルールの説明や捕る、投げる、打つといった基本技能の習得を図り、その後ポジション毎の役割や関係プレーの習得を目指す。そして、チーム毎に設定した課題を協力して解決していくとともに、安全に留意してゲームを運営する。

【授業計画】

- ウォーミングアップとクーリングダウン、安全管理、施設と用具の説明、
- ルールの説明とキャッチボール、
- ゴロ、フライの捕球とスローイング、
- 各ポジションの役割とノック、
- ピッチング、
- 素振りとティーバッティング、
- カービング、中継プレーとゲーム（スローピッチ）、
- 審判法とゲーム（スローピッチ）、
- チーム毎

の課題設定とゲーム運営方法、10～15. チーム毎の課題練習とゲーム（ファーストピッチ）の運営

●事前・事後学習の内容

予めソフトボールの基本的なルールを理解しておくこと。授業で練習した技能は反復練習を行い、次週までに習得しておくこと。

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の獲得やルールの理解から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 10]

掲載番号	科目名	ソフトボール2	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	加藤 由香（非常勤）
322	英語表記	Softball 2						

●科目の主題

ソフトボール2では、ソフトボール、野球経験者およびソフトボール1受講者を対象に、使用球もゴムボールから革ボールにグレードアップして、ソフトボール1で習得した基礎的な内容に加え、ソフトボールの醍醐味であるファーストピッチソフトボールにおける守備や攻撃それぞれの組織プレー、サインプレーを習得して、本格的なゲームまで行えるようにする。ソフトボールを通し、集団でのコミュニケーション能力、協調性、役割分担、自己責任能力などを養う。

●授業の到達目標

技術的な面では、基本的な技術習得からチームプレイまでの応用技術の習得を目指す。同じベースボール型の野球とは違うソフトボール独特のルールを理解し、オフィシャルルールに則ってゲームを円滑に行う。目標達成のための戦略や適材適所のポジション、打順を各チームで協議し改善していき、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでをコーディネートする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

投げる・捕る・打つの基本的な個人技術について合理的な体の使い方の観点から説明し基本技術の確認をする。基本的な個人技術確認後は、ゲームに必要な応用技術を習得する。守備においてはランナーを想定した守備フォーメーションの習得、攻撃

においては得点を取るための打撃、走塁などの攻撃方法を習得する。次に、チームごとの目標を設定して、ファーストピッチでリーグ戦を行い、ソフトボール特有のルールを駆使しながら技術・戦術の習得に取り組む。

【授業計画】

- ウォーミングアップ・クーリングダウン、施設・用具の使い方、捕球・送球の基本確認
- キャッチボール、守備練習
- ウインドミルピッチング
- バッティング、バント
- フリーバッティング
- 走塁、ヒットエンドラン、スクイズ、審判法、ルール
- グループ別攻守練習、チーム編成
- 8～10. ゲーム
11. チーム再編成、チーム別練習
- 12～15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事後学習として、競技ルールについて、ガイドブックなどで勉強すること。

●評価方法

出席状況、履修態度(積極性・協調性)、技能習得度、チーム別の課題解決能力および目標達成に向けたチームへの貢献度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

野球、ソフトボール経験者向けのソフトボール上級コース。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 11]

掲載番号	科目名	ラグビー 1	単位数	1	授業 形態	講義	担当教員	鈴木 雄太 (健スポ)
323	英語表記	Tag Rugby 1						

●科目の主題

ラグビーは、ラグビーで危険度の高いタックルをタグに置き換え、ルールを単純化したことで、年齢や性別に関わらず誰にでも気軽にできるスポーツである。ラグビーでは、チームメイトと協力してオフenseやディフェンスを行うため、チームメイトとのコミュニケーションや役割分担が重要となる。本科目では、ラグビーの基本技能を習得するとともに、安全に配慮しながらスポーツを楽しむ態度を養う。

●授業の到達目標

ラグビーのルールや特性を理解し、基本技能を習得することに加えて、組織的なオフenseとディフェンスの方法を理解することを目標とする。また、チームでの課題解決や安全管理、試合の運営についても学習することで、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を築くことを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

ルールの理解やパス、タグなどの基本技能の習得を図り、その後オフenseとディフェンスの戦術や戦略の習得を目指す。そして、チーム毎に設定した課題を協力して解決していくとともに、安全に留意して試合を運営する。

【授業計画】

1. ウォーミングアップとクーリングダウン、安全管理、ルールと用具の説明、2. パスとキャッチ、3. タグとタグ取りゲーム、4. オフenseとディフェンスの実践 (2対1、3対2)、5. ランニングプレー (ステップ、スワープ)、6. オフenseの戦術と戦略、7. ディフェンスの戦術と戦略、8. サインプレーと試合、9. チーム毎の課題設定と試合の運営方法、10～15. チーム毎の課題練習と試合運営

●事前・事後学習の内容

予めラグビーの基本的なルールを理解しておくこと。授業で練習した技能は反復練習を行い、次週までに習得しておくこと。

●評価方法

授業への取り組み、知識や技能の習得状況などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、基本技能の獲得やルールの理解から始めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 13]

掲載番号	科目名	ダンス 1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	加藤 真由子 (非常勤)
324	英語表記	Dance 1						

●科目の主題

ダンスの発生や歴史的発展など理解し、以下の内容を通して、自ら創り踊り発表することができるようになることを目標とする。1. ウォーミングアップ：からだほぐしと身体意識の覚醒 2. 新しい動きの探求：日常的な動きからダンス的な動きへの発展 3. イメージから動きの創造：即興や創作を通して新しい動きへの挑戦 4. 作品構成：クラスやグループによる創作 5. クラス内発表

●授業の到達目標

ダンスのスキル習得獲得だけを目標とするのではなく、他者との身体を介したコミュニケーションをはかりながらソーシャルスキルにも着目し、自らの心身へ

の気づきと学習の場となることも目標とする。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション (授業内容や最終目標について) 2. ウォーミングアップ (リズムカルな動きでからだほぐし) 3. 移動運動のいろいろ (歩く、走るなどの空間運動) 4. 個の運動のいろいろ (曲げる、伸ばす、縮めるなど) 5. 創作その1 (移動運動と個の運動) 6. ミラーリングとシェイプ 7. 創作その2 (ミラーリングとシェイプ) 8. 即興と模倣 (遊びからダンスへ) 9. 創作その3 (物を用いた即興) 10. いろいろなダンス (フォークダンスや現代的なリズムのダンス) 11～12. 作品構成 13. クラス内発表と観賞 (VTR撮影) 14. VTR観

賞と相互評価、自己評価 15. まとめ

●事前・事後学習の内容

第1-10回

事前学習：－

事後学習：授業内で実施したトレーニングをおこなうこと。ダンスの振り付けについて復習すること。

第11-15回

事前学習：創作作品についてグループで話し合い選曲、振り付け、構成等の準備をすること。

事後学習：いろいろな創作作品について整理し復習すること。

●評価方法

実技のため、出席を重視する。また、受講態度、レポートの状況などを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

「できる・できない」ではなく、「やってみる」という受講態度を重視します。上手に踊ることよりも、ダンスを通じた受講者同士のコミュニケーションを楽しみましょう。

●教材

必要に応じて参考資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 15]

掲載番号	科目名	テニス 1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	松原 慶子 (非常勤)
325	英語表記	Tennis 1						

●科目の主題

テニスは、ラケットを使いネットを介しボールを打ち合うスポーツである。基礎技術の習得はもちろんのこと、ゲームの楽しみ方を知るとともにテニスの特性を理解する。

●授業の到達目標

本授業では、テニスの知識を深め基礎技術の習得、そしてゲーム展開ができるようになる。

●授業内容・授業計画

テニスは、老若男女を問わず生涯スポーツとして人気のある種目である。本授業では、初心者を対象とし、どのようにラケットを操作すれば身体に負担なく効率的に打球できるかを導きながらテニスの基礎技術の習得、ルールやマナー、審判法の理解とともにゲームの楽しみ方を知る。

【授業計画】

1. オリエンテーション “テニスとは”
2. ラケットイング、グリップ、打点についての考え方、ミニラリー
3. 基礎技術1 フォアハンドストローク&バックハンドストローク
4. 基礎技術2 サーブ 運動連鎖について
5. サーブからのラリー (フットワーク、ラケットワーク、ボディーワーク)
6. 基礎技術3 ボレー、オーバーヘッドシュマッシュ
7. テニスのルール、マナー、歴史について
8. 各技術の確認、簡易ゲーム
9. ダブルスの戦術 1
10. ダブルスの戦術 2
11. シングルのゲーム
- 12.~14. リーグ戦およびトーナメント
15. まとめ

*天候により順を変更、あるいは講義になる場合がある。

●事前・事後学習の内容

テニスの専門書やDVD等を利用して、学習内容の予習や復習を行う。また、四大会等トップアスリートのゲームを視聴することで体力面や戦術面、メンタル面を学ぶ。

●評価方法

出席状況、受講態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズを用意すること。日頃から、体調管理には気をつけること。テニスは個人種目であるが、授業では練習やゲームを通して他の学生とのコミュニケーション能力の向上にも役立たせてほしい。

●教材

必要に応じ資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 16]

掲載番号	科目名	テニス2	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	松原 慶子 (非常勤)
326	英語表記	Tennis 2						

●科目の主題

テニスは、上達するにつれ奥深さを知るスポーツでもある。ゲームの中であらゆる状況に対応するためには、技術、体力、戦術、メンタル面等の能力が必要とされる。ゲーム環境の中で、テニスの魅力を知る。

●授業の到達目標

テニスの技術、体力、メンタル面の向上を図り各自のゲームの質を向上させる。

●授業内容・授業計画

本授業では、テニス熟練者および経験者（テニス1履修済の者も含む）を対象とし、より実践的な内容を展開する。効率のよい動作、そしてよい動作の再現性を高めるとともに高度なテクニックの習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り入れゲームレベルの向上を図る。また、テニス技術の向上にはコーディネーション能力の必要性も理解する。

【授業計画】

1. オリエンテーション “テニスの特性”
2. 各ストロークについて
3. 応用技術、ラリー練習
4. 効率のよい打ち方とは
5. スキル上達のためのヒント、簡易ゲーム
6. 各技術の自己評価と矯正法

7. 5つのゲーム状況
8. テニスに必要な体力
9. シングルス戦術
10. ダブルス戦術
- 11.~14. リーグ戦またはトーナメント
15. まとめ

* 天候により順の変更やトップレベルのプレー、テニスの科学について講義する場合がある。

●事前・事後学習の内容

テニスの専門書やDVD等を利用して学習内容の予習や復習を行う。また、四大大会等のトップアスリートのゲームを視聴することで体力面や戦術面、メンタル面を学ぶ。

●評価方法

出席状況、受講態度、技能から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

実習では、スポーツウエア、テニスシューズを用意すること。日頃から、体調管理には気をつけること。テニスは個人種目であるが、授業では練習やゲームを通して他の学生とのコミュニケーションを図り安全面に配慮し楽しんでほしい。

●教材

必要に応じ資料を配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 17]

掲載番号	科目名	バスケットボール1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	荻田 亮 (健スポ)
327	英語表記	Basketball 1						

●科目の主題

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待できる。

本実習では、バスケットボールに関わる技術の習得だけでなく、安全にスポーツを行うための基礎知識を深めるなど、スポーツの実践に関わる総合的な能力を高める。

●授業の到達目標

バスケットボールの基礎的な個人技術の習得と、そ

の技術を集団の中で活用するための応用技能の習得を目標とする。また、安全に楽しくスポーツを実践するための基礎知識、ならびにスポーツ実践に取り組む態度の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

1. バスケットボール1の概要、2. ウォーミングアップとストレッチ、シュート動作の基礎、3. スポーツビジョン、個人技術の応用、4~5. パス技術の基礎と応用、集団の理解と実践、6~9. 集団的技術の基礎と応用、集団的対峙の理解と実践（ゲームの実践）、10~14. ゲームの運営と規則、ゲームの実践、15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各授業において事前に学習すべき内容について説明する。また、授業終了後には各自実習で体験した動作を授業時間外で実践するなど、事後の学習に取り組み、理解を深めておくこと。各実習の前後にそれぞれ30分程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

知識、技術の習得状況ならびに出席状況等により、総合的に評価する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 18]

掲載番号	科目名	バスケットボール2	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	荻田 亮 (健スポ)
328	英語表記	Basketball 2						

●**科目の主題**

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われるチームスポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

本実習では、バスケットボールを通して、チームスポーツに対する理解を深めるとともに、生涯にわたってスポーツを実践するための知識と技能を高める。

●**授業の到達目標**

バスケットボールを通してチームスポーツを理解し、実践できる技能の習得を目標とする。また、集団の中で安全に楽しくスポーツを実践するための基礎的な知識、ならびにチームスポーツへの取り組み方の習得を目標とする。

●**授業内容・授業計画**

1. バスケットボール2の概要、2～3. 個人的対峙の理解と応用、ゲームの実践、4～6. 集団的な安全行動と規則、ゲームの実践、7～9. 集団プレーの原理と原則、ゲームの実践、10～12. ゲームの運営と規

●**受講生へのコメント**

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となる。アクセサリ(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めない。スポーツに興味を持ち、自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を歓迎する。

●**教材**

必要に応じて資料等の配布を行う。

- 則、ゲームの実践、13～14. 戦術行動の基礎と応用、15. まとめ

●**事前・事後学習の内容**

各授業において事前に学習すべき内容について説明する。また、授業終了後には各自実習で体験した動作を授業時間外で実践するなど、事後の学習に取り組み、理解を深めておくこと。各実習の前後にそれぞれ30分程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●**評価方法**

知識、技術の習得状況および出席状況等により、総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

受講の際には、スポーツウェアとスポーツシューズ(体育館専用)の着用が必要となる。アクセサリ(ネックレス、ピアス、指輪等)を装着しての受講は原則として認めない。スポーツに興味を持ち、自主的、積極的に実習に取り組む学生の受講を歓迎する。

●**教材**

必要に応じて資料等の配布を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 19]

掲載番号	科目名	バレーボール1	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	中嶋 紀子 (非常勤)
329	英語表記	Volleyball 1						

●**科目の主題**

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に、自主性・協調性・積極性を育てる。

●**授業の到達目標**

基本技術との習得とゲーム展開に必要なフォーメーション・各ポジションの動きを理解し、ゲームにて実践できるようになることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

- 1、バレーボールの準備段階や競技中に際に起きる障害例と予防について説明。
基本技術の習得
オーバーハンドパス (ボールハンドリング・一人パス・対人パス)
- 2、基本技術の習得

- オーバーハンドパス（ジャンプパス・ロングパス・バックパス・移動パス）
- 3、基本技術の習得
アンダーパス（片手パス・組手パス・対人パス）
- 4、基本技術習得
アンダーパス（移動パス・対人レシーブ）
- 5、基本技術の習得
スパイク（助走・ステップ・腕の振り）
ブロック（フォーム・移動）
- 6、基本技術の習得
サーブ（サーブの種類と打ち方）
サーブカットの練習
- 7、応用技術の習得
フォーメーション・各ポジションの動きの説明と実践
- 8、応用技術の習得
チャンスボール・サーブカットからの連携
- 9、応用技術の習得

6人制バレーボールの特徴とルールの説明
ゲーム練習

10～15、応用技術の習得
ゲームの実践

●事前・事後学習の内容

6人制バレーボールのルールについて事前に調べておく。

●評価方法

技術の習得・出席状況・協調性・積極性等を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

真摯な態度で受講すること。

授業前の準備及び後片づけ等人任せにせず積極的に行うこと。

装飾品（指輪・イヤリング等）は外し、髪の毛の長い者はゴムでくくって参加すること。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 20]

掲載番号	科目名	バレーボール 2	単位数	1	授業形態	実習	担当教員	中嶋 紀子（非常勤）
330	英語表記	Volleyball 2						

●科目の主題

バレーボールを通じて運動能力を高めると共に自主性・積極性を育てる。

●授業の到達目標

ゲーム展開に必要な基本を習得すると共に、バレーボールのフォーメーションを理解し、ポジションの固定、更にはコンビネーションを取り入れたゲーム展開を図る。

●授業内容・授業計画

- 1～4 基本技術の確認
パス（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）
レシーブ（スパイク・サーブレシーブ）
スパイク（オープン・平行・クイック）
ブロック
- 5～6 連携練習
パス⇒トス⇒スパイク⇒ブロック⇒ブロックカバー
スパイクレシーブ⇒トス⇒スパイク⇒ブロック
サーブカット⇒トス⇒スパイク⇒ブロック
- 7～11 総合練習
フォーメーションの確認から攻防の実践練習
コンビネーションの練習
チャンスボール・サーブレシーブからの乱

打練習

12～15 ゲームの実践

●事前・事後学習の内容

バレーボール試合・テレビ放映などを積極的に観戦するようにする。

●評価方法

出世状況・協調性・積極性等を総合的に評価する

●受講生へのコメント

この授業はバレーボール経験者かバレーボール1を受講した学生を対象とした授業であるが、受講生が少ない場合等の諸事情が生じた場合は未経験者の受講も認めとする。

真摯な態度で授業に参加すること。

授業前の準備及び後片付け等、人任せにせず積極的に行うこと。

装飾品（指輪・イヤリング等）は取り外し、髪の毛の長いものはゴムでくくって参加すること。

●教材

体育館シューズ・体操服を用意すること。

[科目ナンバー : GE SPO 01 21]

掲載番号	科目名	バドミントン1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	正岡 毅 (非常勤)
331	英語表記	Badminton 1						

●科目の主題

バドミントンは、屋外で楽しめるレクリエーションの性格を持つ一方で、競技としては、球速が世界最速（スマッシュ・421km）から最低（ヘアピン・ほぼ0km）の変化に富んだショットでラリーを行う非常に激しいスポーツである。6.1m x 6.7mのコート内を、高さ約1.5mのネットを挟んで戦うため、ラリーのテンポが速く、短時間に速く長く動く必要があり、瞬発力と持久力の両方が求められる。また、対人競技であるため、戦術の巧みさや精神力の強さも試合結果に大きな影響を与える。生涯スポーツとしてのバドミントンは、天候に左右されず、少人数で行えて、運動量が多く、手軽に楽しめることから、QOLの向上に寄与する魅力的な競技だと言える。

本科目では、受講者がバドミントン競技の基礎を学び、ラケットワーク・フットワーク及び各ショットの基本を習得することで、生涯スポーツとしてバドミントンに親しめる素地を養う。

●授業の到達目標

バドミントン独特の動作、シャトルの飛行感覚に慣れ、基本技術を習得し、コート内でスムーズに動きながら、様々な種類のショットを使い、狙った位置にシャトルをコントロールできるようになることを目標とする。バドミントンのルール、マナー、審判、ゲームの進行方法を学び、楽しみながらバドミントンのシングルス・ダブルスができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

初期はグリップ、スイング、フットワーク等の基礎を学び、ラリーを続けるために不可欠な技術を身に付ける。中期は半面シングルスゲームを通して、動きながら各種ショットを力強く、より正確なコン

トロールで打てる態勢を整えられるよう、ストロークとフットワークを融合させた動きを習得する。後期はゲーム中心として、ラリーの中での動き、スイング、ショットの打ち分け、レシーブ等、相手のショットに適切に対応できるように、実戦形式を数多く体験する。

【授業計画】

- ウォーミングアップとクールダウン、基本姿勢、グリップ、スイング、シャトルの跳ね上げ、近距離での打ち合い（ネットなし）、2～3基本ストロークの素振り、フットワーク（前後左右）、サイドハンド（フォア・バック）ドライブ、サービス（ロング、ショート）、ヘアピン、近距離での打ち合い（ネット越し）、4～5 オーバーヘッドストローク（スマッシュ、クリヤー、ドロップ）アンダーハンドストローク（ロビング）、半面シングルス、6～7 アンダーハンドストローク（ロビング）半面シングルス、8～9 プッシュ、レシーブ、レシーブ～ロビング、半面シングルス（勝ち残り）、10～11 ルール、審判、シングルス戦術、シングルスゲーム（リーグ戦）、12～13 ダブルスの基本（ルール、戦術、動き）、14～15 ダブルスゲーム（リーグ戦）

●事前・事後学習の内容

事前に、インターネットに掲載されている、バドミントンの競技規則について、確認しておくこと。

事後に、授業で学んだ各技術について復習すること。

●評価方法

出席状況・履修態度（重視）・技能習得度などから総合的に評価する。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書・教材を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 23]

掲載番号	科目名	フットサル1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	今井 大喜 (健スポ)
332	英語表記	Futsal 1						

●科目の主題

フットサルは、室内で行う5人制のミニサッカーであり、近年日本においても盛んに行われている。また、

サッカーに比べてピッチが小さい為に、ボールに触れる回数や得点シーンの多いスポーツである。したがって、得点の喜びを味わうチャンスが、初心者にも多数

あることは、フットサルの大きな魅力といえよう。本科目では、フットサルの実践からその魅力を体感し、競技特性を理解する。

●授業の到達目標

フットサルの基礎的な技術を習得し、ルールを理解する。ゲーム展開より、フットサルを楽しみながら集団競技の利点を活かして個人の社会性を養う。

●授業内容・授業計画

【授業内容】

フットサル特有のボールを蹴る、止める、キープするといった基礎的な個人技術を習得した後、オフェンス・ディフェンス別の集団技術を習得する。数回のゲーム結果からチームの課題を見出し、それに対する解決策を講じながら、チームの勝利に挑んでいく。

【授業計画】

- ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、施設および用具の説明、

- キック、トラップ、3. パス、応用テクニック、4. オフェンス練習（シュート練習含む）、5. ディフェンス練習（キーパー練習含む）、6. 簡単なシミュレーション、7. 審判法、8. ゲーム①、9. ゲーム②、10. チーム毎の課題別練習、11～15. ゲーム

●事前・事後学習の内容

事前学習として、競技の概要について日本フットサル連盟（日本サッカー協会HPにリンク）HP等を参照して確認しておくこと。事後学習として、授業時に指示された課題について実践すること。

●評価方法

取り組み状況、技能修得度、チーム毎の課題解決策およびゲーム内容や結果などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

基礎的な技術の習練から進めるので、経験の有無や能力の優劣は問わない。

●教材

必要に応じて参考資料を配布し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 25]

掲載番号 333	科目名	武道1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	前田 隆司（非常勤）
	英語表記	Traditional Martial Arts 1						

● 科目の主題

空手の基本を実習する。オリンピック種目に採用が決まり、人気が高まっている空手だが、生涯スポーツとしても注目されている。空手は本気で練習すればハードで、高度な技の習得には長い修練を要する。が、そこまで目標をもたず体力作りや健康維持、ダイエットを考えている人も手軽にできる。何より場所をとらず、一人でも練習できる。畳二、三畳の広さがあれば基本の突きや蹴り、受け、それに簡単な動きや型も可能だ。服装も体操服や軽装でよい。練習は年齢や技能レベルに応じてすればよい。そんな空手の魅力の一端を伝え、武道としての奥深さも感じてもらえたらと考えている。

● 授業の到達目標

有り体にいえば、未経験者だと週1回、15回の実習では空手の基本すら身につかない。授業では空手の初歩的な技を学びながら、基礎体力と集中力、瞬発力の養成を目指す。具体的には、単独と2人対面による突きと蹴り（立ち姿勢からと、移動しながら）の反復練習が中心。対面練習では相手の突きと蹴りにまず目を慣らし、間合い（相手との攻守の距離）を体で覚える。そこから相手の突きと蹴りの受け、その攻撃をかわす転身へと進む。突きや蹴りは相手にあてないので危険はない。サンドバッグでは実際に突いて、蹴って、打撃の感触をつかんでもらう。対面練習の目的のひとつ

は集中力と瞬発力の養成。相手の動きにできるだけ素早く反応できるように意識して動作すること。さらに気合。突きと蹴りでは必ず気合を出す。それによって己を無にして技に専心し、集中力を高めることができる。このほか毎回、柔軟体操と、四股立ち、腕立て、腹筋など簡単な筋トレを行う。受講者は自身の体力に応じて体を動かせばいい。決して無理強いはいしない。しかし、授業は真剣に、そしてできるだけ汗を流してほしい。そうすれば一定の成果は得られる。この授業で空手に興味をもってさらに上のステップを目指す人が出てくれたら幸いだ。なお授業は未経験者や初心者念頭においているが、経験者も歓迎。私の技量もあるが、別途対応したい。

● 授業内容・授業計画

- 1回 立ち方、突き、蹴り、受け、一本組手など空手全般について説明。拳の握り方、立ち方。
- 2回 突き（立ち方を変えて上段、中段）。対面して突き。
- 3回 突き（立ち方を変えて上段、中段）。対面して突き。
- 4回 突き（立ち方を変えて上段、中段）。対面して突き。
- 5回 前蹴り。突き。対面と、サンドバッグでそれぞれ突き。
- 6回 前蹴り。突き。対面とサンドバッグでそれぞれ

- 突き。
- 7回 前蹴り。突き。対面して突きと蹴り。サンドバッグで突き。
- 8回 前蹴り。突き。対面とサンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 9回 受け。突き。蹴り。対面と、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 10回 受け。突き。蹴り。対面とサンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 11回 移動して突き。突き。蹴り。受け。対面と、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 12回 移動して蹴り。突き。蹴り。受け。対面と、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 13回 一本組手。突き。蹴り。対面と移動、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 14回 一本組手。突き。蹴り。対面と移動、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。
- 15回 一本組手。突き。蹴り。対面と移動、サンドバッグでそれぞれ突きと蹴り。

※「移動」は一歩ずつ前に出て、突いたり、蹴った

りする練習。「一本組手」は二人、対面して一方が突きや蹴りの攻撃をし、他方がそれを受け、かわす練習。

● 事前・事後学習の内容

準備体操と整理体操は必ずするが、別途、自分で十分体をほぐすように。体の不調を感じたら必ず申し出ること。

● 評価方法

出席回数と授業態度で。

● 受講生へのコメント

◇私の略歴◇大阪市大在学中、空手道部に所属。主将。▼現役時代の戦績、全関西学生空手道個人選手権で準優勝。全日本学生空手道選手権団体戦ベスト8。全国国公立大学空手道選手権で団体優勝、個人で最優秀選手賞▼大学卒業後、毎日新聞記者を経て関西外大教授、2015年定年退職。現在、ランニングと空手の基本練習1時間を日課にしている。

● 教材

服装はできれば空手着（スポーツ店で市販）。空手衣のない人は体操服でも可能。

[科目ナンバー : GE SPO 01 27]

掲載番号	科目名	体カトレーニング 科学実験実習1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	岡崎 和伸（健スポ）
334	英語表記							

● 科目の主題

自身の「体力」の測定・評価を体験することで、体力についての理解を深め、さらに、競技スポーツや運動における体力の役割、あるいは、我々の日常生活や健康と体力の関わり合いについての理解を深める科目である。また、実際に体力トレーニングを実施し、自身の体力の変化を体験する。本科目は、講義「体力トレーニング科学」の内容を踏まえて展開する。

● 授業の到達目標

自身を測定対象として、体力の測定、さらに、実生活で経験する、運動、環境、食生活などが体力に及ぼす影響の測定・解析を行い、それらから自己を客観的に評価出来ることを目標とする。また、体力トレーニングのノウハウを習得し、運動やスポーツを楽しむ（する・見る）ための基礎と、生涯に渡って自身の体力を維持・増進するための習慣を養うことを目標とする。

● 授業内容・授業計画

【授業内容】

数題の実習テーマを設け、そのテーマごとに目的および内容の詳説、実験準備、実施、データ解析を行い、ショートレポートを作成する。最終的に、グループごとに自由課題に取り組み、グループディスカッションおよび研究成果の発表を実施する。また、

それに関する個人レポートを作成する。

【授業計画】

1～3. 体力の計測・評価、4～5. 生活・運動習慣の計測・評価、6～7. 循環器系トレーニングの実際、8～9. 骨格筋系トレーニングの実際、10～13. グループ自由課題の計画・実施、14. データディスカッションと研究成果発表、15. まとめ

● 事前・事後学習の内容

各回の終了時に次週の内容や資料などを提示する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、学習内容を理解し身に着けるために、要点をまとめるなど復習を欠かさないこと。そのため、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

● 評価方法

研究発表、レポート内容、および、課題提出状況から評価する。

● 受講生へのコメント

本実習は、「体力トレーニング科学」を受講した学生が履修することが望ましい。本実習を通して、講義内容がさらに深く理解できます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

● 教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

掲載番号	科目名	健康運動科学実験実習 1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	横山 久代 (健スポ)
335	英語表記	Experimental Education for HESS 1						

●科目の主題

健康は「単に病気でない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」(WHO)と定義されており、さまざまな生体のしくみを理解することなく健康を評価、具現化することは難しい。生理学は人の身体の働き(機能)とそのメカニズムを扱う学問であり、医学分野の基礎となっていることは言うまでもないが、その研究成果は栄養やスポーツ現場で広く応用され、我々の健康づくりに貢献している。「健康」やそれを支える基盤としての「体力」を構成する生体諸機能と、運動によりこれらに生じる変化について、実験を通じて自ら体験することにより理解を深め、健康的な日常生活の実践力を養うことを本実習の目的とする。

●授業の到達目標

- ・実習を通じて、生体の仕組みや運動することによって生じる身体機能の変化を体験し、考察できる
- ・健康増進につながる運動の効果について説明でき、自ら実践できる

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス (この実習全体の目標)
2. 血圧、心拍数の測定①
3. 血圧、心拍数の測定②
4. 心肺持久力の評価①
5. 筋力・筋持久力測定①
6. 体組成評価①
7. 血糖値の測定

8. 骨塩定量
9. 救命処置の実際
10. 呼吸機能測定
11. 心肺持久力の評価②
12. 筋力・筋持久力測定②
13. 体組成評価②
14. 体力の縦断評価と運動処方
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

実習で学んだ生体機能の測定・評価方法を習得していることを前提に、次回以降の実習を進めるため、あらゆる場面で応用できるよう、運動が生体機能にもたらす変化とともに十分に復習しておくこと。

●評価方法

- 出席状況 (50%)
- レポート課題 (50%)

●受講生へのコメント

実習に関しては高校レベルの生物、化学の知識がなくとも十分理解できるように、また臨床医としての経験をふまえた結果の解説を行うため、生体のしくみや健康に関心はあるがこれまでに学習、実践の経験がなかった学生も不安なく受講できる。測定結果をもとに自ら考察する力を養うことを目標とするため、ディスカッションなど積極的に授業に参加する姿勢を求める。

●教材

特定の教科書は使用しない。
必要に応じて参考資料などを配布する。

[科目ナンバー : GE SPO 01 29]

掲載番号	科目名	健康運動科学実験実習 1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	渡辺 一志 (健スポ)
336	英語表記	Experimental Education for HESS 1						

●科目の主題

日本の社会において、運動やスポーツのもたらす効用の重要性が認識され、「幸福で豊かな生活を営む」ことを実現するため「健康」への関心はますます高まっている。

運動は、人間が健康に生きていくために欠かすことのできない要素(栄養、運動、休養)の一つである。人間の体の仕組みや体力の構成要素を知り、運動を発現したり持続する生体の適応機序について理解し、健

康を維持・増進する運動について教授する。

●授業の到達目標

本実験実習では、自身の身体を対象として、身体組成、運動の発現(筋力・スピード・パワー)や運動の持続(筋持久力・全身持久力)について測定・分析する方法と評価について学ぶ。実習を通して、自身の身体を客観的に見つめ直し、種々体力要素の測定・評価および運動やスポーツ動作の仕組みを科学的に理解し、今後の健康づくりの実践に応用することを目標とする。

●授業内容・授業計画

- ・ガイダンス（１）
- ・自身の身体を知る（形態）（２～４）
形態と身体組成（体脂肪および四肢筋量）測定の意義と方法および測定原理を理解し、自分のからだを客観的に知る。
- ・運動を発現する体力（機能）を知る（５～９）
様々な測定機器を利用し、筋力（上肢・下肢）、スピード（各種反応時間等）およびパワー（脚伸展パワー、自転車駆動および垂直跳におけるパワー）の測定を行いその測定原理を理解し、それらの機能を高める方法を学ぶ。
- ・運動を持続する体力（機能）を知る（１０～１４）
局所の筋持久力および全身持久力について、姿勢変化や運動時の心拍数、血圧の変化および運動強度の変化に伴う呼吸循環応答と酸素摂取量の動態などから、それらの調節機序について理解し、

健康づくりに必要な運動とその実践の方法について学ぶ。

- ・統括とレポートの作成（１５）

●事前・事後の学習内容

事前に、次回の講義に関する資料を配布する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、各自講義の要点および実験のデータをノートにまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。

●評価方法

レポート、受講状況により評価する。

●受講生へのコメント

自分自身の体を客観的に見つめ直す機会となります。積極的に参加し、運動に関する科学的な理解を楽しく深めて、目的に応じた運動の実践につなげましょう。

●教材

必要に応じて資料の配布や文献の紹介を行う。

[科目ナンバー : GE SPO 01 31]

掲載番号	科目名	健康管理 1	単位数	1	授業 形態	実習	担当教員	横山 久代（健スポ）
337	英語表記	Health Promotion Program for The People with Physical Disability 1						

●科目の主題

何らかの身体的障害があったり、年齢を重ねたりしても、私たちは豊かな日常生活を送れること（生きがい、身体能力、精神機能を保ち、疾病を予防できること）に重きをおいて、体力諸要素の状態を高めておく必要がある。それらは決して、筋力が何kgであるとか、前屈が何cmできるかといった従来体力測定で数値化できる項目に限らない。また、人々が運動・スポーツをする目的は「健康増進」、「ストレス解消」、「仲間との交流」などさまざまであり、いうまでもなく、身体的能力に優れた一部のアスリートのみがその効果や楽しさを享受するものではない。身体的理由から、けがや疾病の悪化を懸念してスポーツに参加することを躊躇する場合でも、自身の身体特性を理解し、適切な運動種目、強度を選択することによりスポーツを始め、生涯にわたり実践することが可能である。

本実習では、肢体不自由や内部障害などの医学的理由により健常人と同様の運動に参加困難な学生が、各々の「体力」と「目的」に応じた運動・スポーツを継続して取り入れるための方法を理解し、実践する能力を養う。

●授業の到達目標

- ・身体計測や体力測定により自身の身体特性について把握する
- ・日常生活動作の向上や健康増進につながるストレッチ、運動の効果について説明でき、実践方法を

身につけ、自ら実践できる

●授業内容・授業計画

1. 総論（この実習全体の目標、ガイダンス）、問診
2. 血圧、心拍数の測定
3. 心電図
4. 呼吸機能測定
5. 血糖値と運動
6. 身体計測
7. 体力測定 1
8. 体力測定 2
9. ストレッチ 1
10. ストレッチ 2
11. ストレッチ 3
12. 軽スポーツ 1
13. 軽スポーツ 2
14. 軽スポーツ 3
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

運動が日常生活動作の向上や健康増進に寄与するメカニズムについて十分に復習し、実習で身につけた自身の身体特性に応じた運動の実践方法に基づき、日常生活に運動をとり入れること。

●評価方法

出席状況、履修態度などから総合的に評価する。

●受講生へのコメント

担当教員はスポーツドクターとしての競技大会での

実務や、主として生活習慣病を対象とした運動処方の実績を重ねており、スポーツに関心はあるが医学的観点から安全面に不安を有する学生や、これまでに実践の経験がない学生でも安心して受講できる。

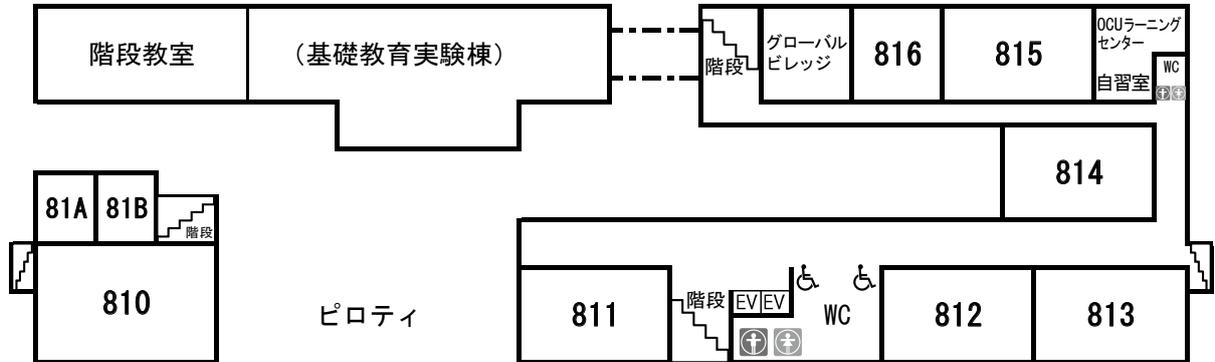
●教材

特定の教科書は使用しない。
必要に応じて参考資料などを配布する。

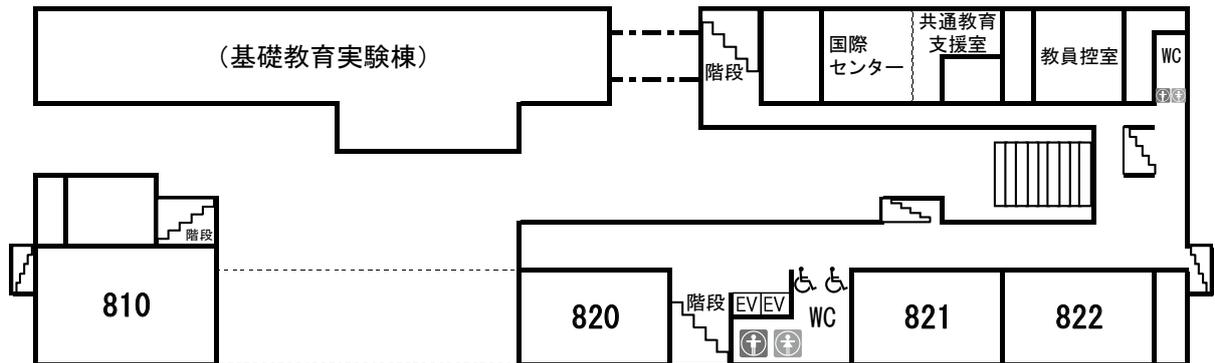
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟

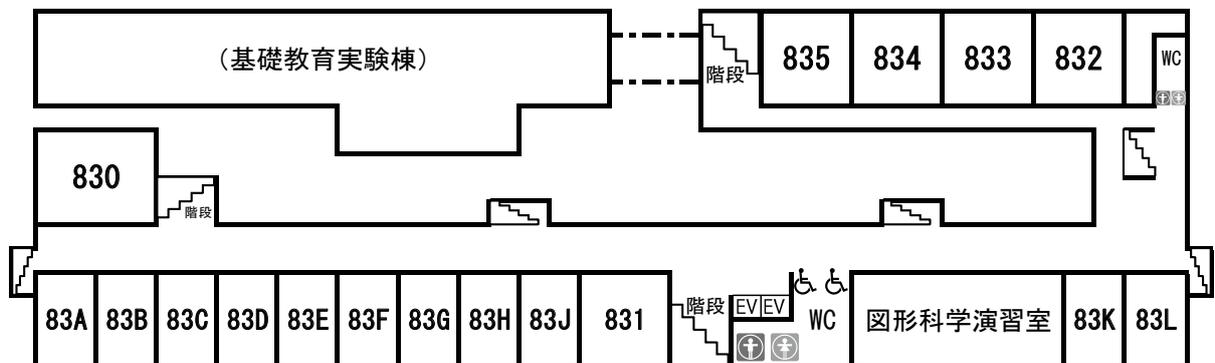
1階



2階

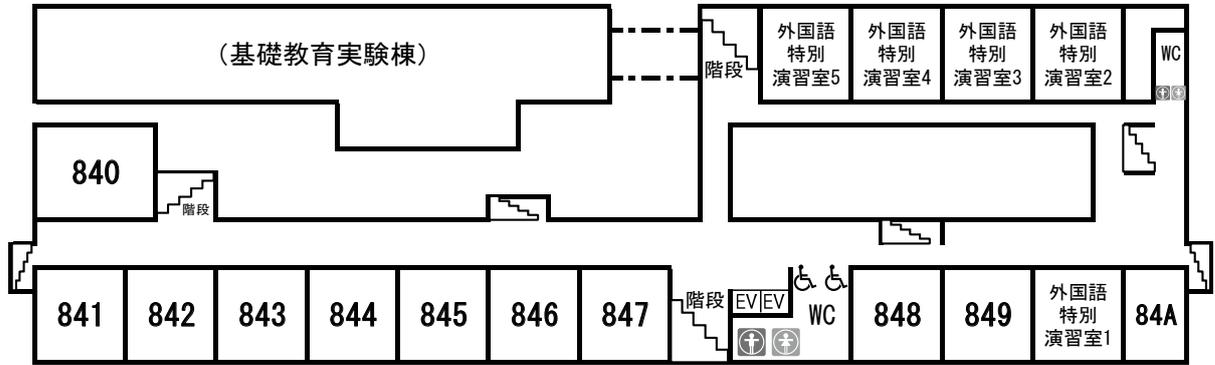


3階

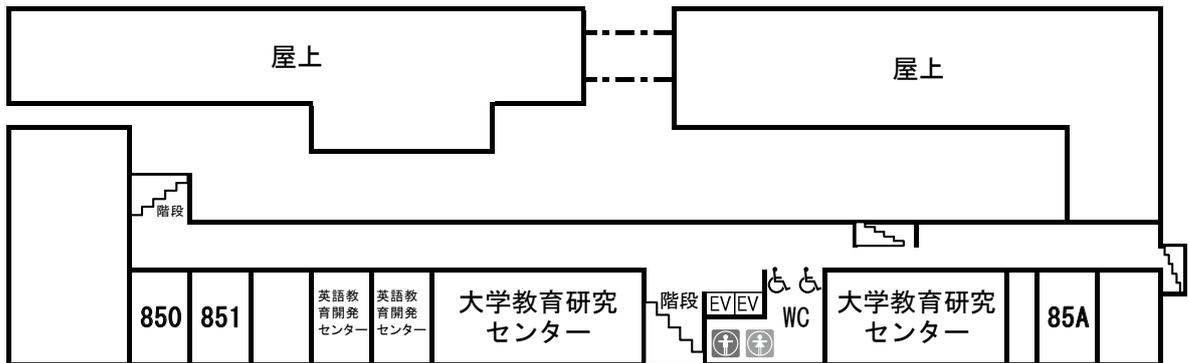


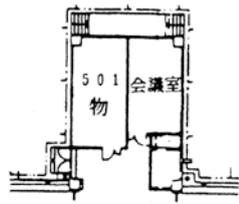
教室配置図

4階

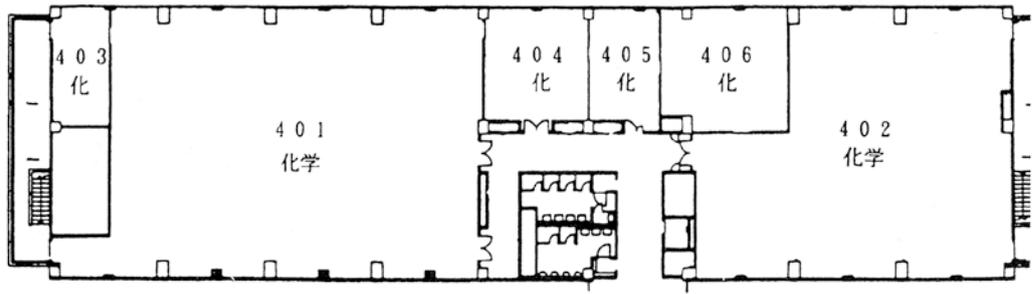


5階





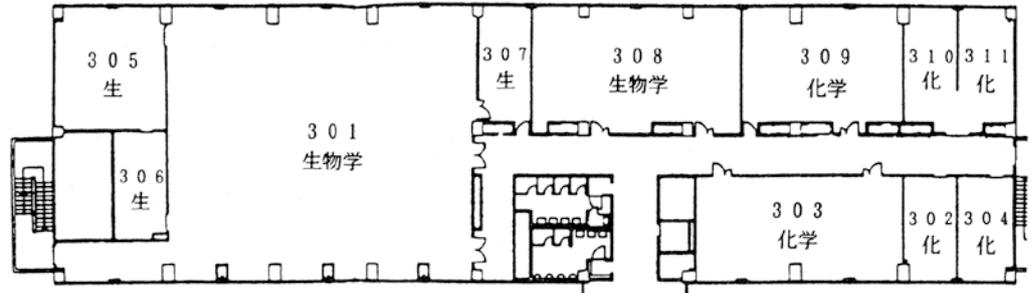
5階



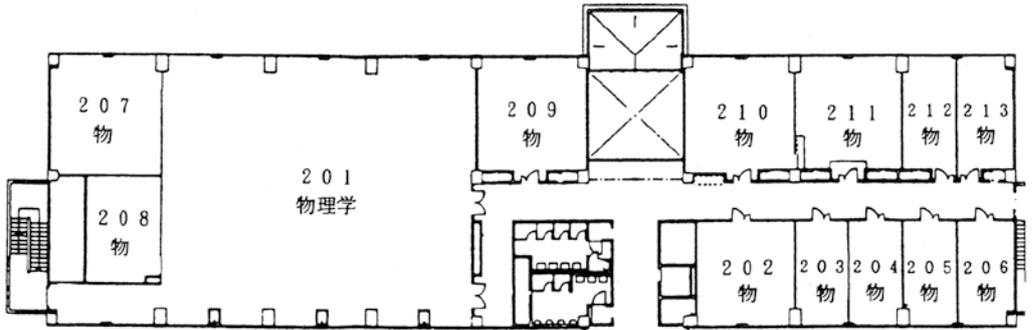
4階

基礎教育実験棟

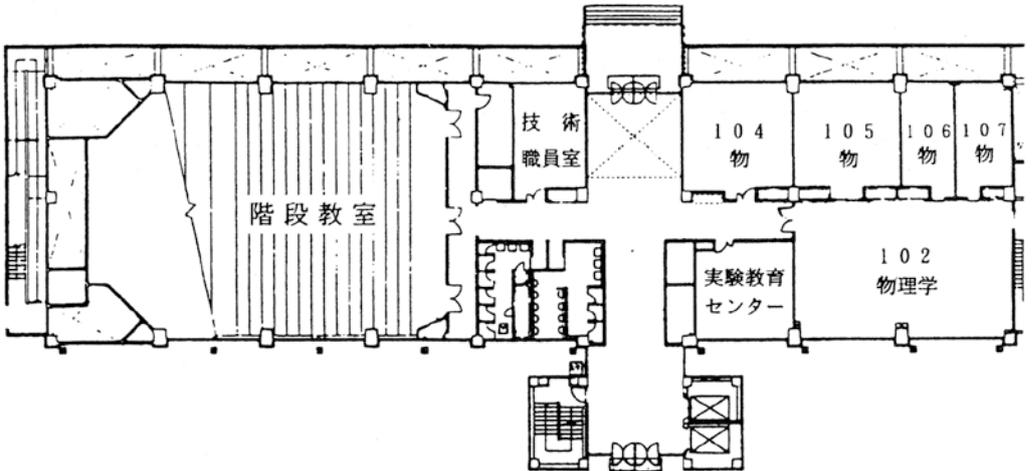
3階



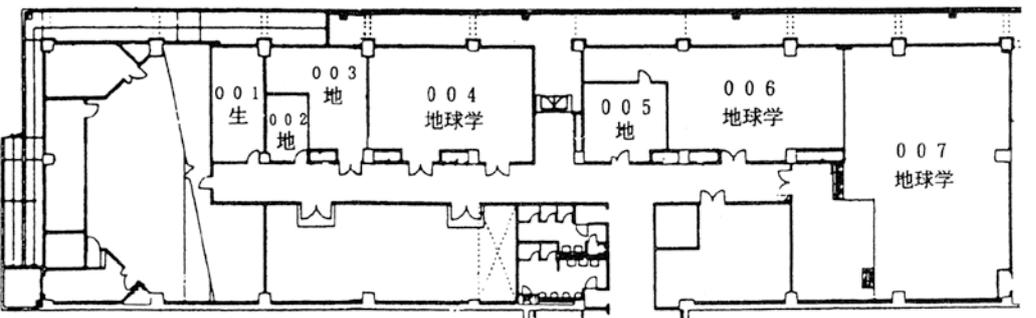
2階



1階

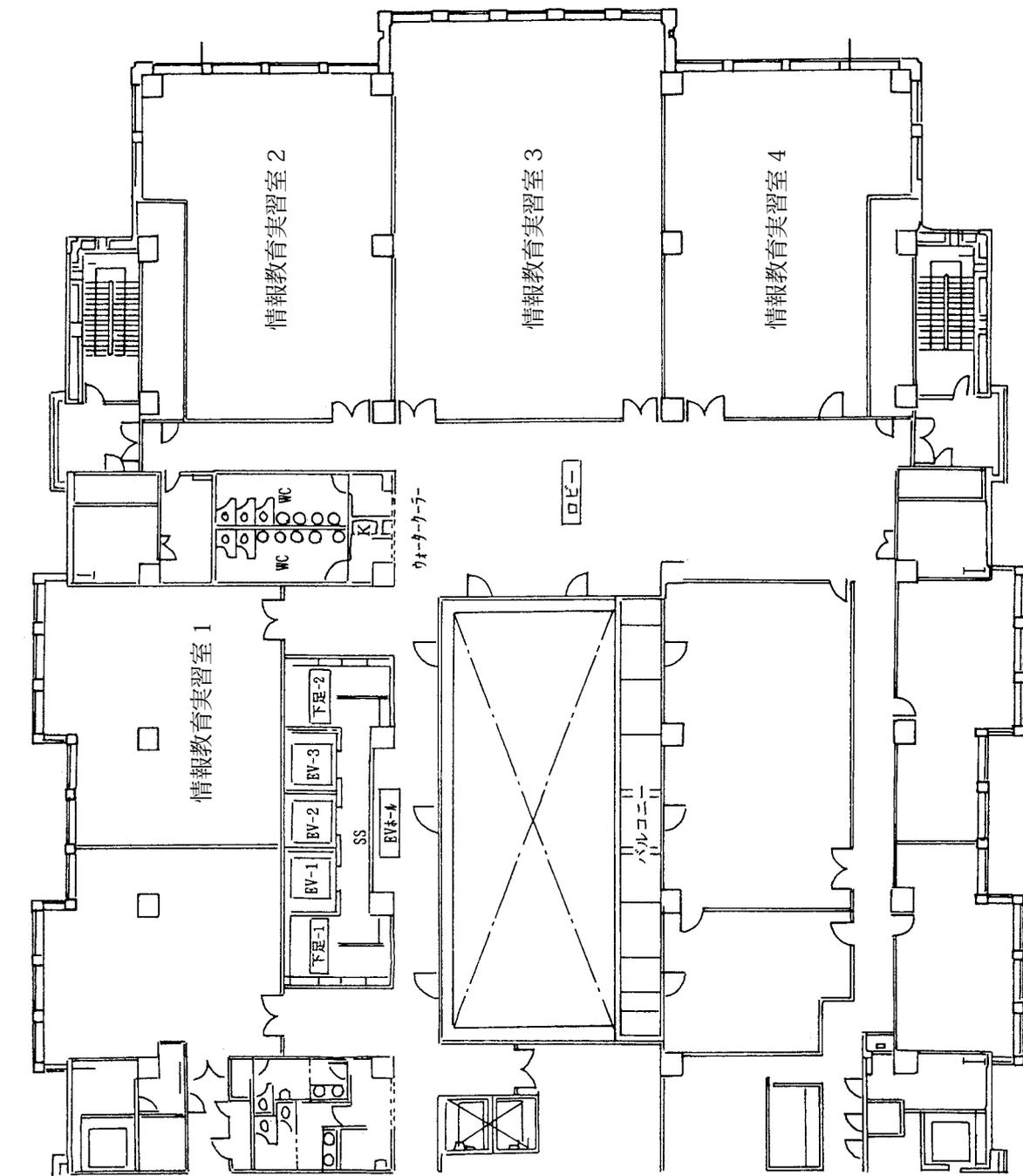


地下1階



(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

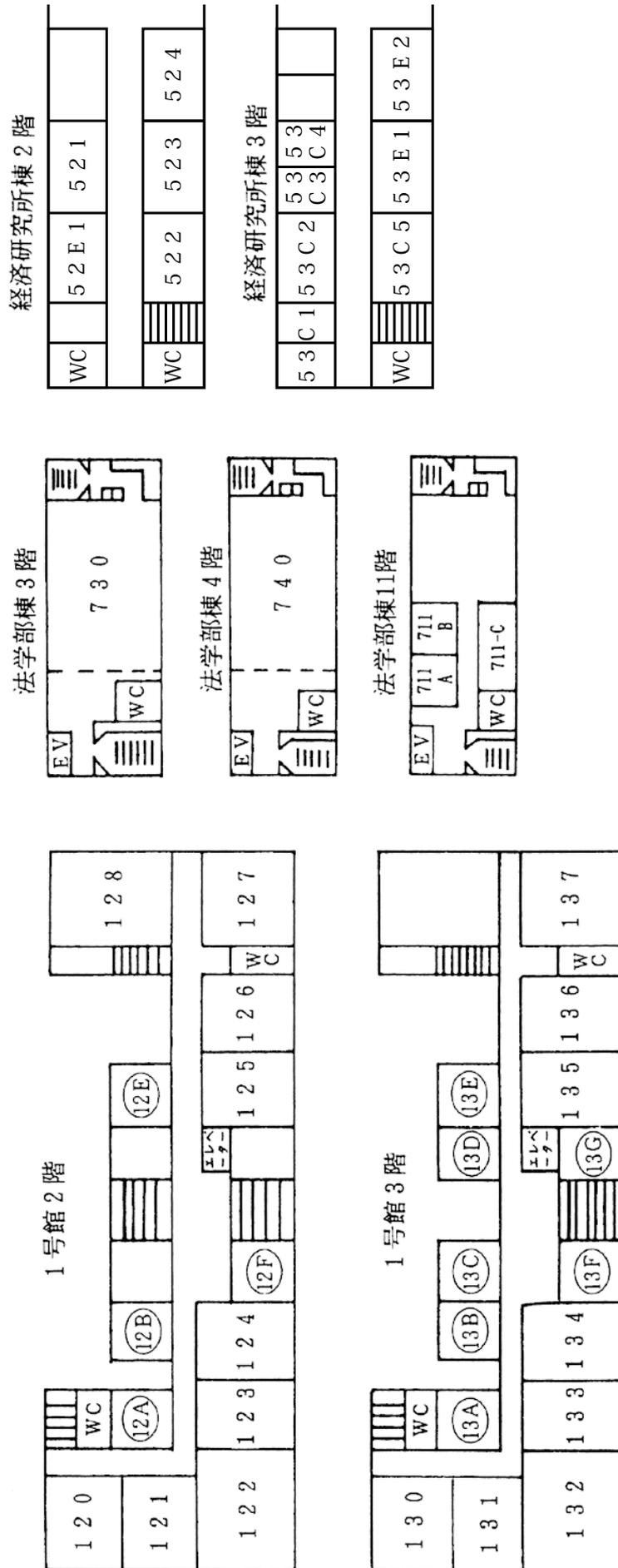
学術情報総合センター 9F



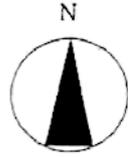
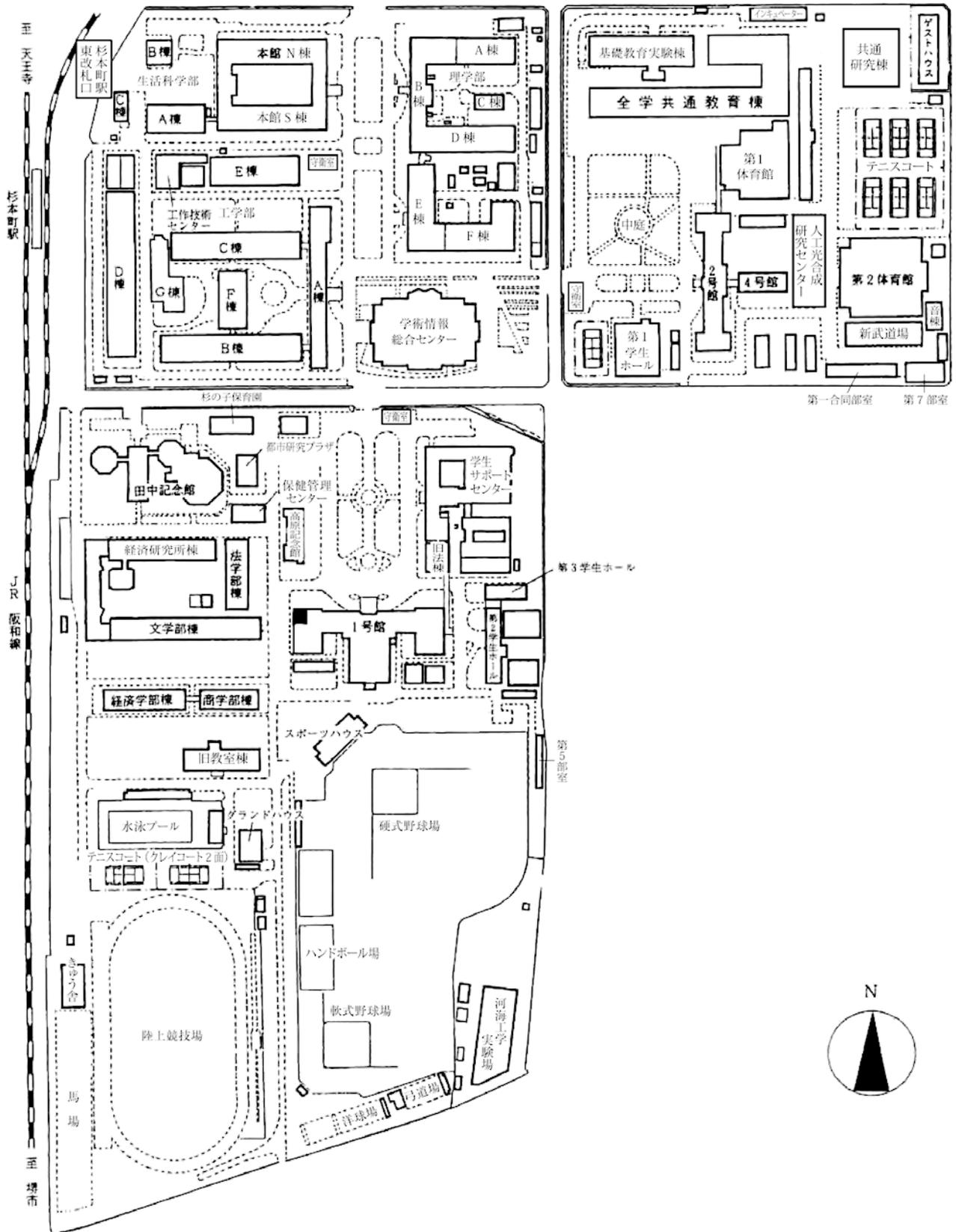
(西側省略)



本館地区各教室見取図



杉本学舎配置図



V 学 则

大阪市立大学学則

〔制 定 平成18年4月1日規程第1号〕
〔最近改正 平成28年12月1日規程第173号〕

第1章 総則

(目的)

第1条 大阪市立大学（以下「大学」という。）は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

2 学部、学科ごとの人材の育成に関する目的その他の

教育研究上の目的については、別に定める。

(学部等)

第2条 大学の学部（医学部を除く。）、学科、入学定員、第3年次編入学定員（第11条第1項及び第2項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	第1部（夜間授業の課程以外の課程をいう。以下同じ。）			第2部（夜間授業の課程をいう。以下同じ。）	
		入学定員	第3年次編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
商学部	商学科	名 220	名	名 880	名	名
経済学部	経済学科	220		880		
法学部	法学科	165	5	670		
文学部	哲学歴史学科	32	3	134		
	人間行動学科	56	3	230		
	言語文化学科	67	4	276		
	人文学科					
	計	155	10	640		
理学部	数学科	24		96		
	物理学科	33		132		
	化学科	42	3	174		
	生物学科	31		124		
	地球学科	18		72		
	計	148	3	598		
工学部	機械工学科	56		224		
	電子・物理工学科	42		168		
	電気情報工学科	42		168		
	化学バイオ工学科	56		224		
	建築学科	34		136		
	都市学科	50		200		
	計	280		1,120		
生活科学部	食品栄養科学科	35		140		
	居住環境学科	43		172		
	人間福祉学科	45		180		
	計	123		492		
合計		1,311	18	5,280		

- 2 医学部の学科、入学定員、第2年次編入学定員（第11条第3項の規定による編入学の定員をいう。）、第3年次編入学定員（同条第4項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
	名	名
医学科	95	570
看護学科	55	220
合計	150	790

- 3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。
- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部、国際化戦略本部及び入試推進本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター、都市防災教育研究センター、UR Aセンター、入試センター及び複合先端研究機構を置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部、地域貢献推進本部、産学官連携推進本部、国際化戦略本部及び入試推進本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、英語教育開発センター、都市研究プラザ、新産業創生研究センター、情報基盤センター、国際センター、地域連携センター、人工光合成研究センター、健康科学イノベーションセンター、都市防災教育研究センター、UR Aセンター、複合先端研究機構、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

- 2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の学期の開始日及び終了日を変更することができる。

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
 (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
 (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
 (6) その他学長が必要と認めた日

- 2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項の休業日を取りやめ、又は変更することができる。

第2章 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による資格検定に合格した者
 - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
 - 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会における選考によることができる。
 - 4 第1項の入学試験に合格した者並びに第2項及び第3項により選考された者に対し、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可する。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、法学部第1部、文学部第1部又は理学部化学科の第3年次への編入学（第6号に該当する者にあつては、文学部第1部への編入学に限る。）を志願するものについては、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (6) 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (7) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (8) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者（同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。）で学部長が定めるもの

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のある場合に限り、教授会が選考し、学長がその意見を聴いたうえで入学を許可することができる。

(1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの

- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (6) 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
- (7) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
- (8) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者

2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえでこれを許可することができる。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

（転学部及び転学科）

第13条 本学の他学部転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。

2 転学科を志願する者があるときは、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえでこれを許可することができる。

3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

（留学）

第14条 外国の大学（外国の短期大学を含む。以下同じ。）に留学することを願い出た者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の審議を経て、その意見を聴かなければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで復学を許可することができる。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍する。

- 2 次の各号の1に該当する者は、教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで除籍することがある。

- (1) 授業料を納付しない者
- (2) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
- (3) 教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める期間内に所定の単位を修得しない者
- (4) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を第19条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性かん養するよう適切に配慮するものとする。

(副専攻)

第18条の2 前条第1項により編成する教育課程として、特定の課題に関する科目で構成する教育課程(副専攻)を開設し、その学習成果を認定することができる。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目、教職に関する科目及び副専攻科目とする。

- 2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。
- 3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程、各学部履修規程及び副専攻規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生(医学部医学科の学生を除く。)は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

- 2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。

- 3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、同項の単位数を増加することができる。

- 4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の審議を経て、学部長がその意見を聴いたうえで定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学(国内の短期大学を含む。以下同じ。)の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の審議を経て、学長がその意見を聴いたうえで、その大学と協議し、これを承認することができる。

- 2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで単位を与えることができる。
- 3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

- 第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、既修得単位(大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)をいう。)を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。
- 2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。
- 4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

- 第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

- 第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計算法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

- 第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学長は、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで卒業を認定する。
- 2 学長は、前項の規定により卒業を認定した者に対し、教授会の審議を経て、その意見を聴いたうえで、次の区分に従って学士の学位を授与する。

- 商学部 学士(商学)
 経済学部 学士(経済学)
 法学部 学士(法学)
 文学部 学士(文学)
 理学部 学士(理学)
 工学部 学士(工学)
 医学部
 医学科 学士(医学)
 看護学科 学士(看護学)
 生活科学部 学士(生活科学)

第5節 教員免許

(教員免許)

- 第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
商学部	商学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
経済学部	経済学科	地理歴史 公民 商業	高等学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
法学部	法学科	地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
文学部	哲学歴史学科	地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
		社会	中学校教諭1種免許状
	人間行動学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状

文学部	言語文化学科	国語 中国語 英語 ドイツ語 フランス語	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
	人文学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
国語		中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	
理学部	数学科	数学	高等学校教諭1種免許状
	物理学科	理科	
	化学科		
	生物学科		
	地球学科		
工学部	機械工学科	工業	高等学校教諭1種免許状
	電子・物理工学科		
	電気情報工学科		
	化学バイオ工学科		
	建築学科		
	都市学科		
生活科学部	食品栄養科学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
			栄養教諭1種免許状
	居住環境学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

第6節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

- 2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。
- 3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者がいるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議が選考し、学長がその意見を聴

いたうで科目等履修生として入学を許可することができる。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

- 2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議が選考し、学長がその意見を聴いたうで入学を許可することができる。

- 2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額は、次表のとおりとする。

区分		入学検定料	入 学 料		授 業 料
			本市住民及びその子	その他の者	
学生	第1部	30,000円	222,000円	382,000円	1年 535,800円
	第2部	10,000円	111,000円	171,000円	1年 267,900円
科目等履修生		9,800円	22,200円	34,200円	1単位 14,800円
研修生		9,800円	66,600円	102,600円	1月 29,700円

2 前項の規定にかかわらず、第10条第3項、第11条又は第12条第1項の規定により入学を願い出た者に係る入学検定料の額については、第2部にあつては18,000円とする。

3 第1項の規定にかかわらず、長期履修学生の授業料の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号の1に該当する場合においては、この限りでない。

(1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合

(2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学(以下「法人」という。)理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することがある。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することがある。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

(1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、産学連携推進本部長、国際化戦略本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長、入試担当部長

(2) 教授、准教授、講師、助教

(3) 事務職員、技術職員

(4) その他必要な職員

2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

3 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(組織)

第40条 大学の教育研究の発展に資するため教員組織として研究院をおく。

2 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。

3 研究院、大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター教員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。

3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問

題研究センター教員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 学科、課程及び履修方法に関する事項
 - (4) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
 - (5) 科目等履修生及び研修生に関する事項
 - (6) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
 - (7) 学校教育法第93条第3項に基づき、学長及び学部長に述べる意見に関する事項
 - (8) その他学部における重要事項
- 2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

- 2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。
- (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学長が指名する理事
 - (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
 - (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員
- 3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。
- 4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則（法人の経営に関する部分を除く。）及び大阪市立大学大学院学則（法人の経営に関する部分を除く。）の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項
- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の懲戒処分の審査に関する事項
- (7) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (8) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (9) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項

(10) 学生の身分に関する重要事項

(11) 学生の厚生補導に関する事項

(12) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項

(13) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(14) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

(招集及び議事)

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。

3 議長は、教育研究評議会を主宰する。

4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が定める。

第7章 雑則

(改正)

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

(施行の細目)

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。

3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわ

らず、次のとおりとする。

(1) 各学部各学科の第1部収容定員

学部	学科	平成18年度	平成19年度
		名	名
商学部	商学科	751	775
経済学部	経済学科	751	775
法学部	法学科	612	600
文学部	哲学歴史学科	120	122
	人間行動学科	196	200
	言語文化学科	227	235
理学部	数学科	90	93
	物理学科	114	119
	物質科学科	62	68
	化学科	89	97
	生物学科	98	108
	地球学科	68	71
工学部	応用化学科	107	109
	都市基盤工学科	56	84
	応用物理学科	107	109
	情報工学科	100	106
	バイオ工学科	56	84
	知的材料工学科	100	106
	環境都市工学科	100	106
生活科学部	食品栄養科学科	130	135
	人間福祉学科	175	177

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

学部	平成18年度	平成19年度
	名	名
文学部	543	557
理学部	521	556
工学部	1,063	1,090
生活科学部	477	484

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名 4,718	名 4,836

(4) 医学部看護学科の収容定員

平成18年度	平成19年度
名 160	名 230

(5) 医学部の収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名 640	名 710

3 平成18年度から平成20年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第2部収容定員、文学部の第2部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
		名	名	名
商学部	商学科	250	225	200
経済学部	経済学科	280	270	260
法学部	法学科	240	210	180
文学部	哲学歴史学科	36	24	12
	人間行動学科	42	28	14
	言語文化学科	42	28	14
	人文学科	60	90	120
	計	180	170	160
合計		950	875	800

4 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成17年3月31日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和30年大阪市規則第18号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。

5 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部に在学する者（平成17年3月31日までに入学した者に限る。）については、第2条第1項、第7条、第8条及び第26条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

6 平成11年3月31日までに入学した者に係る授業料の額は、第33条第1項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成18年11月21日規程第173号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日規程第184号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第2条の改正規定は、平成18年12月19日から施行する。

附 則（平成19年3月20日規程第14号）
（施行期日）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
（経過措置）

2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成19年3月31日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なお

その効力を有する。

附 則（平成19年7月24日規程第72号）
（施行期日）

- この規則は、平成19年10月1日から施行する。
（経過措置）
- この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成19年9月30日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成20年3月18日規程第14号）
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年7月29日規程第86号）
この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月16日規程第15号）
（施行期日）

- この規則は、平成21年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 平成21年度から平成23年度までの各年度における理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員、理学部の第1部収容定員の合計、工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員並びに全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第1部収容定員

学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
物理学科	名 126	名 128	名 130
物質科学科	53	32	16
化学科	123	140	157
生物学科	119	120	121
地球学科	72	70	70

(2) 理学部の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名 589	名 586	名 590

(3) 工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員

学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
機械工学科	名 140	名 168	名 196
電子・物理工学科	42	84	126
情報工学科	126	140	154
化学バイオ工学科	56	112	168
建築学科	118	124	130
都市学科	50	100	150

(4) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名 4,973	名 4,970	名 4,974

- 平成21年度から平成25年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 490	名 500	名 510	名 520	名 530

(2) 医学部の収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 720	名 730	名 740	名 750	名 760

- この規則の施行の際、現に理学部に在学する者（平成21年3月31日までに理学部物質科学科に入学した者に限る。）及び工学部に在学する者（平成21年3月31日までに工学部電気工学科、応用化学科、都市基盤工学科、応用物理学科、バイオ工学科、知的材料工学科、環境都市工学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成22年3月31日規程第64号）
（施行期日）

- この規則は、平成22年4月1日から施行する。
（経過措置）
 - 平成22年度から平成24年度までの各年度における商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員、文学部の第1部の収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。
- (1) 商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員並びに文学部第1部の収容定員の合計

学 部	学 科	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度
商学部	商学科	名 820	名 840	名 860
経済学部	経済学科	820	840	860
法学部	法学科	620	640	655
文学部	哲学歴史学科	127	130	132
	人間行動学科	211	218	224
	言語文化学科	253	262	269
	計	591	610	625

(2) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

平成22年度	平成23年度	平成24年度
名 5,057	名 5,136	名 5,206

3 平成22年度から平成26年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
名 502	名 514	名 526	名 538	名 550

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
名 732	名 744	名 756	名 768	名 780

附 則（平成22年9月27日規程第111号）

この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成23年3月30日規程第139号）

（施行期日）

- この規則は、平成23年4月1日から施行する。
（経過措置）
- この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成23年3月31日までに生活科学部に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第26条第1項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成24年3月30日規程第17号）

（施行期日）

- この規則は、平成24年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 平成24年度から平成25年度までの各年度における

医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成24年度	平成25年度
名 212	名 194

(2) 医学部の収容定員の合計

平成24年度	平成25年度
名 764	名 746

附 則（平成24年6月29日規程第75号）

この規則は、平成24年7月1日から施行する。

附 則（平成25年1月31日規程第2号）

この規則は、平成25年2月1日から施行する。

附 則（平成25年3月29日規程第23号）

（施行期日）

- この規則は、平成25年4月1日から施行する。
（経過措置）

2 平成25年度から平成27年度までの各年度における医学部看護学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部看護学科の収容定員

平成25年度	平成26年度	平成27年度
名 197	名 195	名 205

(2) 医学部の収容定員の合計

平成25年度	平成26年度	平成27年度
名 735	名 745	名 757

附 則（平成25年5月31日規程第56号）

この規則は、平成25年6月1日から施行する。

附 則（平成25年10月31日規程第106号）

この規則は、平成25年11月1日から施行する。

附 則（平成26年3月28日規程第18号）

（施行期日）

- この規則は、平成26年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 平成26年度から平成28年度までの各年度における理学部生物学科及び地球学科の第1部の収容定員、理学部の第1部の収容定員の合計並びに全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部生物学科及び地球学科の第1部の収容定員

学科	平成26年度	平成27年度	平成28年度
生物学科	名 121	名 120	名 122
地球学科	69	68	70

(2) 理学部の第1部の収容定員の合計

平成26年度	平成27年度	平成28年度
名 592	名 590	名 594

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

平成26年度	平成27年度	平成28年度
名 5,274	名 5,272	名 5,276

附 則（平成26年7月31日規程第67号）

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

附 則（平成26年10月1日規程第74号）

この規則は、平成26年10月1日から施行する。

附 則（平成27年2月10日規程第12号）

この規則は、平成27年3月1日から施行する。

附 則（平成27年3月31日規程第23号）

（施行期日）

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成27年度から平成31年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
名 555	名 558	名 561	名 564	名 567

(2) 医学部の収容定員の合計

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
名 760	名 778	名 781	名 784	名 787

附 則（平成27年9月28日規程第214号）

この規則は、平成26年9月28日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成27年12月21日規程第229号）

この規則は、平成27年12月21日から施行する。

附 則（平成28年3月28日規程第20号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年8月30日規程第154号）

（施行期日）

1 この規則は、平成28年9月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則の施行の際、平成28年度までに入学した者については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第33条第1項及び第2項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成28年11月9日規程第173号）

（施行期日）

1 この規則は、平成28年12月1日から施行する。

別表（第2条関係）

（略）

VI 各学部等の電話番号・所在地

各学部等の電話番号・所在地

杉本学舎 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

学 部 等	電 話 番 号	備 考
教 務 兼 教 職 担 当	06-6605-2936	教職関係
商 学 部	06-6605-2201	
経 済 学 部	06-6605-2251	
法 学 部	06-6605-2303	
文 学 部	06-6605-2353	
理 学 部	06-6605-2504	
工 学 部	06-6605-2653	
生 活 科 学 部	06-6605-2803	
共 通 教 育 担 当	06-6605-2935	全学共通教育全般

阿倍野学舎 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

学 部 等	電 話 番 号	所 在 地
医 学 部 学 務 課 (医 学 科)	06-6645-3611	
医 学 部 学 務 課 (看 護 学 科)	06-6645-3511	

学 部		学籍番号	
氏 名			